

令和元年度 市民意識調査結果報告書

令和2年1月



目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果	2
(1)	回答者属性	2
問 1	性別	2
問 2	年齢	2
問 3	居住地区	2
(2)	住みごちや愛着等について	3
問 4	東近江市の住みごちは	3
問 5	東近江市への愛着	5
問 6	東近江市を自慢できるか	7
問 7	「鈴鹿 10 座」の認知度	9
問 8	東近江市を訪れた友人・知人の観光案内先	11
問 9	友人・知人を案内する観光地	13
問 10	近江鉄道八日市駅周辺の訪問頻度	15
問 11	中心市街地の活性化が進んでいるか	17
問 12	中心市街地（八日市駅周辺）が活性化するために必要なこと	19
(3)	健康や福祉について	21
問 13	かかりつけ医の有無	21
問 14	医療体制への満足度	23
問 15	健康づくりのために取り組んでいること	25
問 16	朝食を食べているか	31
問 17	よく眠れるか	33
問 18	運動の実施率	35
問 19	不安、悩み、ストレスを感じたか	37
問 20	不安、悩み、ストレスは解消できているか	41
問 21	不安、悩み、ストレスの相談相手	43
問 22	東近江市民の障害者に対する理解	45
問 23	障害者に対する理解に向けて今後特に力を入れるべきこと	47
(4)	環境や暮らしについて	49
問 24	市の自然環境保全の取組への満足度	49
問 25	自然環境との関わりの実感度	51
問 26	低炭素・資源循環型の取組の実践	53
問 27	ごみと資源の分別の実施	57
問 28	ワーク・ライフ・バランスについて	59
問 29	「男は仕事、女は家事・育児」という考え方への共感度	62
問 30	消費生活センターの認知度	64

問 31	市民生活相談室の認知度	66
問 32	市内の公共交通への満足度	68
問 33	近江鉄道について	70
問 34	近江鉄道の利用頻度	72
問 35	近江鉄道を利用する場合の希望	76
問 36	災害への備え	78
(5)	教育関連の取組について	80
問 37	子育てをするのに良い環境か	80
問 38	通学路の安全確保について	82
問 39	人権が尊重されるまちになっているか	84
問 40	人権に関する講座等への参加	86
問 41	オレンジリボンの認知度	88
問 42	児童虐待の通報先	90
問 43	音楽・美術や文学・歴史等の活動への参加	92
問 44	青少年健全育成の取組について	94
(6)	都市整備について	98
問 45	市内の都市基盤整備に対する満足度	98
(7)	購買状況等について	106
問 46	食品や日用雑貨、衣料品等の購入先	106
問 47	お米の主な購入先	111
問 48	野菜等を購入する際の基準	113
問 49	市内の農産物直売所の利用状況	115
(8)	協働のまちづくりについて	117
問 50	協働のまちづくりができていますか	117
問 51	まちづくり協議会の活動の認知度	119
問 52	地域での住民同士の助け合いができていますか	121
問 53	地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加状況	123
(9)	広報等の情報について	129
問 54	「広報ひがしおうみ」を読んでいるか	129
問 55	「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度	135
問 56	市の情報（お知らせ）の取得方法	144
問 57	「東近江市議会だより」を読んでいるか	146
(10)	市役所のサービスに関して	148
問 58	市役所職員の対応の印象	148
(11)	まちづくりに対する意見等について	150
問 59	まちづくりに対する意見や提案（自由記述）	150
3	総括	153
4	調査票	156

1 調査の概要

(1)調査の目的

東近江市では、平成28年度策定した「第2次東近江市総合計画」に基づき、「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指してまちづくりを進めています。住みよいまちを実現するために、市民の意識や生活スタイルなど、まちづくりに関する意見を聞くことを目的に、市民意識調査を実施しました。

(2)調査対象

令和元年8月1日現在、東近江市在住の満18歳以上の市民3,034人を対象としました。(住民基本台帳から無作為抽出)

(3)調査期間

令和元年9月17日から令和元年9月30日まで

(4)調査方法

郵送による配布・回収、無記名

(5)回収状況

調査票の配布数3,034件に対し、宛先不明として返送されてきた調査票が13件あり、到達した配布数は3,021件でした。回収した調査票数1,318件に対し、白紙で無効の調査票数は1件で、有効回収調査票数は1,317件、回収率は43.6%でした。

配 布			回 収			到達配布数に対する回収率
配布数	不到達数	到達配布数	回収調査票数	無効調査票数	有効回収調査票数	
3,034	13	3,021	1,318	1	1,317	43.6%

(6)調査結果の表示方法

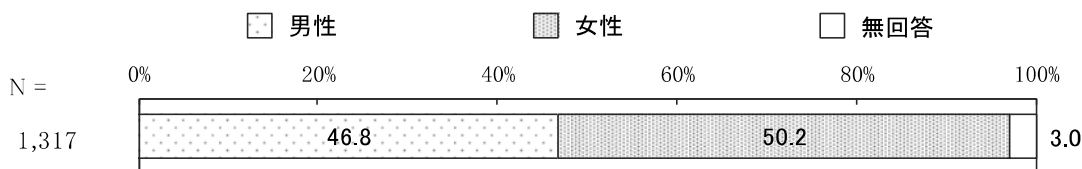
- 回答は、各設問の有効回答数（N）を母数とした百分率（%）で示しています。また、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の設問については、回答者が全体（N=1,317）に対してどのくらいの比率であるかという表記になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。ただし、分岐設問の場合は、Nの値が異なります。
- 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外の表（複数選択の設問）は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く。）
なお、選択数を限定している設問は、選択数の分だけ次に多くあげられているものも薄く網かけしています。
- 指定の回答数以上の回答や分岐設問等での誤った回答などは、すべて「無回答」として集計しています。
- 性別や年代別、居住地区別の集計の場合、無回答を排除しているため、その有効回答数の合計と全体の有効回答数が合致しないことがあります。

2 調査結果

(1) 回答者属性

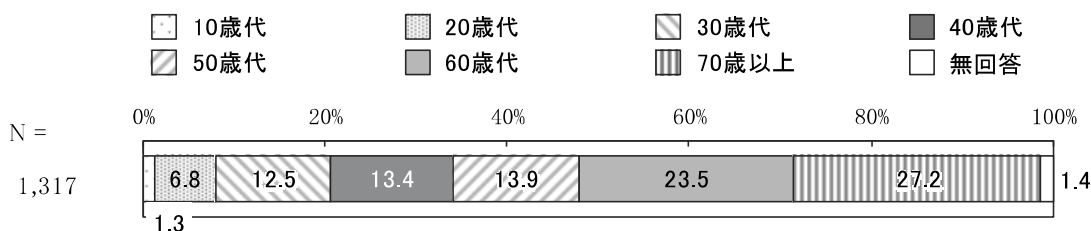
問1 性別

- 「男性」が46.8%、「女性」が50.2%で、やや女性が多くなっています。



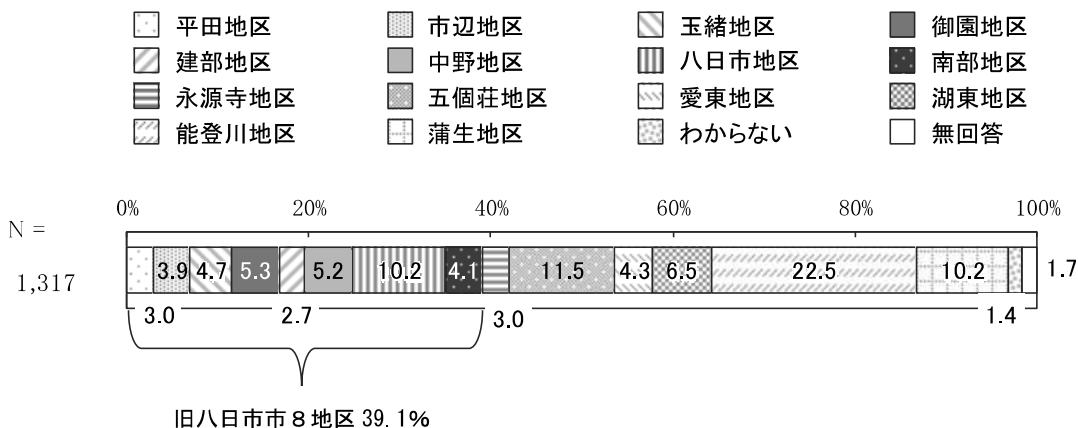
問2 年齢

- 年齢については、「70歳以上」が27.2%と最も多く、次いで「60歳代」が23.5%、「50歳代」が13.9%、「40歳代」が13.4%の順となっています。
- 60歳以上が50.7%と半数を超えています。



問3 居住地区

- 居住地区については、「能登川地区」が22.5%と最も多く、次いで「五個荘地区」が11.5%、「八日市地区」と「蒲生地区」が10.2%となっています。
- また、旧八日市市の8地区を合計すると、39.1%となっています。

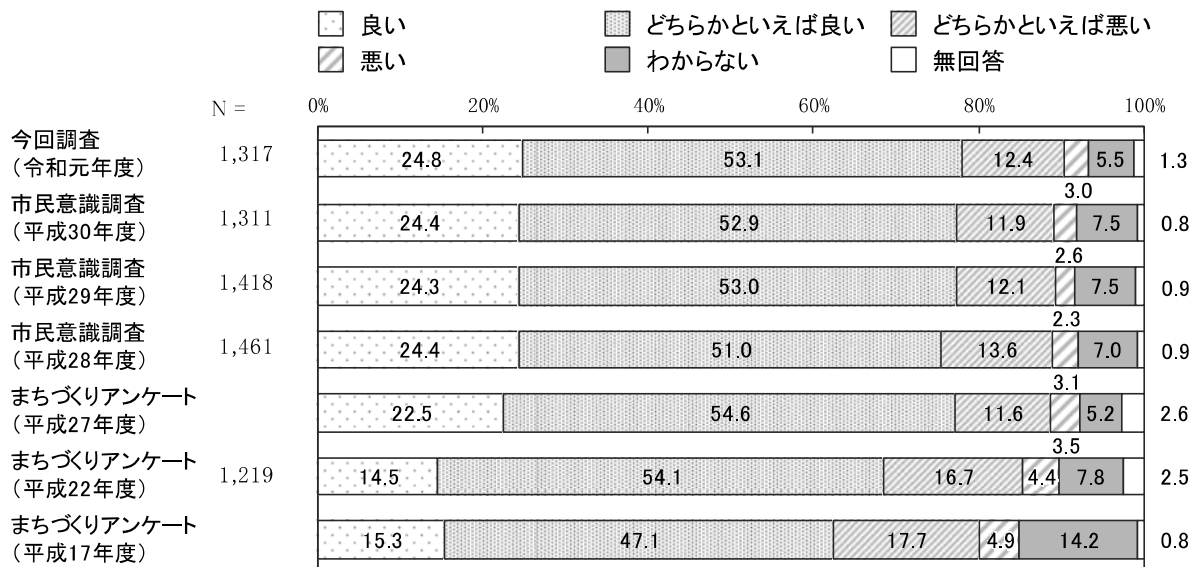


(2) 住みごこちや愛着等について

問4 あなたは、東近江市の住みごこちをどう思いますか。《○1つ》

8割近くが住みごこちが良い

- ・ 東近江市の住みごこちについては、「良い」が24.8%、「どちらかといえば良い」が53.1%で、これらを合わせると77.9%となり、8割近くの人が住みごこちが良いと感じています。一方、「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせると15.4%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、住みごこちが良い（「良い」と「どちらかといえば良い」の合計）の割合は平成27年度以降8割近くで推移しています。
- ・ 年代別では、住みごこちが良い（前述）の割合が、10～30歳代で8割を超えています。
- ・ 居住地区別では、住みごこちが良い（前述）の割合が、永源寺地区、御園地区で高く、蒲生地区、愛東地区、平田地区で低くなっています。

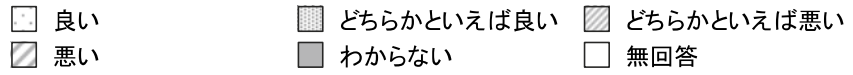


単位：％

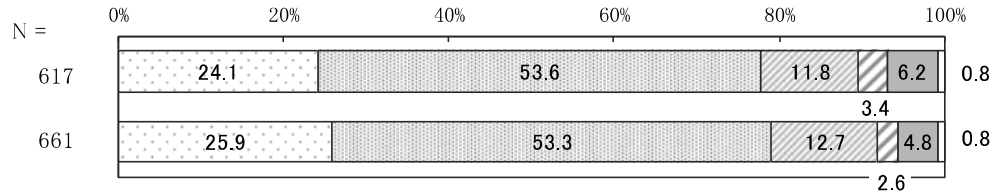
	良い	悪い	差
①今回調査(令和元年度)	77.9	15.4	62.5
②市民意識調査(平成30年度)	77.3	14.5	62.8
③市民意識調査(平成29年度)	77.3	14.4	62.9
④市民意識調査(平成28年度)	75.4	16.7	58.7
⑤まちづくりアンケート(平成27年度)	77.1	15.1	62.0
⑥まちづくりアンケート(平成22年度)	68.6	21.1	47.5
⑦まちづくりアンケート(平成17年度)	62.4	22.6	39.8
①－⑦	15.5	-7.2	22.7

* 良い:「良い」と「どちらかといえば良い」の合計

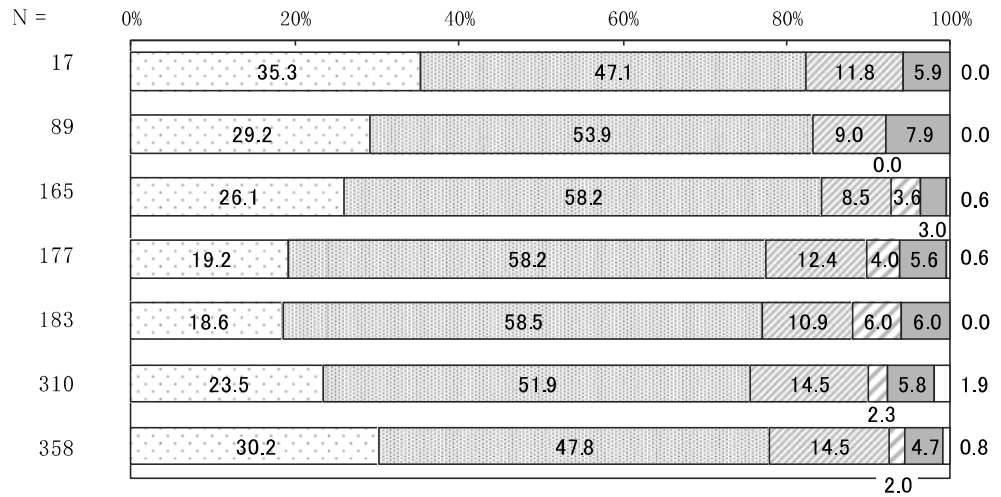
* 悪い:「どちらかといえば悪い」と「悪い」の合計



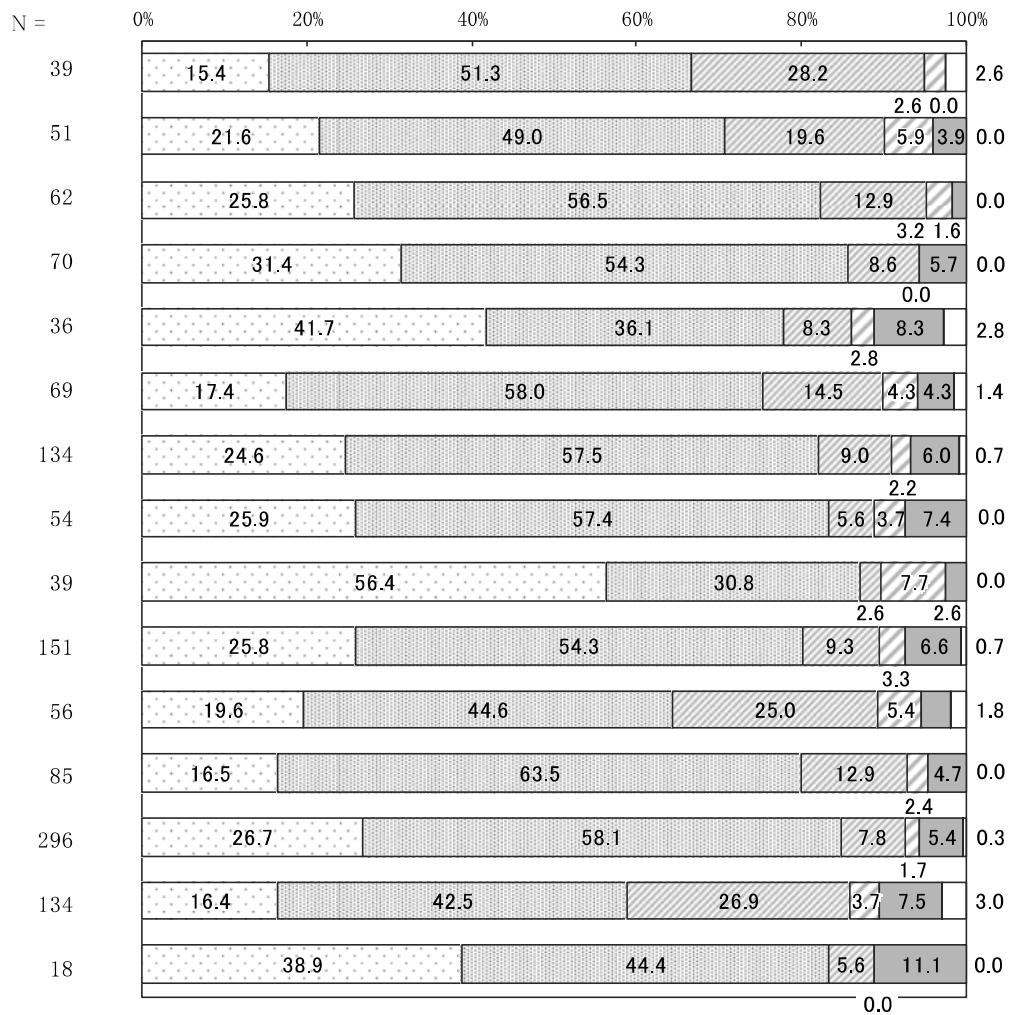
【性別】



【年代別】



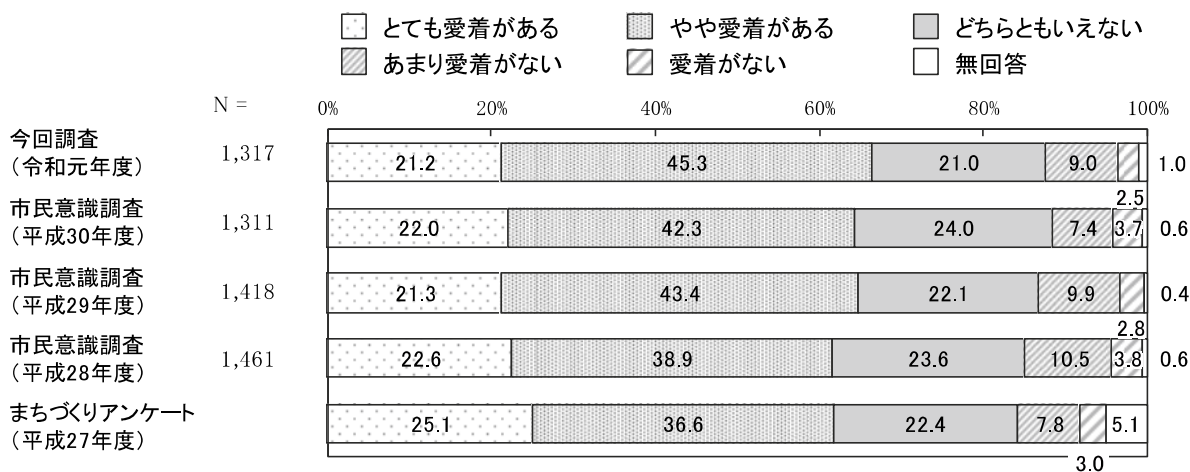
【居住地区別】



問5 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

7割近くが東近江市に対して愛着がある

- ・ 東近江市に対する愛着については、「とても愛着がある」が21.2%、「やや愛着がある」が45.3%で、これらを合わせると66.5%となり、7割近くの人が東近江市に何らかの愛着があると回答しています。一方、「あまり愛着がない」と「愛着がない」を合わせると11.5%となっています。また、「どちらともいえない」とする人も21.0%と2割います。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、愛着がある（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計）の割合が増加しています。
- ・ 年代別では、「とても愛着がある」の割合は10歳代で4割近くと最も高くなっています。また、愛着がある（前述）の割合は、30歳代を除いて年齢が上がるほど高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、愛着がある（前述）の割合が、永源寺地区で高く、蒲生地区で低くなっています。



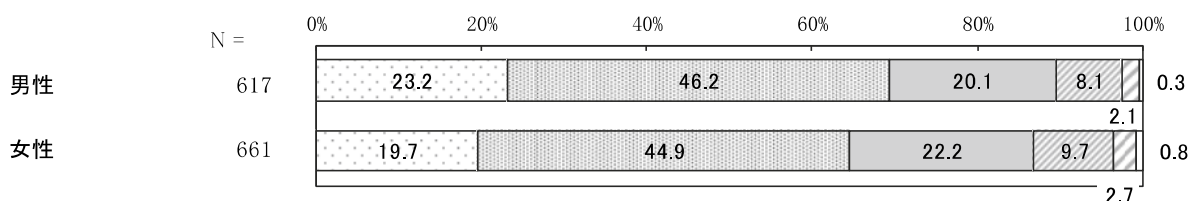
単位：%

	愛着がある	愛着がない	差
①今回調査(令和元年度)	66.5	11.5	55.0
②市民意識調査(平成30年度)	64.3	11.1	53.2
③市民意識調査(平成29年度)	64.7	12.7	52.0
④市民意識調査(平成28年度)	61.5	14.3	47.2
⑤まちづくりアンケート(平成27年度)	61.7	10.8	50.9
①-⑤	4.8	0.7	4.1

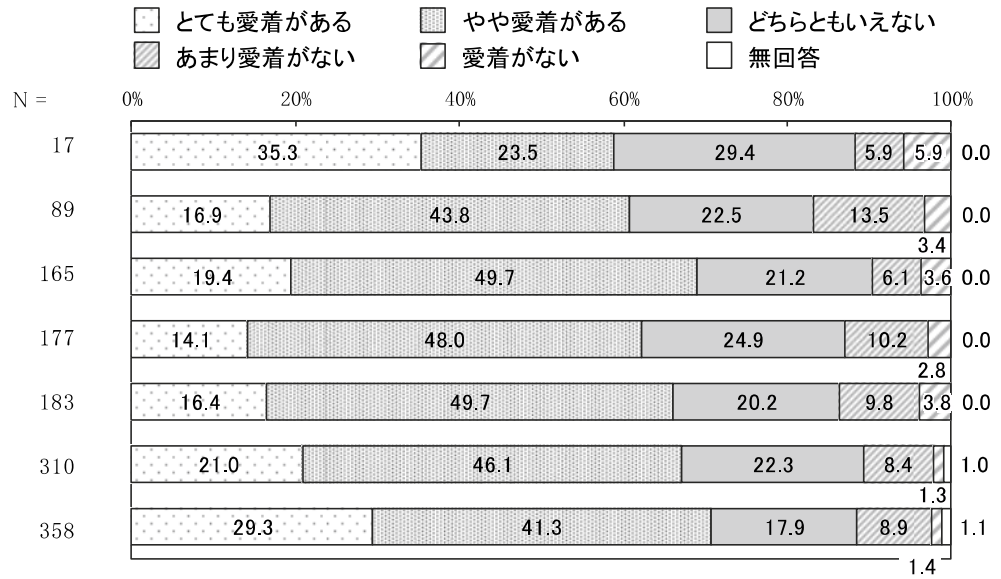
* 愛着がある:「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計

* 愛着がない:「あまり愛着がない」と「愛着がない」の合計

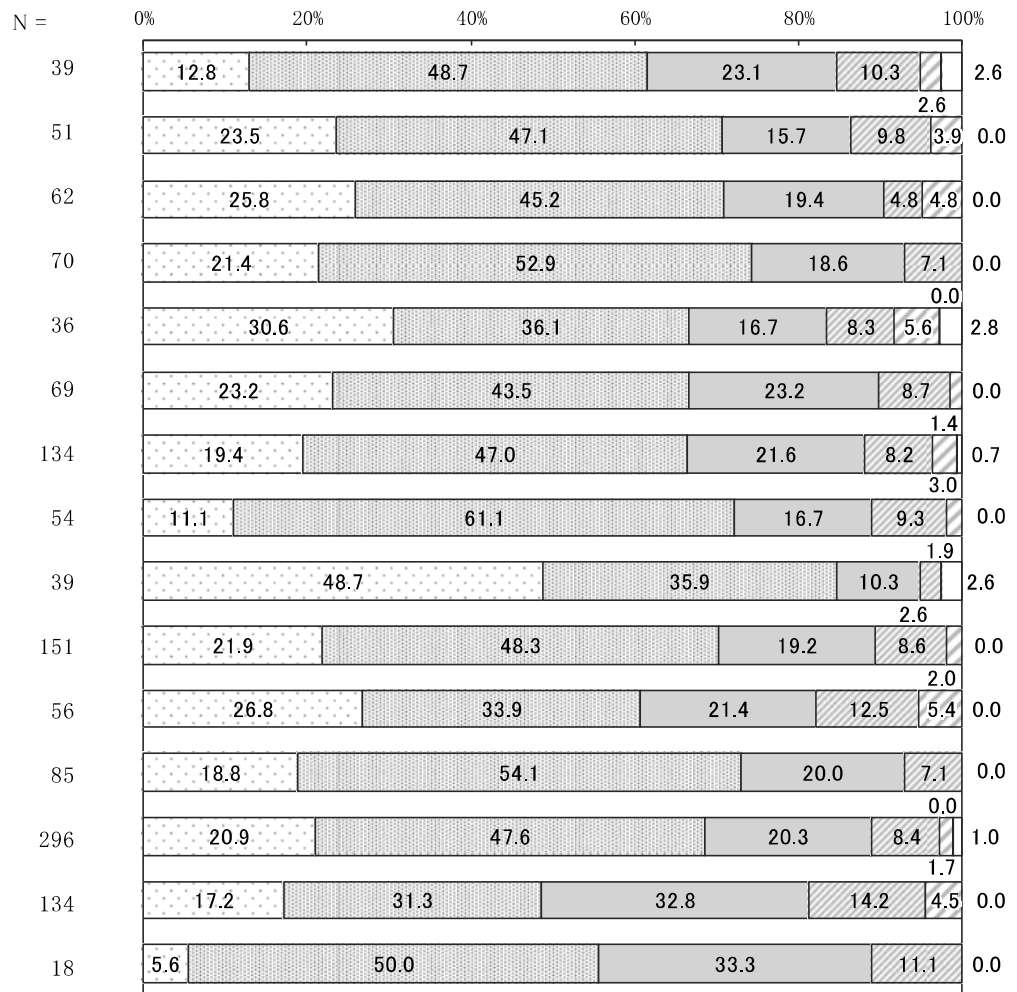
【性別】



【年代別】



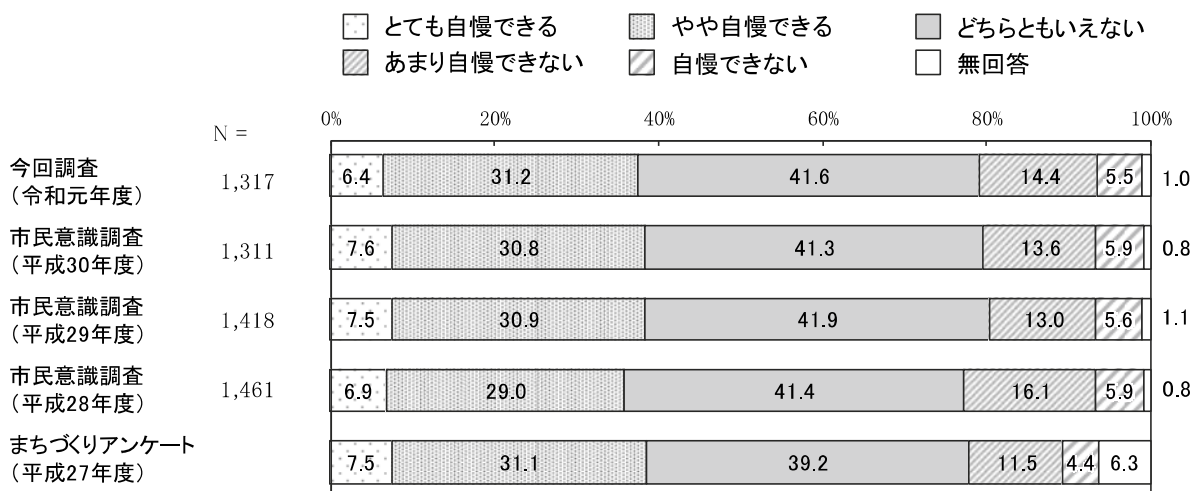
【居住地区別】



問6 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

4割近くが自慢できる、4割が「どちらともいえない」

- ・ 東近江市を自慢できるかについては、「どちらともいえない」が41.6%と最も多くなっています。また、「とても自慢できる」が6.4%、「やや自慢できる」が31.2%で、これらを合わせると37.6%となり、4割近くの人何らか自慢できるとしています。一方、「あまり自慢できない」と「自慢できない」を合わせると19.9%となっています。
- ・ 年代別では、10歳代と70歳以上で自慢できる（「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計）の割合が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、自慢できる（前述）の割合が、永源寺地区、湖東地区、五個荘地区で高く、蒲生地区で低くなっています。



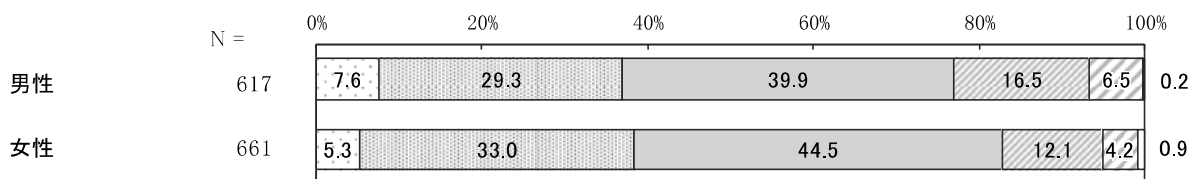
単位：%

	自慢できる	自慢できない	差
①今回調査(令和元年度)	37.6	19.9	17.7
②市民意識調査(平成30年度)	38.4	19.5	18.9
③市民意識調査(平成29年度)	38.4	18.6	19.8
④市民意識調査(平成28年度)	35.9	22.0	13.9
⑤まちづくりアンケート(平成27年度)	38.6	15.9	22.7
①-⑤	-1.0	4.0	-5.0

* 自慢できる:「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計

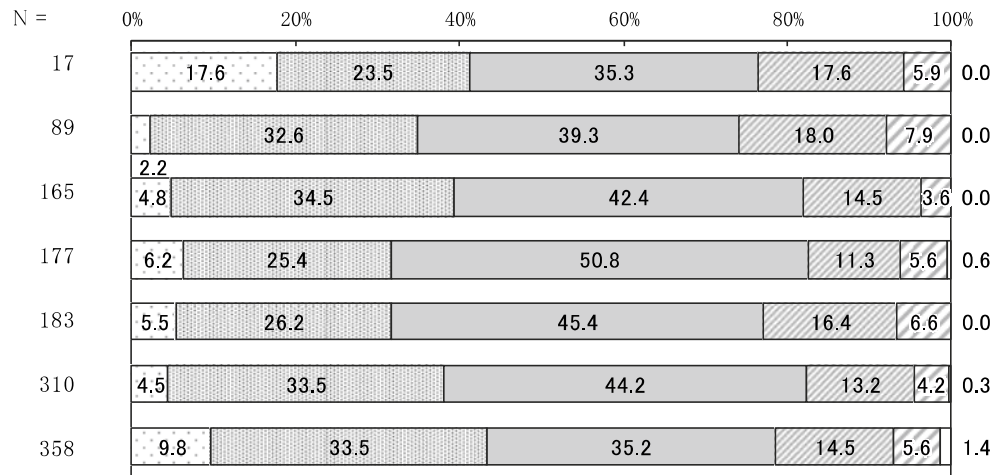
* 自慢できない:「あまり自慢できない」と「自慢できない」の合計

【性別】

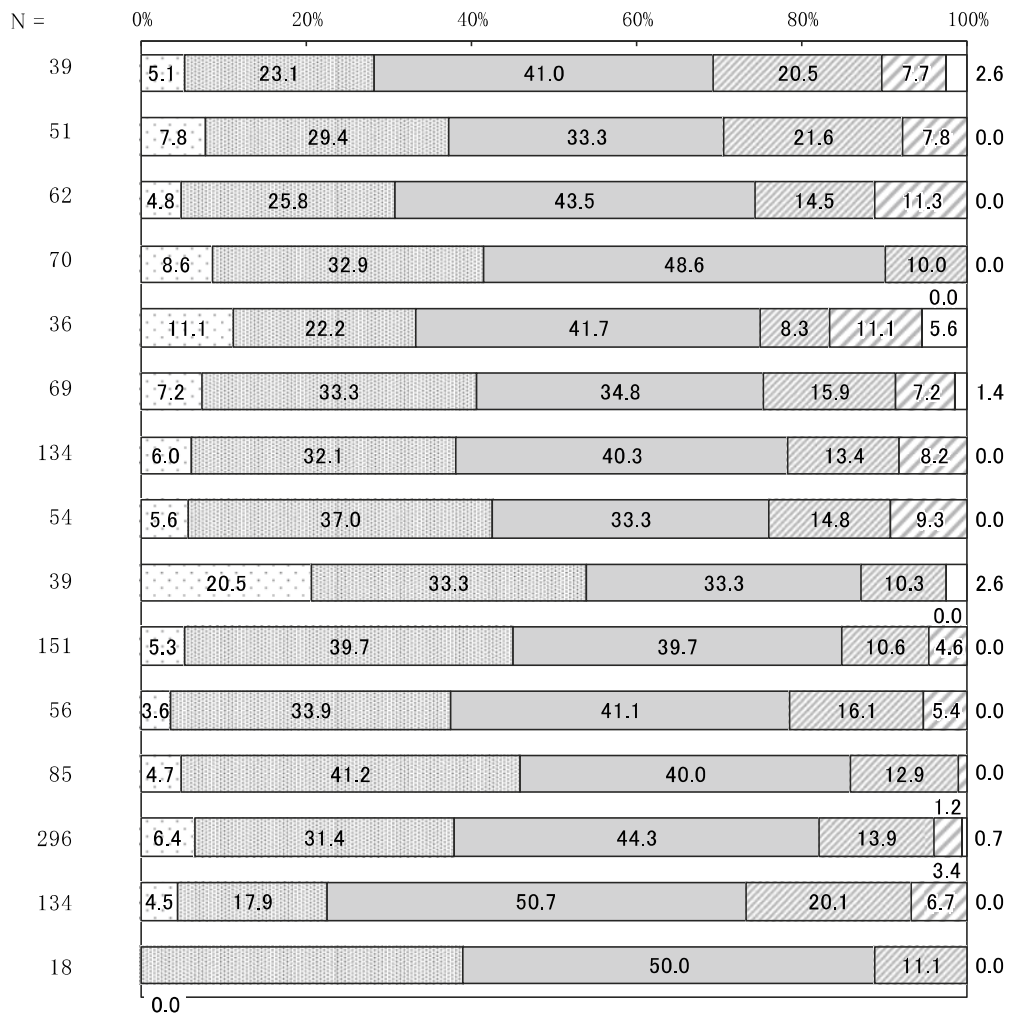


【年代別】

とても自慢できる
 やや自慢できる
 どちらともいえない
 あまり自慢できない
 自慢できない
 無回答



【居住地区別】

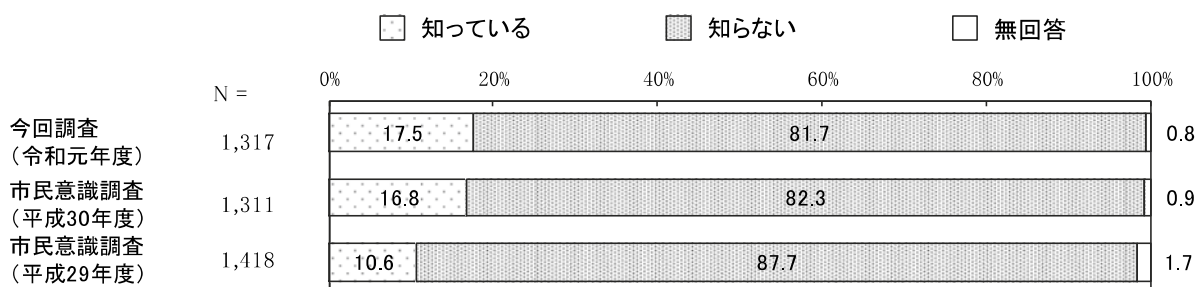


問7 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山峰から「鈴鹿10座」を認定し、鈴鹿山脈の素晴らしさと存在意義を広く周知するとともに、東近江市の知名度アップにもつなげていきたいと考えています。

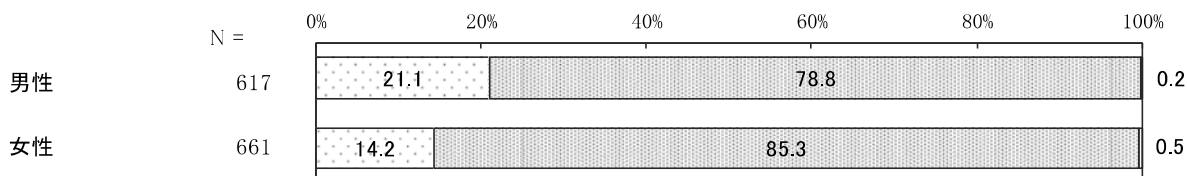
あなたは、「鈴鹿10座」を知っていますか。《○1つ》

8割が「知らない」、認知度は2割近く

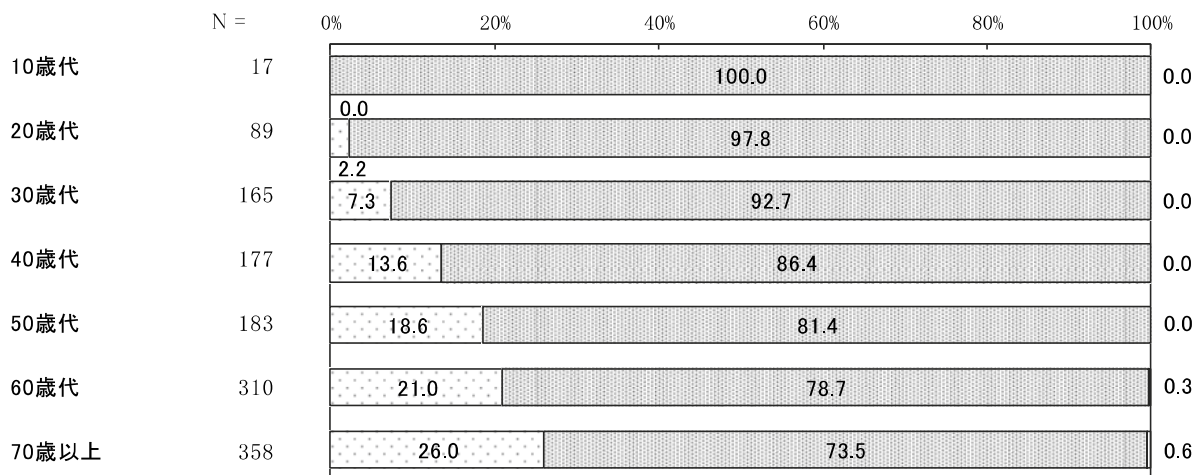
- ・ 「鈴鹿10座」については、「知らない」が81.7%と8割を占めています。一方、「知っている」は17.5%で、認知度は2割近くとなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、認知度が1割から2割近くへと向上しています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では年齢が上がるほど、居住地区別では永源寺地区で、「鈴鹿10座」の認知度が高くなっています。



【性別】



【年代別】

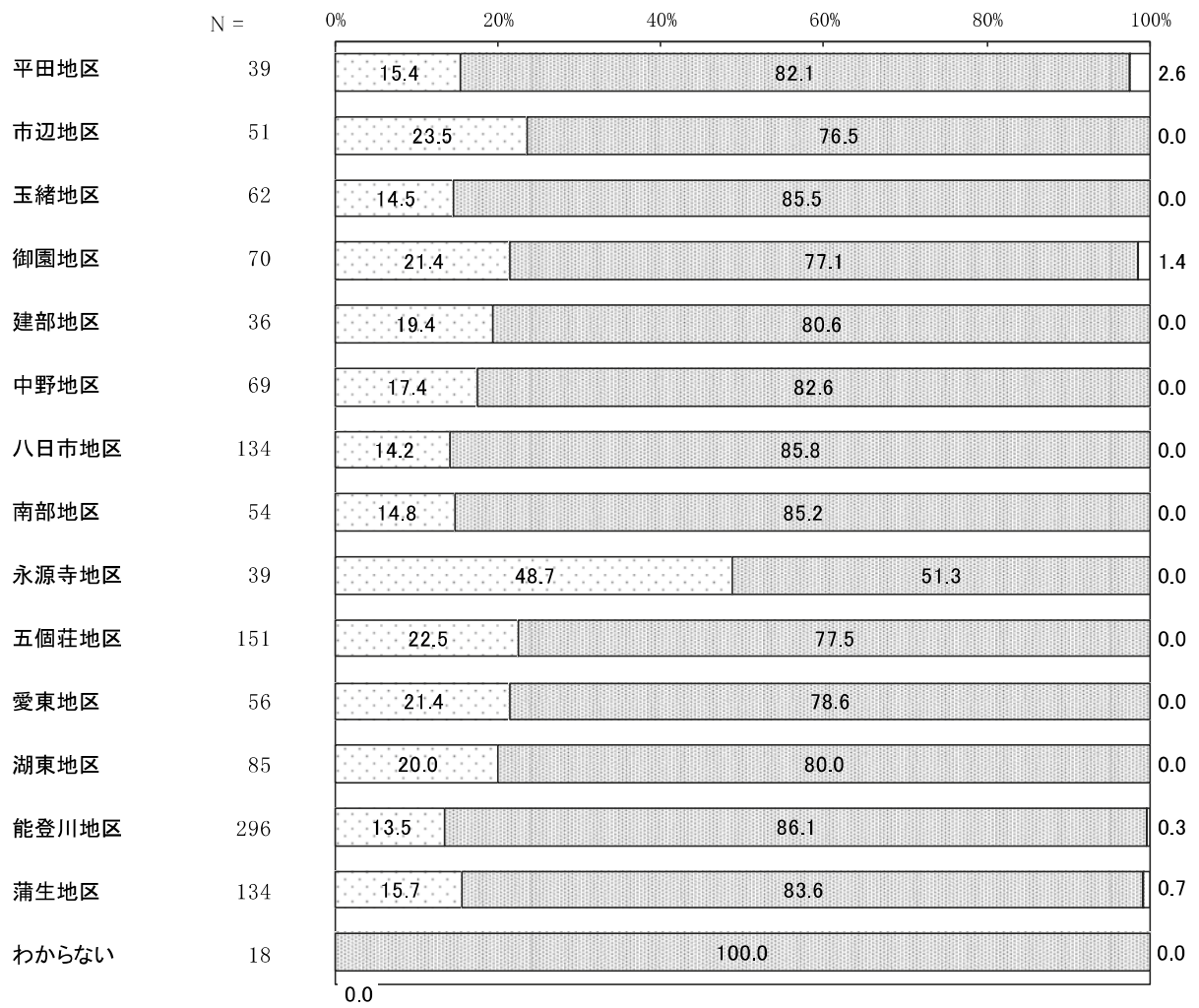


【居住地区別】

☐ 知っている

▨ 知らない

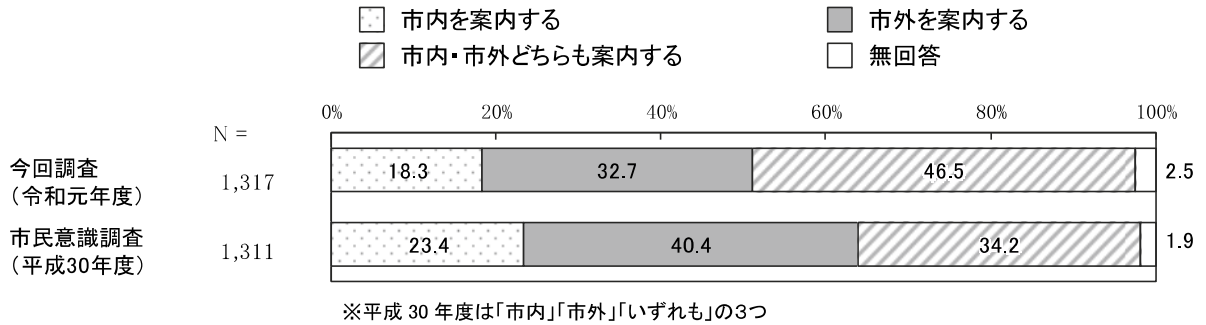
□ 無回答



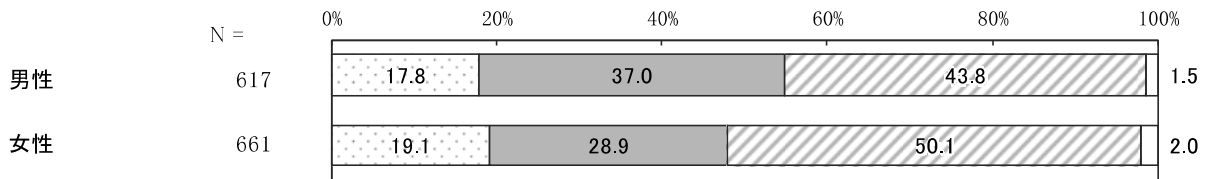
問8 あなたは、東近江市に訪れた友人・知人を観光案内する場合に、どちらを案内しますか。
《○1つ》

半数近くが市内・市外どちらも案内

- ・ 東近江市を訪れた友人・知人の観光案内先としては、「市内・市外どちらも案内する」が46.5%と最も多く、次いで「市外を案内する」が32.7%と続き、「市内を案内する」は18.3%となっています。
- ・ 平成30年度の調査と比較すると、選択肢が変わったため単純比較はできませんが、「市内・市外どちらも案内する」の割合が増加しています。
- ・ 年代別では、20～30歳代は「市外を案内する」が、そのほかの年代は「市内・市外どちらも案内する」が最も多くなっています。また、60歳以上で「市内を案内する」の割合が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区は「市内を案内する」が、蒲生地区は「市外を案内する」と「市内・市外どちらも案内する」の両方が、そのほかの地区は「市内・市外どちらも案内する」が最も多くなっています。

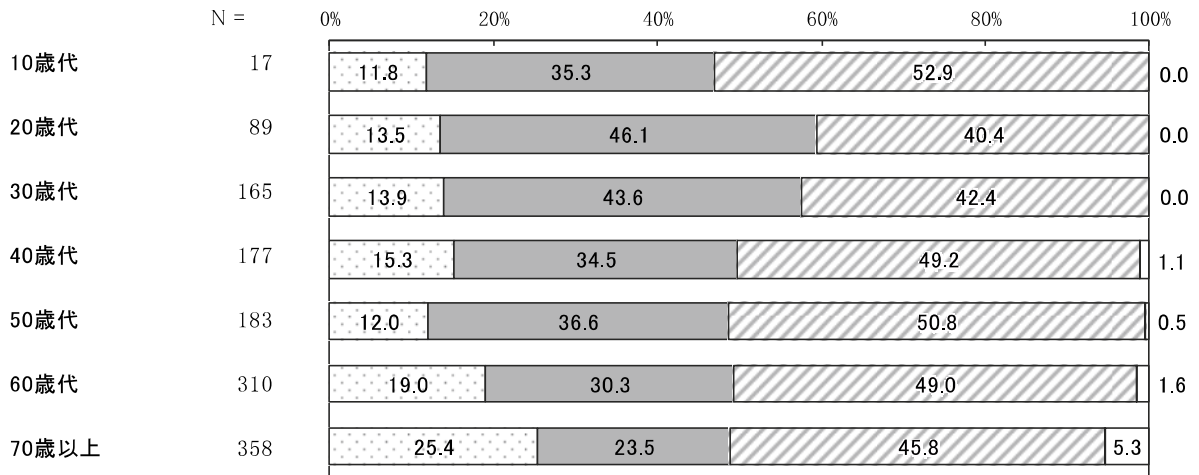


【性別】

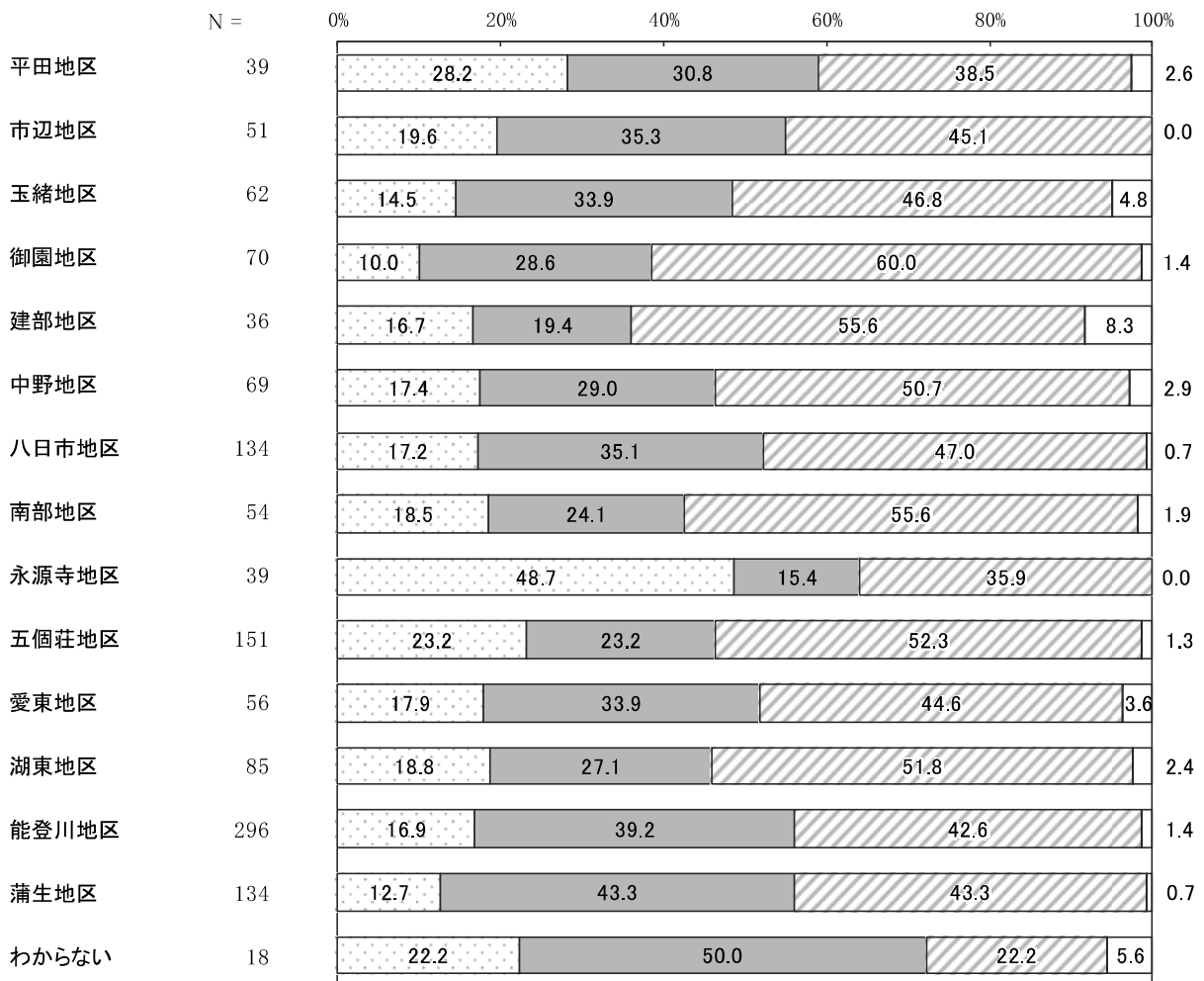


【年代別】

市内を案内する
 市外を案内する
 市内・市外どちらも案内する
 無回答



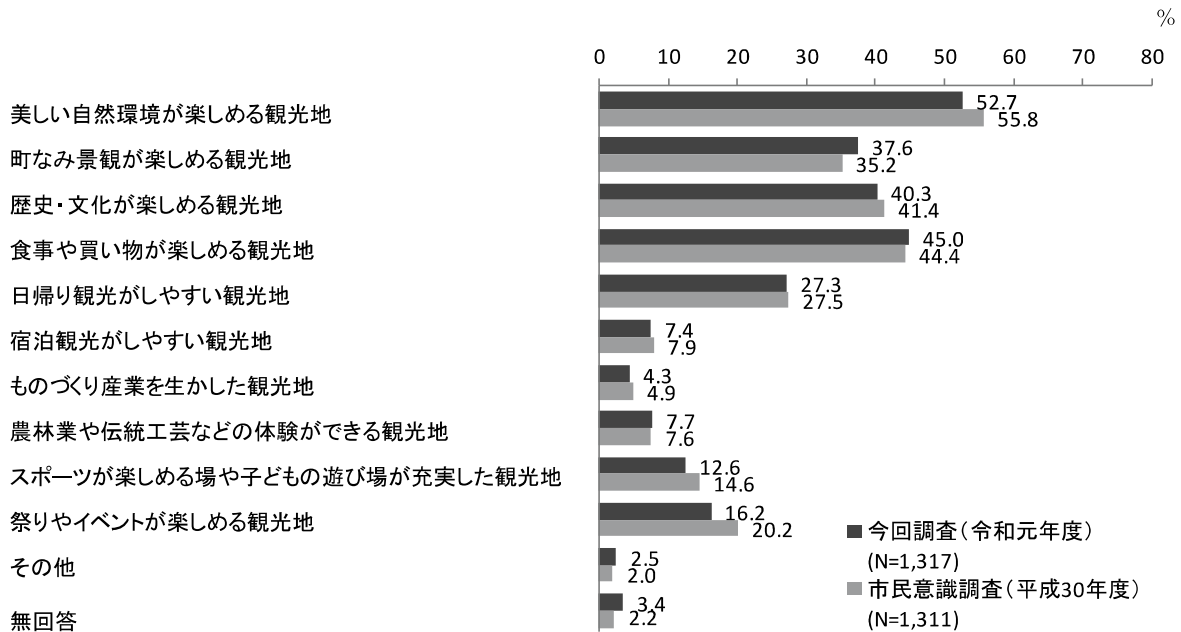
【居住地区別】



問9 あなたは、友人・知人を観光案内する場合に、どのような観光地を案内しますか。《あてはまるものすべてに○》

半数が「美しい自然環境が楽しめる観光地」

- ・ 友人・知人を案内する観光地としては、「美しい自然環境が楽しめる観光地」が52.7%と最も多くあげられています。次いで、「食事や買い物が楽しめる観光地」が45.0%、「歴史・文化が楽しめる観光地」が40.3%、「町なみ景観が楽しめる観光地」が37.6%と続きます。
- ・ 性別では、「美しい自然環境が楽しめる観光地」が最も多いのは共通していますが、特に男性は女性より「歴史・文化が楽しめる観光地」が、女性は男性より「食事や買い物が楽しめる観光地」や「日帰り観光がしやすい観光地」が多くあげられています。
- ・ 年代別では、40歳代までは「食事や買い物が楽しめる観光地」が、50歳以上は「美しい自然環境が楽しめる観光地」が最も多くあげられています。10歳代は「町なみ景観が楽しめる観光地」も最も多くあげられています。そのほか50歳以上で「歴史・文化が楽しめる観光地」、10歳代と30歳代で「祭りやイベントが楽しめる観光地」、30歳代で「スポーツが楽しめる場や子どもの遊び場が充実した観光地」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、五箇荘地区、平田地区では「町なみ景観が楽しめる観光地」が、愛東地区で「歴史・文化が楽しめる観光地」が、そのほかの地区では「美しい自然環境が楽しめる観光地」か「食事や買い物が楽しめる観光地」のどちらか、もしくはその両方が最も多くあげられています。



※選択肢の順番を変更したため、単純比較はできない。

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	美しい自然環境が楽しめる観光地	町なみ景観が楽しめる観光地	歴史・文化が楽しめる観光地	食事や買い物を楽しめる観光地	日帰り観光がしやすい観光地	宿泊観光がしやすい観光地	ものづくり産業を生かした観光地	農林業や伝統工芸などの体験ができる観光地	実子どもの遊び場が充実した観光地	スポーツが楽しめる観光地	祭りやイベントが楽しめる観光地	その他	無回答
男性	617	53.3	35.7	46.0	41.2	24.3	7.0	3.9	7.9	12.2	15.7	3.7	2.3	
女性	661	53.0	40.1	36.2	49.5	30.9	8.2	4.7	7.9	13.5	17.5	1.5	3.0	

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	美しい自然環境が楽しめる観光地	町なみ景観が楽しめる観光地	歴史・文化が楽しめる観光地	食事や買い物を楽しめる観光地	日帰り観光がしやすい観光地	宿泊観光がしやすい観光地	ものづくり産業を生かした観光地	農林業や伝統工芸などの体験ができる観光地	実子どもの遊び場が充実した観光地	スポーツが楽しめる観光地	祭りやイベントが楽しめる観光地	その他	無回答
10歳代	17	47.1	70.6	11.8	70.6	11.8	11.8	0.0	11.8	5.9	29.4	0.0	0.0	
20歳代	89	52.8	31.5	22.5	66.3	32.6	7.9	2.2	4.5	14.6	21.3	0.0	0.0	
30歳代	165	47.9	40.6	24.2	63.0	29.7	9.7	2.4	4.8	31.5	27.3	2.4	0.6	
40歳代	177	45.2	39.5	39.0	55.9	28.8	6.8	4.0	6.2	15.3	18.1	2.3	1.7	
50歳代	183	57.4	36.6	44.8	55.2	26.2	6.0	6.6	10.9	7.1	15.3	2.7	0.5	
60歳代	310	56.5	41.6	51.3	37.1	22.9	10.0	4.8	8.4	7.7	13.9	3.2	3.2	
70歳以上	358	54.7	33.5	43.9	26.8	30.4	5.3	4.5	8.4	9.8	11.5	2.5	6.4	

【居住地区別】

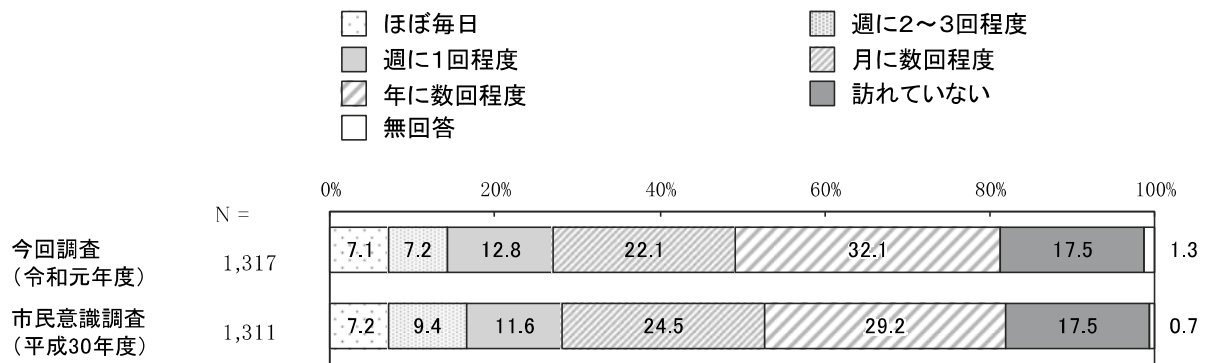
単位:%

区分	有効回答数(件)	美しい自然環境が楽しめる観光地	町なみ景観が楽しめる観光地	歴史・文化が楽しめる観光地	食事や買い物を楽しめる観光地	日帰り観光がしやすい観光地	宿泊観光がしやすい観光地	ものづくり産業を生かした観光地	農林業や伝統工芸などの体験ができる観光地	実子どもの遊び場が充実した観光地	スポーツが楽しめる観光地	祭りやイベントが楽しめる観光地	その他	無回答
平田地区	39	38.5	48.7	23.1	46.2	46.2	5.1	5.1	2.6	15.4	15.4	0.0	5.1	
市辺地区	51	56.9	41.2	39.2	39.2	33.3	3.9	9.8	7.8	21.6	13.7	5.9	0.0	
玉緒地区	62	50.0	25.8	38.7	45.2	35.5	8.1	4.8	8.1	16.1	12.9	3.2	3.2	
御園地区	70	48.6	27.1	38.6	45.7	37.1	4.3	5.7	8.6	8.6	20.0	2.9	2.9	
建部地区	36	55.6	30.6	44.4	55.6	33.3	8.3	8.3	5.6	8.3	11.1	2.8	8.3	
中野地区	69	49.3	24.6	43.5	49.3	30.4	5.8	7.2	10.1	11.6	17.4	5.8	2.9	
八日市地区	134	54.5	36.6	36.6	58.2	27.6	12.7	4.5	9.7	14.9	25.4	1.5	3.7	
南部地区	54	46.3	37.0	44.4	46.3	24.1	3.7	1.9	1.9	13.0	11.1	3.7	0.0	
永源寺地区	39	74.4	35.9	43.6	30.8	20.5	7.7	5.1	7.7	2.6	7.7	2.6	2.6	
五個荘地区	151	48.3	58.3	45.7	41.7	17.2	8.6	2.6	5.3	8.6	17.9	2.6	2.0	
愛東地区	56	51.8	21.4	53.6	37.5	28.6	10.7	5.4	7.1	5.4	10.7	3.6	7.1	
湖東地区	85	54.1	27.1	40.0	38.8	18.8	5.9	1.2	4.7	20.0	17.6	2.4	2.4	
能登川地区	296	58.4	41.9	42.6	38.9	24.7	6.8	3.4	8.8	11.5	15.2	1.7	2.7	
蒲生地区	134	47.0	38.8	36.6	56.7	35.1	7.5	6.0	10.4	16.4	16.4	1.5	0.7	
わからない	18	66.7	38.9	22.2	50.0	22.2	5.6	0.0	16.7	22.2	11.1	5.6	5.6	

問 10 あなたは、この1年間で近江鉄道八日市駅周辺（市役所周辺を含む。）にどの程度訪れましたか。《○1つ》

週1回以上訪れる人が3割近く、月に数回又は年に数回訪れる人は半数

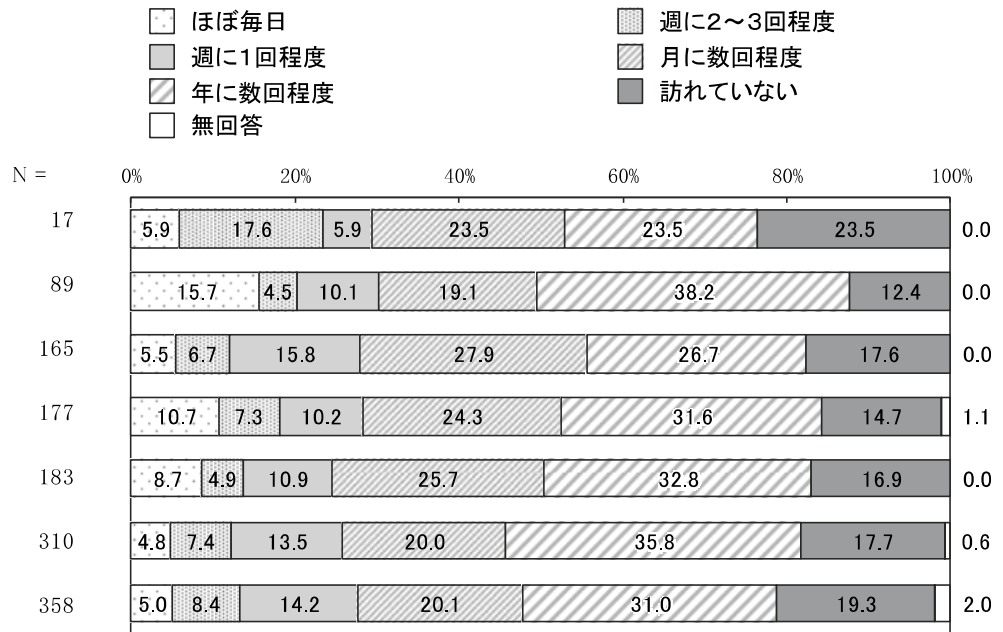
- ・ この1年間で近江鉄道八日市駅周辺を訪れた頻度は、週に1回以上訪れる人が27.1%と3割近くとなっています。また、「月に数回程度」と「年に数回程度」を合わせると54.2%となり、半数を超えています。
- ・ 年代別では、「ほぼ毎日」訪れている人の割合は20歳代と40歳代で高くなっています。また、10～20歳代の若い世代で来訪頻度が高くなっていますが、10歳代は「訪れていない」人の割合もほかの年代より高くなっています。
- ・ 居住地区別では、週1回以上訪れる人の割合が、八日市地区、建部地区で高く、能登川地区、蒲生地区で低くなっています。



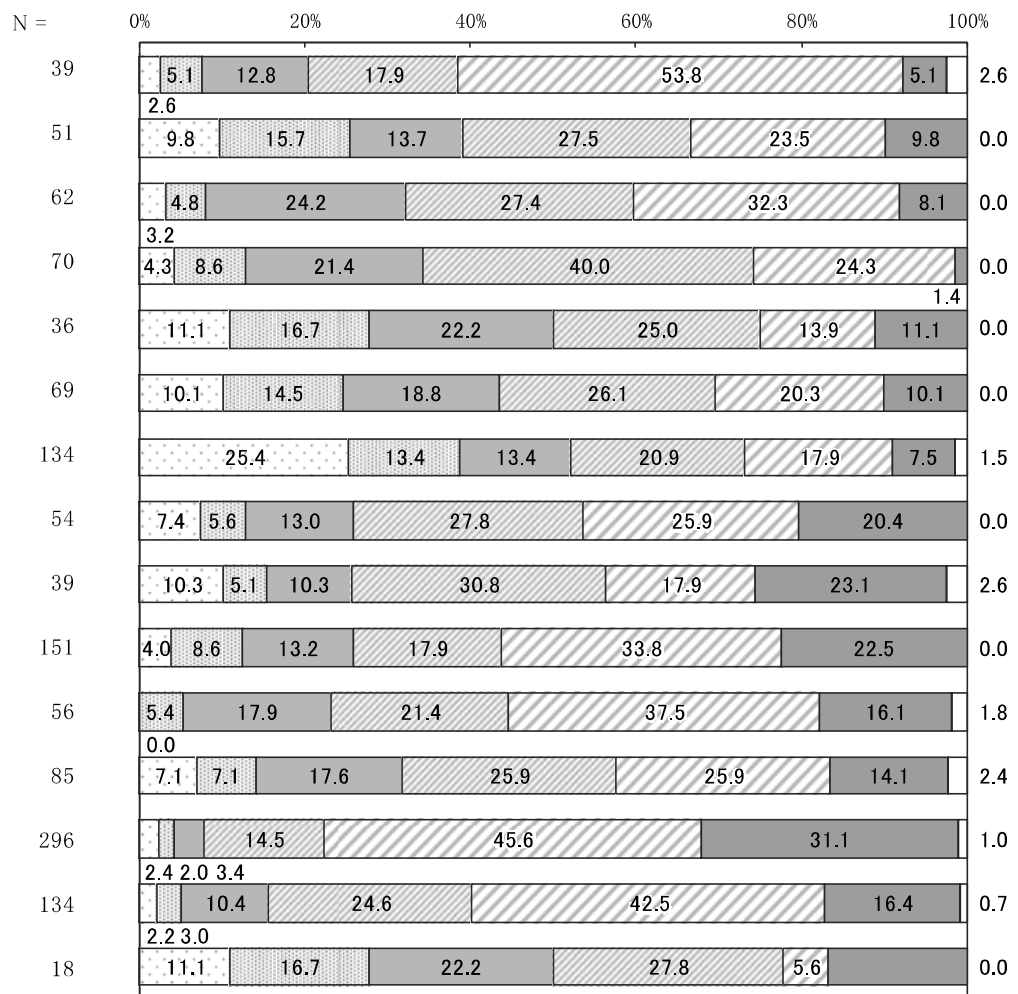
【性別】



【年代別】



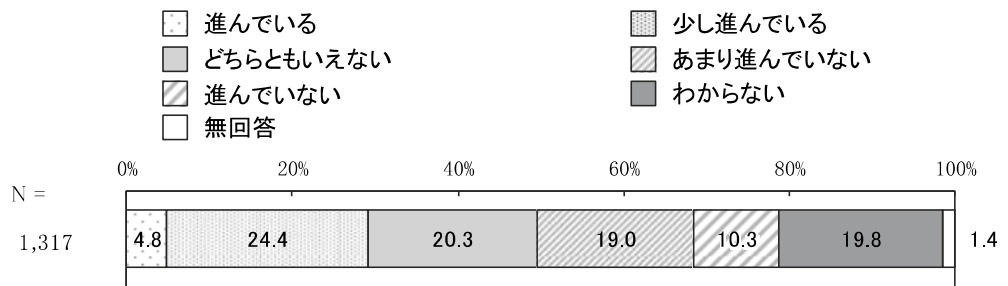
【居住地区別】



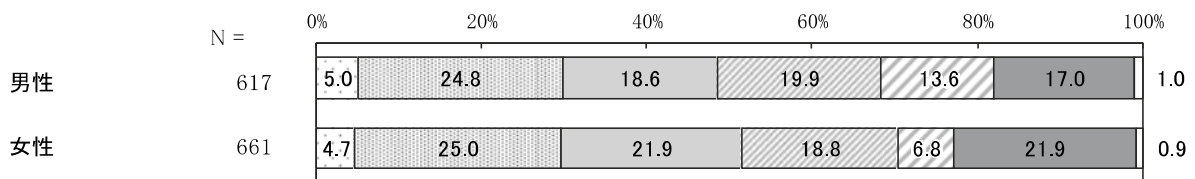
問 11 あなたは、八日市駅周辺のホテル誘致、イベント開催、道路美装化、新規出店者支援などで、中心市街地活性化が進んでいると思いますか。《○1つ》

進んでいると感じている人も進んでいないと感じている人もともに3割近く

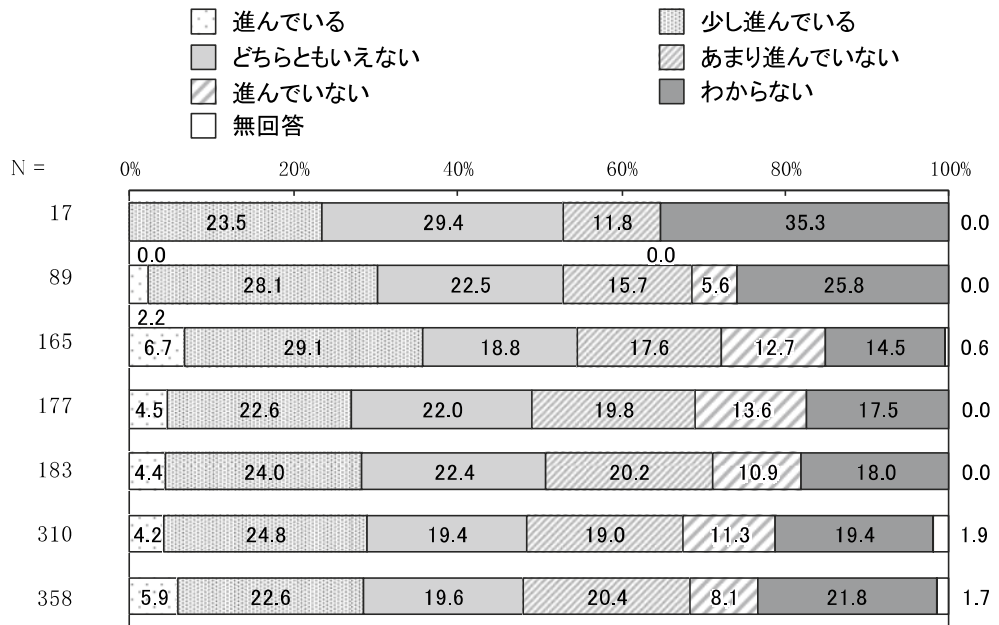
- ・ 中心市街地の活性化が進んでいると思うかについては、「進んでいる」が4.8%、「少し進んでいる」が24.4%で、これらを合わせると29.2%となり、3割近くの人が中心市街地の活性化が進んでいると感じています。一方、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合わせると29.3%となっており、同じく3割近くの人がまだ進んでいないと感じています。
- ・ 性別では、女性より男性で、中心市街地活性化が進んでいないと感じている人（「あまり進んでいない」と「進んでいない」の合計）の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では、20～30歳代で、中心市街地活性化が進んでいると感じている人（「進んでいる」と「少し進んでいる」の合計）の割合が高く、40～60歳代で進んでいないと感じている人（前述）が進んでいると感じている人（前述）より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、御園地区、中野地区で中心市街地活性化が進んでいると感じている人（前述）の割合が高く、蒲生地区、玉緒地区、能登川地区、愛東地区、市辺地区で進んでいないと感じている人（前述）が進んでいると感じている人（前述）より多くみられます。



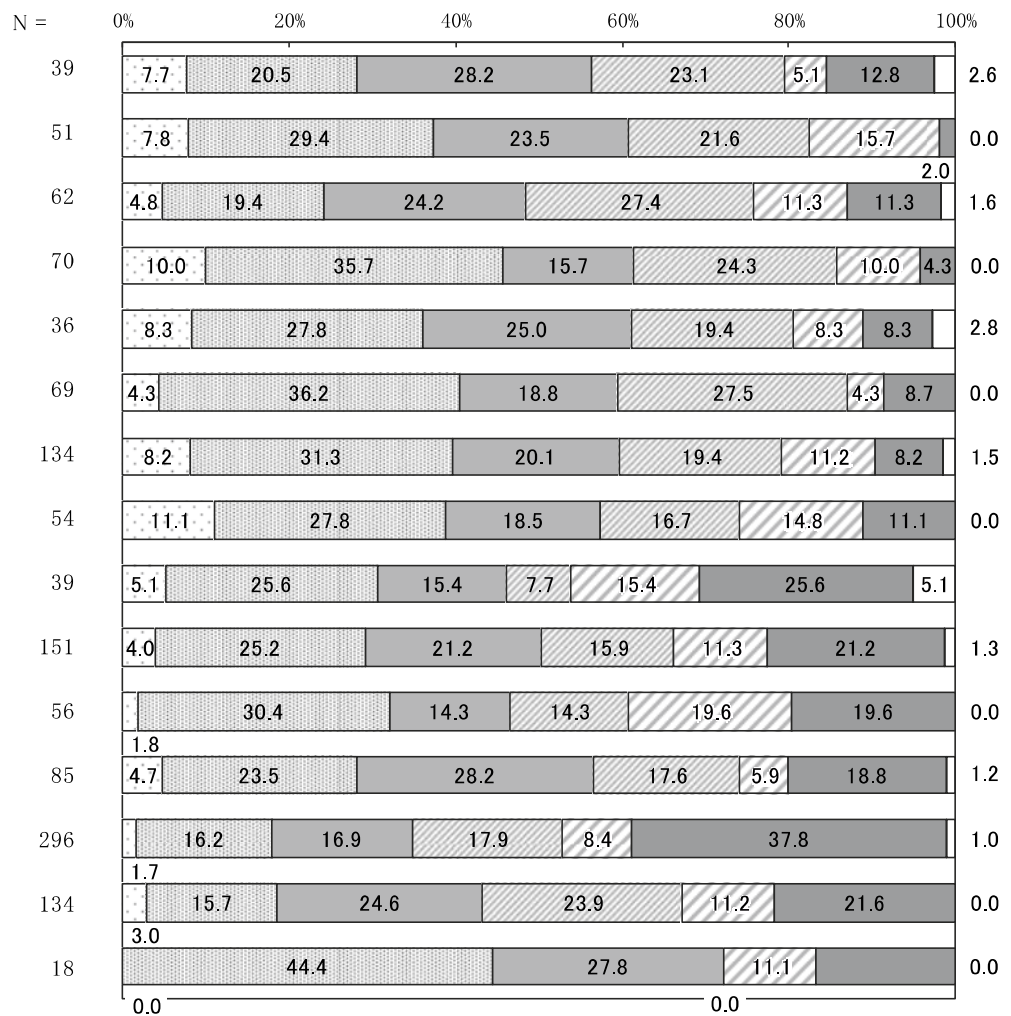
【性別】



【年代別】



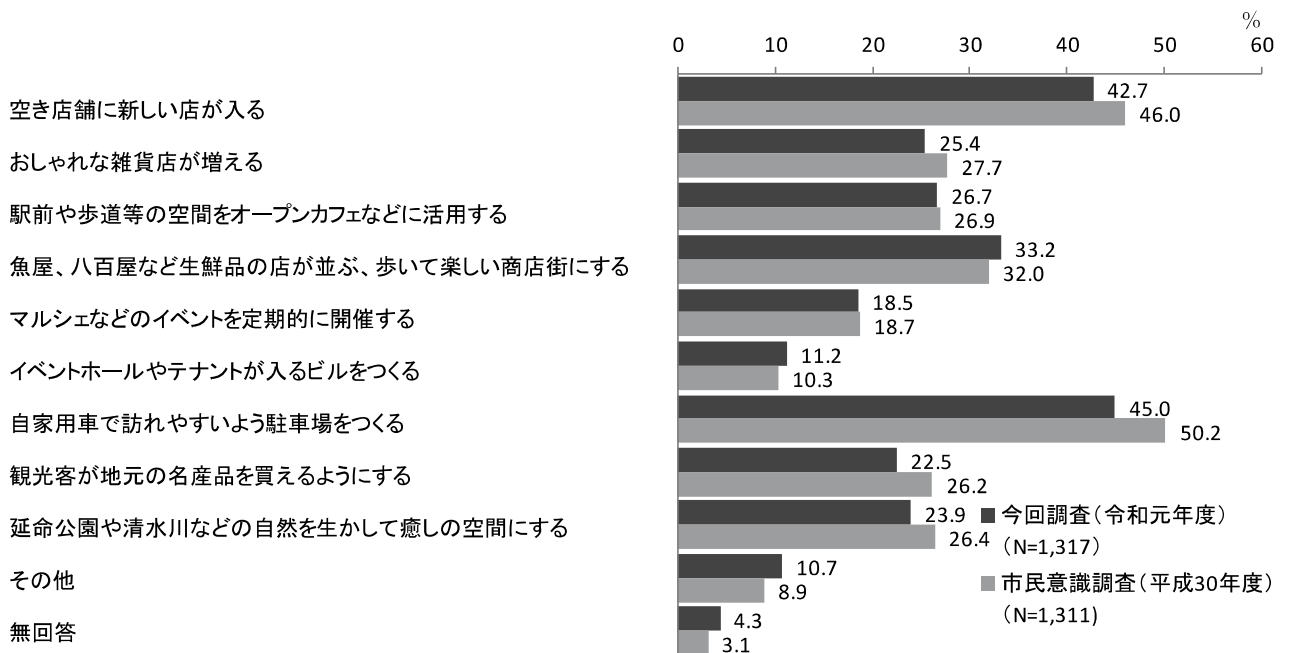
【居住地区別】



問 12 あなたは、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するには、どのようなお店や施設、イベントなどの開催が必要だと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

駐車場の整備、空き店舗の解消が上位

- ・ 八日市駅周辺の中心市街地が活性化するために必要なことは、「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が45.0%と最も多く、次いで「空き店舗に新しい店が入る」が42.7%、「魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする」が33.2%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに最も多いのは駐車場の整備ですが、女性は男性より「おしゃれな雑貨店が増える」や「マルシェなどのイベントを定期的開催する」などが多くあげられています。
- ・ 年代別では、10歳代は「駅前や歩道等の空間をオープンカフェなどに活用する」が、20～40歳代は「空き店舗に新しい店が入る」が、60歳以上は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が最も多くなっています。50歳代は、「空き店舗に新しい店が入る」と「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」の両方が最も多くなっています。そのほか、70歳以上で「魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする」が、30歳代で「マルシェなどのイベントを定期的開催する」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、八日市地区、御園地区、中野地区、五個荘地区、愛東地区は「空き店舗に新しい店が入る」が、平田地区、永源寺地区、蒲生地区、市辺地区、湖東地区、能登川地区は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が、玉緒地区、南部地区、建部地区はその両方が最も多くなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	空き店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	活用する	駅前や歩道等の空間を	楽しい商店街にする	品屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮	トを定期的に開催する	マルシェなどのイベントが入るビルやテナ	イベントホールやテナ	よう駐車場をつくる	観光客が地元の名産品	の自然を生かして癒し	延命公園や清水川など	その他	無回答
男性	617	42.9	20.4	24.8	33.4	14.3	14.1	43.4	20.7	24.3	15.1	2.9					
女性	661	43.6	31.0	28.7	33.6	23.3	8.5	46.6	24.2	24.2	6.7	4.4					

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	空き店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	活用する	駅前や歩道等の空間を	楽しい商店街にする	品屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮	トを定期的に開催する	マルシェなどのイベントが入るビルやテナ	イベントホールやテナ	よう駐車場をつくる	観光客が地元の名産品	の自然を生かして癒し	延命公園や清水川など	その他	無回答
10歳代	17	41.2	23.5	47.1	17.6	17.6	11.8	11.8	23.5	29.4	17.6	5.9					
20歳代	89	52.8	44.9	36.0	19.1	24.7	9.0	37.1	22.5	21.3	6.7	0.0					
30歳代	165	51.5	39.4	33.9	29.1	36.4	17.6	47.3	18.8	23.0	11.5	1.2					
40歳代	177	53.1	29.4	31.1	27.7	27.1	14.1	44.6	17.5	20.9	13.0	0.0					
50歳代	183	47.0	27.3	30.6	31.1	24.6	11.5	47.0	22.4	23.0	14.2	3.8					
60歳代	310	40.6	21.3	24.8	36.1	13.2	10.6	48.7	19.7	25.2	12.6	3.2					
70歳以上	358	32.1	15.1	18.4	41.3	6.7	8.1	45.0	29.6	26.0	6.4	7.8					

【居住地区別】

単位:%

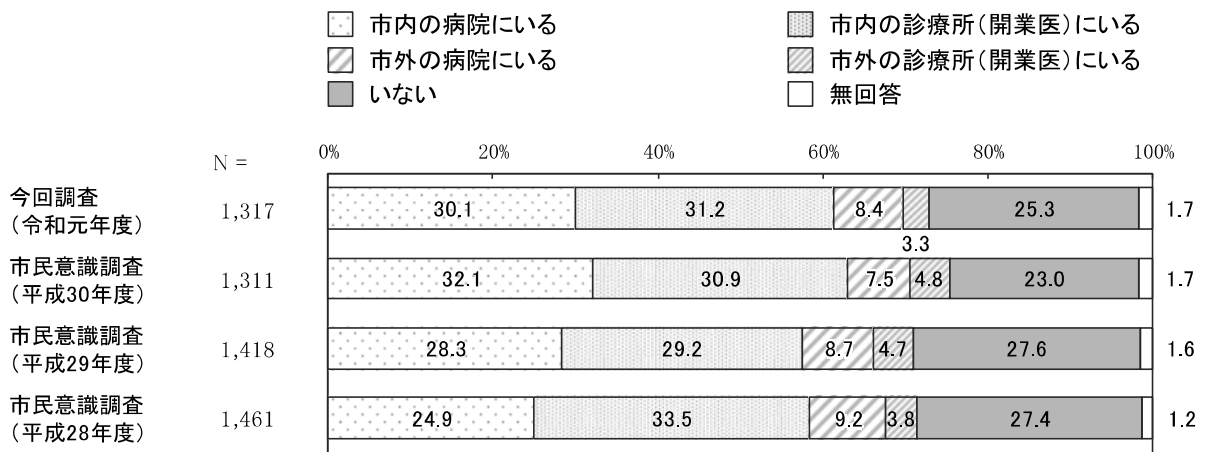
区分	有効回答数(件)	空き店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	活用する	駅前や歩道等の空間を	楽しい商店街にする	品屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮	トを定期的に開催する	マルシェなどのイベントが入るビルやテナ	イベントホールやテナ	よう駐車場をつくる	観光客が地元の名産品	の自然を生かして癒し	延命公園や清水川など	その他	無回答
平田地区	39	30.8	15.4	12.8	30.8	12.8	15.4	61.5	25.6	23.1	7.7	2.6					
市辺地区	51	41.2	29.4	41.2	37.3	19.6	13.7	49.0	27.5	25.5	7.8	2.0					
玉緒地区	62	48.4	27.4	16.1	46.8	12.9	9.7	48.4	27.4	14.5	6.5	3.2					
御園地区	70	54.3	24.3	20.0	31.4	24.3	8.6	47.1	22.9	30.0	5.7	1.4					
建部地区	36	41.7	8.3	25.0	36.1	22.2	11.1	41.7	27.8	38.9	5.6	5.6					
中野地区	69	50.7	29.0	33.3	27.5	24.6	17.4	44.9	31.9	46.4	4.3	1.4					
八日市地区	134	56.0	38.1	39.6	39.6	29.9	11.9	38.1	23.9	30.6	13.4	0.0					
南部地区	54	48.1	25.9	27.8	42.6	13.0	14.8	48.1	18.5	31.5	9.3	1.9					
永源寺地区	39	43.6	25.6	23.1	48.7	17.9	7.7	56.4	17.9	17.9	5.1	10.3					
五個荘地区	151	49.7	31.1	29.1	36.4	18.5	12.6	39.7	20.5	19.9	9.3	4.0					
愛東地区	56	46.4	26.8	12.5	26.8	7.1	8.9	39.3	26.8	25.0	10.7	8.9					
湖東地区	85	28.2	17.6	20.0	40.0	12.9	10.6	48.2	24.7	23.5	8.2	3.5					
能登川地区	296	31.4	23.3	26.7	23.0	16.9	7.4	41.9	17.9	17.6	16.9	7.1					
蒲生地区	134	44.0	22.4	29.1	32.8	17.9	14.9	56.0	24.6	20.9	10.4	1.5					
わからない	18	44.4	16.7	22.2	27.8	22.2	11.1	44.4	22.2	16.7	16.7	0.0					

(3) 健康や福祉について

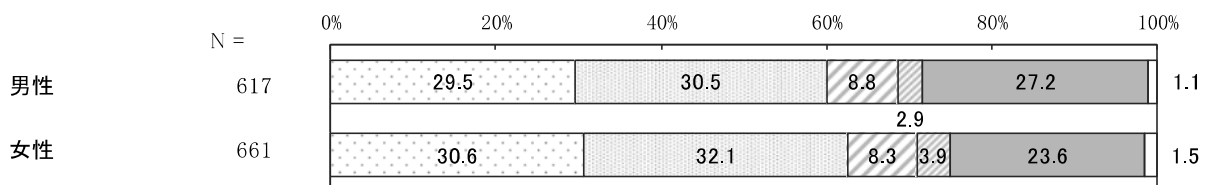
問 13 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん（かかりつけ医）はいませんか。《○1つ》

6割が市内の病院や診療所にかかりつけ医がいる

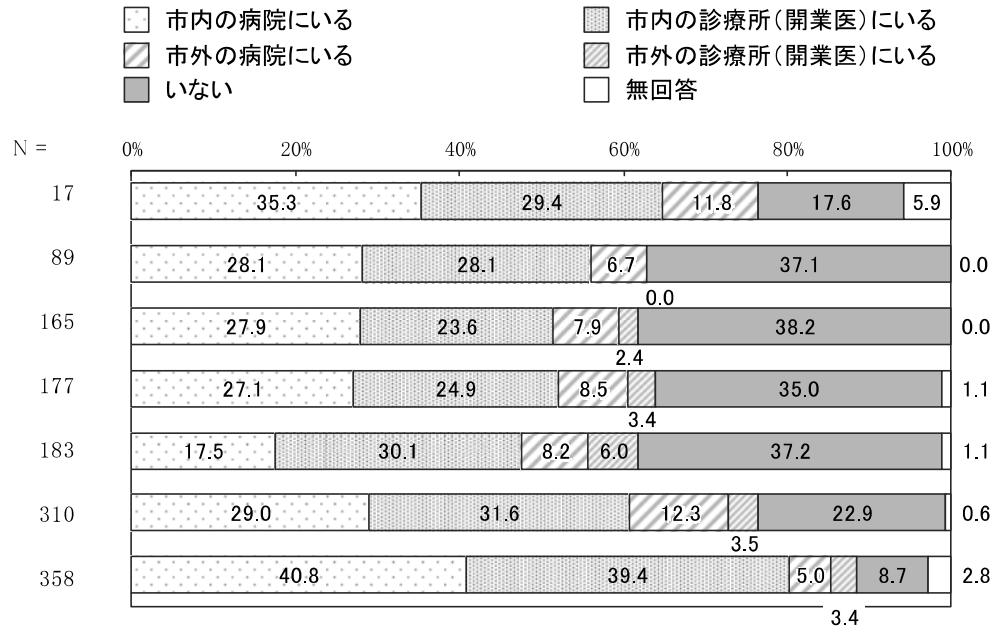
- ・ かかりつけ医がいるかどうかについては、「市内の診療所（開業医）にいる」が31.2%と最も多く、次の「市内の病院にいる」の30.1%と合わせると、61.3%が市内にいると回答しています。一方、「いない」と回答した人も25.3%と3割近くいます。
- ・ 過去の調査と比較すると、増加傾向にあった「市内の病院にいる」の割合が今回減少し、「市内の診療所（開業医）にいる」の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では、10歳代と、60歳以上でかかりつけ医がいる人が多く、70歳以上は9割近くとなっています。一方、20～50歳代は4割近くがかかりつけ医が「いない」と回答しています。
- ・ 居住地区別では、かかりつけ医がいる人の割合は、建部地区、永源寺地区で9割前後、玉緒地区で8割と高くなっています。八日市地区、南部地区でかかりつけ医がいない人が多くみられ、平田地区、蒲生地区でかかりつけ医が市外にいる人が2割とほかの地区より多くなっています。



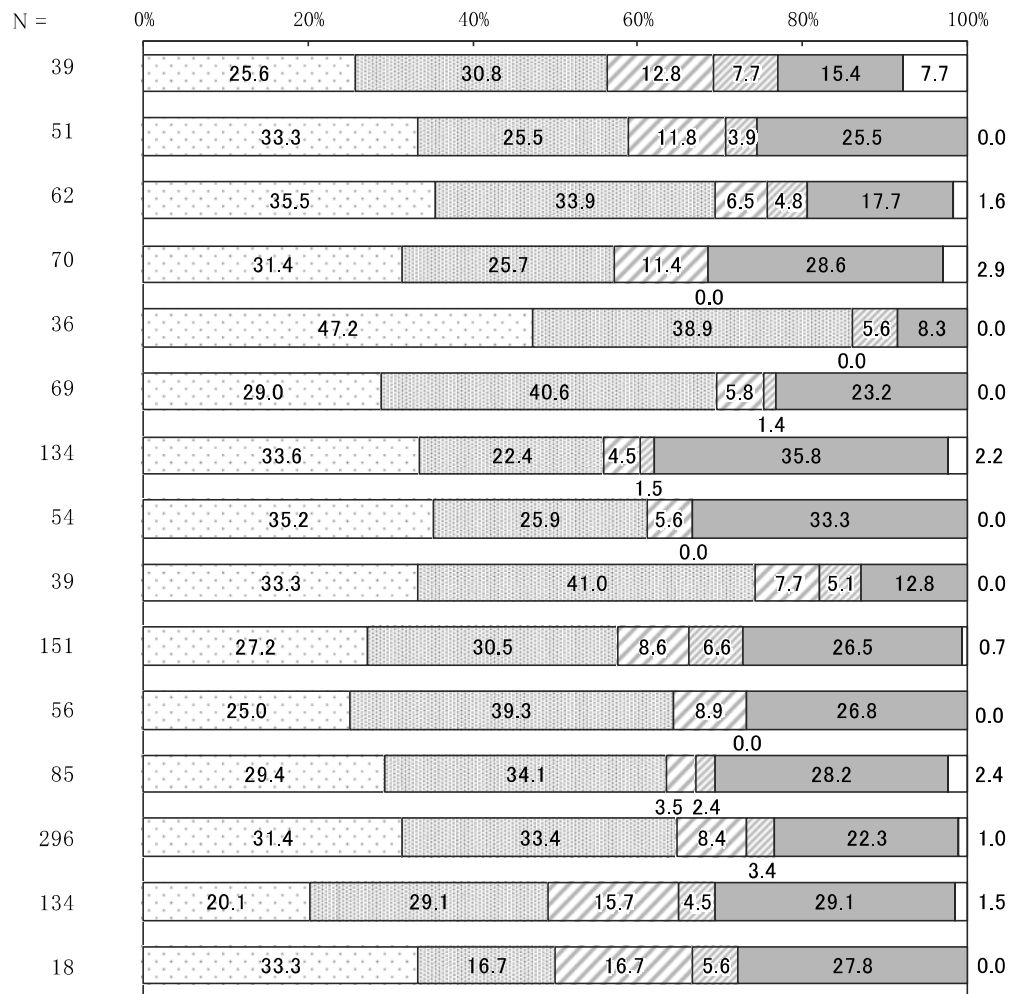
【性別】



【年代別】



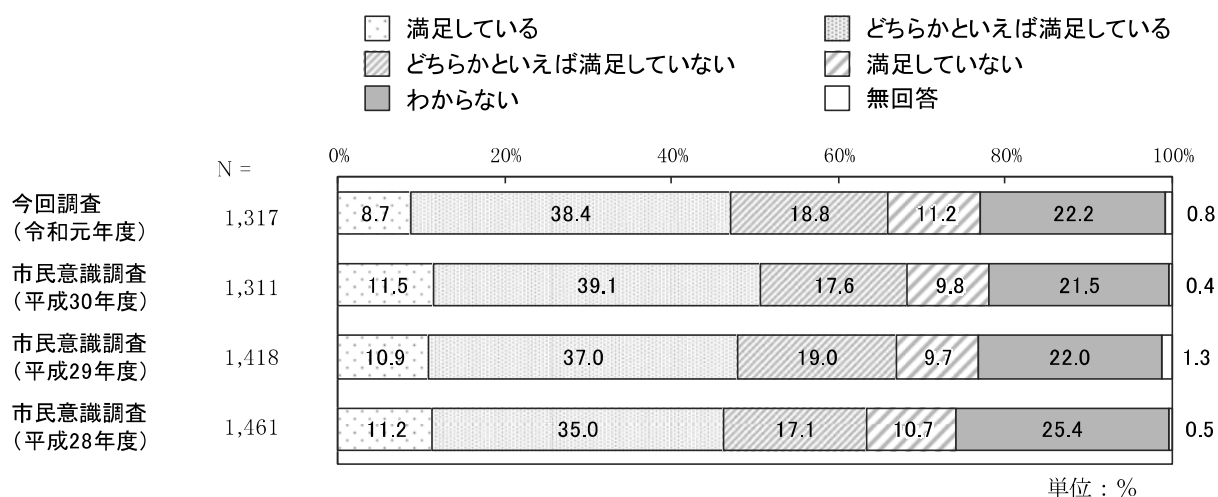
【居住地区別】



問 14 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

半数近くが満足、3割は満足していない

- ・ 病院や救急時の医療体制についての満足度については、「満足している」が8.7%、「どちらかといえば満足している」が38.4%で、これらを合わせると47.1%となり、半数近くの人が満足していると回答しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると30.0%で、3割となっています。また、「わからない」と回答した人も22.2%と2割います。
- ・ 年代別では、すべての年代で満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合が不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）より高くなっています。特に、10歳代と70歳以上で満足（前述）の割合が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区、建部地区、湖東地区で満足（前述）の割合が高く、蒲生地区、玉緒地区で不満（前述）の割合が満足（前述）より高くなっています。

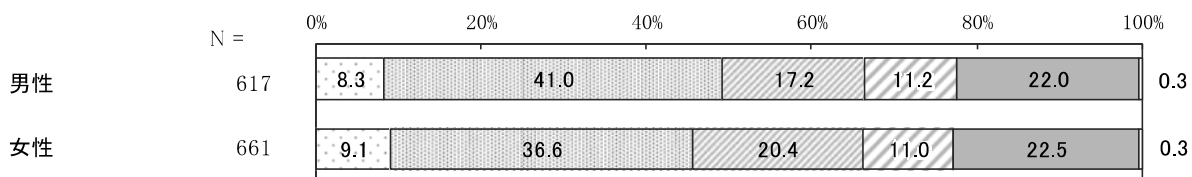


	満足	不満	差
①今回調査(令和元年度)	47.1	30.0	17.1
②市民意識調査(平成30年度)	50.6	27.4	23.2
③市民意識調査(平成29年度)	47.9	28.7	19.2
④市民意識調査(平成28年度)	46.2	27.8	18.4
①-④	0.9	2.2	-1.3

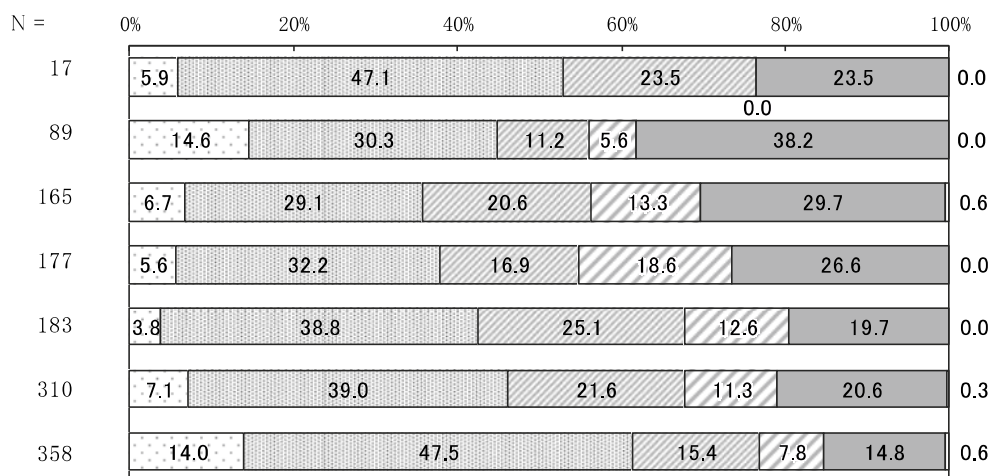
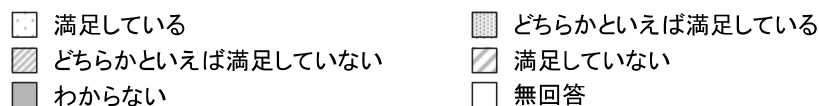
* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

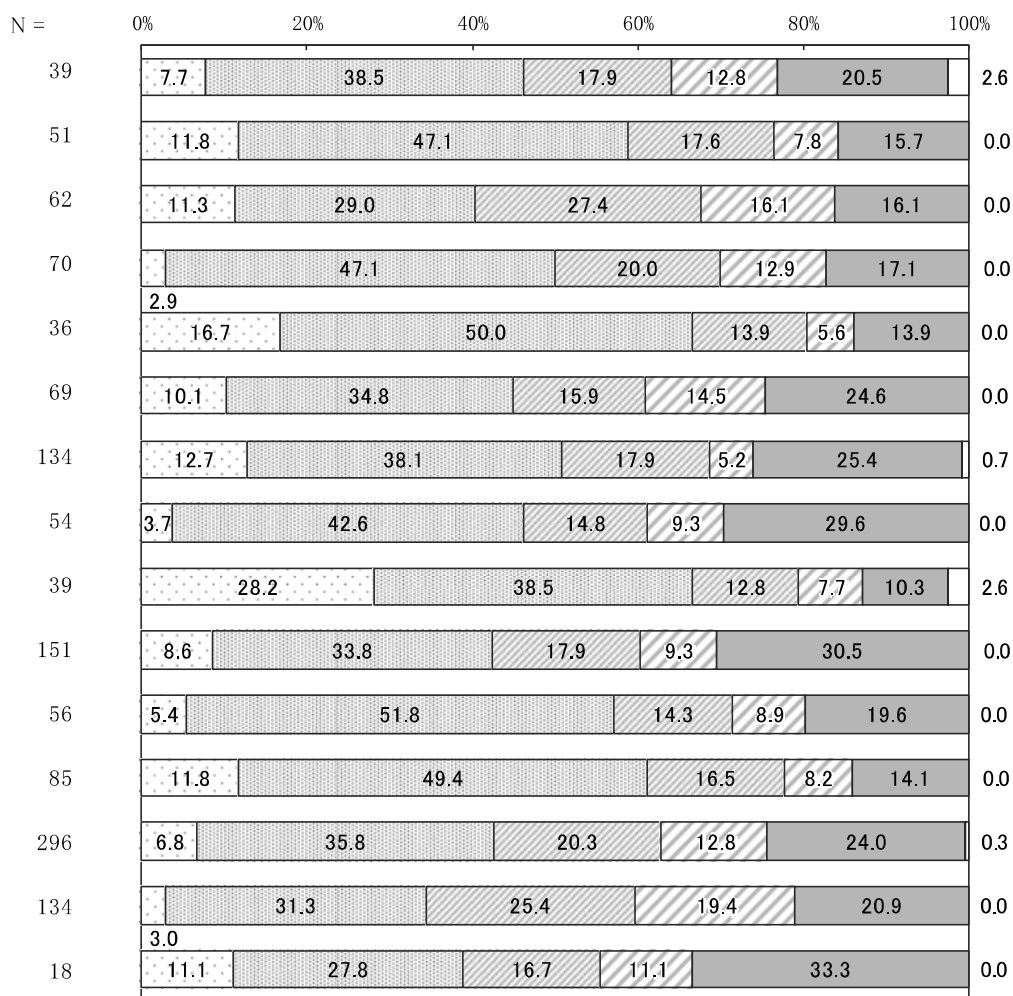
【性別】



【年代別】



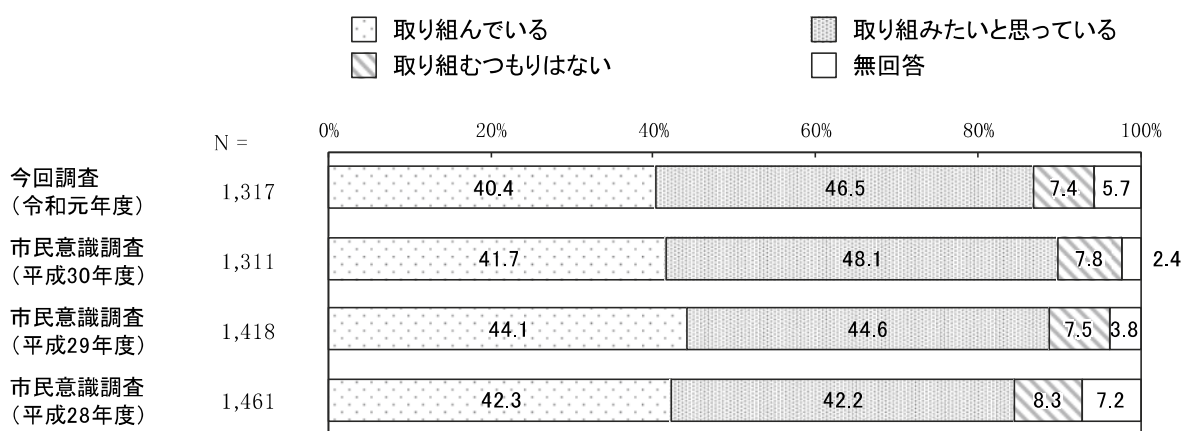
【居住地区別】



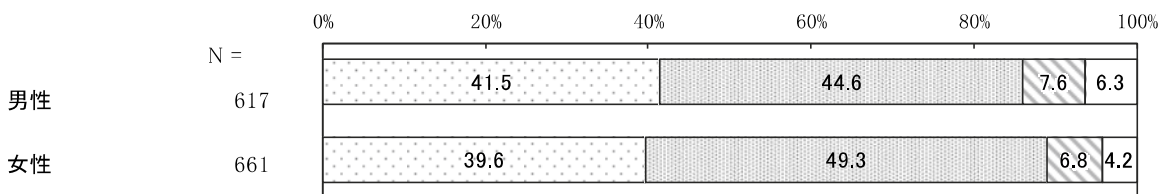
問 15 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

4割が健康づくりを実践、取り組みたいを合わせると9割近くに

- ・ 自分の健康づくりのために何か取り組んでいるかについては、「取り組みたいと思っている」が46.5%と最も多く、次の「取り組んでいる」の40.4%を合わせると86.9%となり、9割近くの人が関心を持っていることが分かります。
- ・ 過去の調査と比較すると、自分の健康づくりのために何か「取り組んでいる」又は「取り組みたいと思っている」と回答した人の割合は、増加傾向を示していましたが、今回の調査ではやや減少しています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では10歳代と60歳以上で、居住地区別では建部地区、能登川地区、玉緒地区、蒲生地区、御園地区、五個荘地区で、自分の健康づくりのために何か「取り組んでいる」人が多くみられます。

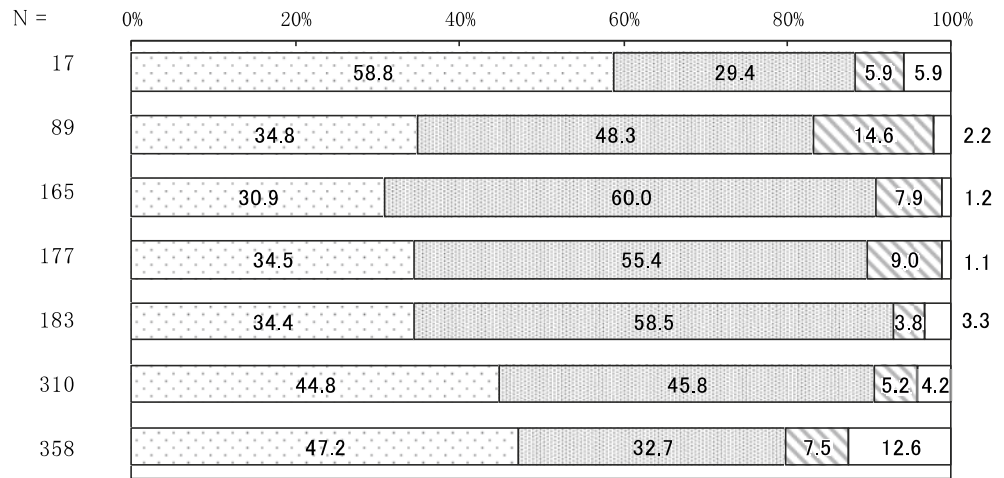


【性別】

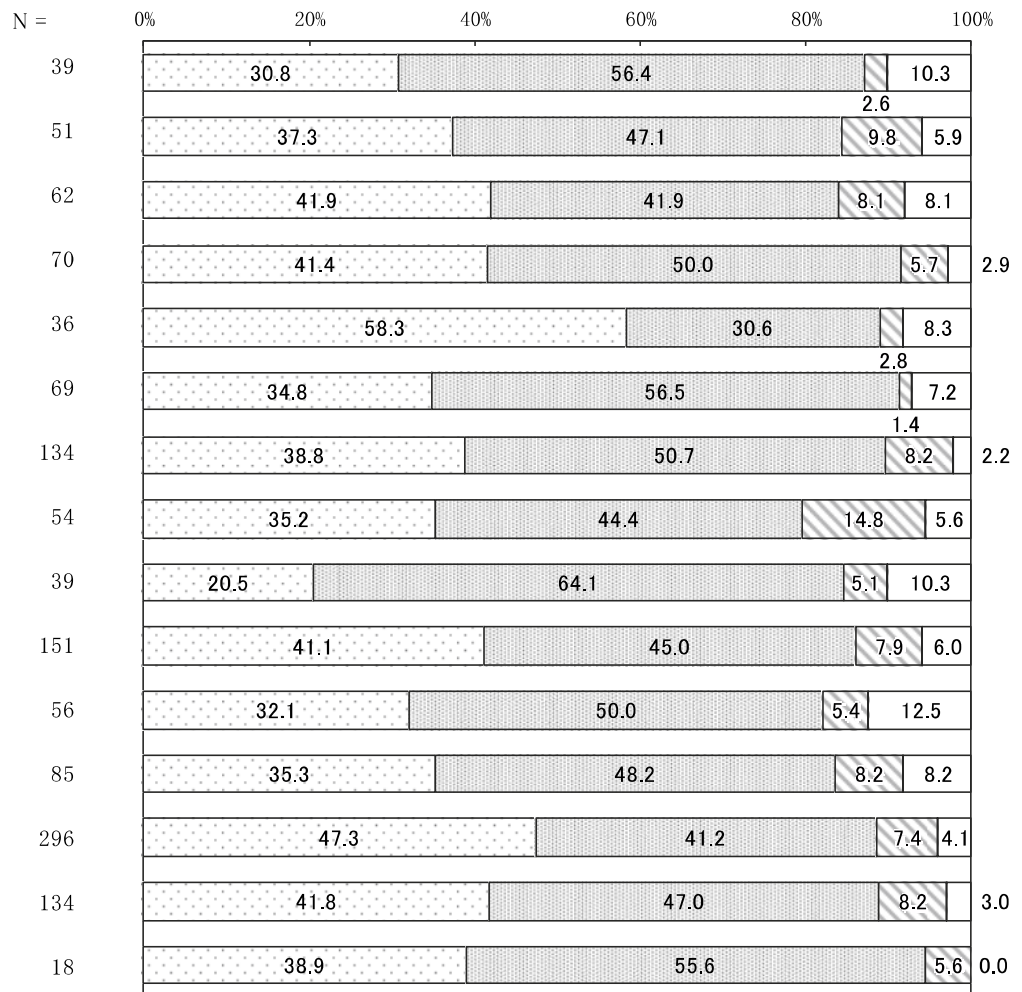


【年代別】

取り組んでいる 取り組みたいと思っている
 取り組むつもりはない 無回答



【居住地区別】

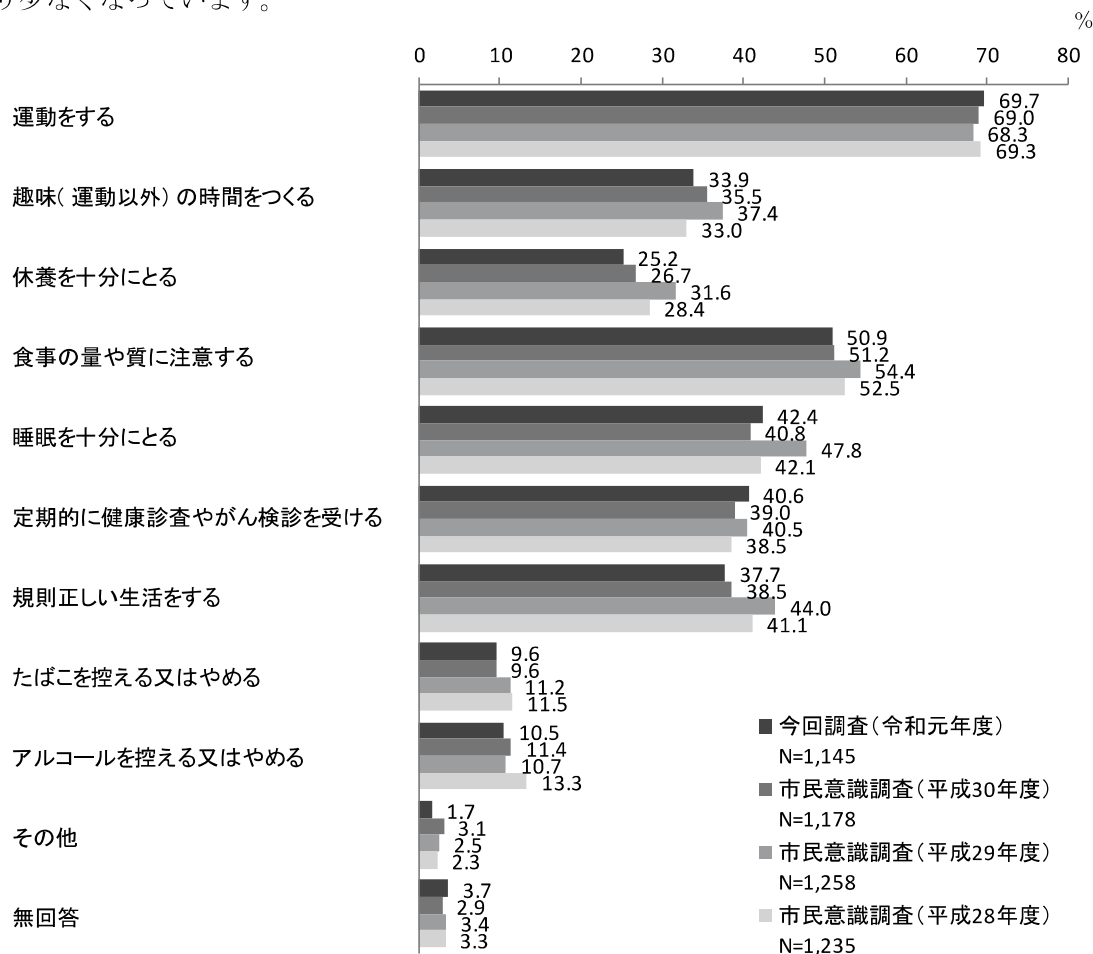


問 15-1 問 15 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方におたずねします。

具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。《あてはまるものすべてに○》

「運動をする」、「食事の量や質に注意する」、「睡眠を十分にとる」が上位

- ・ 実際に取り組んでいる（取り組みたい）こととしては、「運動をする」が 69.7%と最も多く、次いで「食事の量や質に注意する」が 50.9%、「睡眠を十分にとる」が 42.4%、「定期的に健康診査やがん検診を受ける」が 40.6%、「規則正しい生活をする」が 37.7%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに「運動をする」が最も多くなっていますが、女性が「食事の量や質に注意する」、「規則正しい生活をする」などをあげる人が男性より多く、男性は禁煙や禁酒などが女性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、すべての年齢で「運動をする」が最も多くなっていますが、特に 10～20 歳代で 8 割みられます。そのほか、10～40 歳代の比較的若い世代で「睡眠を十分にとる」が、50 歳以上で「定期的に健康診査やがん検診を受ける」が、70 歳以上で「食事の量や質に注意する」がほかの年代より多くなっています。一方、10～20 歳代で「定期的に健康診査やがん検診を受ける」が、50 歳代で「規則正しい生活をする」が、50 歳以上で「休養を十分にとる」がほかの年代より少なくなっています。



【性別】

単位: %

区分	有効回答数(件)	運動をする	趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
男性	531	68.7	32.6	24.7	44.4	41.2	38.6	34.8	16.9	16.2	2.1	4.3
女性	588	69.7	35.5	25.9	57.0	43.0	43.0	40.3	3.4	5.6	1.4	3.2

【年代別】

単位: %

区分	有効回答数(件)	運動をする	趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
10歳代	15	80.0	46.7	46.7	40.0	46.7	6.7	46.7	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	74	82.4	37.8	29.7	44.6	54.1	20.3	37.8	9.5	10.8	1.4	2.7
30歳代	150	74.7	30.7	32.7	48.0	48.0	38.7	36.7	9.3	8.7	1.3	4.0
40歳代	159	63.5	33.3	34.0	51.6	49.7	37.1	32.1	16.4	10.1	0.6	0.6
50歳代	170	65.3	34.7	23.5	51.2	37.1	43.5	25.9	10.6	10.6	2.4	4.7
60歳代	281	70.5	31.3	18.1	47.3	35.2	40.9	37.4	8.2	12.5	0.7	5.3
70歳以上	286	67.8	36.7	22.0	57.7	42.3	49.0	48.6	7.7	9.8	3.1	3.1

【居住地区別】

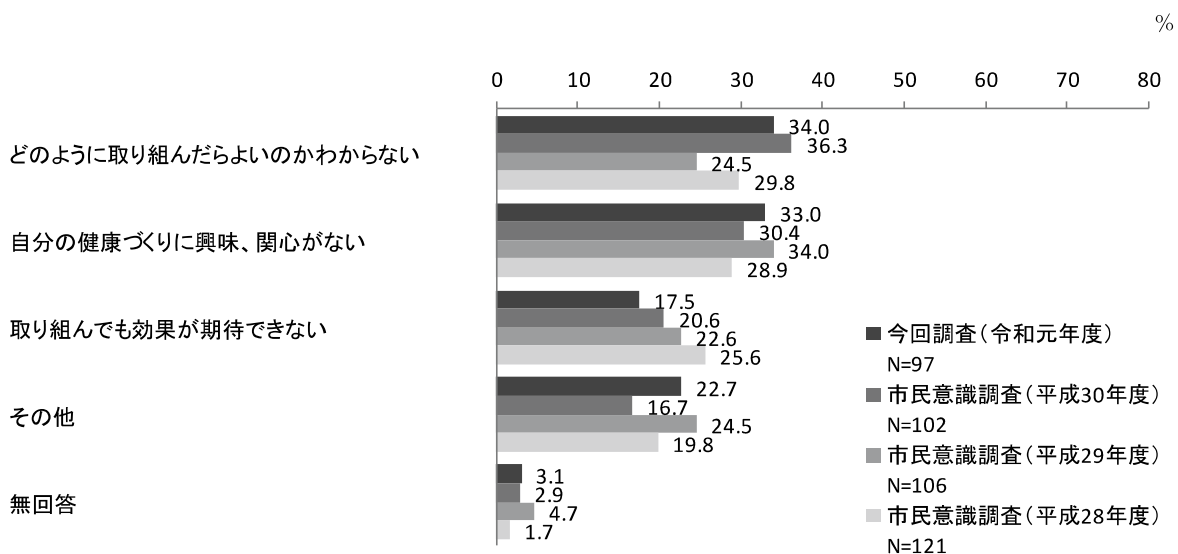
単位: %

区分	有効回答数(件)	運動をする	趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
平田地区	34	47.1	23.5	17.6	41.2	35.3	44.1	23.5	8.8	14.7	0.0	8.8
市辺地区	43	60.5	25.6	23.3	51.2	46.5	39.5	34.9	7.0	9.3	2.3	4.7
玉緒地区	52	67.3	28.8	11.5	40.4	36.5	40.4	42.3	13.5	15.4	1.9	3.8
御園地区	64	64.1	28.1	25.0	59.4	37.5	39.1	34.4	6.3	7.8	0.0	1.6
建部地区	32	59.4	34.4	31.3	53.1	50.0	46.9	31.3	6.3	6.3	3.1	9.4
中野地区	63	71.4	44.4	22.2	57.1	42.9	57.1	30.2	9.5	11.1	0.0	1.6
八日市地区	120	75.0	38.3	26.7	53.3	45.8	35.8	42.5	8.3	10.0	0.0	4.2
南部地区	43	72.1	46.5	16.3	48.8	30.2	37.2	37.2	14.0	9.3	4.7	4.7
永源寺地区	33	72.7	30.3	24.2	51.5	30.3	27.3	24.2	3.0	6.1	3.0	3.0
五個荘地区	130	72.3	30.0	26.9	47.7	46.9	35.4	35.4	10.0	10.8	0.8	3.8
愛東地区	46	63.0	30.4	30.4	43.5	52.2	50.0	47.8	13.0	10.9	4.3	0.0
湖東地区	71	76.1	28.2	32.4	46.5	43.7	47.9	42.3	7.0	8.5	4.2	2.8
能登川地区	262	72.1	35.1	25.2	52.7	39.3	40.8	40.1	11.5	10.3	1.5	3.8
蒲生地区	119	66.4	37.0	26.1	51.3	47.1	40.3	37.0	10.9	12.6	0.0	3.4
わからない	17	58.8	35.3	29.4	52.9	35.3	11.8	35.3	0.0	5.9	17.6	5.9

問 15-2 問 15 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

取り組むつもりがない理由は、「どのように取り組んだらよいかわからない」が第1位

- ・ 自分の健康づくりに取り組むつもりはない人の理由としては、「どのように取り組んだらよいかわからない」が 34.0%と最も多く、次いで「自分の健康づくりに興味、関心がない」が 33.0%、「その他」が 22.7%、「取り組んでも効果が期待できない」が 17.5%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、「取り組んでも効果が期待できない」の割合は年々減少しています。
- ・ 性別では、男性は「どのように取り組んだらよいかわからない」が、女性は「取り組んでも効果が期待できない」を理由にあげる人が最も多くなっています。



【性別】

単位: %

区分	有効回答数(件)	どのように取り組んだらよいかわからない	自分の健康づくりに興味、関心がない	取り組んでも効果が期待できない	その他	無回答
男性	47	44.7	14.9	14.9	0.0	4.3
女性	45	17.8	20.0	31.1	0.0	2.2

【年代別】

単位:%

区 分	有効回答数 (件)	ら ど の よ う の か わ り 組 ん だ	味、自 分 の 健 康 づ く り に 興 関 心 が な い	待 取 り 組 ん だ も 効 果 が 期 待 で き な い	そ の 他	無 回 答
10歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	13	53.8	30.8	15.4	0.0	7.7
30歳代	13	38.5	15.4	15.4	38.5	0.0
40歳代	16	31.3	50.0	12.5	6.3	0.0
50歳代	7	42.9	42.9	28.6	28.6	0.0
60歳代	16	25.0	37.5	6.3	43.8	0.0
70歳以上	27	29.6	25.9	25.9	22.2	7.4

【居住地区別】

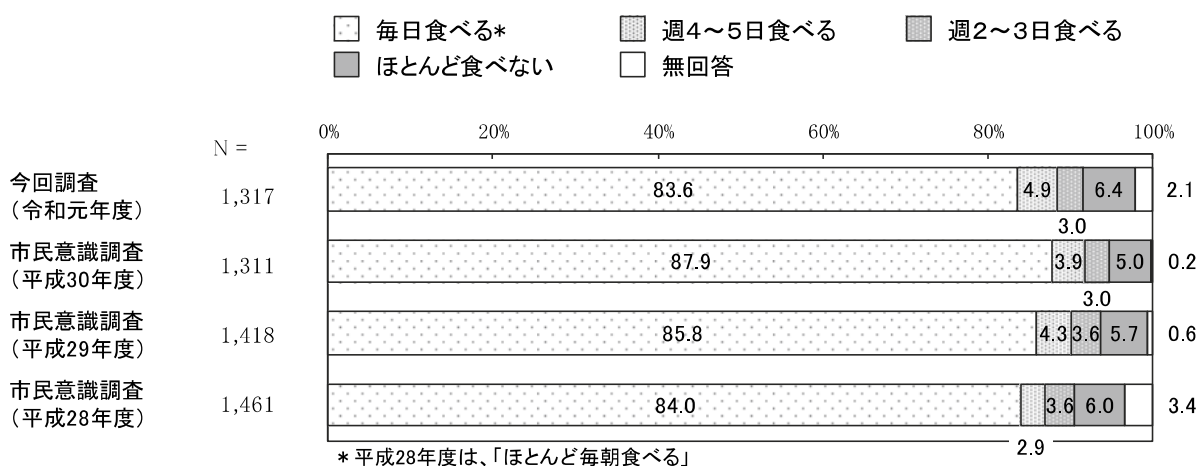
単位:%

区 分	有効回答数 (件)	ら ど の よ う の か わ り 組 ん だ	味、自 分 の 健 康 づ く り に 興 関 心 が な い	待 取 り 組 ん だ も 効 果 が 期 待 で き な い	そ の 他	無 回 答
平田地区	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
市辺地区	5	80.0	40.0	20.0	20.0	0.0
玉緒地区	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0
御園地区	4	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
建部地区	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
中野地区	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
八日市地区	11	45.5	36.4	27.3	18.2	0.0
南部地区	8	62.5	12.5	12.5	12.5	0.0
永源寺地区	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
五個荘地区	12	25.0	41.7	8.3	25.0	8.3
愛東地区	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3
湖東地区	7	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0
能登川地区	22	31.8	27.3	0.0	45.5	0.0
蒲生地区	11	18.2	54.5	27.3	18.2	0.0
わからない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

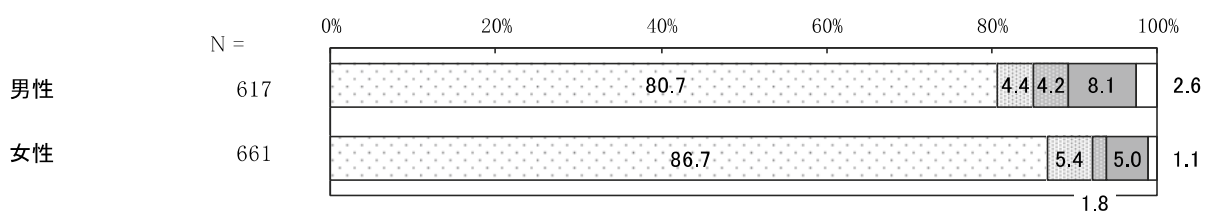
問 16 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

8割が朝食は「毎日食べる」

- ・ 朝食を食べているかについては、「毎日食べる」と回答した人が83.6%と、8割以上となっています。次いで、「ほとんど食べない」が6.4%、「週4～5日食べる」が4.9%、「週2～3日食べる」が3.0%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、朝食を毎日食べる人は増加傾向を示していましたが、今回の調査で減少しています。
- ・ 性別では女性が、年代別では60歳以上で、居住地区別では中野地区、建部地区、湖東地区、玉緒地区、市辺地区、蒲生地区、能登川地区、永源寺地区で、9割前後の人が朝食を毎日食べています（70歳以上、中野地区、建部地区は9割以上）。

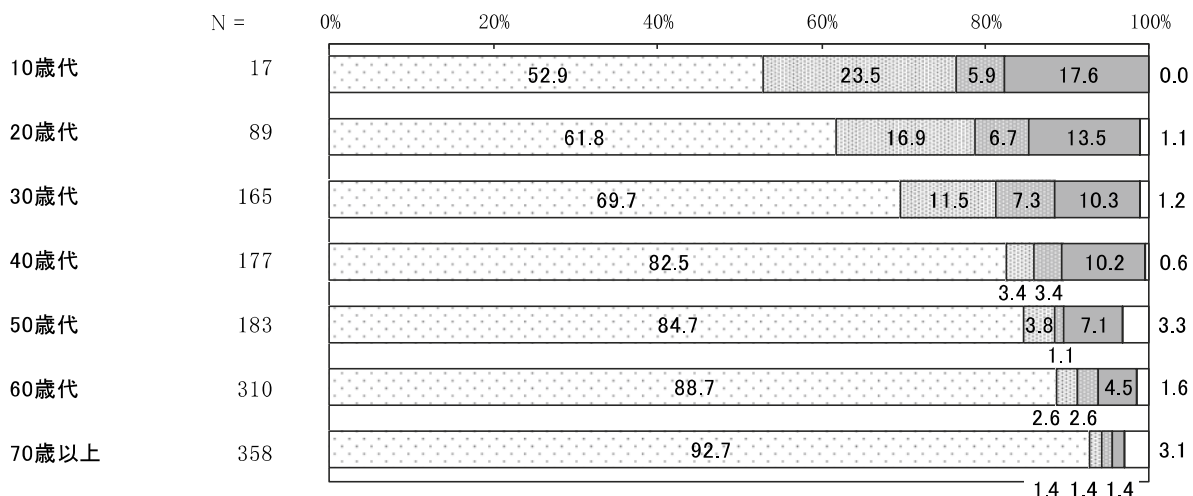


【性別】

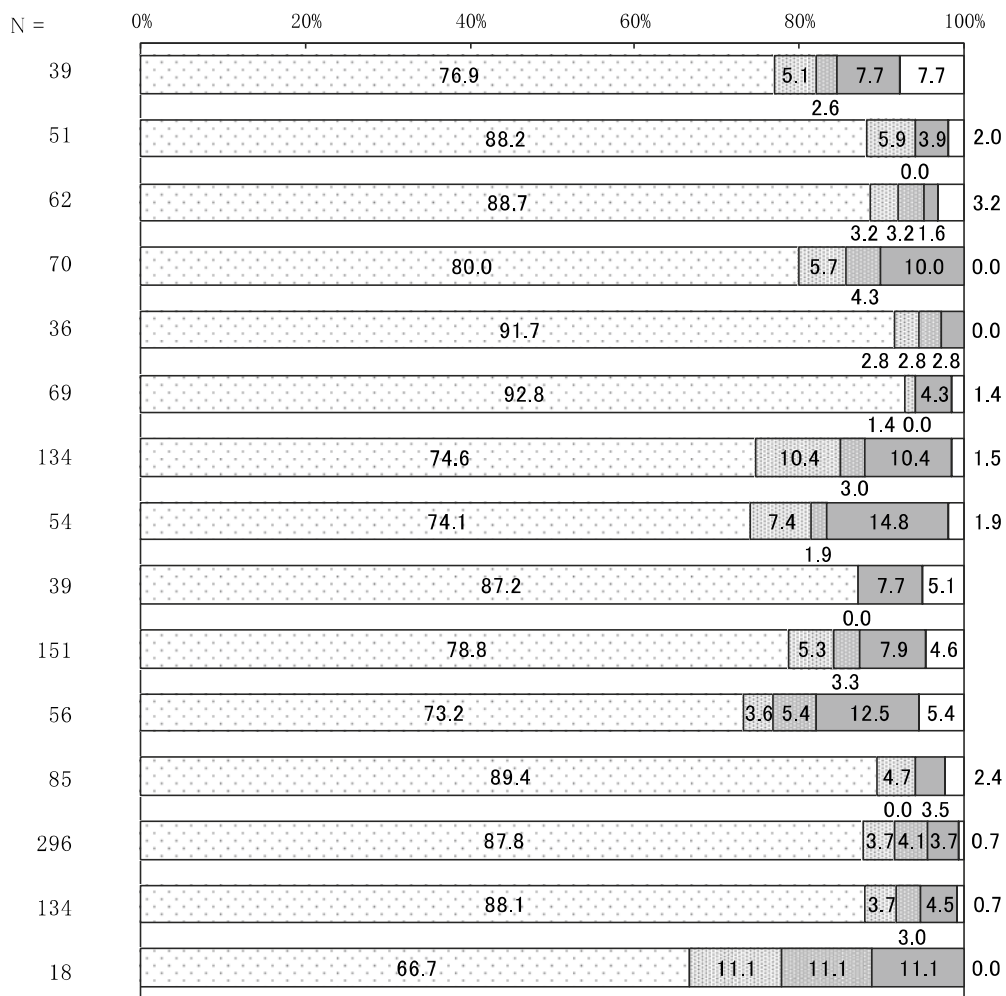


【年代別】

毎日食べる
 週4~5日食べる
 週2~3日食べる
 ほとんど食べない
 無回答



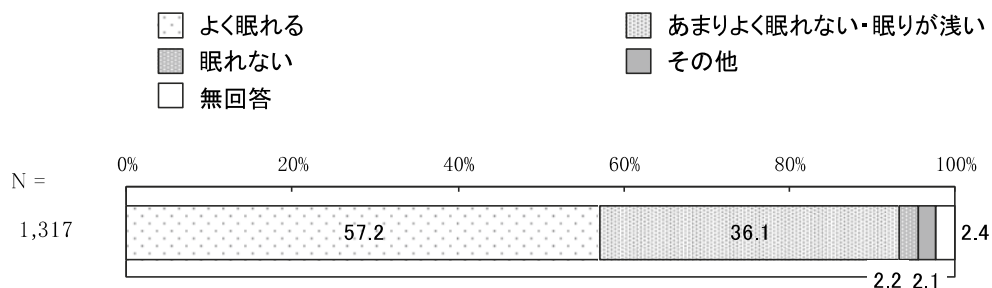
【居住地区別】



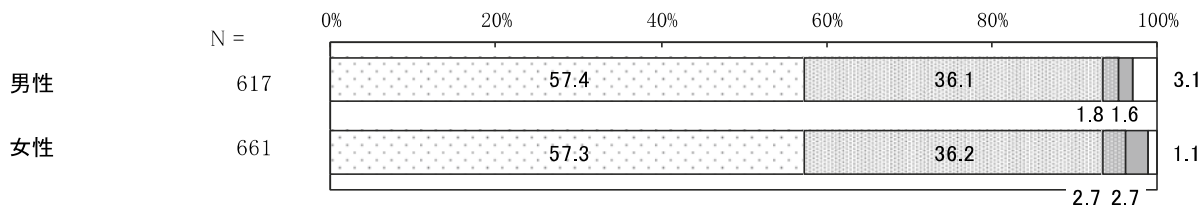
問 17 あなたはよく眠れますか。《○1つ》

6割近くが「よく眠れる」、一方「あまりよく眠れない・眠りが浅い」が4割近く

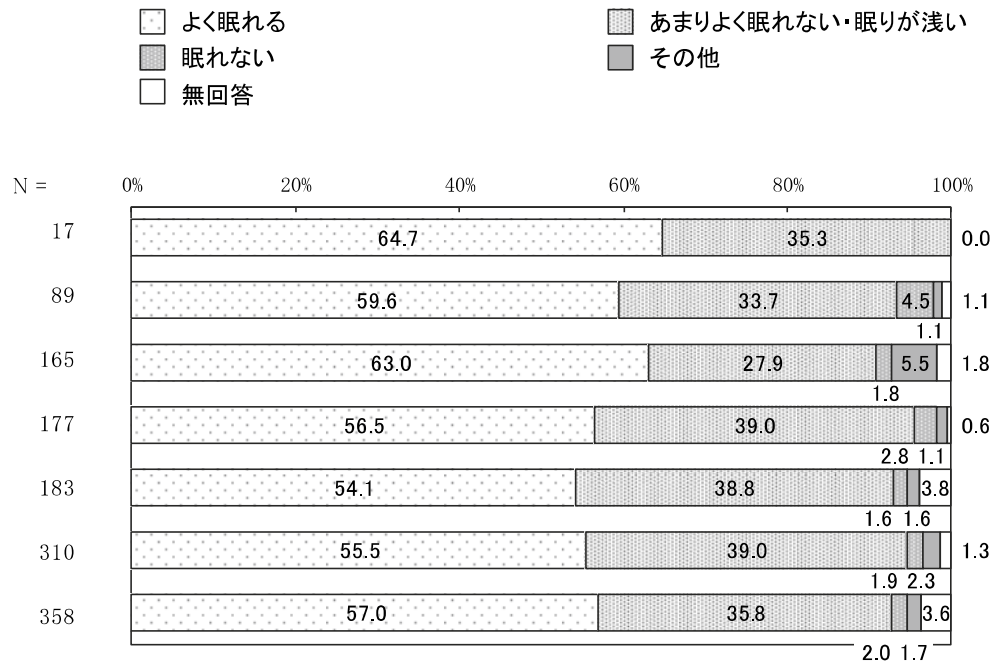
- ・ よく眠れるかについては、「よく眠れる」と回答した人が57.2%と、6割近くになっています。一方、「あまりよく眠れない・眠りが浅い」は36.1%と4割近くとなっています。「眠れない」は2.2%とわずかです。
- ・ 年代別では、10歳代と30歳代で「よく眠れる」と回答した人が6割、40～60歳代で「あまりよく眠れない・眠りが浅い」と回答した人がほかの年代より多くみられます。「眠れない」と回答した人はどの年代でもわずかですが、20歳代でほかの年代よりやや多くみられます。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、永源寺地区、建部地区、能登川地区、愛東地区で「よく眠れる」と回答した人が6割、平田地区、中野地区、南部地区、御園地区で「あまりよく眠れない・眠りが浅い」がほかの地区より多くみられます。



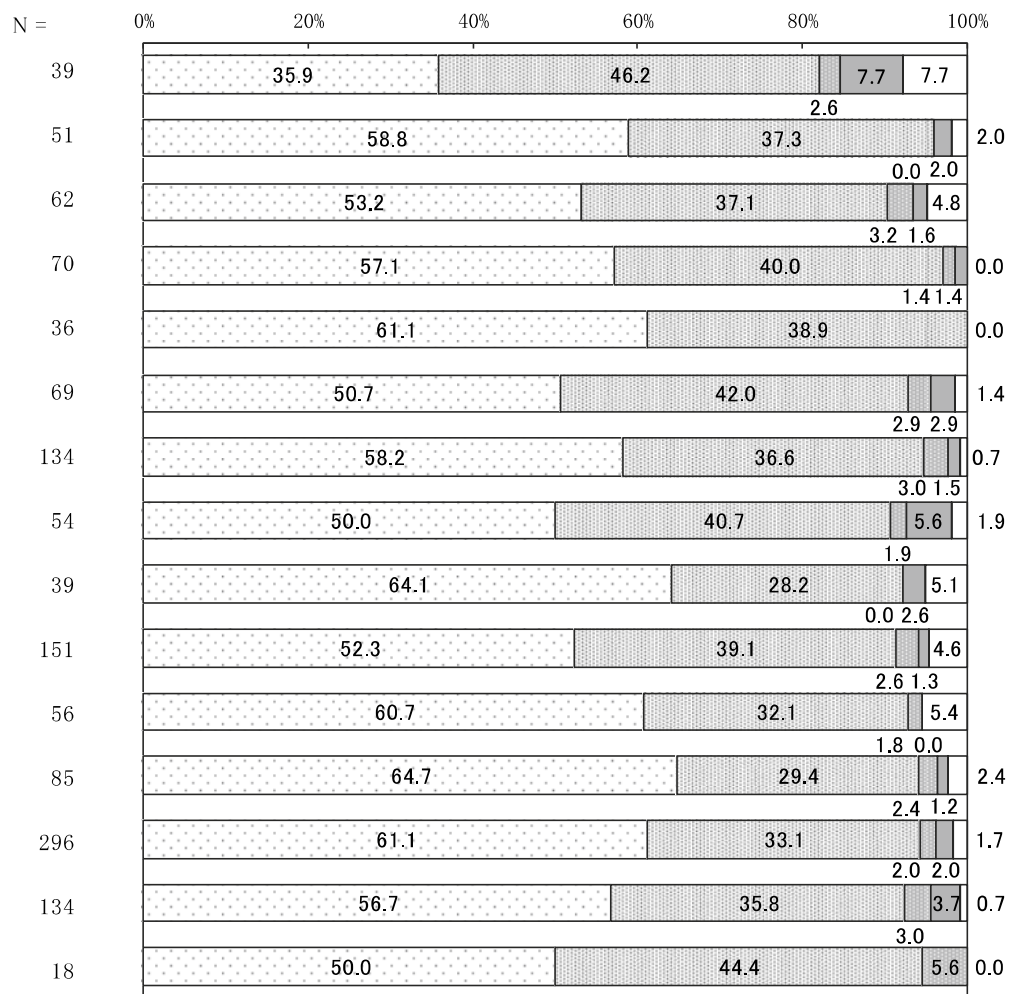
【性別】



【年代別】



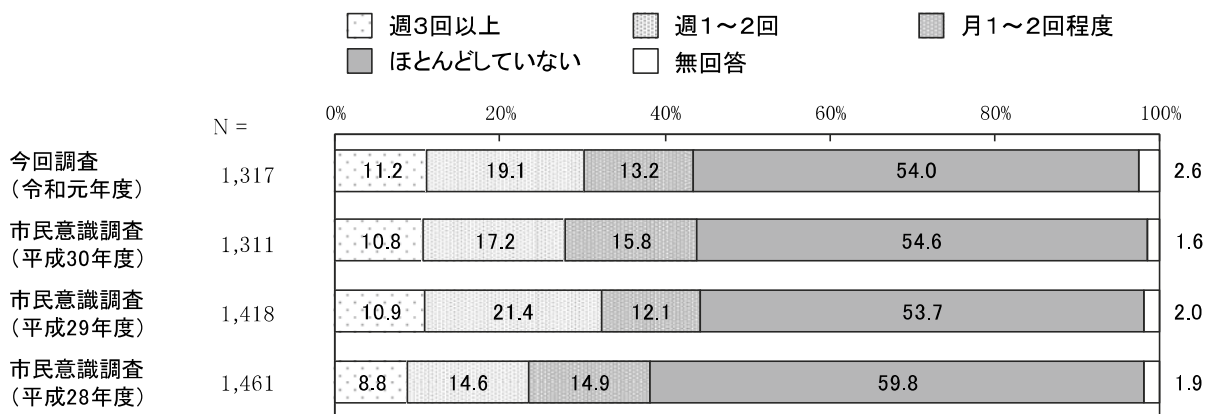
【居住地区別】



問 18 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか。《○1つ》

3割が週1回以上運動をしている、半数が「ほとんどしていない」

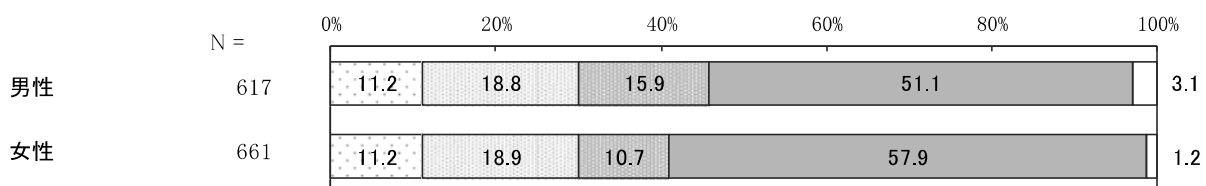
- ・ スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っているかについては、「ほとんどしていない」が54.0%と最も多く、半数を占めています。次いで、「週1～2回」が19.1%、「月1～2回程度」が13.2%、「週3回以上」が11.2%と続きます。週1回以上運動をしている人は30.3%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの「ほとんどしていない」と回答した人の割合は減少し、週1回以上運動をしている人の割合は増加しています。
- ・ 週1回以上運動をしている人の割合は、年代別では10歳代と60歳以上で、居住地区別では特に建部地区で高くなっています。
- ・ 一方、スポーツやレクリエーション等の運動をほとんどしていない人は、性別では女性が6割近く、年代別では30～50歳代、居住地区別では永源寺地区、玉緒地区、南部地区、中野地区で6割～7割近くみられます。



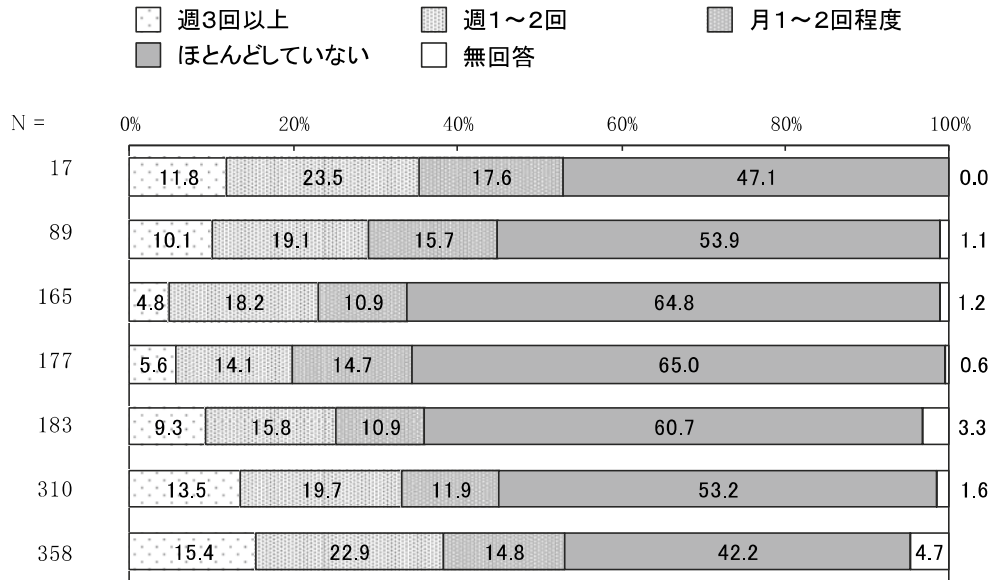
単位：%

	週1回以上運動をしている	ほとんどしていない
①今回調査(令和元年度)	30.3	54.0
②市民意識調査(平成30年度)	28.0	54.6
③市民意識調査(平成29年度)	32.3	53.7
④市民意識調査(平成28年度)	23.4	59.8
①-④	6.9	-5.8

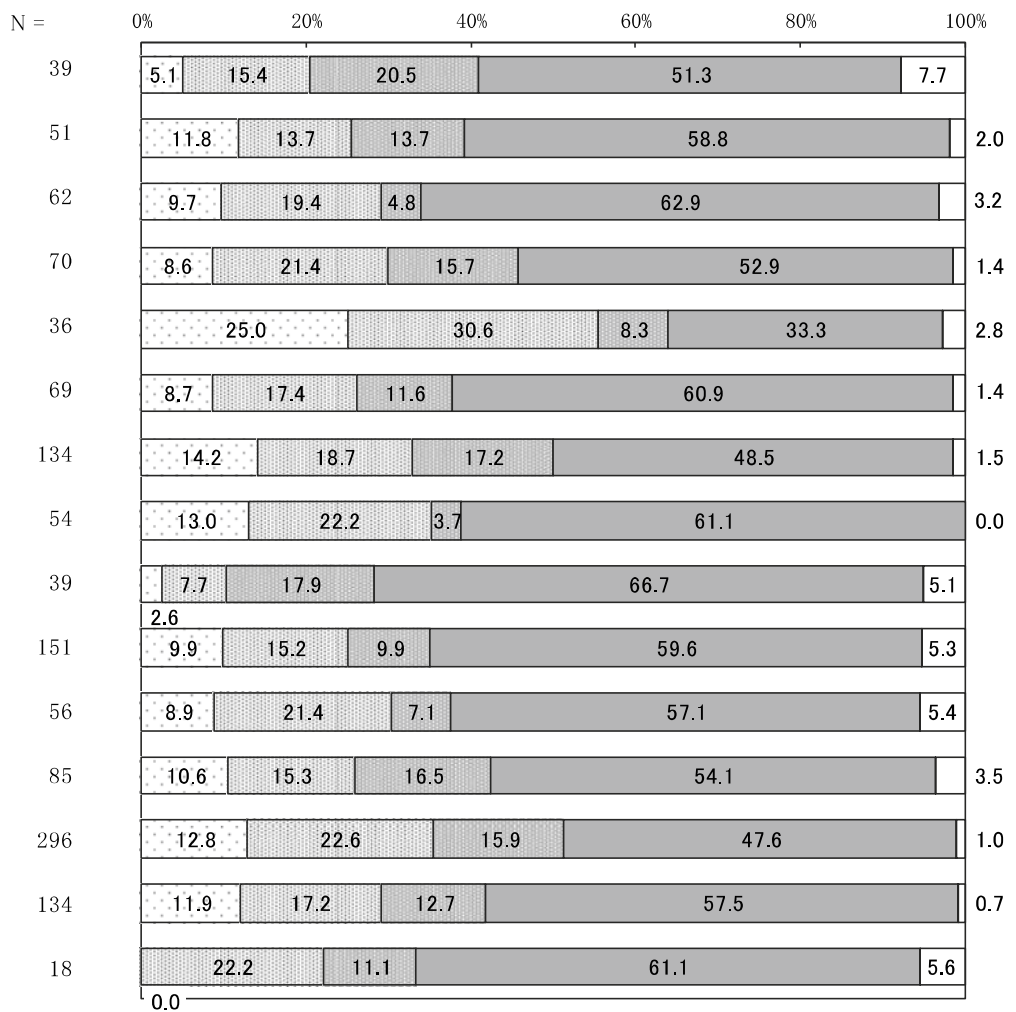
【性別】



【年代別】



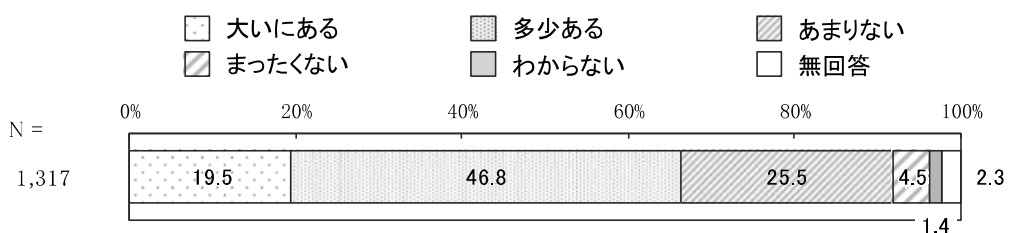
【居住地区別】



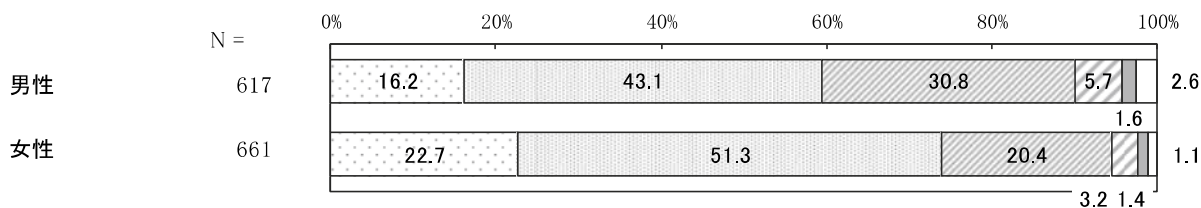
問 19 あなたはこの1か月間に、不安、悩み、ストレスを感じましたか。《○1つ》

7割近くが不安、悩み、ストレスを感じている

- ・ この1か月間に、不安、悩み、ストレスを感じたかどうかについては、「大いにある」が19.5%、「多少ある」が46.8%で、合わせて66.3%と7割近くの人が不安、悩み、ストレスを感じたと回答しています。一方、「あまりない」と「まったくない」を合わせると30.0%で、3割の人が感じていないと回答しています。
- ・ 性別では、女性は7割が不安、悩み、ストレスを感じている（「大いにある」と「多少ある」の合計）のに対し、男性は4割近くが感じていない（「あまりない」と「まったくない」の合計）と回答しています。
- ・ 年代別では、20歳代を除いて50歳代までで不安、悩み、ストレスを感じている人（前述）が7割を超えている（30～40歳代は8割近く）のに対し、60歳以上は4割近くが感じていない（前述）と回答しています。20歳代では感じていない人（前述）が3割近くと若い世代の中では多くみられます。
- ・ 居住地区別では、玉緒地区、中野地区、蒲生地区、市辺地区、御園地区、南部地区、五個荘地区で7割が不安、悩み、ストレスを感じている（前述）のに対し、特に建部地区、湖東地区で4割が感じていない（前述）と回答しています。

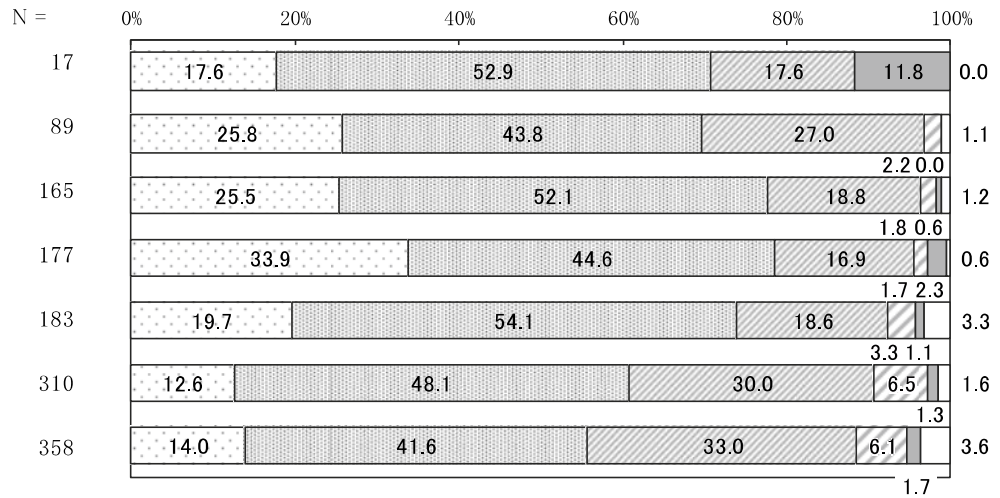


【性別】

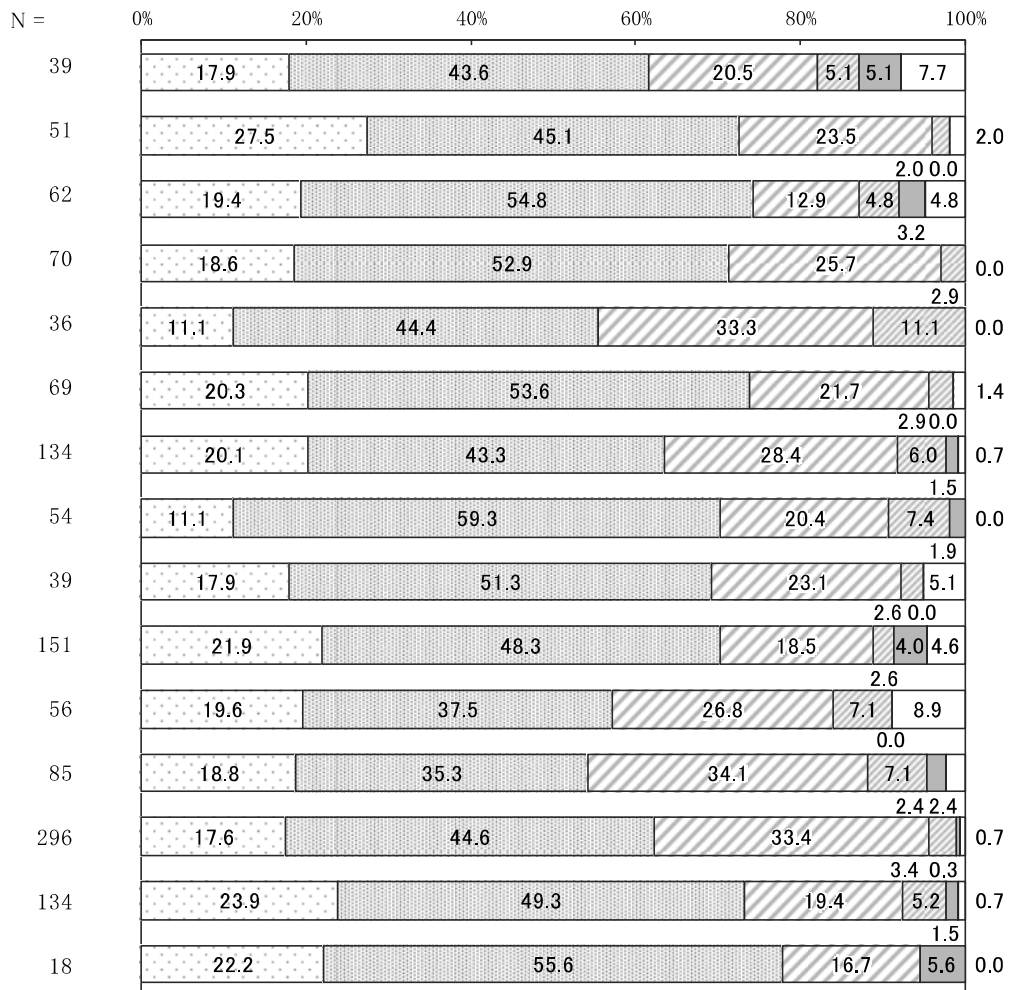


【年代別】

大いにある
 多少ある
 あまりない
 まったくない
 わからない
 無回答



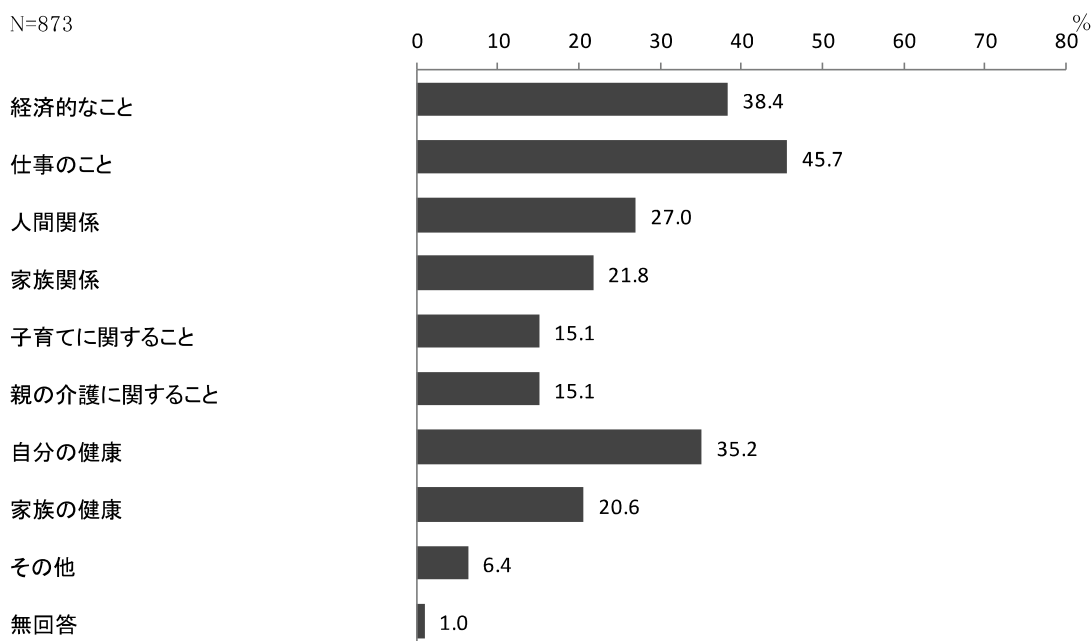
【居住地区別】



問 19-1 問 19 で「1. 大いにある」「2. 多少ある」とお答えの方におたずねします。
 あなたの不安、悩み、ストレスの原因は何ですか。《あてはまるものすべてに○》

半数近くが「仕事のこと」

- ・ 不安、悩み、ストレスの原因としては、「仕事のこと」が 45.7%と最も多く、半数近くとなっています。次いで「経済的なこと」が 38.4%、「自分の健康」が 35.2%、「人間関係」が 27.0%、「家族関係」が 21.8%、「家族の健康」が 20.6%と続きます。
- ・ 性別では、男性は「仕事のこと」が、女性は「経済的なこと」と「仕事のこと」の両方が最も多くなっています。また、女性は男性より「子育てに関すること」も多くあげられています。
- ・ 年代別では、50 歳代までは「仕事のこと」が、60 歳代は「経済的なこと」が、70 歳以上は「自分の健康」が最も多くあげられています。10 歳代は「人間関係」も同様に最も多くあげられています。そのほか、30～40 歳代で「子育てに関すること」が、50 歳代で「親の介護に関すること」がほかの年代より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、建部地区は「経済的なこと」が、愛東地区、平田地区、御園地区、永源寺地区、湖東地区、建部地区は「自分の健康」が、そのほかの地区は「仕事のこと」が最も多くあげられています。



【性別】

単位: %

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
男性	366	37.7	54.4	27.3	17.8	9.8	13.1	34.2	18.6	5.7	1.1
女性	489	38.9	38.9	26.6	24.9	19.6	16.6	35.4	22.3	7.2	1.0

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
10歳代	12	8.3	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	8.3	0.0	25.0	0.0
20歳代	62	43.5	67.7	37.1	16.1	12.9	4.8	16.1	4.8	8.1	0.0
30歳代	128	46.1	64.1	22.7	28.1	44.5	3.9	21.1	10.2	3.9	0.0
40歳代	139	44.6	69.1	30.9	20.9	32.4	15.1	25.2	14.4	5.8	0.0
50歳代	135	33.3	63.7	28.9	25.9	11.1	40.0	37.8	20.7	5.2	0.0
60歳代	188	42.6	29.3	23.4	20.7	1.1	22.3	40.4	25.5	6.9	2.1
70歳以上	199	29.1	13.6	25.6	18.1	2.5	3.5	52.3	34.2	7.5	2.5

【居住地区別】

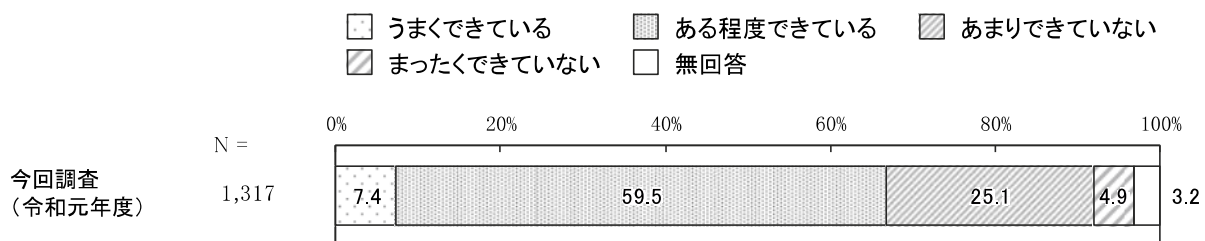
単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
平田地区	24	33.3	33.3	25.0	12.5	12.5	20.8	50.0	16.7	12.5	0.0
市辺地区	37	48.6	43.2	24.3	29.7	10.8	13.5	21.6	29.7	5.4	0.0
玉緒地区	46	45.7	50.0	21.7	10.9	17.4	17.4	47.8	17.4	4.3	0.0
御園地区	50	44.0	34.0	16.0	8.0	18.0	12.0	46.0	30.0	6.0	0.0
建部地区	20	35.0	25.0	20.0	15.0	15.0	10.0	35.0	30.0	10.0	5.0
中野地区	51	35.3	49.0	35.3	9.8	23.5	15.7	33.3	17.6	9.8	0.0
八日市地区	85	38.8	65.9	41.2	17.6	11.8	11.8	30.6	15.3	1.2	2.4
南部地区	38	36.8	52.6	28.9	15.8	5.3	21.1	36.8	10.5	5.3	0.0
永源寺地区	27	22.2	40.7	22.2	18.5	3.7	22.2	44.4	22.2	3.7	3.7
五個荘地区	106	34.9	43.4	33.0	31.1	18.9	13.2	26.4	14.2	5.7	2.8
愛東地区	32	37.5	46.9	31.3	40.6	12.5	15.6	53.1	18.8	3.1	0.0
湖東地区	46	34.8	34.8	30.4	26.1	6.5	15.2	39.1	32.6	6.5	0.0
能登川地区	184	40.8	42.4	20.1	21.2	16.8	16.3	33.2	24.5	8.7	0.0
蒲生地区	98	36.7	48.0	29.6	26.5	19.4	16.3	31.6	20.4	8.2	2.0
わからない	14	35.7	50.0	7.1	35.7	14.3	0.0	35.7	21.4	0.0	0.0

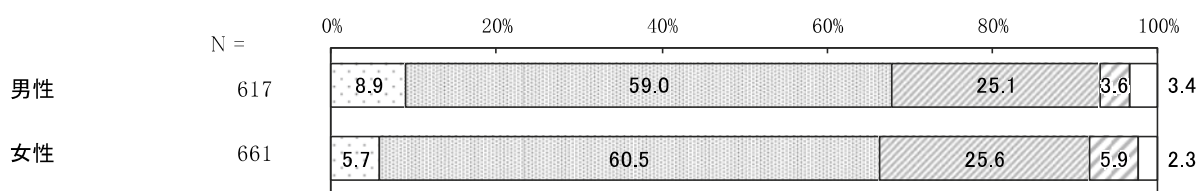
問 20 あなたの不安や悩み、ストレスは解消できていますか。《○1つ》

7割近くが、不安や悩み、ストレスの解消はできている

- 不安や悩み、ストレスが解消できているかどうかについては、「うまくできている」が7.4%、「ある程度できている」が59.5%で、これらを合わせると66.9%となり、7割近くの人が解消できていると回答しています。一方、「あまりできていない」と「まったくできていない」を合わせると30.0%で、3割の人ができていないと回答しています。
- 性別では、女性より男性が「うまくできている」と回答した人の割合が高くなっています。
- 年代別では、10～20歳代と60歳代で7割以上の方が不安や悩み、ストレスの解消ができている（「うまくできている」と「ある程度できている」の合計）と回答しているのに対し、40歳代は4割近くができていない（「あまりできていない」と「まったくできていない」の合計）と回答しています。
- 居住地区別では、永源寺地区、八日市地区、能登川地区、玉緒地区で7割以上の方が不安や悩み、ストレスの解消ができている（前述）と回答しているのに対し、特に五個荘地区と市辺地区で4割前後の人ができていない（前述）と回答しています。

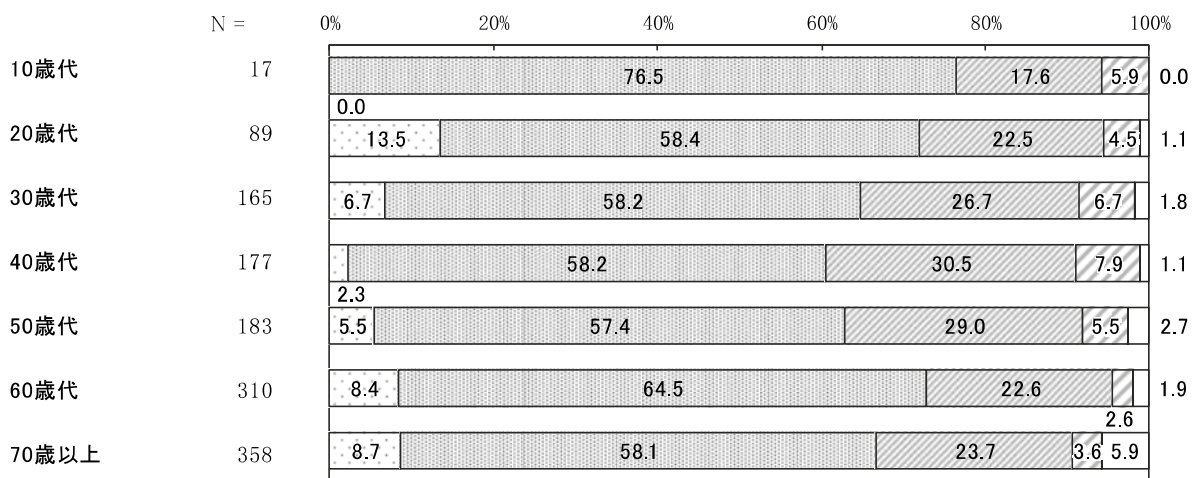


【性別】

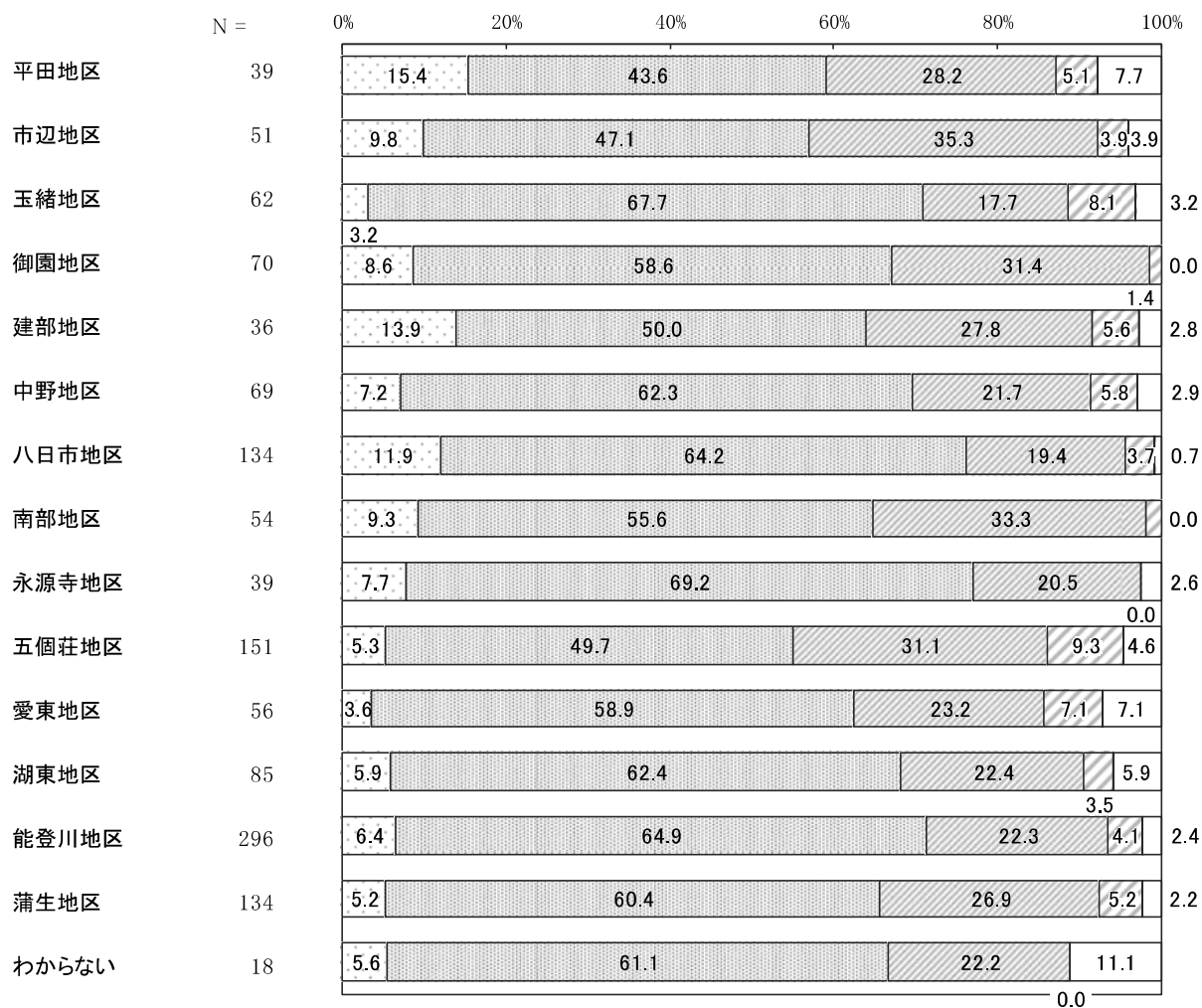


【年代別】

うまくできている
 ある程度できている
 あまりできていない
 まったくできていない
 無回答



【居住地区別】

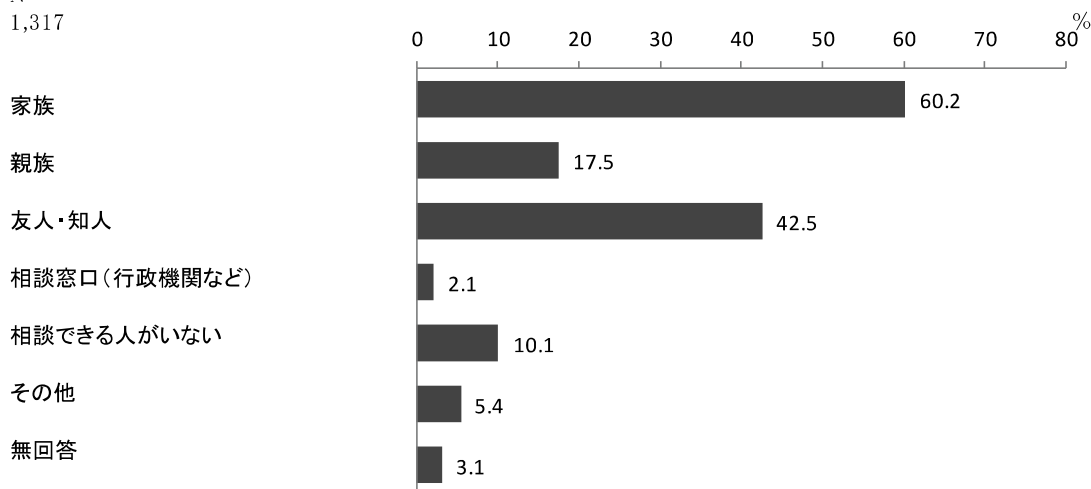


問 21 あなたは不安や悩み、ストレス等について相談したいとき、誰に相談しますか。《あてはまるものすべてに○》

6割が不安や悩み、ストレス等の相談相手は「家族」

- ・ 不安や悩み、ストレス等の相談相手としては、「家族」と回答した人が 60.2%と最も多く、次いで「友人・知人」が 42.5%、「親族」が 17.5%と続き、身近な人をあげる人が多くなっています。一方、「相談できる人がいない」は 10.1%となっています。
- ・ 性別では、男女ともに「家族」が最も多くあげられています。男性より女性で「友人・知人」や「親族」が多くあげられています。一方、女性より男性で「相談できる人がいない」と回答した人が多くみられます。
- ・ 年代別では、20歳代で「友人・知人」が、そのほかの年代で「家族」が最も多くあげられています。そのほか、10歳代と30歳代でも「友人・知人」が、30歳代で「親族」がほかの年代より多くみられます。一方、20歳代と50歳代で「相談できる人がいない」と回答した人が多くみられます。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で「家族」が最も多くあげられています。玉緒地区では「友人・知人」も同様に最も多くなっています。また特に、中野地区で「親族」が、御園地区で「友人・知人」が、八日市地区、玉緒地区、愛東地区で「相談できる人がいない」と回答した人がほかの地区より多くみられます。

N=
1,317



【性別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	家族	親族	友人・知人	相談窓口 (行政機関な ど)	相談できる人が いない	その他	無回答
男性	617	58.5	12.5	32.4	2.1	13.5	6.2	3.7
女性	661	62.9	22.5	52.6	2.1	7.3	4.7	1.5

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	家族	親族	友人・知人	相談窓口 (行政機関な ど)	相談できる人が いない	その他	無回答
10歳代	17	76.5	11.8	70.6	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	89	56.2	9.0	71.9	2.2	13.5	3.4	1.1
30歳代	165	62.4	24.2	59.4	2.4	8.5	6.1	1.2
40歳代	177	65.5	19.2	46.9	2.3	10.7	6.8	0.6
50歳代	183	59.0	14.2	47.5	0.5	13.1	4.4	3.3
60歳代	310	58.4	14.8	36.8	1.3	10.3	6.5	2.3
70歳以上	358	59.8	19.6	27.1	3.6	8.4	4.7	5.9

【居住地区別】

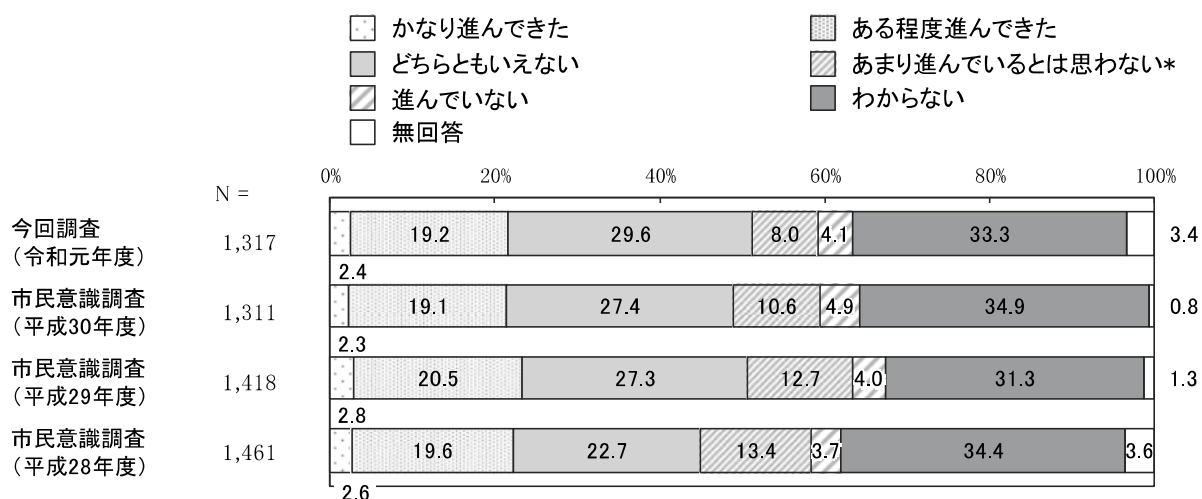
単位:%

区分	有効回答数 (件)	家族	親族	友人・知人	相談窓口 (行政機関な ど)	相談できる人が いない	その他	無回答
平田地区	39	56.4	10.3	41.0	2.6	7.7	2.6	7.7
市辺地区	51	74.5	19.6	39.2	5.9	9.8	3.9	2.0
玉緒地区	62	43.5	22.6	43.5	3.2	16.1	6.5	3.2
御園地区	70	65.7	27.1	52.9	1.4	4.3	10.0	0.0
建部地区	36	69.4	22.2	25.0	0.0	11.1	5.6	0.0
中野地区	69	71.0	31.9	47.8	0.0	5.8	4.3	2.9
八日市地区	134	52.2	16.4	47.0	4.5	17.2	6.7	1.5
南部地区	54	63.0	9.3	38.9	0.0	11.1	7.4	0.0
永源寺地区	39	64.1	10.3	38.5	0.0	2.6	2.6	2.6
五個荘地区	151	55.6	11.9	41.1	1.3	13.2	4.6	5.3
愛東地区	56	51.8	16.1	42.9	3.6	16.1	1.8	5.4
湖東地区	85	58.8	21.2	29.4	1.2	9.4	2.4	4.7
能登川地区	296	64.2	17.2	47.3	2.7	6.4	6.4	2.4
蒲生地区	134	62.7	15.7	39.6	0.0	10.4	4.5	3.0
わからない	18	44.4	0.0	33.3	5.6	16.7	11.1	5.6

問 22 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

理解が進んでいないと思う人が減少

- ・ 東近江市民の障害者に対する理解が進んできたと思うかについては、「かなり進んできた」が2.4%、「ある程度進んできた」が19.2%で、これらを合わせると21.6%となり、2割の人が「ある程度進んできた」と回答しています。一方、「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいない」を合わせると12.1%となっています。なお、「わからない」と回答した人が33.3%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、理解が進んでいないと思う人（「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいない」の合計）が減少しています。
- ・ 年代別では70歳以上で、居住地区別では建部地区、平田地区、永源寺地区、御園地区で、障害者に対する理解が進んできたと思う人（「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計）が多くみられます。
- ・ 一方、30～40歳代で、障害者に対する理解が進んできたと思う人（前述）より進んでいないと思う人（前述）が多くみられます。



*平成28年度は「あまり進んできているとは思えない」

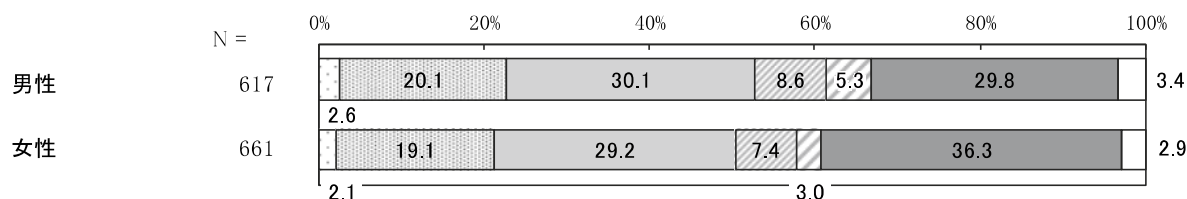
単位：%

	進んでいる	進んでいない	差
①今回調査(令和元年度)	21.6	12.1	9.5
②市民意識調査(平成30年度)	21.4	15.5	5.9
③市民意識調査(平成29年度)	23.3	16.7	6.6
④市民意識調査(平成28年度)	22.2	17.1	5.1
①-④	-0.6	-5.0	4.4

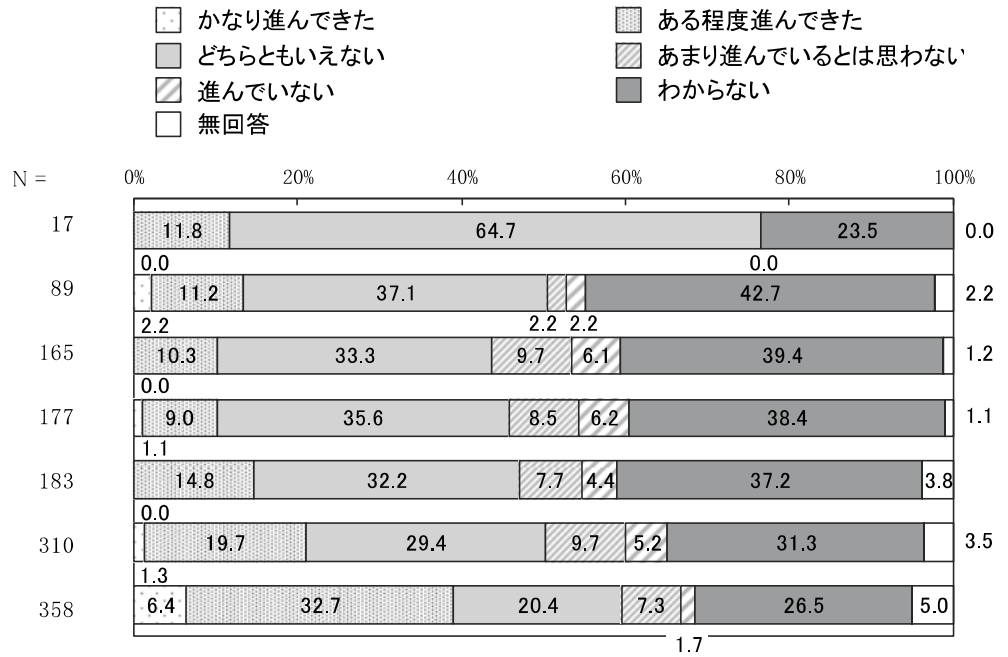
* 進んでいる:「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計

* 進んでいない:「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいない」の合計

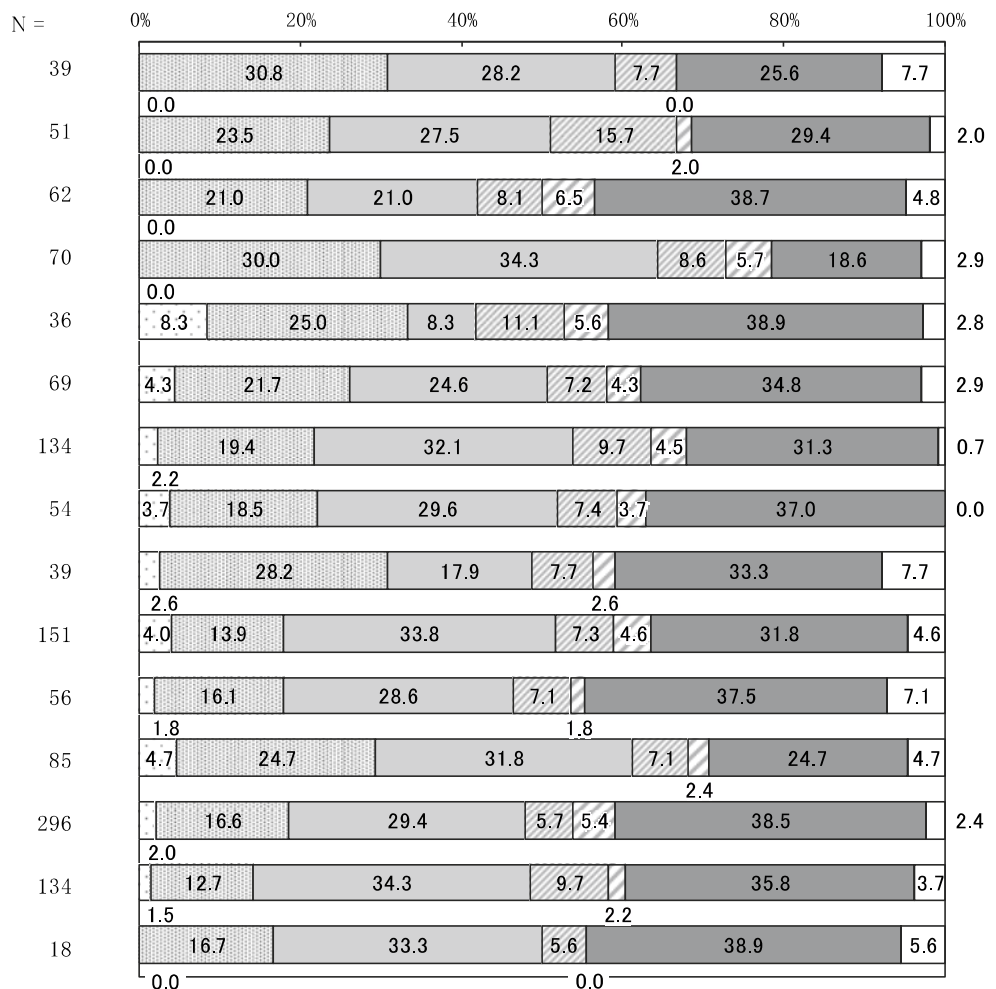
【性別】



【年代別】



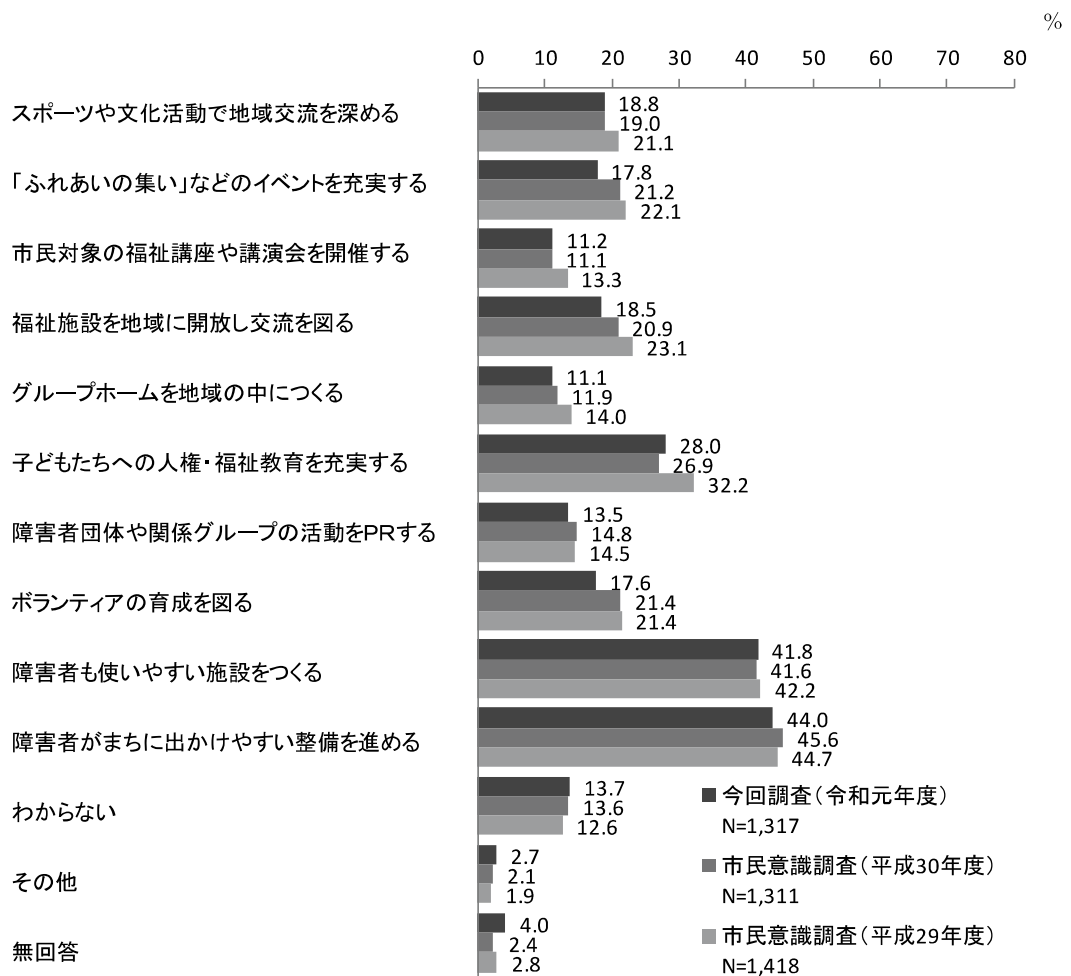
【居住地区別】



問 23 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備

- ・ 障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきかについては、「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が44.0%と最も多く、次いで「障害者も使いやすい施設をつくる」が41.8%と、バリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくりや施設整備をあげる人が多くなっています。
- ・ そのほか、「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」が28.0%、「スポーツや文化活動で地域交流を深める」が18.8%、「福祉施設を地域に開放し交流を図る」が18.5%、「ふれあいの集い」などのイベントを充実する」が17.8%、「ボランティアの育成を図る」が17.6%など、交流や支え合い等を通じたノーマライゼーションの実現をあげる人も多くみられます。
- ・ 性別では、男女ともに「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、10～20歳代の若い世代では「障害者も使いやすい施設をつくる」が、30歳～60歳代では「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が、70歳以上では「ボランティアの育成を図る」が最も多くあげられています。また、特に30歳代で「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」がほかの年代より多くあげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	スポーツや文化交流で	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
男性	617	21.7	19.4	12.5	19.3	10.4	28.2	13.5	18.0	44.1	45.9	12.3	3.7	3.6	
女性	661	16.0	16.5	10.1	17.7	12.0	28.7	13.9	17.7	40.8	43.9	14.8	1.7	3.3	

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	スポーツや文化交流で	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
10歳代	17	29.4	5.9	0.0	17.6	11.8	29.4	5.9	11.8	41.2	23.5	23.5	0.0	0.0	
20歳代	89	16.9	19.1	7.9	10.1	2.2	30.3	7.9	14.6	56.2	44.9	15.7	2.2	1.1	
30歳代	165	20.6	13.3	13.3	17.0	5.5	40.6	11.5	20.0	43.0	43.6	13.9	3.6	1.8	
40歳代	177	16.4	12.4	9.0	14.7	8.5	32.2	13.0	11.9	44.1	53.1	15.8	4.5	1.1	
50歳代	183	16.4	16.9	14.8	16.9	12.0	31.1	17.5	20.2	38.3	45.9	12.6	3.3	3.8	
60歳代	310	18.4	18.1	13.5	21.0	11.3	28.4	17.7	19.7	44.5	49.0	11.0	1.3	3.2	
70歳以上	358	23.5	8.7	21.5	16.5	18.4	11.5	17.0	37.2	36.3	14.5	2.5	0.0	7.8	

【居住地区別】

単位:%

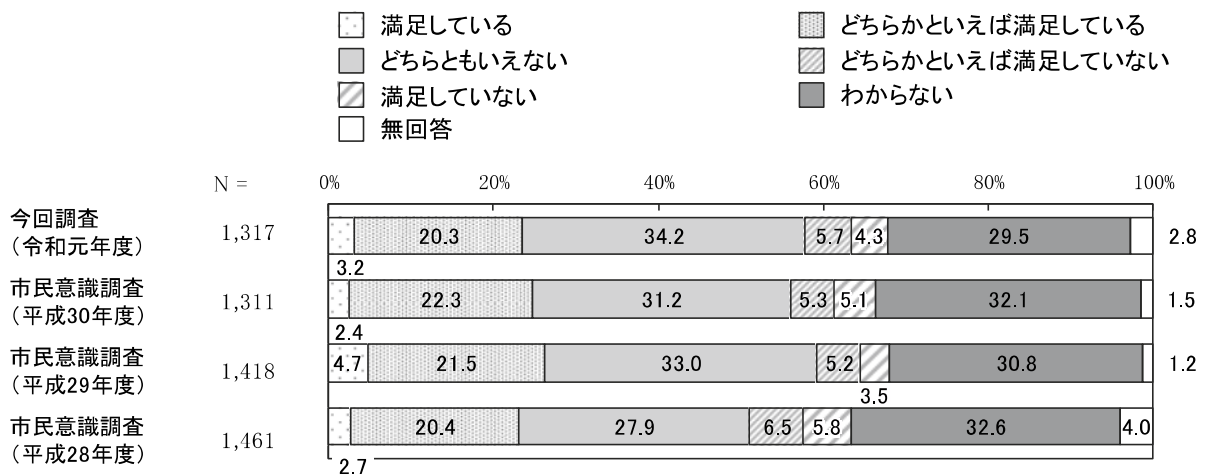
区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	スポーツや文化交流で	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
平田地区	39	7.7	12.8	7.7	17.9	23.1	23.1	7.7	12.8	38.5	30.8	15.4	7.7	7.7	
市辺地区	51	17.6	13.7	7.8	15.7	13.7	31.4	11.8	13.7	51.0	49.0	11.8	0.0	2.0	
玉緒地区	62	9.7	16.1	12.9	9.7	12.9	24.2	12.9	22.6	29.0	48.4	16.1	1.6	4.8	
御園地区	70	21.4	24.3	14.3	17.1	12.9	34.3	11.4	15.7	47.1	55.7	10.0	2.9	1.4	
建部地区	36	27.8	25.0	2.8	22.2	22.2	19.4	19.4	22.2	38.9	50.0	8.3	2.8	2.8	
中野地区	69	15.9	23.2	14.5	21.7	8.7	31.9	21.7	20.3	37.7	46.4	11.6	2.9	4.3	
八日市地区	134	21.6	20.1	13.4	19.4	10.4	31.3	14.2	20.9	49.3	48.5	11.9	3.0	0.7	
南部地区	54	25.9	16.7	13.0	22.2	11.1	29.6	7.4	20.4	44.4	42.6	13.0	3.7	0.0	
永源寺地区	39	12.8	10.3	5.1	15.4	7.7	25.6	15.4	5.1	35.9	35.9	12.8	2.6	10.3	
五個荘地区	151	19.9	19.2	6.6	21.9	7.3	29.8	10.6	17.9	45.0	43.0	11.9	2.0	6.0	
愛東地区	56	12.5	12.5	10.7	10.7	7.1	23.2	7.1	14.3	41.1	41.1	21.4	1.8	14.3	
湖東地区	85	17.6	20.0	12.9	10.6	14.1	24.7	10.6	11.8	44.7	40.0	11.8	2.4	7.1	
能登川地区	296	17.9	17.2	11.8	19.6	10.8	27.0	16.2	15.5	38.5	41.9	14.5	2.4	2.4	
蒲生地区	134	24.6	15.7	11.2	23.9	11.2	29.9	15.7	26.1	44.0	46.3	15.7	3.7	3.0	
わからない	18	11.1	16.7	11.1	0.0	16.7	11.1	5.6	44.4	50.0	27.8	0.0	0.0	0.0	

(4) 環境や暮らしについて

問 24 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

2割が満足、6割が「どちらともいえない」又は「わからない」

- ・ 東近江市の自然環境保全の取組についての満足度は、「どちらともいえない」が34.2%と最も多く、次いで「わからない」が29.5%、これらを合わせると63.7%となっています。
- ・ 「満足している」が3.2%、「どちらかといえば満足している」が20.3%、これらを合わせると23.5%となり、2割の人が満足しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると10.0%で、1割程度となっています。
- ・ 年代別では、満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合が、20歳代と70歳以上で高く、10歳代と50～60歳代で低くなっています。また、30歳以上で年齢が上がるほど「わからない」の割合が減少し、関心が高くなっていく傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、永源寺地区、平田地区で、自然環境保全の取組について満足（前述）している人の割合が高くなっています。一方、玉緒地区、建部地区で不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合が高く、玉緒地区では満足（前述）の割合より高くなっています。

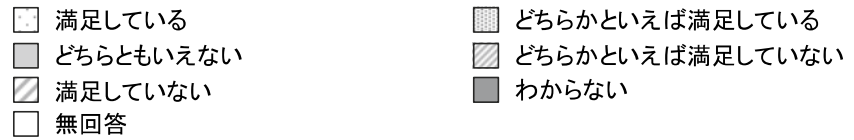


単位：%

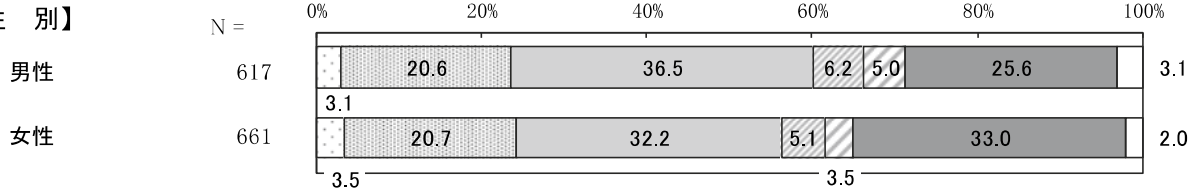
	満足	不満	差
①今回調査(令和元年度)	23.5	10.0	13.5
②市民意識調査(平成30年度)	24.7	10.4	14.3
③市民意識調査(平成29年度)	26.2	8.7	17.5
④市民意識調査(平成28年度)	23.1	12.3	10.8
①-④	0.4	-2.3	2.7

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

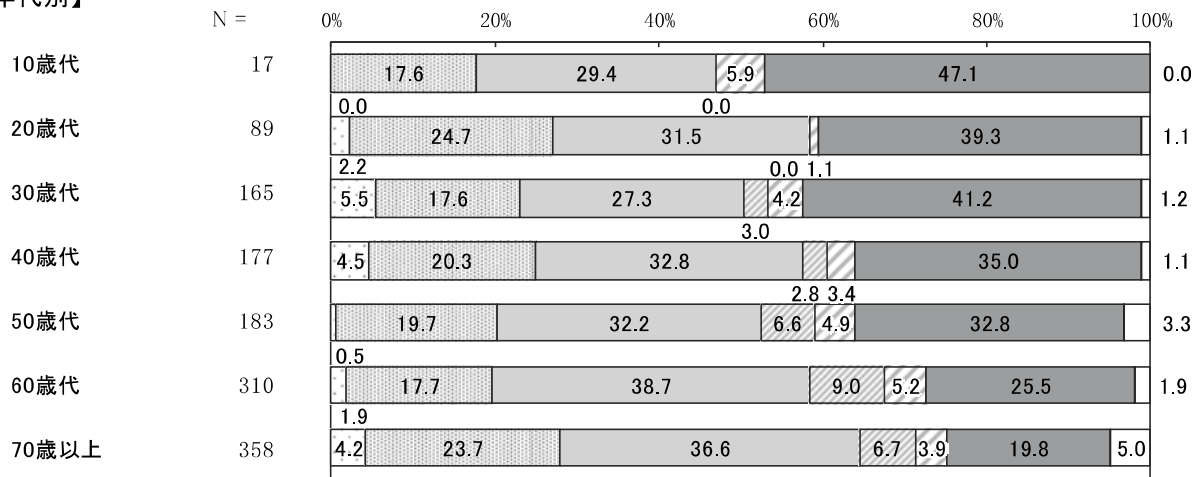
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



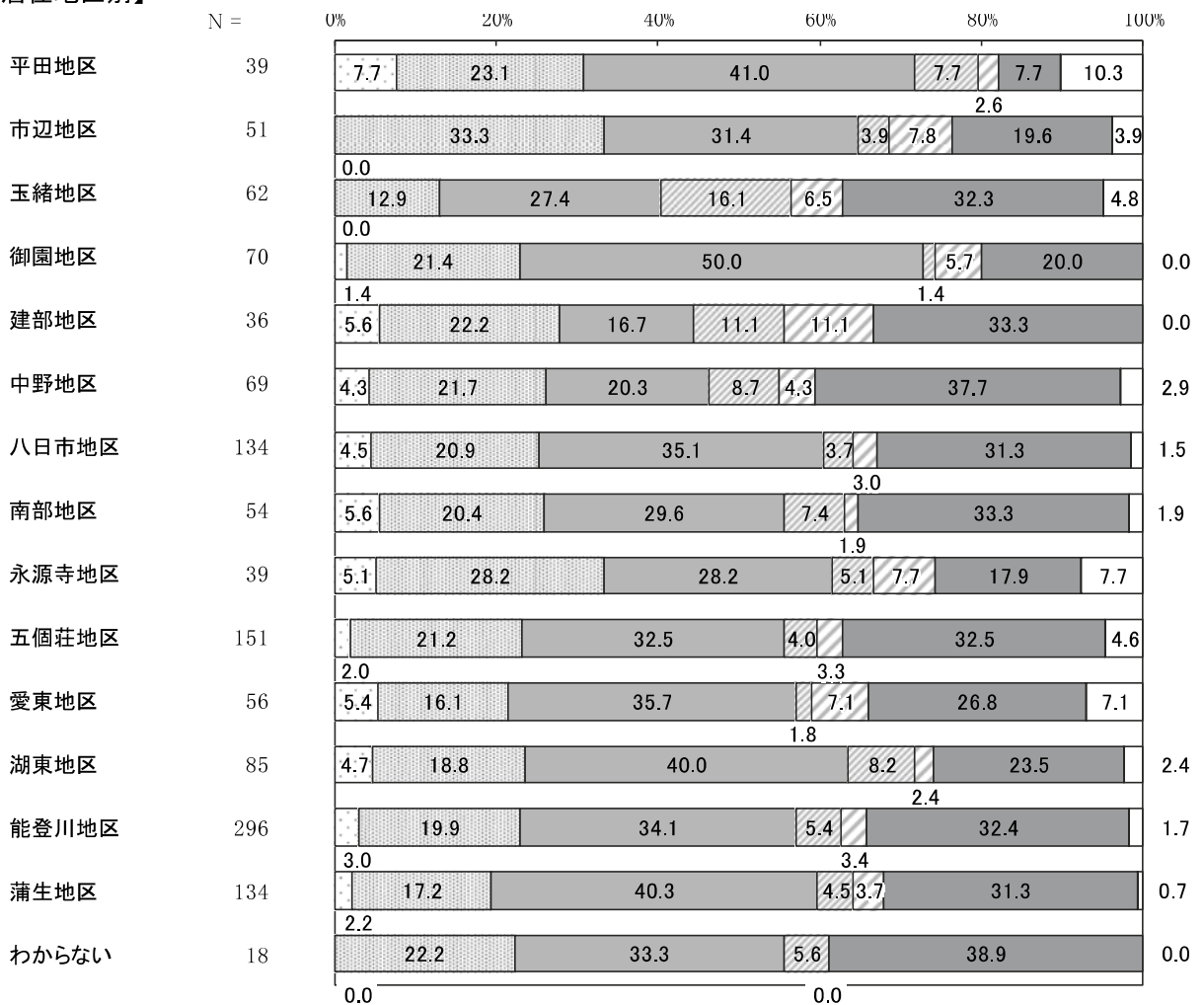
【性別】



【年代別】



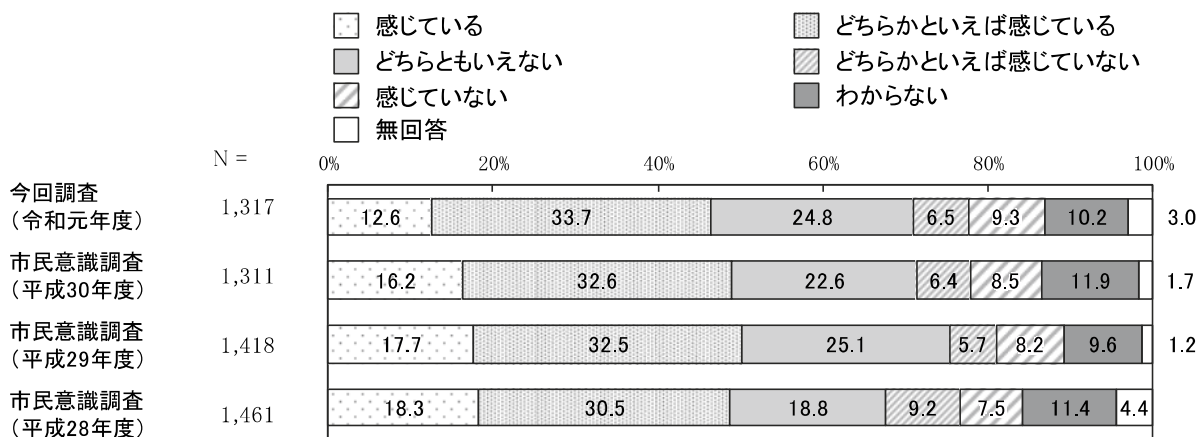
【居住地区別】



問 25 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然環境との関わりを感じていますか。《○1つ》

半数近くが自然環境との関わりを感じている

- ・ 日々の営みの中で自然環境との関わりを感じているかについては、「感じている」が 12.6%、「どちらかといえば感じている」が 33.7%で、これらを合わせると 46.3%となり、半数近くの人が自然環境との関わりを感じています。一方、「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」を合わせると 15.8%となっています。また、「どちらともいえない」が 24.8%、「わからない」が 10.2%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、自然環境との関わりを「感じている」人の割合は年々減少しています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では 10 歳代と 30 歳代で、居住地区別では市辺地区、愛東地区、永源寺地区、建部地区、湖東地区、平田地区で、自然環境との関わりを感じている人（「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計）が多くみられます。

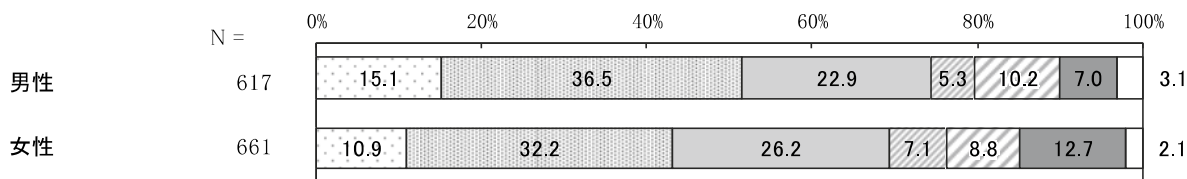


単位：％

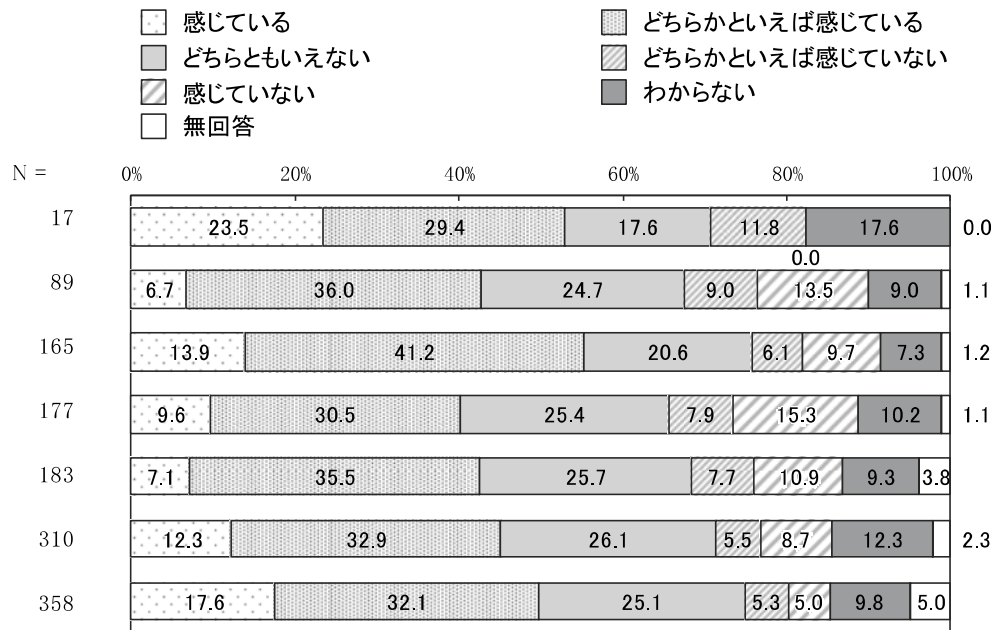
	感じている	感じていない	差
①今回調査(令和元年度)	46.3	15.8	30.5
②市民意識調査(平成30年度)	48.8	14.9	33.9
③市民意識調査(平成29年度)	50.2	13.9	36.3
④市民意識調査(平成28年度)	48.8	16.7	32.1
①－④	-2.5	-0.9	-1.6

* 感じている:「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計
 * 感じていない:「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計

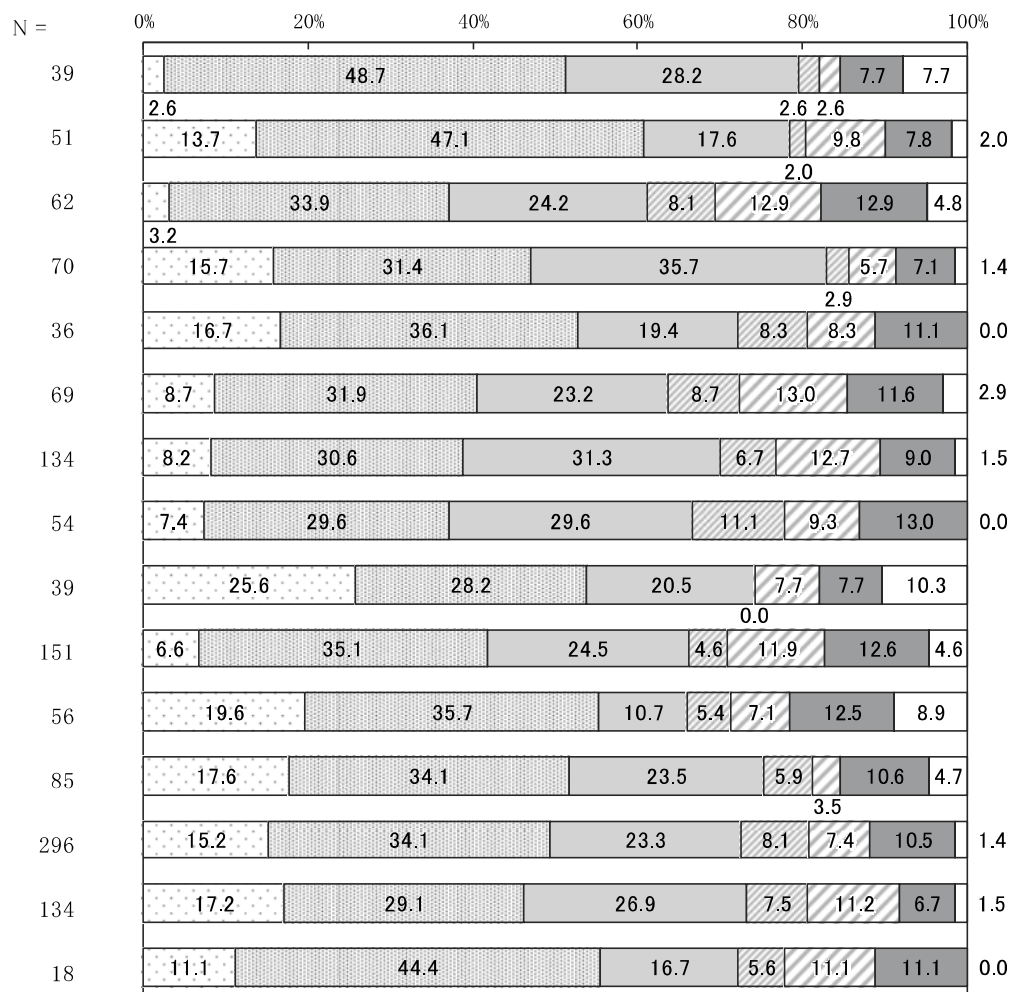
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

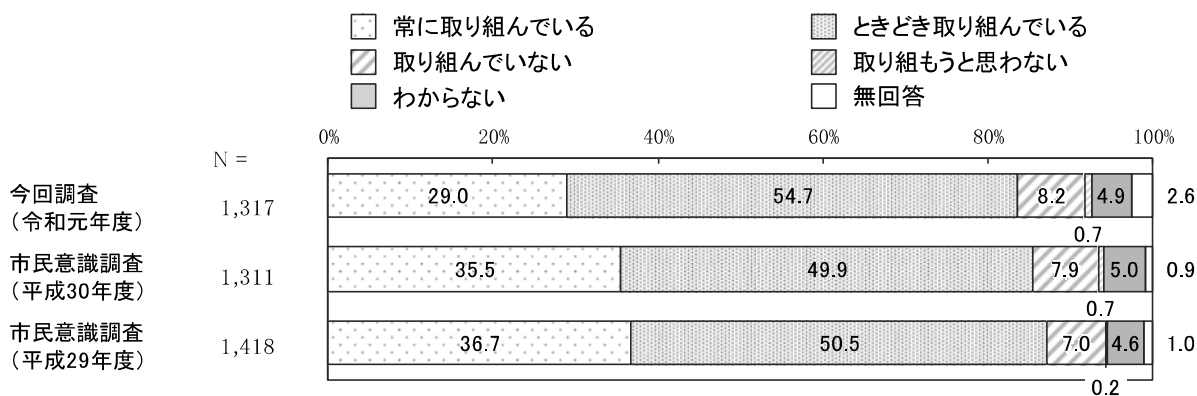


問 26 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

①あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか。(使用していない電気の消灯、マイバツクの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等)《○1つ》

8割が環境にやさしい取組を行っている

- ・ 環境にやさしい取組の実施状況については、「常に取り組んでいる」が29.0%、「ときどき取り組んでいる」が54.7%で、これらを合わせると83.7%となり、8割の人が取り組んでいると回答しています。一方、「取り組んでいない」は8.2%、「取り組もうと思わない」は0.7%とわずかでした。
- ・ 過去の調査と比較すると、環境にやさしい取組を「常に取り組んでいる」と回答した人の割合は年々減少しています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では50歳以上で年齢が上がるほど、居住地区別では建部地区、永源寺地区、御園地区、平田地区、能登川地区、愛東地区で、環境にやさしい取組を「常に取り組んでいる」人が多くみられます。

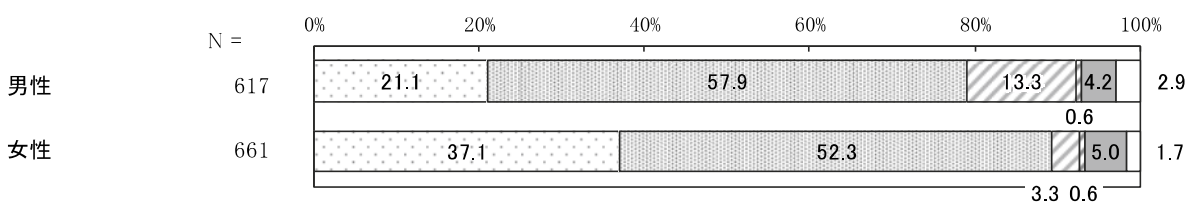


単位：%

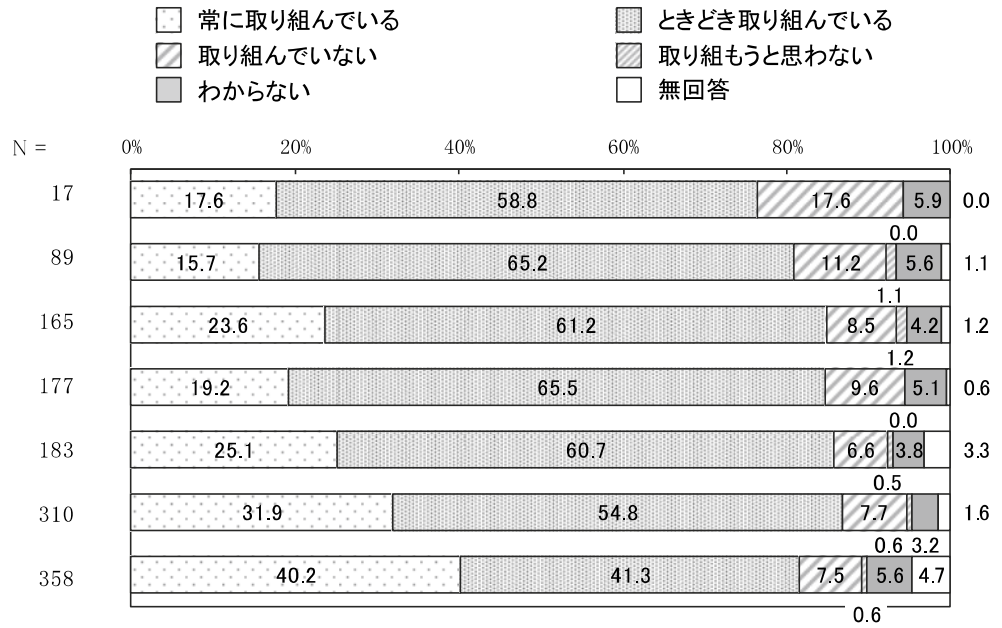
	取り組んでいる	取り組んでいない	差
①今回調査(令和元年度)	83.7	8.9	74.8
②市民意識調査(平成30年度)	85.4	8.6	76.8
③市民意識調査(平成29年度)	87.2	7.2	80.0
①-③	-3.5	1.7	-5.2

* 取り組んでいる:「常に取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」の合計
 * 取り組んでいない:「取り組んでいない」と「取り組むつもりもない」の合計

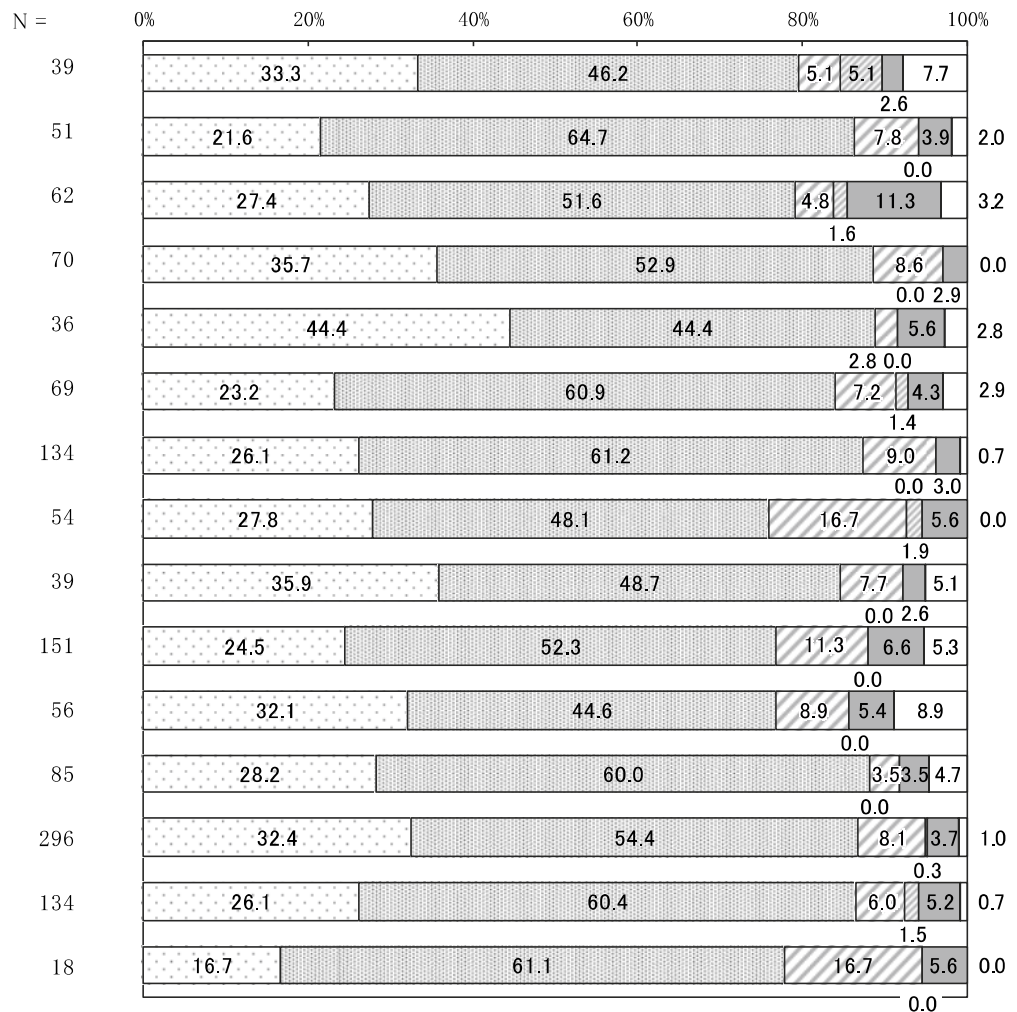
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



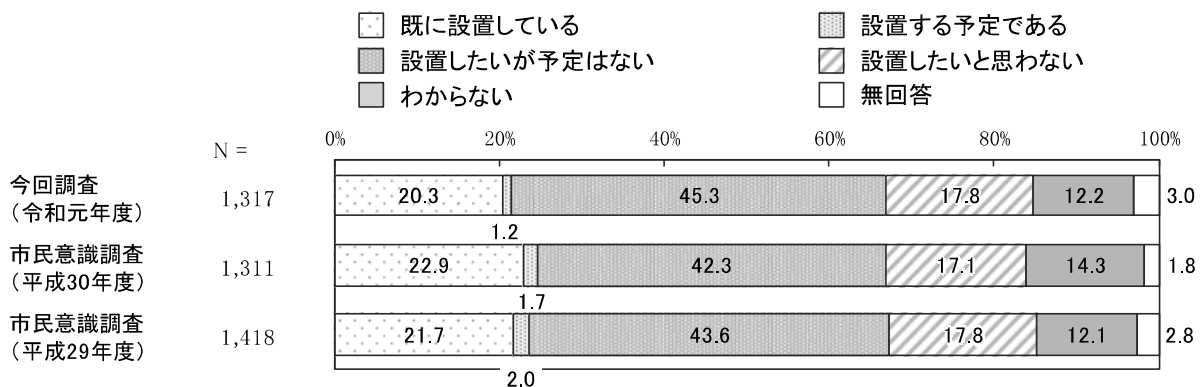
問 26 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

②あなたは、自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置していますか。(太陽光発電や雨水貯留施設、太陽熱温水器、エネファーム、蓄電システムの設置等)《○1つ》

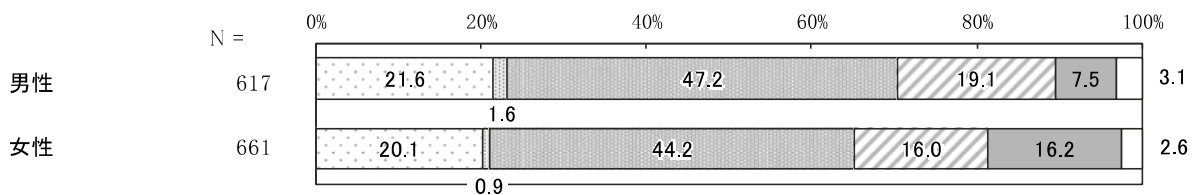
※エネファーム…家庭においてガス等を使って発電し、発電時の排熱を給湯等に利用するシステム

2割が設置(予定含む)、設置したいも含めると7割近く

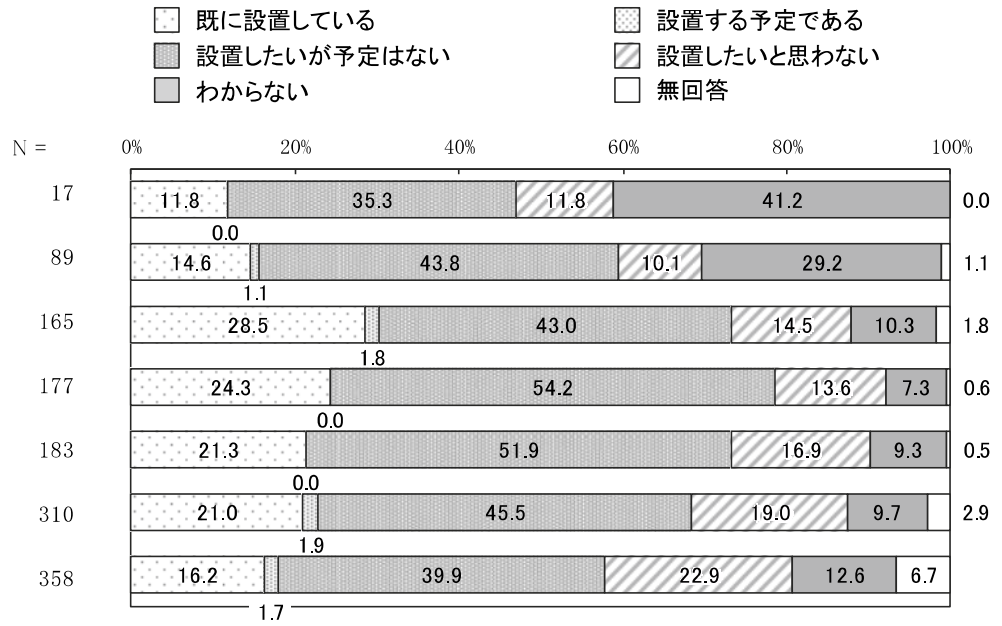
- ・ 自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置しているかについては、「既に設置している」が20.3%、「設置する予定である」が1.2%で、これらを合わせると21.5%となり、2割の人が設置しています(予定含む)。また、「設置したいが予定はない」は45.3%で、これも合わせると66.8%と7割近くになります。一方、「設置したいと思わない」は17.8%となっています。
- ・ 年代別では30歳代で、居住地区別では湖東地区、建部地区、市辺地区、蒲生地区、中野地区、御園地区で「既に設置している」が3割近くみられます。また、「設置する予定である」と「設置したいが予定はない」も含めると、年代別では40歳代で、居住地区別では市辺地区、御園地区、中野地区、建部地区で8割近くとなっています。



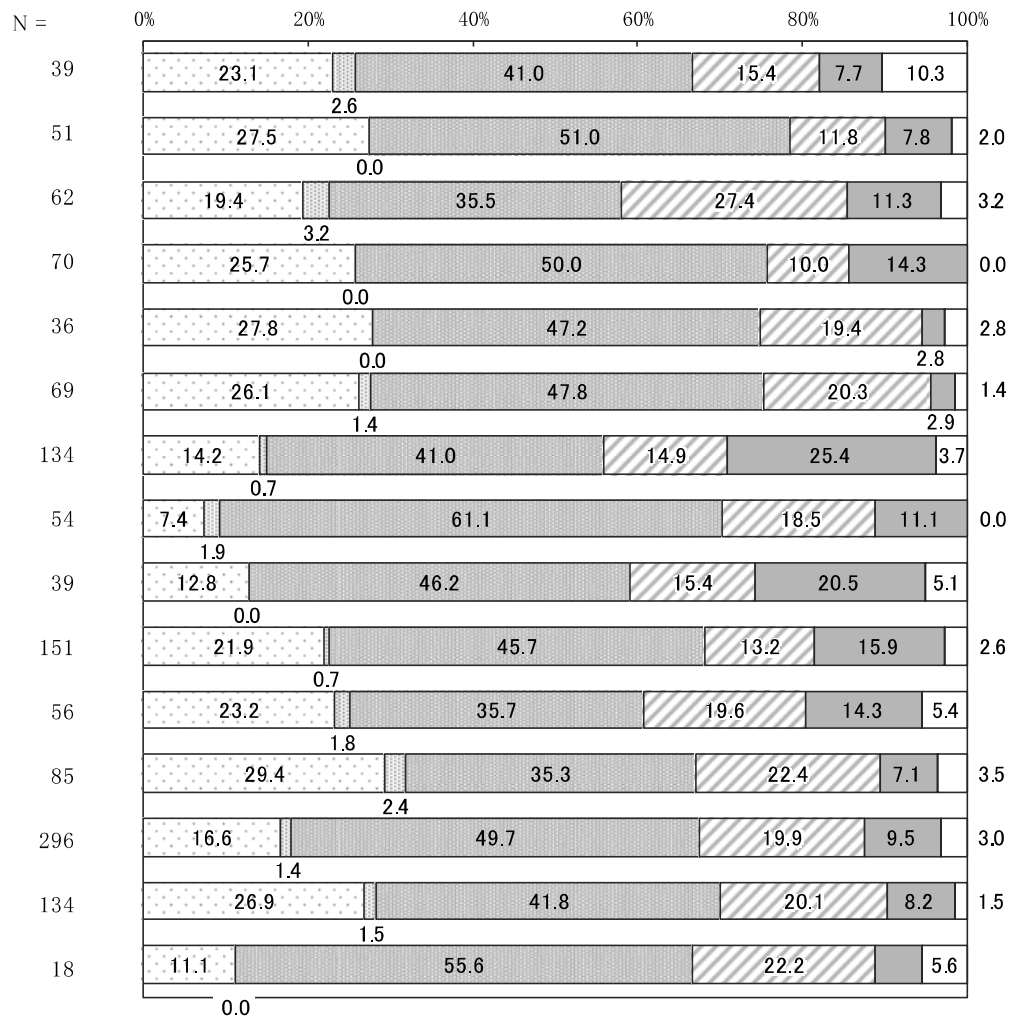
【性別】



【年代別】



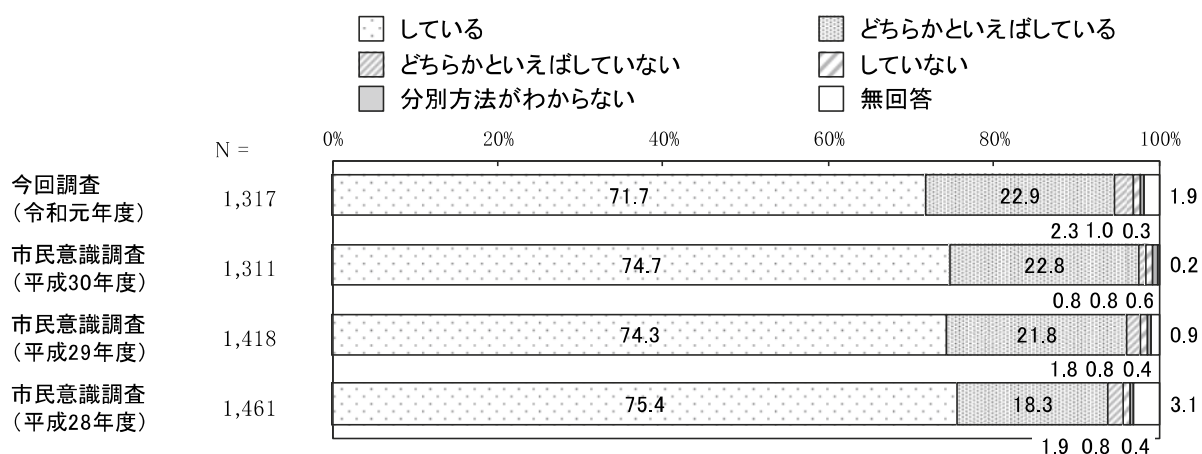
【居住地区別】



問 27 あなたは、ごみと資源の分別をしていますか。《○1つ》

ほとんどの人がごみと資源の分別をしている

- ・ ごみと資源の分別をしているかについては、「している」が71.7%と最も多く、次の「どちらかといえばしている」の22.9%と合わせると94.6%となり、ほとんどの人が分別をしています。一方、「どちらかといえばしていない」と「していない」を合わせても、わずか3.3%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、今回の調査でやや減少しましたが、ごみと資源の分別をしている人は7割以上、「どちらかといえばしている」を合わせると9割以上となっています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では50歳以上で、居住地区別では玉緒地区、御園地区、愛東地区、建部地区で、ごみと資源の分別を「している」人が多くみられます。



	している	していない	差
①今回調査 (令和元年度)	94.6	3.3	91.3
②市民意識調査 (平成30年度)	97.5	1.6	95.9
③市民意識調査 (平成29年度)	96.1	2.6	93.5
④市民意識調査 (平成28年度)	93.7	2.7	91.0
①-④	0.9	0.6	0.3

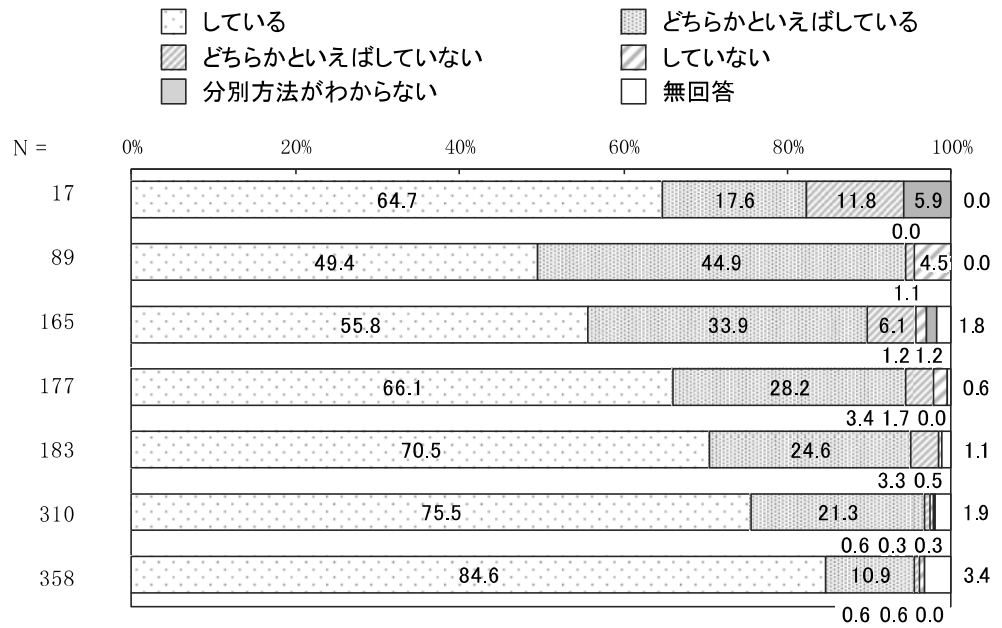
* している: 「している」と「どちらかといえばしている」の合計

* していない: 「どちらかといえばしていない」と「していない」の合計

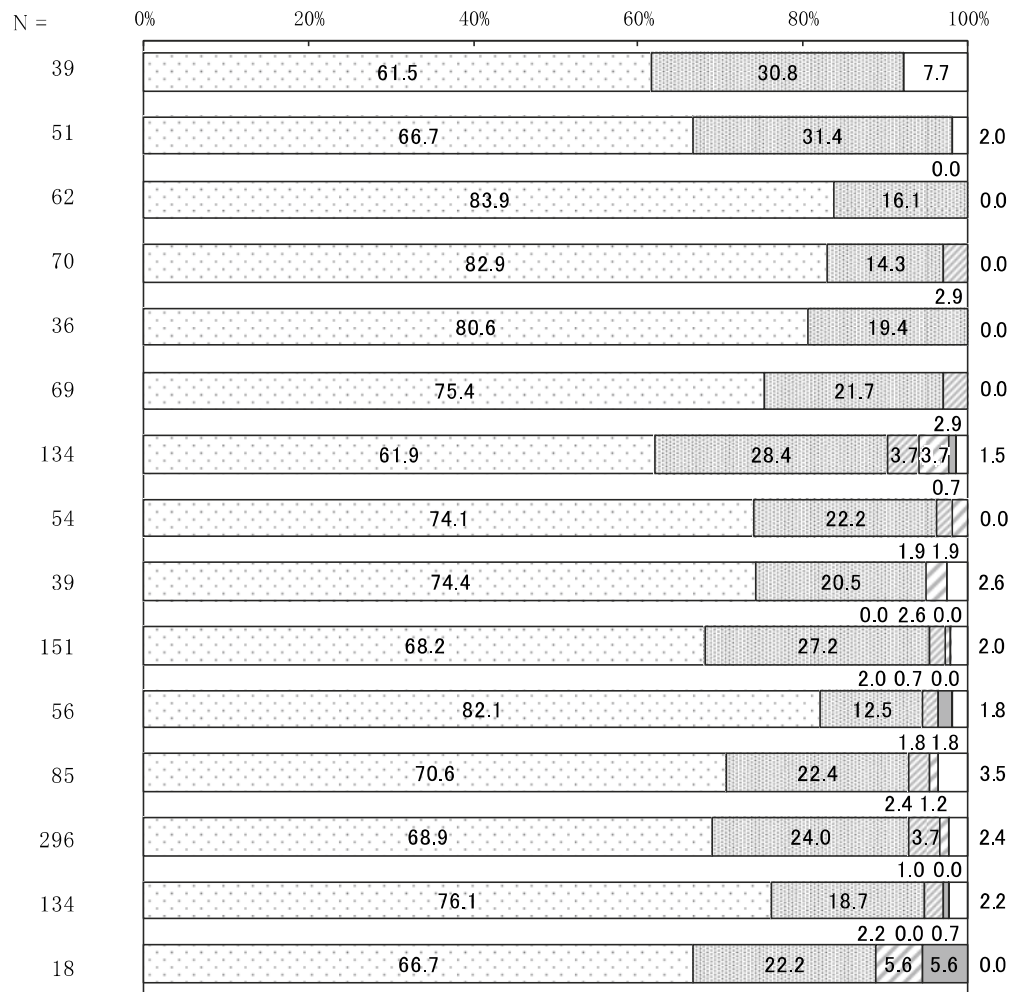
【性別】



【年代別】



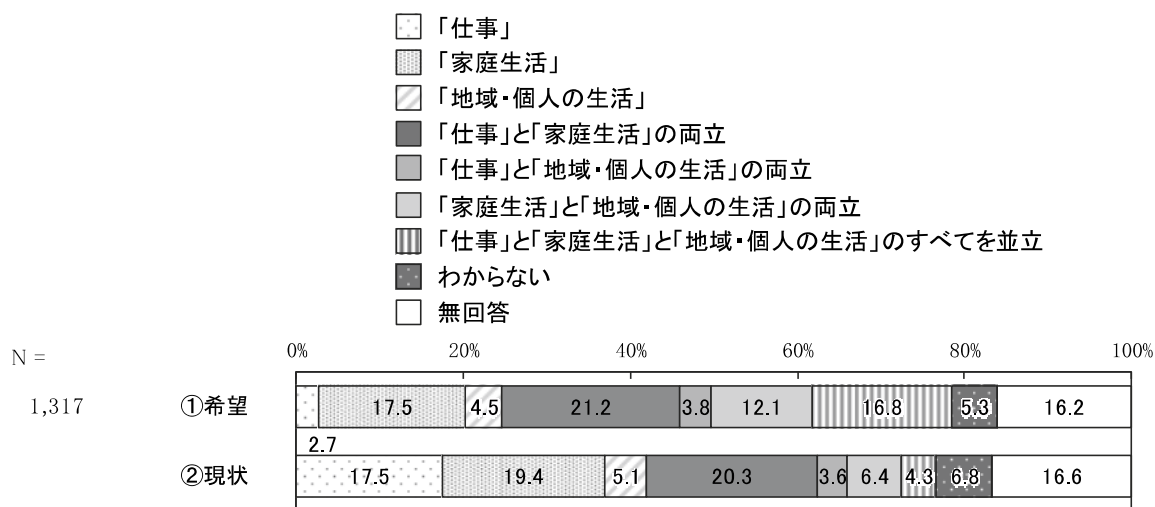
【居住地区別】



問 28 あなたは、生活の中で、仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。あなたの希望と現状に最も近いものをそれぞれについてお答えください。《①～②それぞれの項目に○1つ》

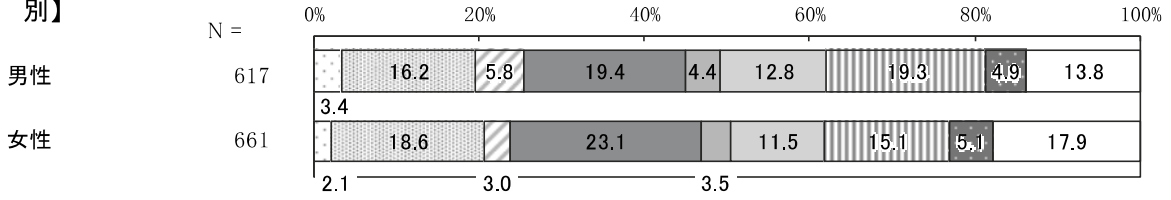
希望でも現状でも「仕事」と「家庭生活」の両立又は「家庭生活」を優先

- ・ 生活の中で何を優先するかについては、①希望では「仕事」と「家庭生活」の両立が21.2%と最も多く、次いで「家庭生活」が17.5%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを並立が16.8%と続きます。
- ・ 一方、②現状では、最も多いのが「仕事」と「家庭生活」の両立で20.3%、続いて「家庭生活」が19.4%とここまでは順序が同じですが、「仕事」が17.5%と3番目に多くなっており、希望で3番目に多かった「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを並立はわずか4.3%となっており、希望と現状のギャップがみられます。
- ・ 性別では、①希望では、男女ともに「仕事」と「家庭生活」の両立が最も多くあげられています。一方、②現状では、男性は「仕事」が、女性は「家庭生活」が最も多くあげられています。
- ・ 年代別では、①希望では、無回答を除いて、50歳までは「仕事」と「家庭生活」の両立が、60歳代は「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを並立が、70歳以上は「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両立が最も多くあげられています。一方、②現状では、無回答を除いて、20歳代と40歳代で「仕事」が、70歳以上は「家庭生活」が、10歳代は「わからない」が、そのほかの年代では「仕事」と「家庭生活」の両立が最も多くあげられています。40歳代は「仕事」と「家庭生活」の両立も最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、①希望では、無回答を除いて、蒲生地区、能登川地区で「家庭生活」が、建部地区と湖東地区で「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両立が、市辺地区、平田地区で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを並立が、そのほかの地区では「仕事」と「家庭生活」の両立が最も多くあげられています。平田地区は「仕事」と「家庭生活」の両立、永源寺地区は「家庭生活」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両立も最も多くなっています。一方、②現状では、無回答を除き、八日市地区、愛東地区で「仕事」が、南部地区、建部地区、中野地区、玉緒地区、蒲生地区、五個荘地区で「家庭生活」が、そのほかの地区では「仕事」と「家庭生活」の両立が最も多くあげられています。

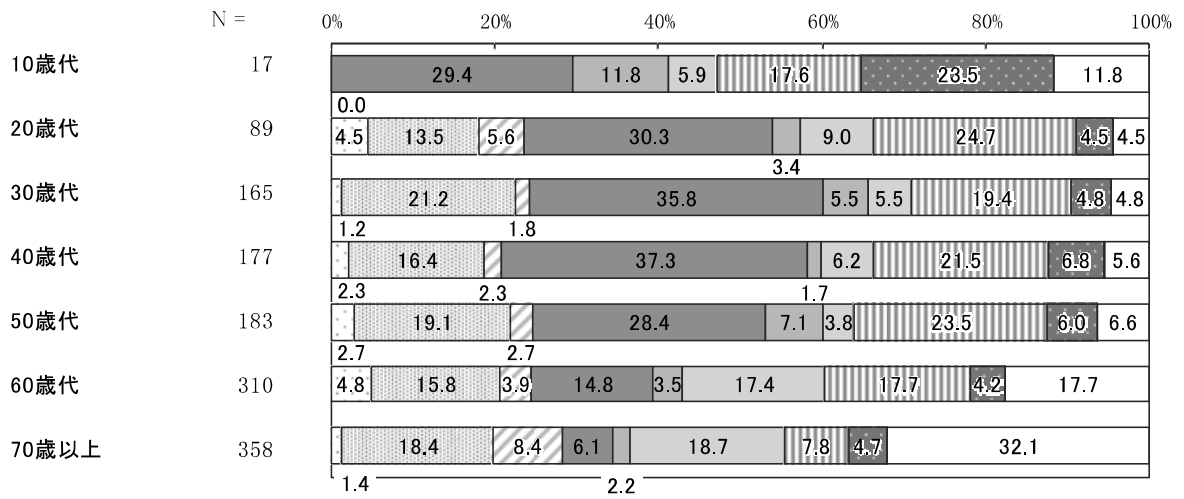


①希望

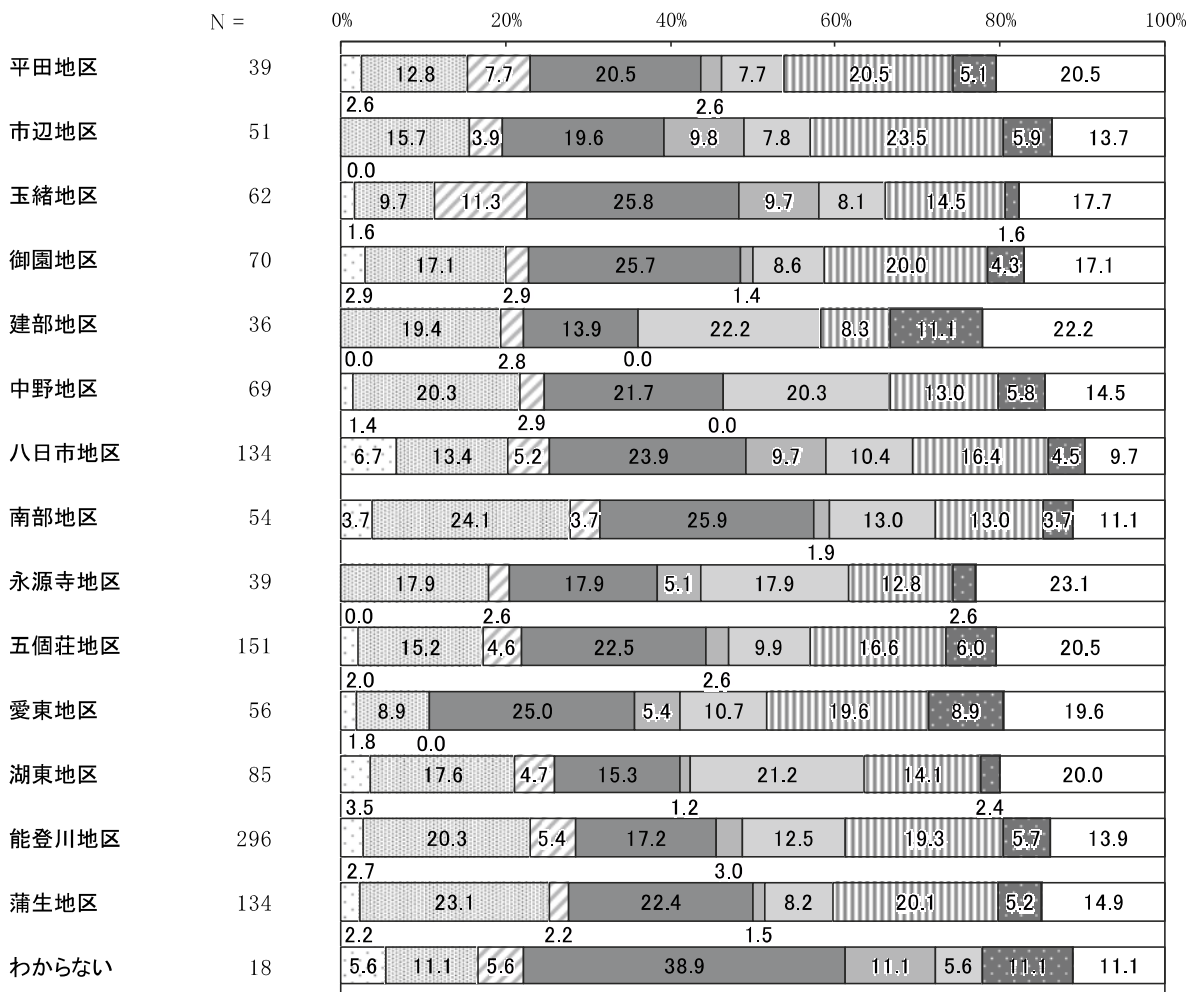
【性別】



【年代別】

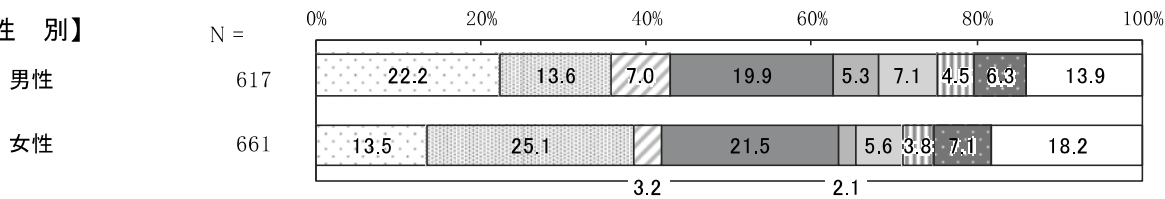


【居住地区別】

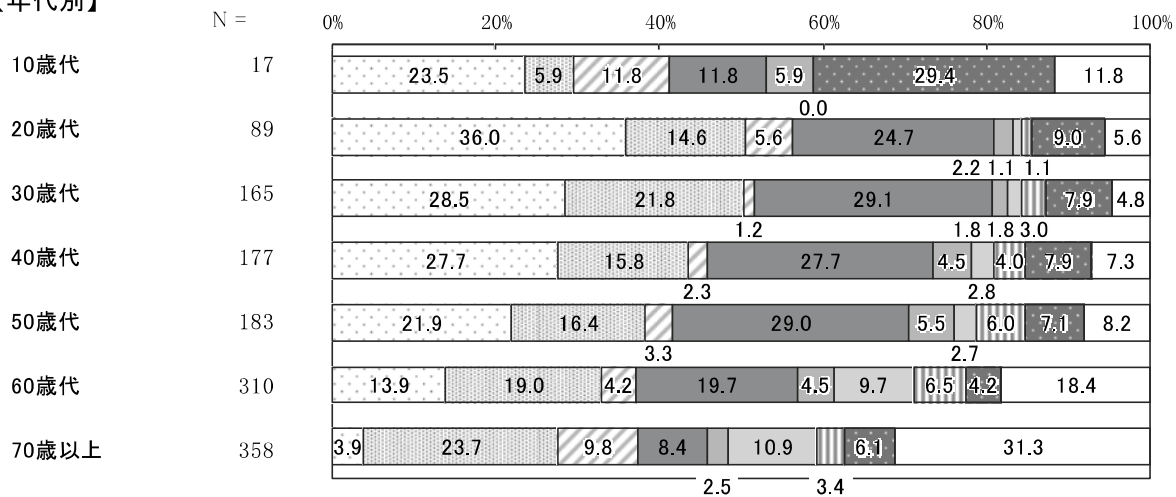


②現状

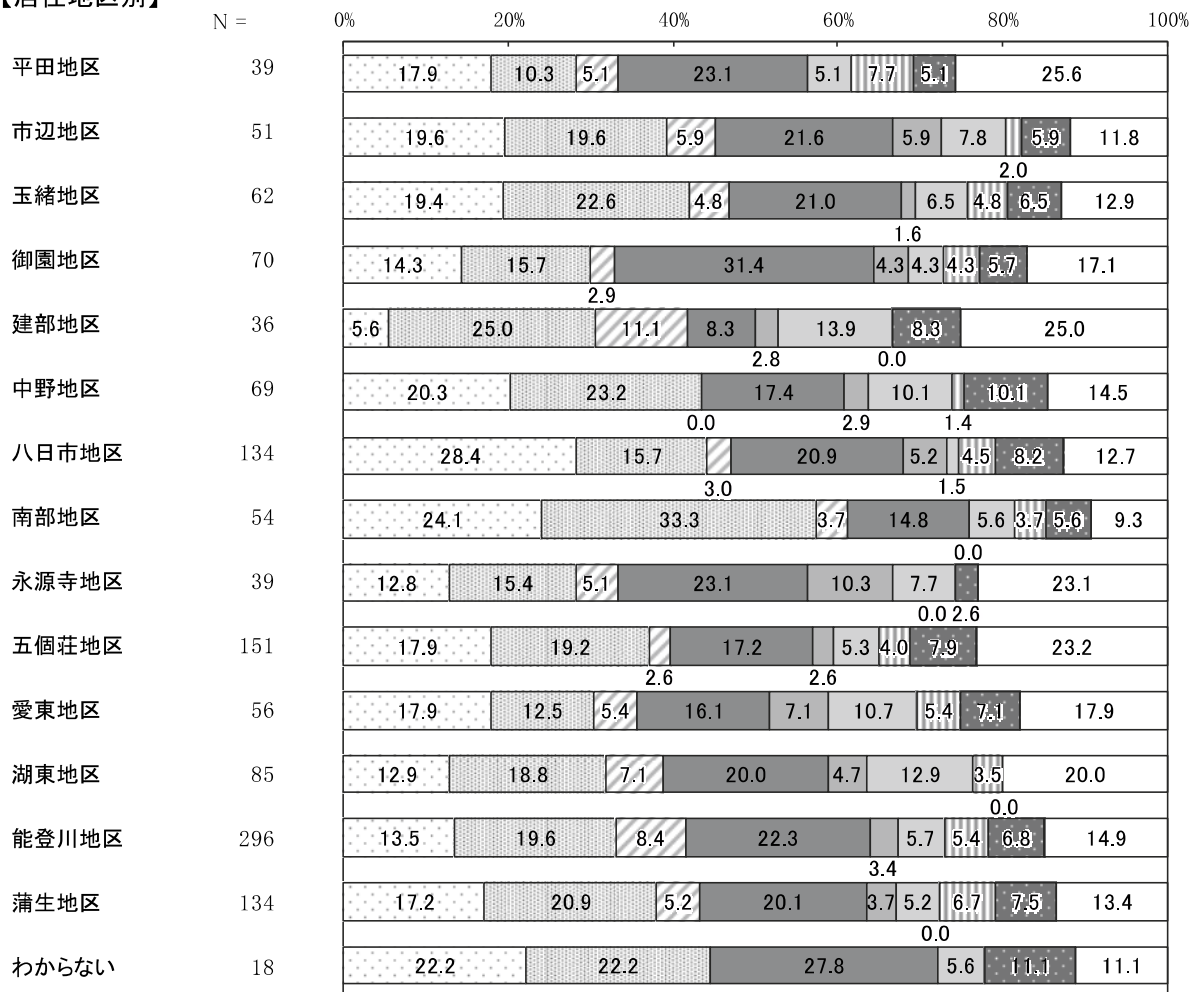
【性別】



【年代別】



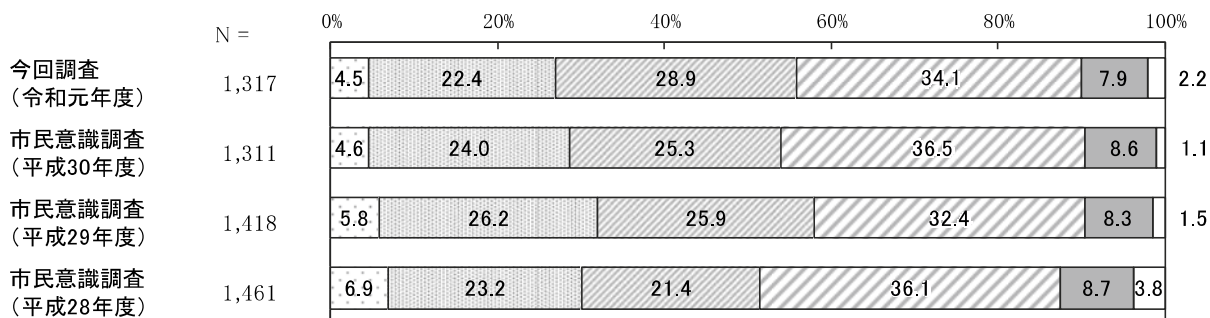
【居住地区別】



問 29 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。《○1つ》

6割が「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に共感しない

- ・ 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、「どちらかといえば共感しない」が 28.9%、「共感しない」が 34.1%で、これらを合わせると 63.0%となり、6割が共感しないと回答しています。一方、「共感する」と「どちらかといえば共感する」を合わせると 26.9%となり、3割近くとなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、共感しない人（「どちらかといえば共感しない」と「共感しない」の合計）の割合は年々増加しており、変動はありますが、共感する人（「共感する」と「どちらかといえば共感する」の合計）の割合は減少しています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では特に 10～20 歳代の若い世代で、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に共感しない人（前述）が多くみられます。
- ・ 居住地区別では、南部地区、建部地区、玉緒地区で共感する人（前述）が、御園地区で共感しない人（前述）が、ほかの地区より多くみられます。

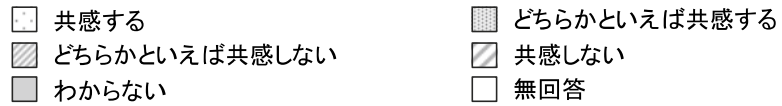


単位：%

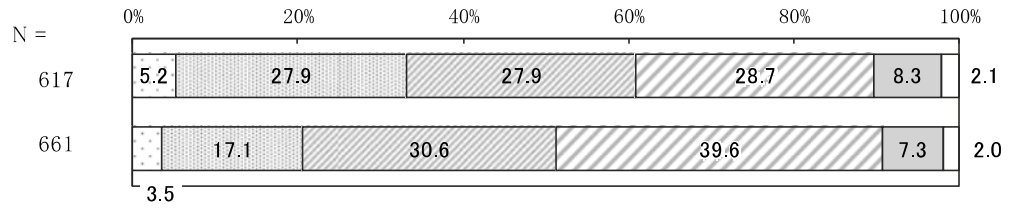
	共感する	共感しない	差
①今回調査(令和元年度)	26.9	63.0	-36.1
②市民意識調査(平成30年度)	28.6	61.8	-33.2
③市民意識調査(平成29年度)	32.0	58.3	-26.3
④市民意識調査(平成28年度)	30.1	57.5	-27.4
①-④	-3.2	5.5	-8.7

* 共感する:「共感する」と「どちらかといえば共感する」の合計

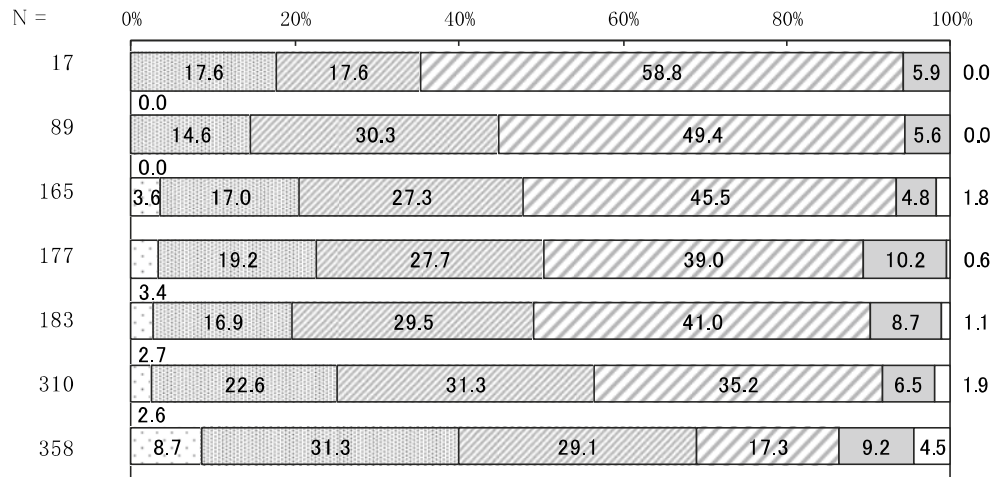
* 共感しない:「どちらかといえば共感しない」と「共感しない」の合計



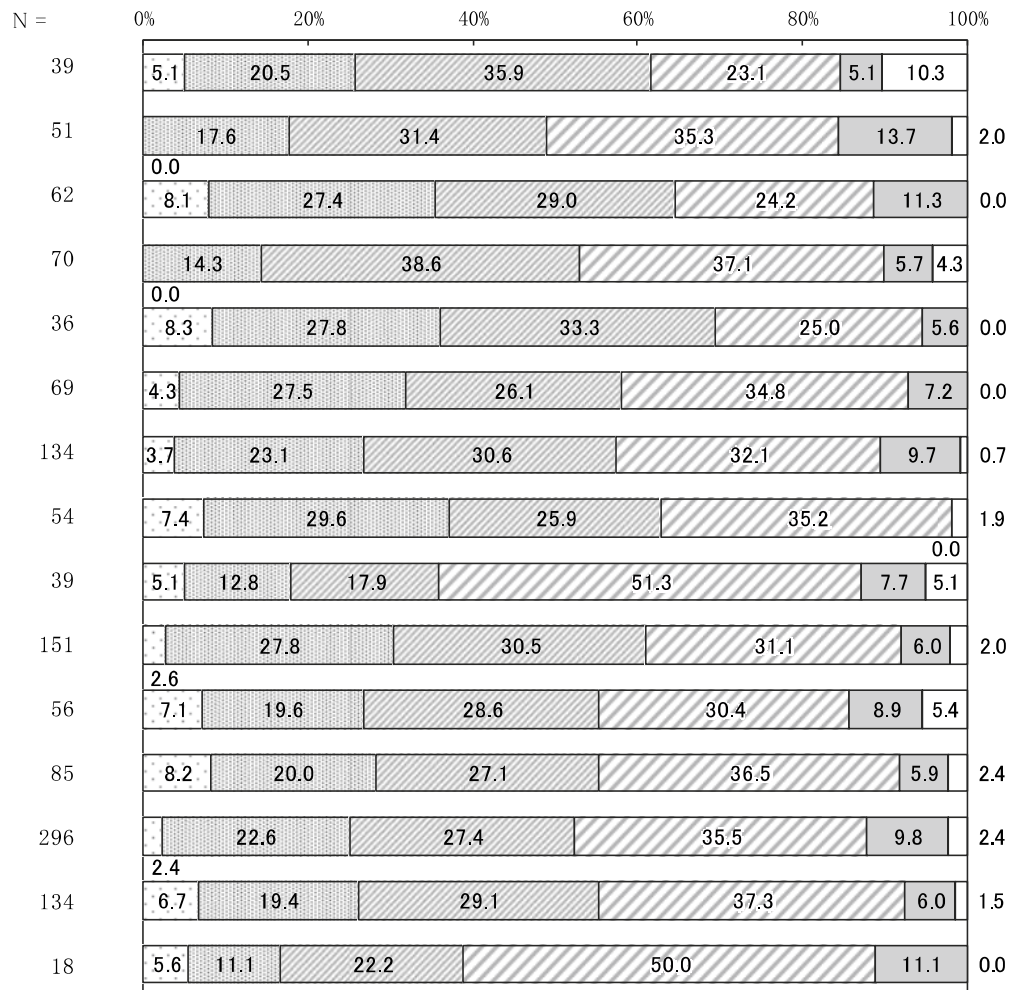
【性別】



【年代別】



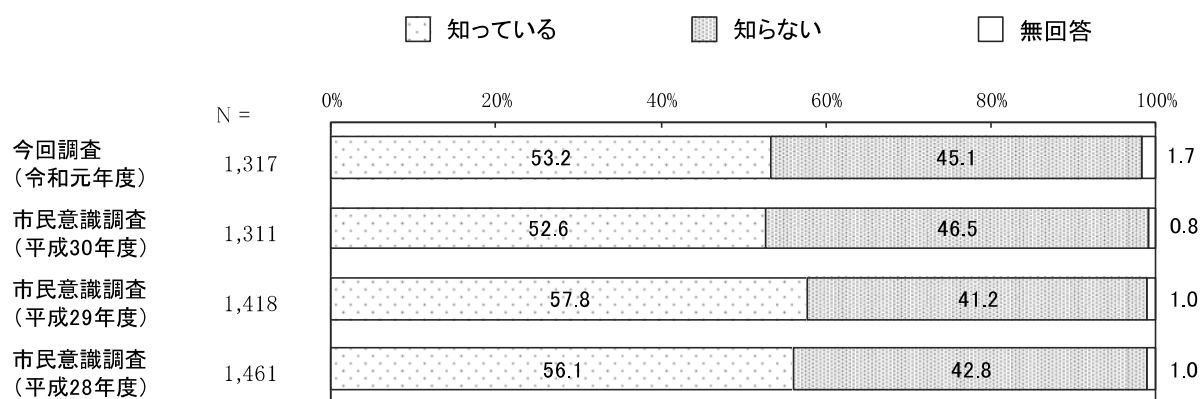
【居住地区別】



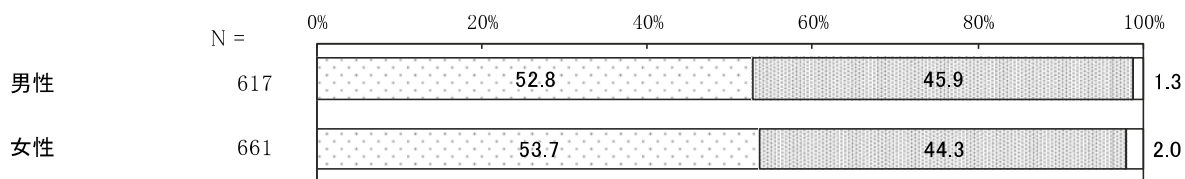
問 30 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれた時や、多重債務に陥った時の相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

半数が「知っている」、認知度は53.2%

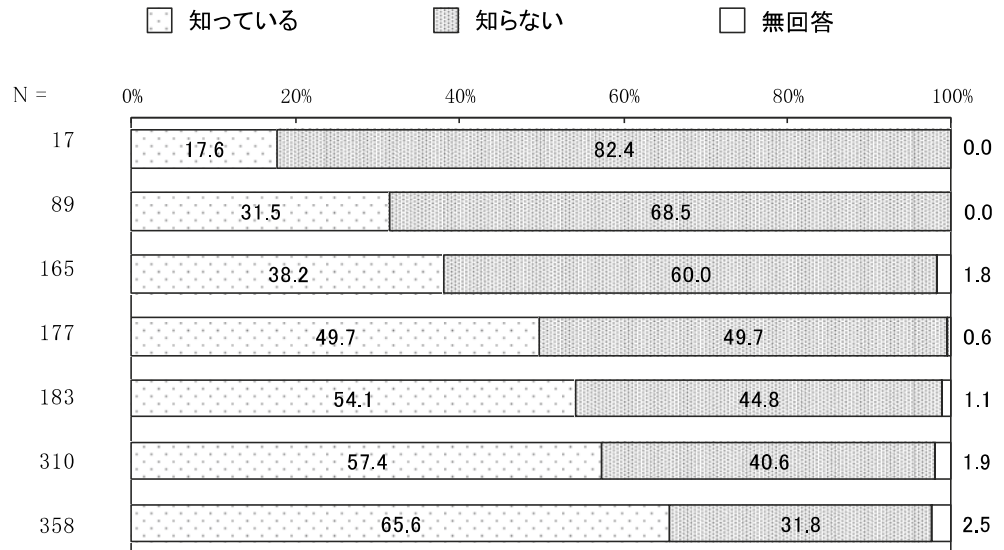
- ・ 市役所内に消費生活センターがあることを知っているかについては、「知っている」が53.2%、「知らない」が45.1%と、半数の人が知っています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、認知度は半数～6割近くで推移しています。
- ・ 年代別では、若い世代の認知度は低く、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、認知度は、玉緒地区で7割近く、湖東地区、建部地区で6割と高くなっています。一方、「知らない」と回答した人の割合は、中野地区で6割近く、市辺地区、八日市地区、蒲生地区で半数と高くなっています。



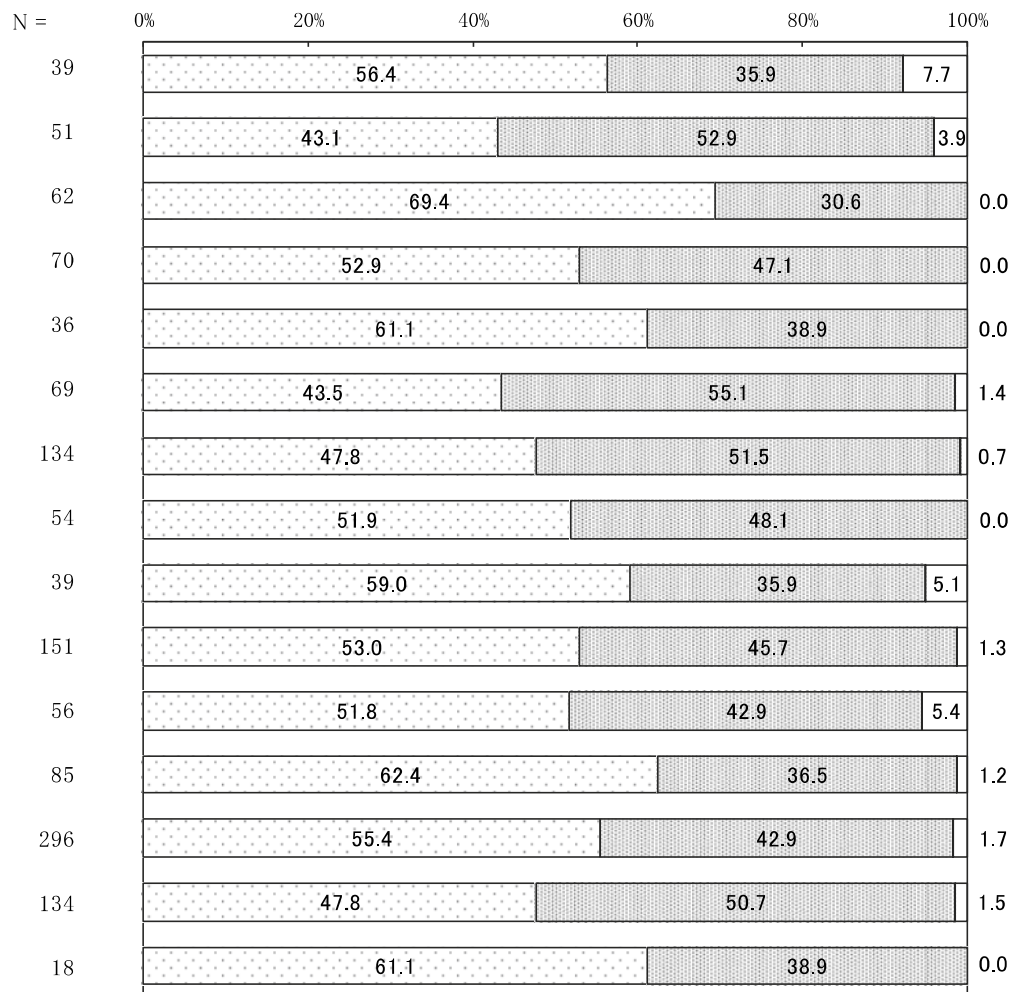
【性別】



【年代別】



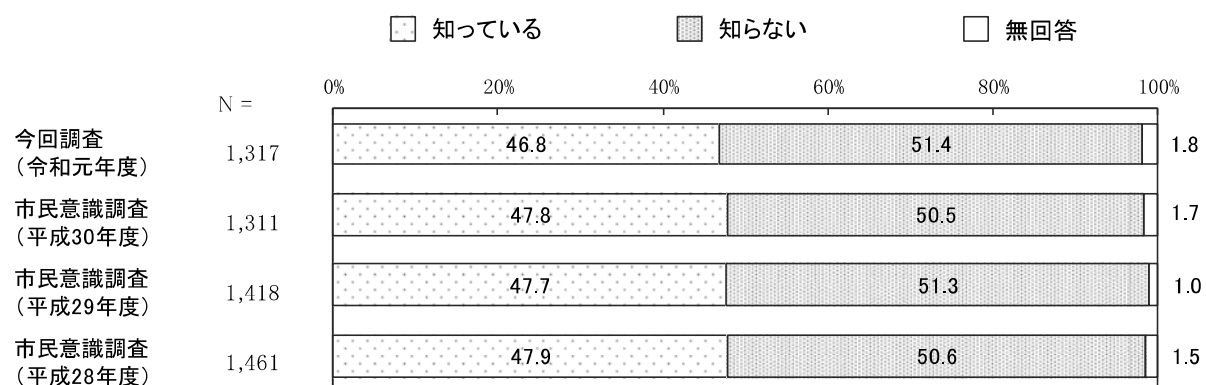
【居住地区別】



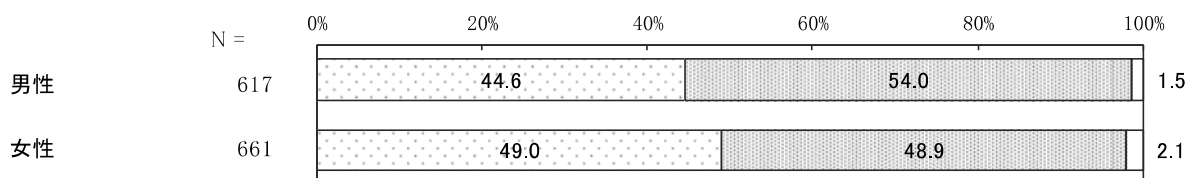
問 31 あなたは、市役所内の市民生活相談課で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

半数が「知らない」

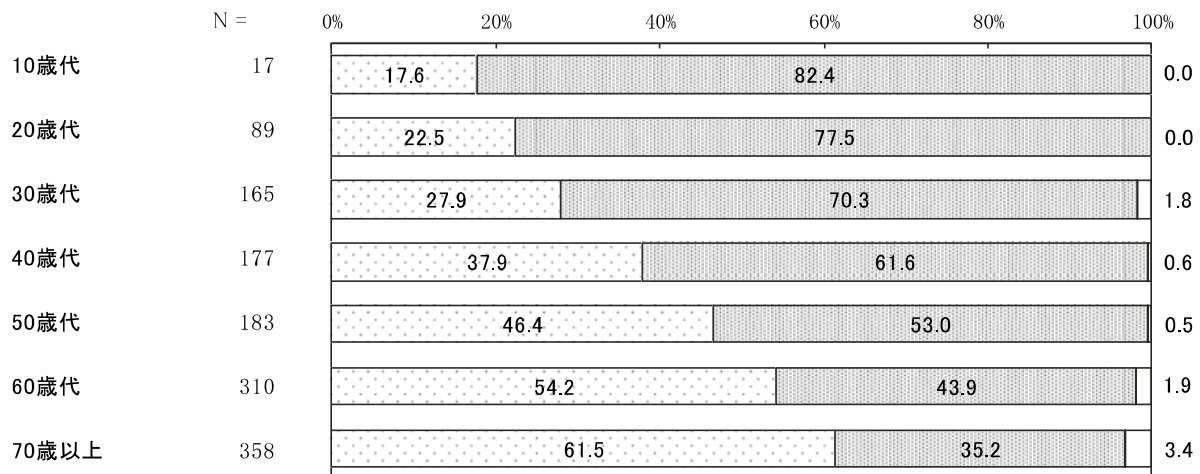
- ・ 市役所内の市民生活相談課で法律相談や登記相談等を受けられることについては、「知っている」が46.8%、「知らない」が51.4%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、玉緒地区で認知度が6割近くと高く、愛東地区、平田地区、南部地区で4割未満と低くなっています。



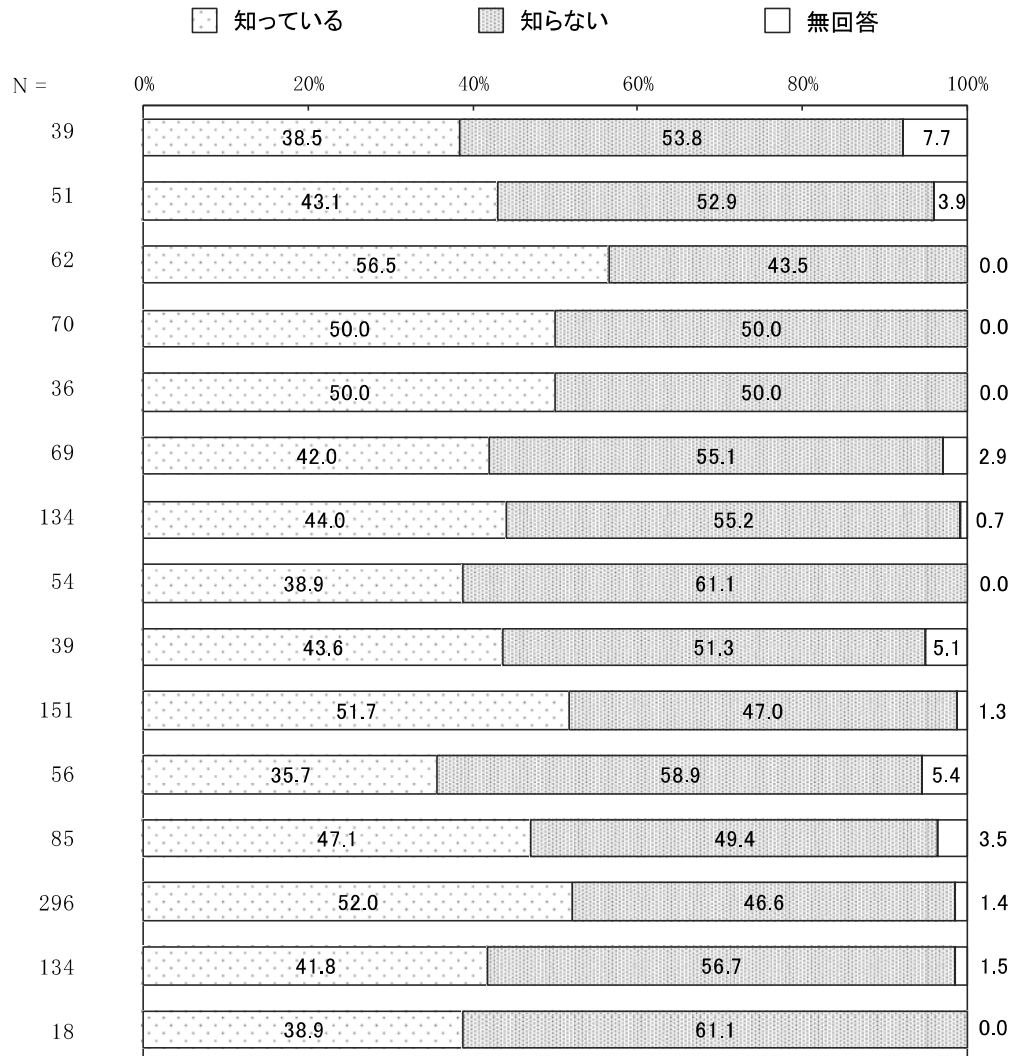
【性別】



【年代別】



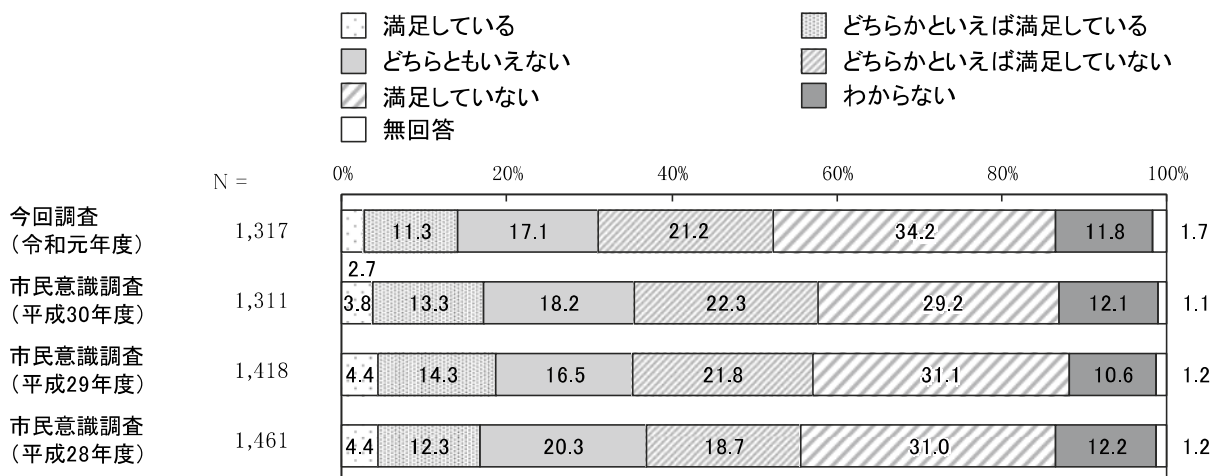
【居住地区別】



問 32 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

6割近くが満足していない

- ・ 公共交通に対する満足度については、「満足していない」が34.2%、「どちらかといえば満足していない」が21.2%で、これらを合わせると55.4%となり、6割近くの人が満足していないと回答しています。一方、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると14.0%となり、1割は満足しています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動はあるものの、満足していない人（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合が増加しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、満足している人（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合よりも満足していない人（前述）の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では50歳代まで（特に10歳代）で、居住地区別では、蒲生地区、市辺地区、中野地区、愛東地区で満足していない人（前述）の割合が高くなっています。



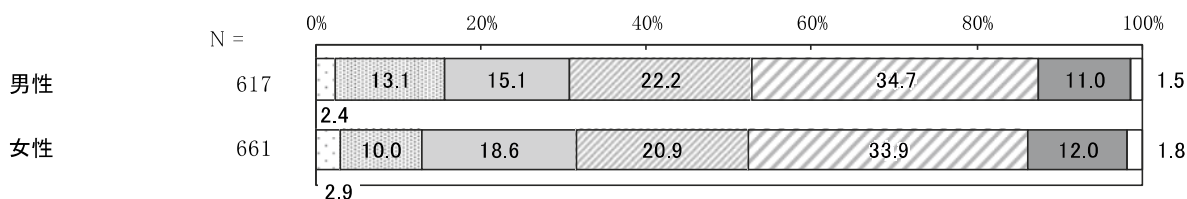
単位：%

	満足	不満	差
①今回調査(令和元年度)	14.0	55.4	-41.4
②市民意識調査(平成30年度)	17.1	51.5	-34.4
③市民意識調査(平成29年度)	18.7	52.9	-34.2
④市民意識調査(平成28年度)	16.7	49.7	-33.0
①-④	-2.7	5.7	-8.4

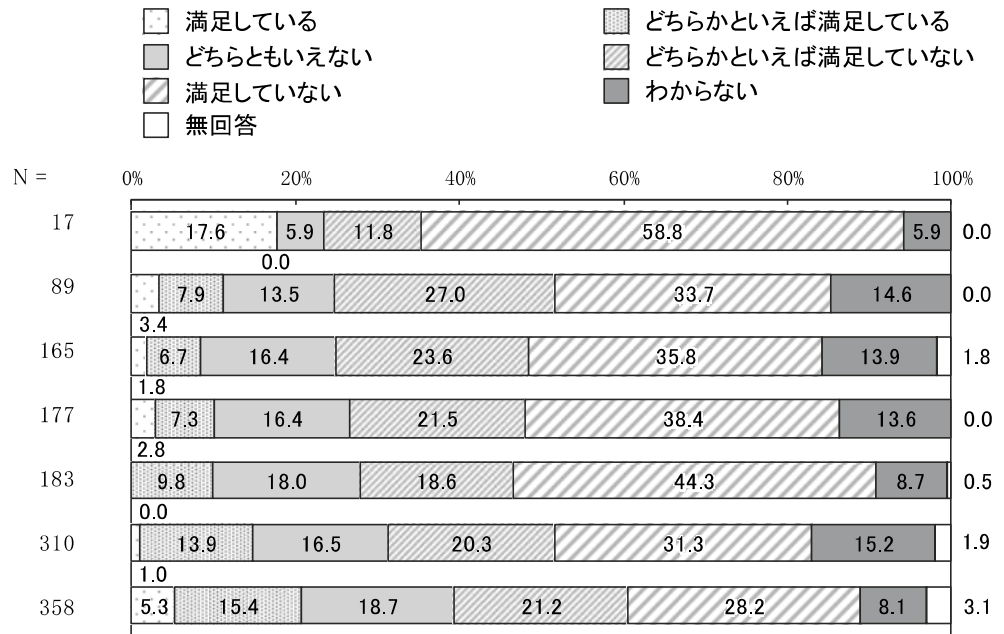
* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

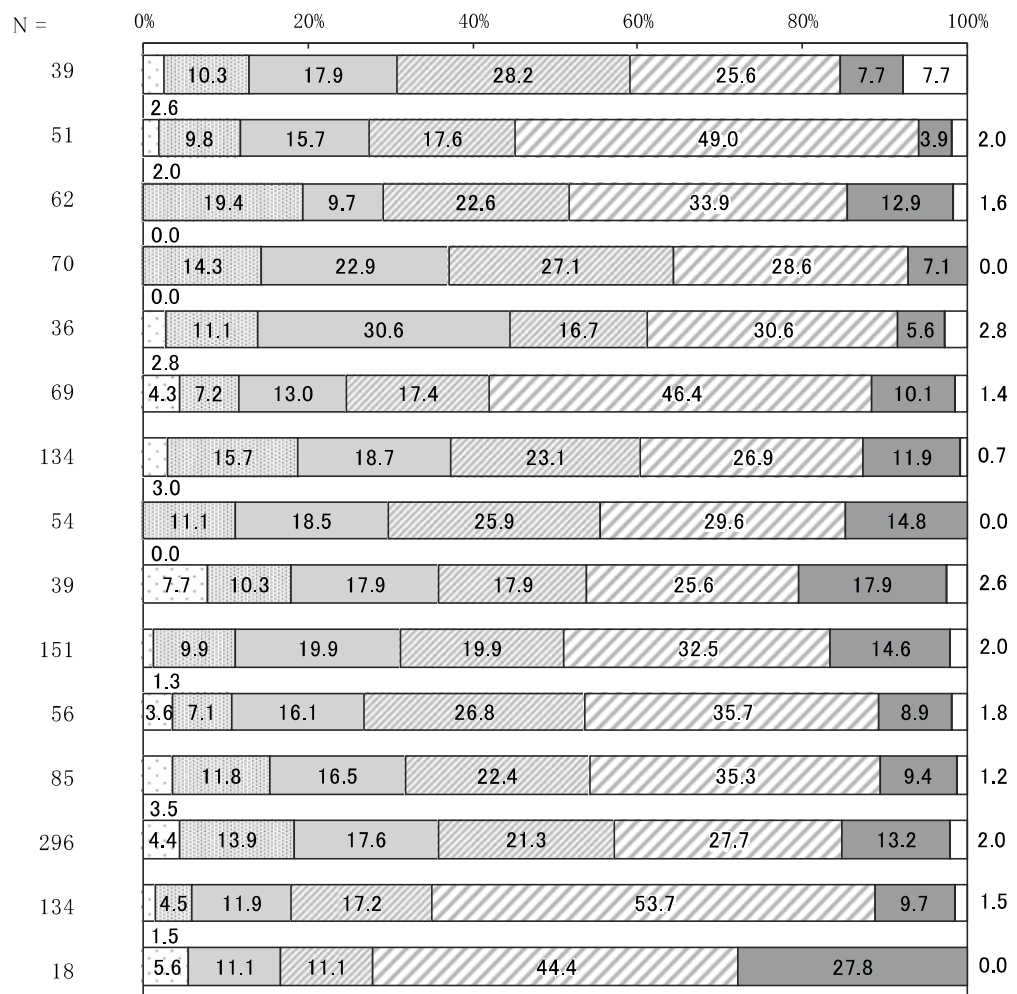
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

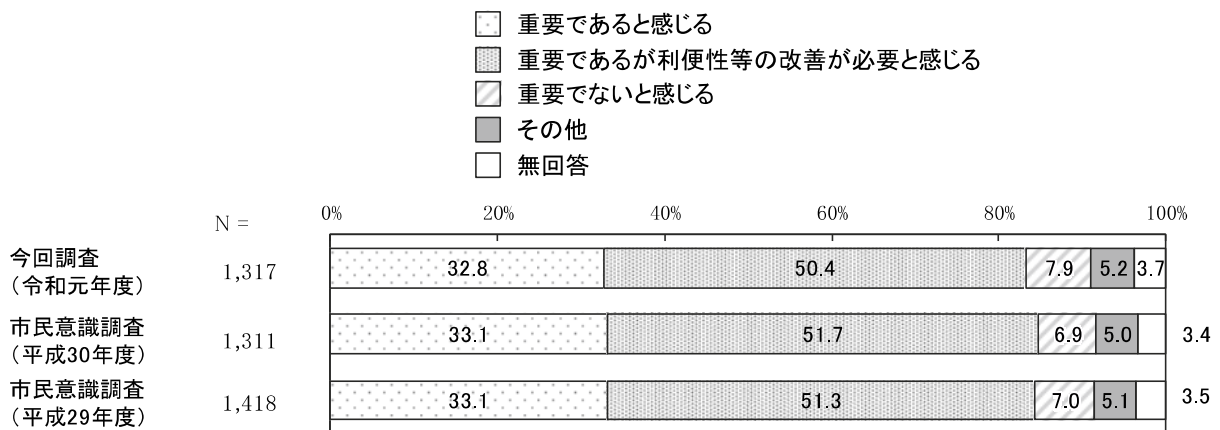


問 33 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、東近江市の活性化を進めていくうえで重要な公共交通機関であると考えています。

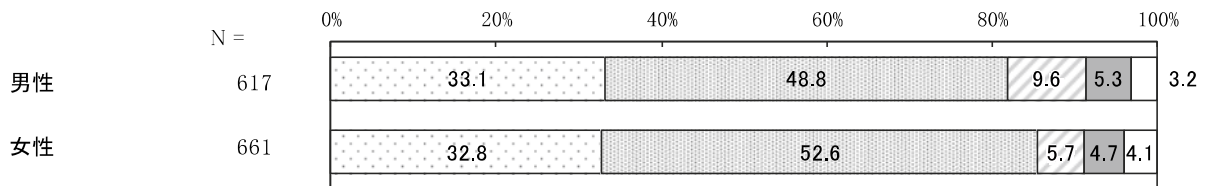
あなたは、近江鉄道についてどう感じていますか。《○1つ》

8割が重要と感じている、半数が改善を望む

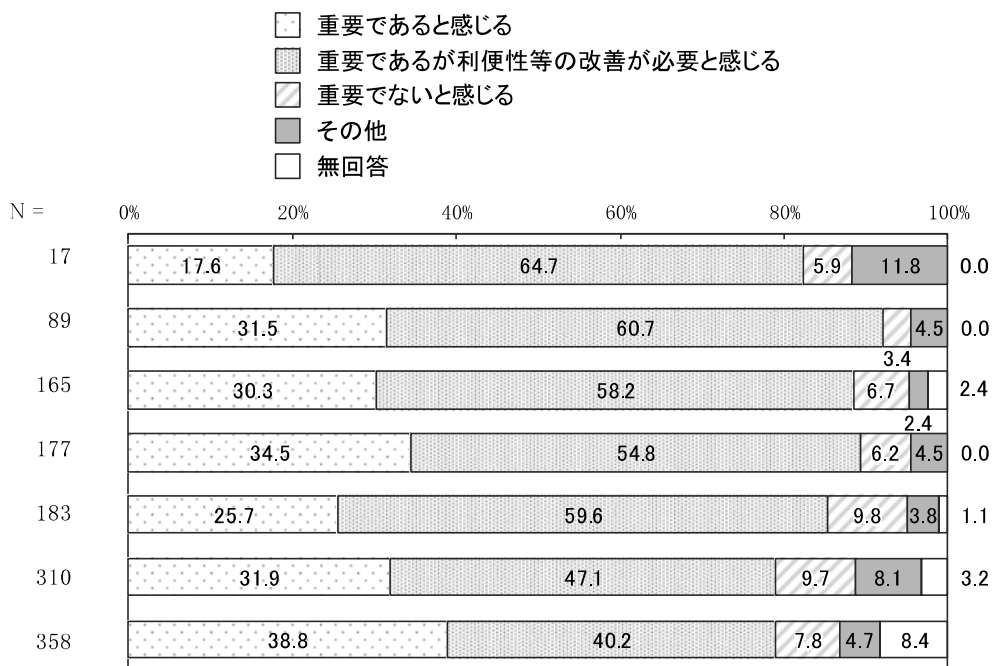
- ・ 近江鉄道については、「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」が50.4%と最も多く、次いで「重要であると感じる」が32.8%と続きます。これらを合わせると83.2%となり、8割の人が近江鉄道は重要であると考えています。
- ・ 年代別では20～40歳代で、居住地区別では八日市地区、中野地区、市辺地区、御園地区、南部地区で、重要であると感じている人（「重要であると感じる」と「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」の合計）が多くみられます。



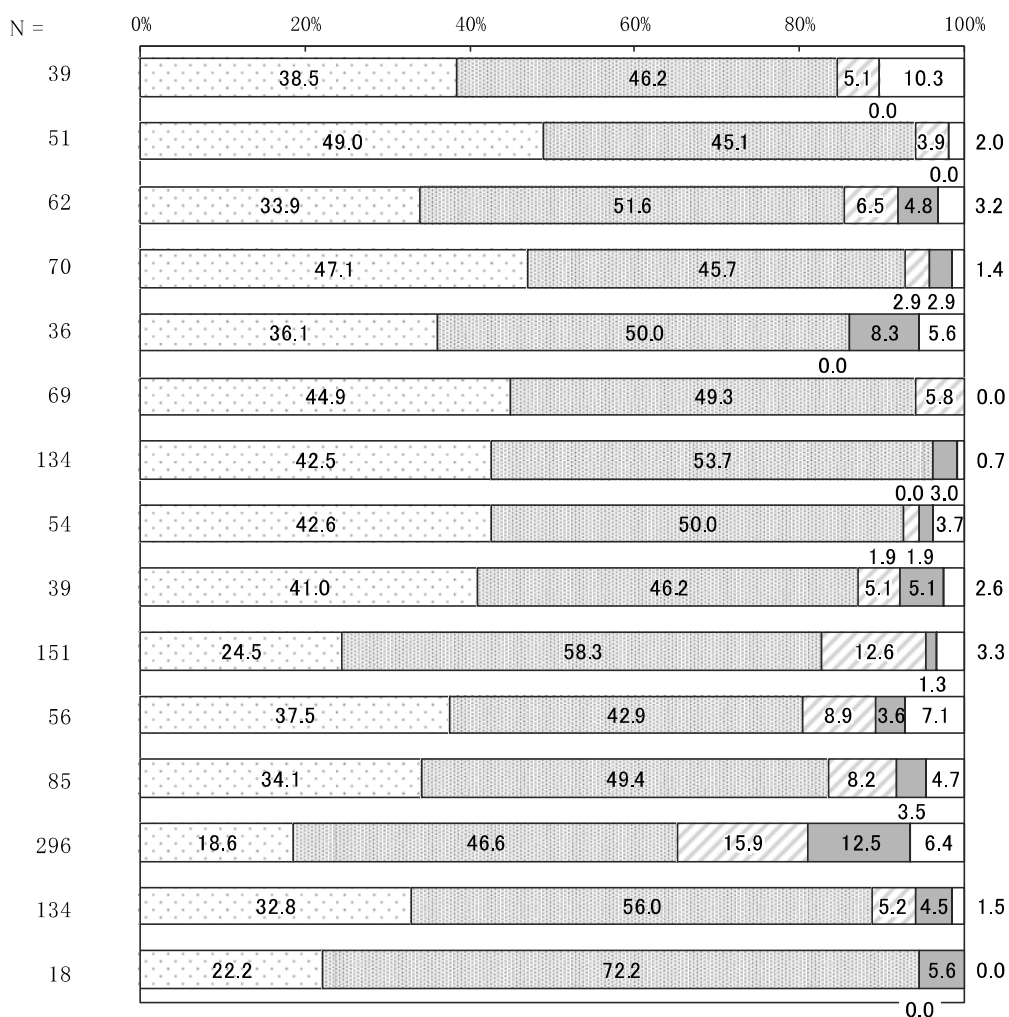
【性別】



【年代別】



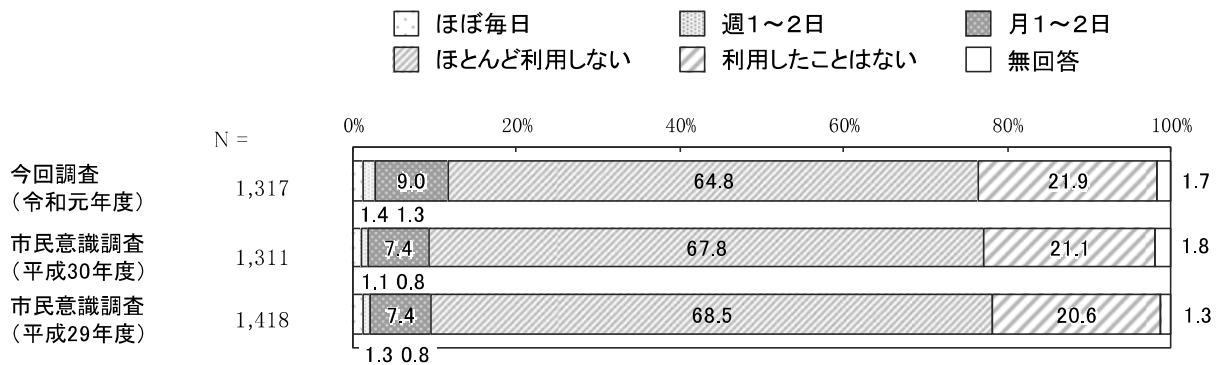
【居住地区別】



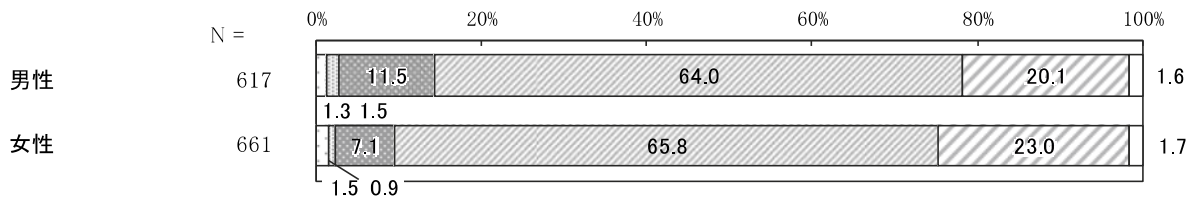
問 34 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

9割近くが利用していない

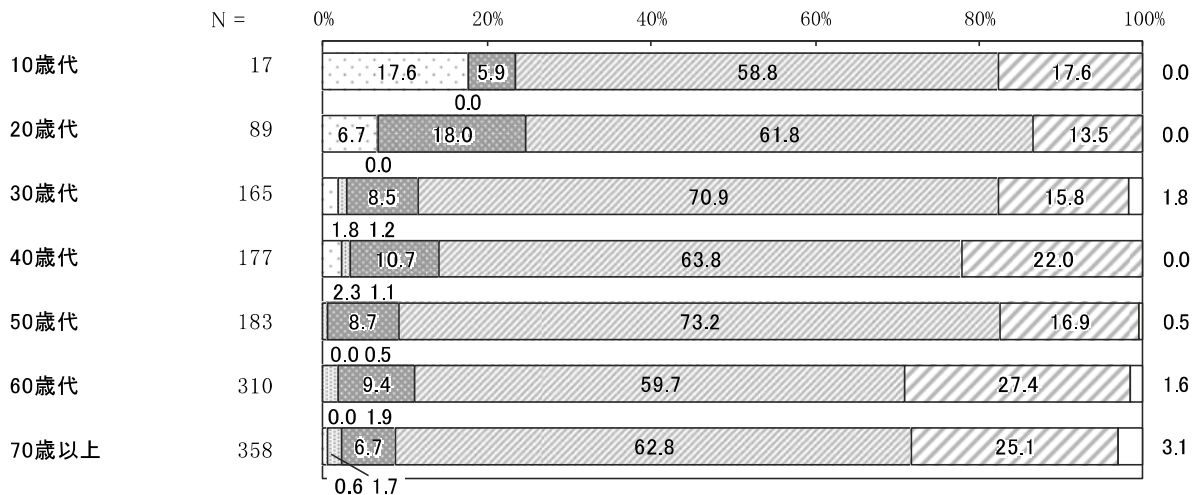
- ・ 近江鉄道の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が64.8%と最も多く、次の「利用したことはない」の21.9%を合わせると86.7%となり、9割近くの人が利用していないと回答しています。一方、利用している人は11.7%で、その内訳は「月1～2日」が9.0%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」が1.4%、「週1～2日」が1.3%となっています。
- ・ 年代別では10～20歳代で2割、居住地区別では八日市地区で4割近く、中野地区で2割と比較的によく利用されています。



【性別】

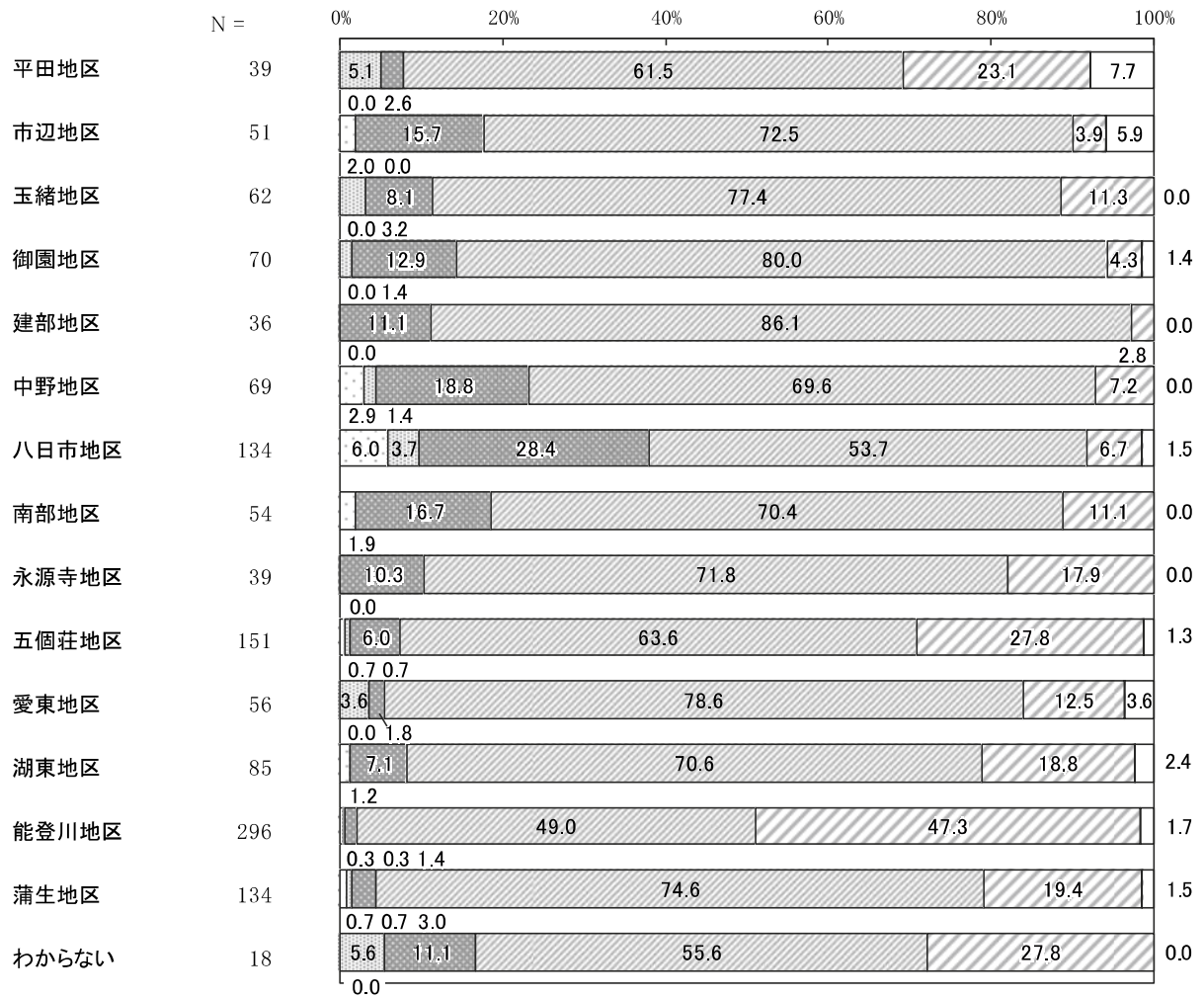


【年代別】



【居住地区別】

ほぼ毎日
 週1~2日
 月1~2日
 ほとんど利用しない
 利用したことはない
 無回答

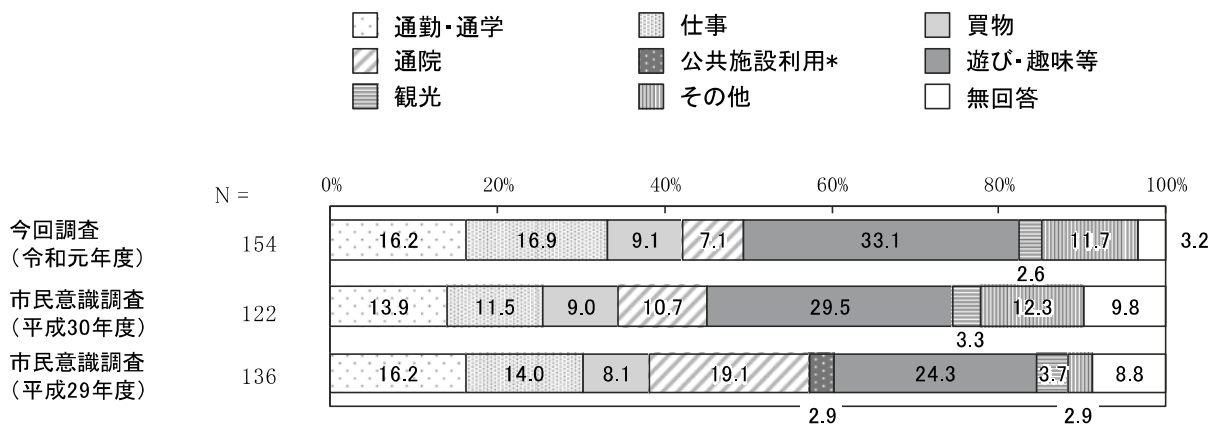


問 34-1 問 34 で「1. ほぼ毎日」「2. 週 1～2 日」「3. 月 1～2 日」とお答えの方におたずね
 します。

近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

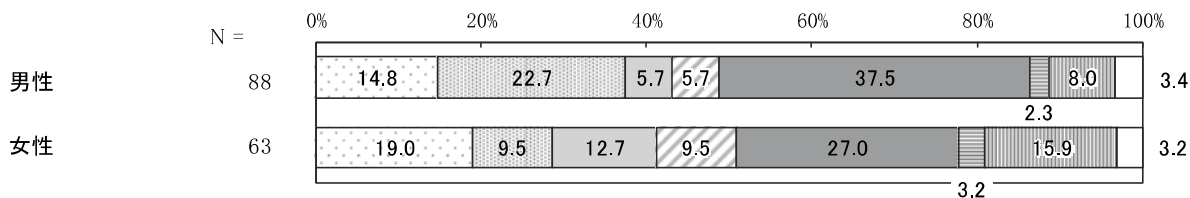
近江鉄道の利用目的は「遊び・趣味等」、「仕事」、「通勤・通学」

- ・ 近江鉄道の利用目的は、「遊び・趣味等」が 33.1%と最も多く、次いで「仕事」が 16.9%、「通勤・通学」が 16.2%、「その他」が 11.7%と続きます。
- ・ 平成 29 年度の調査より選択肢が 1 つ減ったため単純比較はできませんが、「通院」の割合が減少し、「遊び・趣味等」や「仕事」の割合が増加しています。
- ・ 性別では、男女ともに「遊び・趣味等」での利用が最も多くなっていますが、男性は女性より「仕事」での利用が、女性は男性より「買物」での利用が多くみられます。
- ・ 年代別では、10～20 歳代で「通勤・通学」が、50 歳代は「仕事」が、70 歳以上は「買物」が、そのほかの年代は「遊び・趣味等」が最も多くなっています。20 歳代と 70 歳以上は「遊び・趣味等」も同様に最も多くなっています。そのほか、30～40 歳代では「仕事」も多くみられます。

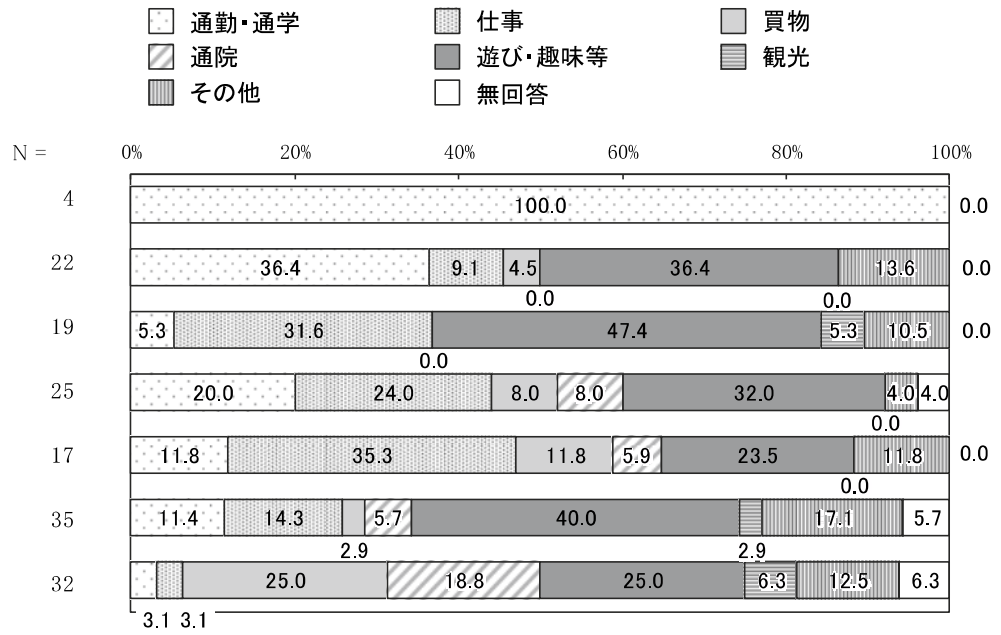


*平成30年度は「公共施設利用」の選択肢を削除

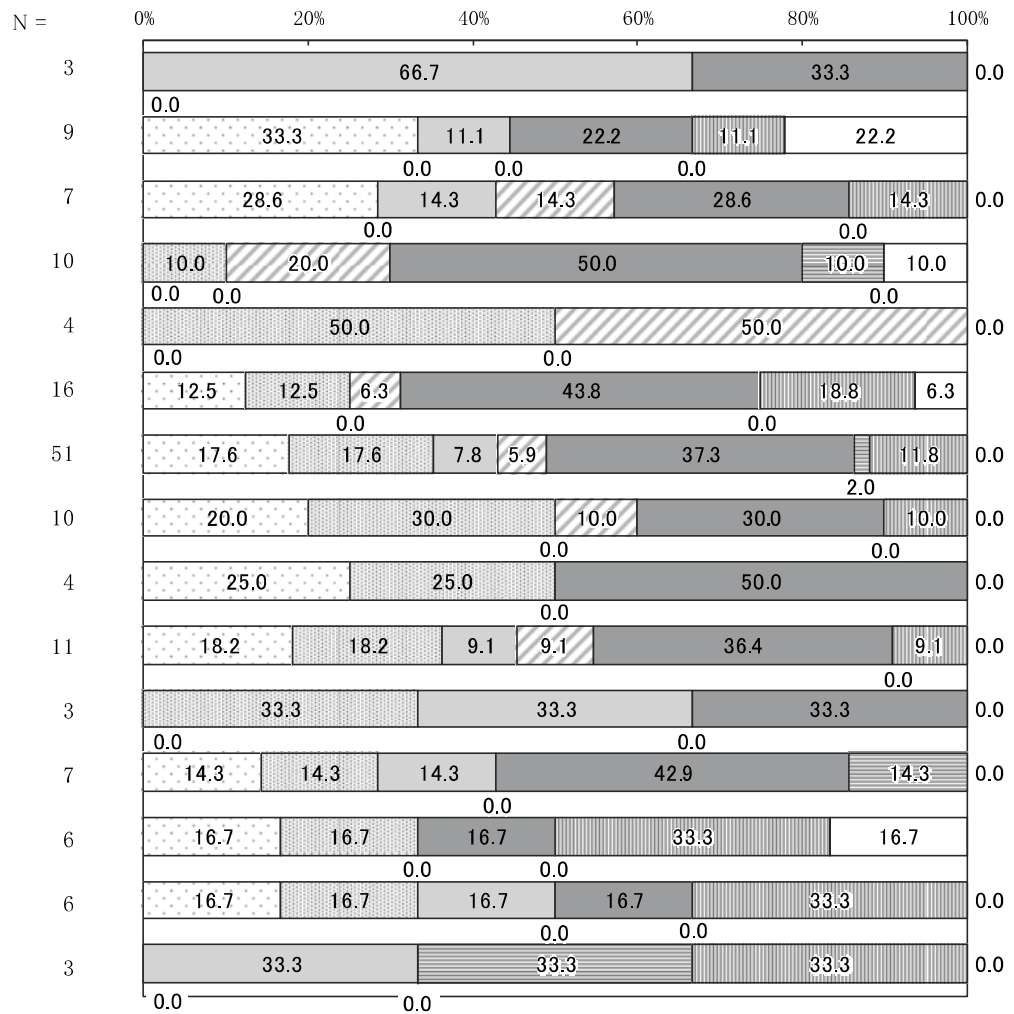
【性別】



【年代別】



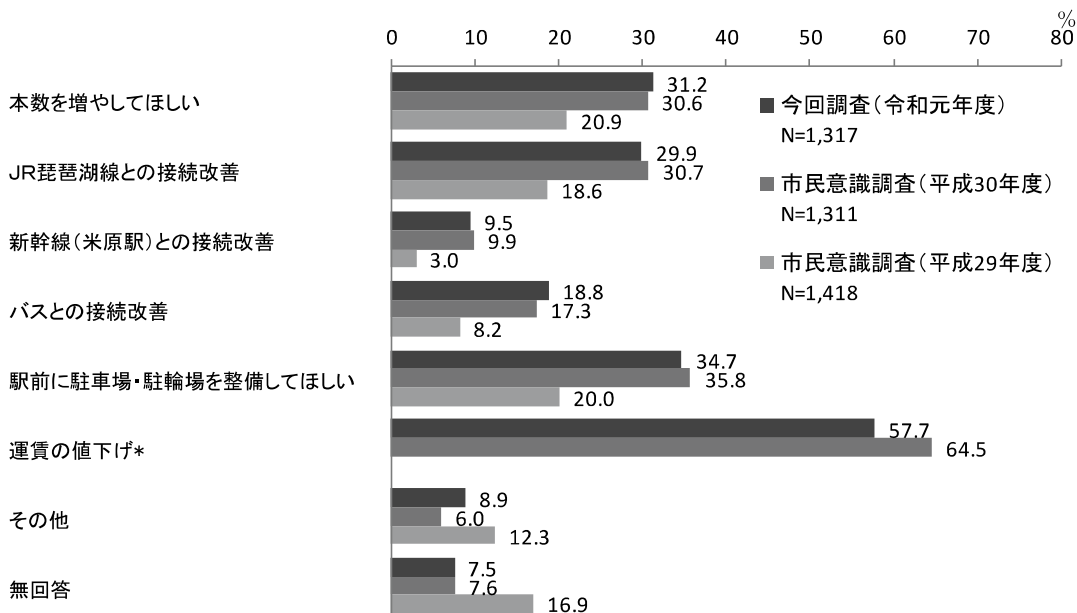
【居住地区別】



問 35 あなたは、近江鉄道を利用する場合、どのようなことを希望されますか。《あてはまるものすべてに○》

近江鉄道への希望は、運賃の値下げが6割

- ・ 近江鉄道を利用する場合の希望を聞いたところ、「運賃の値下げ」が57.7%と最も多く、次いで「駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい」が34.7%、「本数を増やしてほしい」が31.2%、「JR琵琶湖線との接続改善」が29.9%と続きます。
- ・ 年代別では、すべての年代で「運賃の値下げ」が最も多くなっていますが、10～20歳代で本数の増加、30歳代まででJRとの接続改善、40～50歳代でバスとの接続改善も多くあげられています。また、10歳代を除いて、駅前の駐車場・駐輪場整備も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、平田地区で「駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい」が、そのほかの地区で「運賃の値下げ」が最も多くなっています。建部地区では「運賃の値下げ」も同様に最も多くあげられています。そのほか、市辺地区、八日市地区、南部地区、蒲生地区で本数の増加、八日市地区でJRとの接続改善、玉緒地区で新幹線やバスとの接続改善、愛東地区でバスとの接続改善、建部地区、玉緒地区で駐車場等の整備をあげる人がほかの地区より多くみられます。



*平成30年度から追加
注)平成29年度は1つ選択

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	本数を増やしてほしい	JR琵琶湖線との接続改善	新幹線(米原駅)との接続改善	バスとの接続改善	を駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい	運賃の値下げ	その他	無回答
男性	617	31.4	29.5	10.2	18.3	34.8	55.4	9.7	7.1
女性	661	31.3	30.4	8.8	19.5	34.3	61.0	8.0	7.3

【年代別】

単位：%

区 分	有効回答数 (件)	本数を 増やして ほしい	J R 琵琶 湖線との 接続 改善	新幹線 (米原駅)との 接続 改善	バスとの 接続 改善	駅前 に駐車場・駐 輪場 を整備して ほしい	運賃の 値下げ	その他	無 回 答
10歳代	17	58.8	41.2	11.8	17.6	11.8	82.4	5.9	0.0
20歳代	89	66.3	44.9	9.0	16.9	32.6	70.8	2.2	1.1
30歳代	165	40.0	47.9	11.5	16.4	34.5	77.0	8.5	2.4
40歳代	177	48.0	39.0	8.5	20.9	30.5	68.4	8.5	0.0
50歳代	183	25.7	34.4	12.0	24.0	39.9	62.3	12.6	1.1
60歳代	310	21.9	23.9	7.4	16.8	33.5	54.5	11.0	8.4
70歳以上	358	19.8	16.8	9.5	18.7	37.2	40.8	7.5	17.6

【居住地区別】

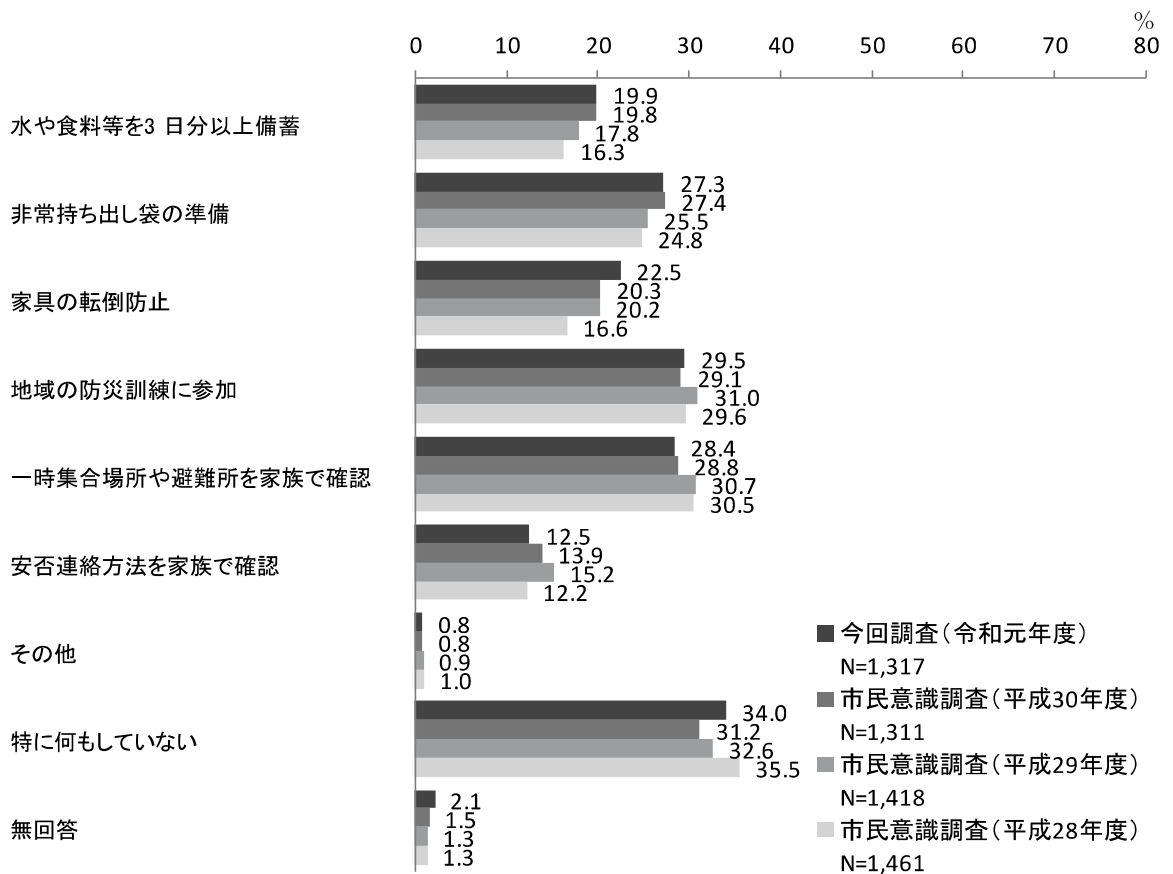
単位：%

区 分	有効回答数 (件)	本数を 増やして ほしい	J R 琵琶 湖線との 接続 改善	新幹線 (米原駅)との 接続 改善	バスとの 接続 改善	駅前 に駐車場・駐 輪場 を整備して ほしい	運賃の 値下げ	その他	無 回 答
平田地区	39	23.1	12.8	5.1	23.1	51.3	46.2	7.7	10.3
市辺地区	51	45.1	31.4	13.7	13.7	35.3	52.9	7.8	5.9
玉緒地区	62	32.3	29.0	21.0	22.6	54.8	59.7	8.1	4.8
御園地区	70	32.9	34.3	18.6	15.7	47.1	68.6	4.3	2.9
建部地区	36	19.4	19.4	8.3	8.3	55.6	55.6	5.6	8.3
中野地区	69	37.7	29.0	5.8	8.7	39.1	66.7	7.2	0.0
八日市地区	134	43.3	37.3	11.9	13.4	32.1	70.1	9.7	3.0
南部地区	54	42.6	29.6	11.1	18.5	51.9	66.7	3.7	1.9
永源寺地区	39	23.1	20.5	15.4	15.4	30.8	33.3	5.1	20.5
五個荘地区	151	33.1	34.4	7.3	19.9	29.8	61.6	7.9	6.6
愛東地区	56	21.4	21.4	12.5	32.1	41.1	48.2	16.1	5.4
湖東地区	85	20.0	31.8	7.1	20.0	42.4	50.6	4.7	11.8
能登川地区	296	20.6	30.7	3.7	17.9	18.2	52.0	11.5	14.5
蒲生地区	134	41.0	26.9	7.5	29.9	37.3	61.9	10.4	3.0
わからない	18	44.4	33.3	33.3	22.2	33.3	66.7	16.7	0.0

問 36 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

3割が災害への備えを「特に何もしていない」

- ・ 災害への備えについては、「特に何もしていない」が34.0%と最も多く、次いで「地域の防災訓練に参加」が29.5%、「一時集合場所や避難所を家族で確認」が28.4%、「非常持ち出し袋の準備」が27.3%、「家具の転倒防止」が22.5%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、「家具の転倒防止」、「水や食料等を3日分以上備蓄」などの割合が年々増加し、「特に何もしていない」の割合は減少傾向にありましたが、今回の調査ではやや増加しました。
- ・ 性別では、男女ともに「特に何もしていない」が最も多くあげられています。
- ・ 年代別では、40歳代までは「特に何もしていない」が、50歳代では「非常持ち出し袋の準備」が、60歳以上では「地域の防災訓練に参加」が最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、平田地区で「家具の転倒防止」が、愛東地区、永源寺地区、能登川地区、五個荘地区で「地域の防災訓練に参加」が、市辺地区、蒲生地区で「一時集合場所や避難所を家族で確認」が、そのほかの地区で「特に何もしていない」が最も多くあげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	その他	特に何もしていない	無回答
男性	617	17.7	25.1	24.0	34.0	30.0	13.1	1.0	34.5	2.1
女性	661	22.4	29.0	20.9	25.7	27.2	11.2	0.6	34.0	2.0

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	その他	特に何もしていない	無回答
10歳代	17	23.5	11.8	17.6	0.0	5.9	11.8	0.0	52.9	0.0
20歳代	89	13.5	18.0	14.6	5.6	20.2	10.1	1.1	53.9	0.0
30歳代	165	17.0	21.8	16.4	14.5	20.6	9.7	0.6	43.0	2.4
40歳代	177	25.4	23.7	23.7	17.5	20.3	10.2	1.1	39.0	0.0
50歳代	183	18.6	31.7	23.0	25.7	28.4	15.3	1.1	30.6	0.5
60歳代	310	20.0	28.4	23.2	44.2	34.5	13.2	0.3	29.0	2.6
70歳以上	358	21.2	31.8	26.0	39.7	34.1	13.7	1.1	27.4	3.4

【居住地区別】

単位:%

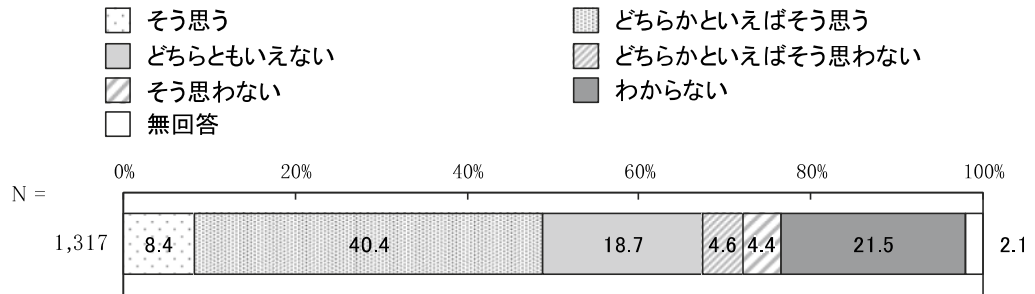
区分	有効回答数(件)	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	その他	特に何もしていない	無回答
平田地区	39	15.4	28.2	30.8	28.2	23.1	12.8	2.6	28.2	7.7
市辺地区	51	23.5	25.5	31.4	23.5	39.2	13.7	2.0	23.5	3.9
玉緒地区	62	25.8	25.8	22.6	27.4	24.2	14.5	1.6	37.1	0.0
御園地区	70	12.9	24.3	20.0	11.4	22.9	10.0	1.4	48.6	0.0
建部地区	36	11.1	16.7	11.1	36.1	30.6	5.6	0.0	47.2	0.0
中野地区	69	24.6	15.9	15.9	11.6	23.2	7.2	0.0	42.0	1.4
八日市地区	134	20.1	29.9	15.7	21.6	19.4	11.2	0.0	44.8	0.7
南部地区	54	14.8	33.3	22.2	25.9	24.1	5.6	0.0	37.0	0.0
永源寺地区	39	12.8	30.8	15.4	43.6	30.8	23.1	0.0	30.8	2.6
五個荘地区	151	23.8	22.5	28.5	36.4	27.8	12.6	0.7	25.8	2.6
愛東地区	56	14.3	32.1	17.9	46.4	26.8	10.7	0.0	30.4	5.4
湖東地区	85	15.3	20.0	20.0	34.1	23.5	14.1	0.0	38.8	3.5
能登川地区	296	22.0	34.1	25.7	37.5	36.5	13.5	1.4	27.7	2.4
蒲生地区	134	23.1	27.6	21.6	27.6	32.1	13.4	1.5	30.6	1.5
わからない	18	22.2	22.2	22.2	0.0	16.7	11.1	0.0	50.0	0.0

(5) 教育関連の取組について

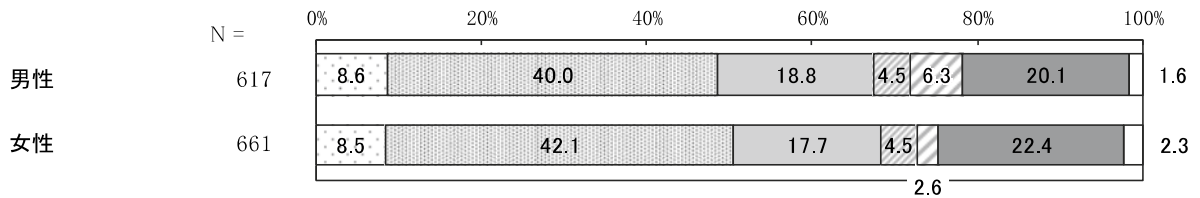
問 37 あなたは、東近江市は子育てをするのに良い環境であると思いますか。《○1つ》

半数近くが子育てをするのに良い環境だと思っている

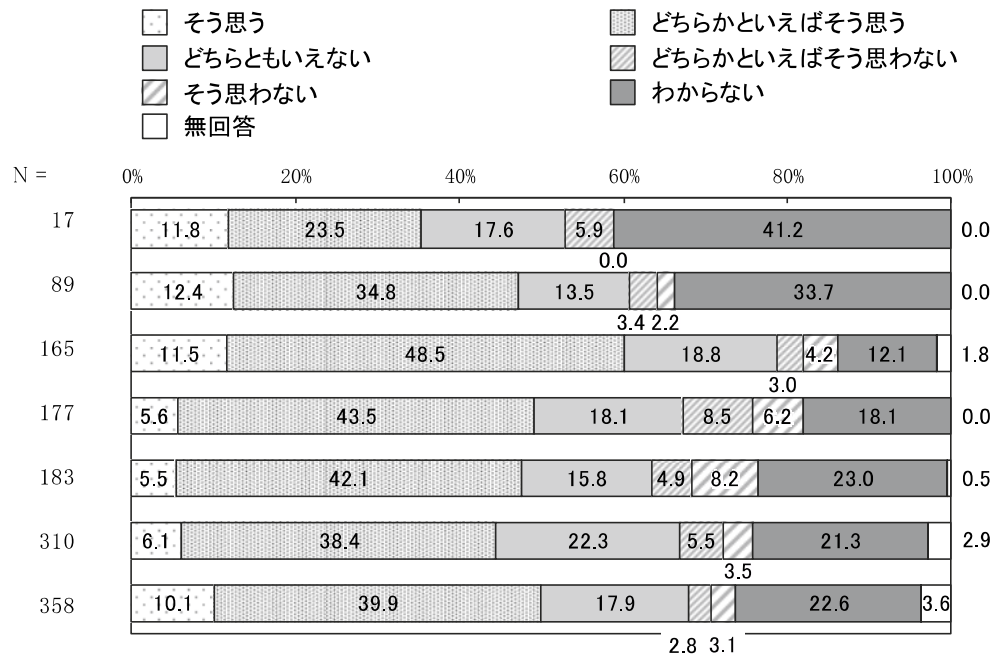
- ・ 東近江市が子育てをするのに良い環境かどうかについては、「そう思う」が 8.4%、「どちらかといえばそう思う」が 40.4%で、これらを合わせると 48.8%となり、半数近くの人が子育てをするのに良い環境であると思うと回答しています。
- ・ 一方で、4割が「わからない」又は「どちらともいえない」と回答しています。
- ・ 年代別では、30歳代は6割が子育てをするのに良い環境だと思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答しています。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、湖東地区、中野地区は6割近くが子育てをするのに良い環境だと思っている（前述）のに対し、玉緒地区は3割となっています。



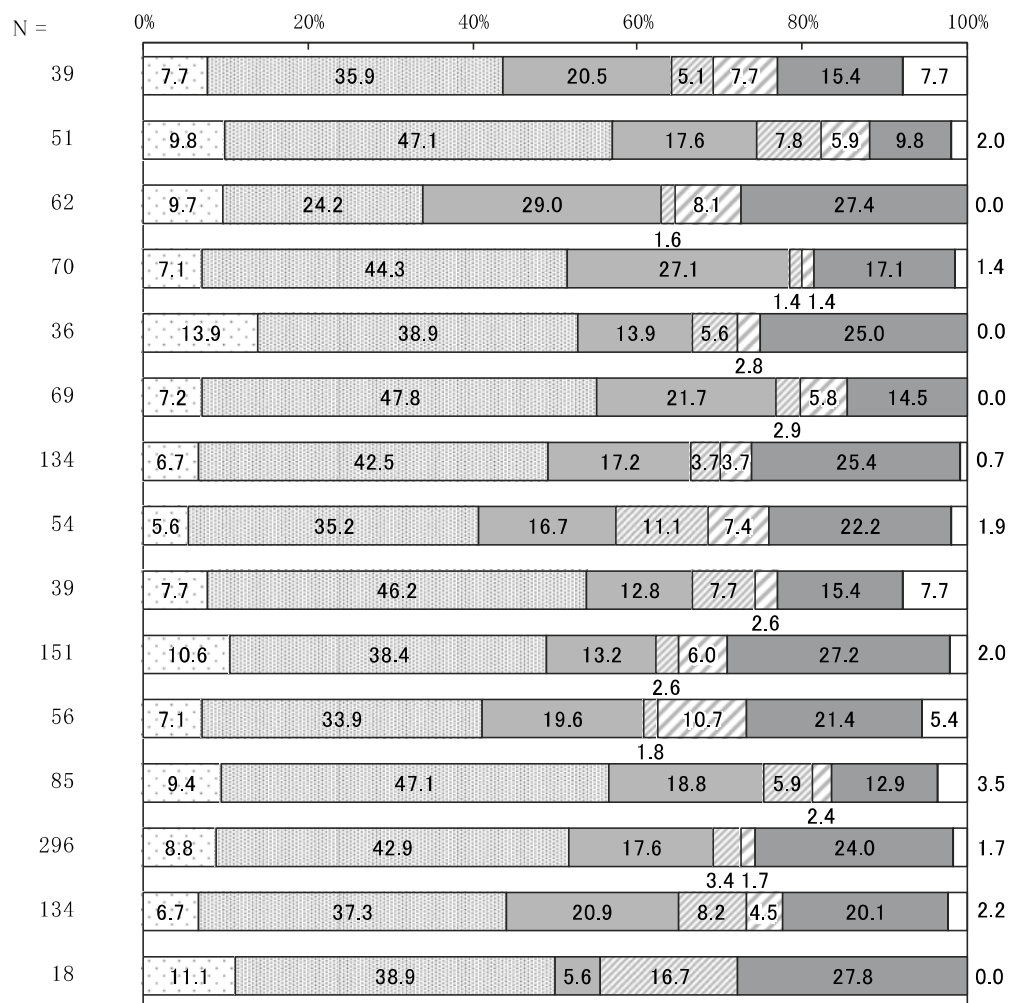
【性別】



【年代別】



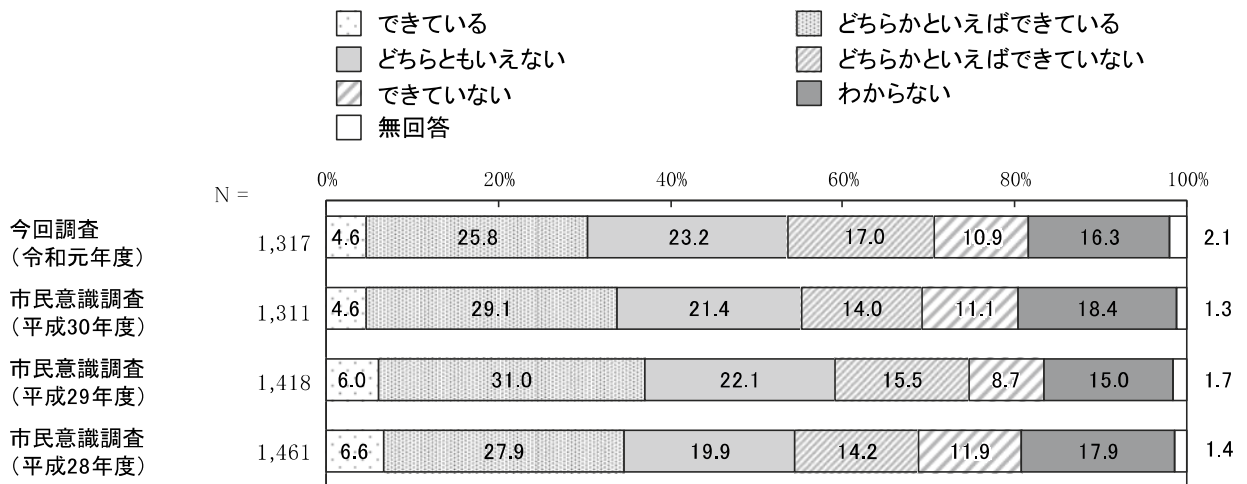
【居住地区別】



問 38 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

3割が通学路の安全は確保できている

- ・ 通学路の安全確保については、「できている」と「どちらかといえばできている」を合わせると30.4%となり、3割の人ができていると考えています。「どちらかといえばできていない」と「できていない」を合わせると27.9%であり、通学路の安全確保はできていると考えている人の割合がやや高くなっています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では30～40歳代と60歳代で、通学路の安全確保ができていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）と考えている人が、できている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）と考えている人より多くなっています。一方、10歳代と70歳以上で通学路の安全確保ができている（前述）と考えている人が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、南部地区、市辺地区できている（前述）と考えている人が、湖東地区、蒲生地区でできていない（前述）と考えている人が多くなっています。



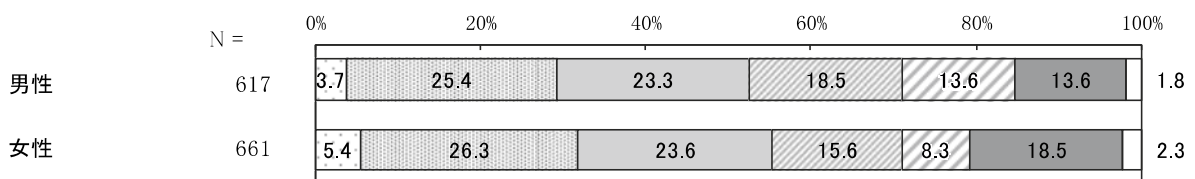
単位：%

	できている	できていない	差
①今回調査(令和元年度)	30.4	27.9	2.5
②市民意識調査(平成30年度)	33.7	25.1	8.6
③市民意識調査(平成29年度)	37.0	24.2	12.8
④市民意識調査(平成28年度)	34.5	26.1	8.4
①-④	-4.1	1.8	-5.9

* できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

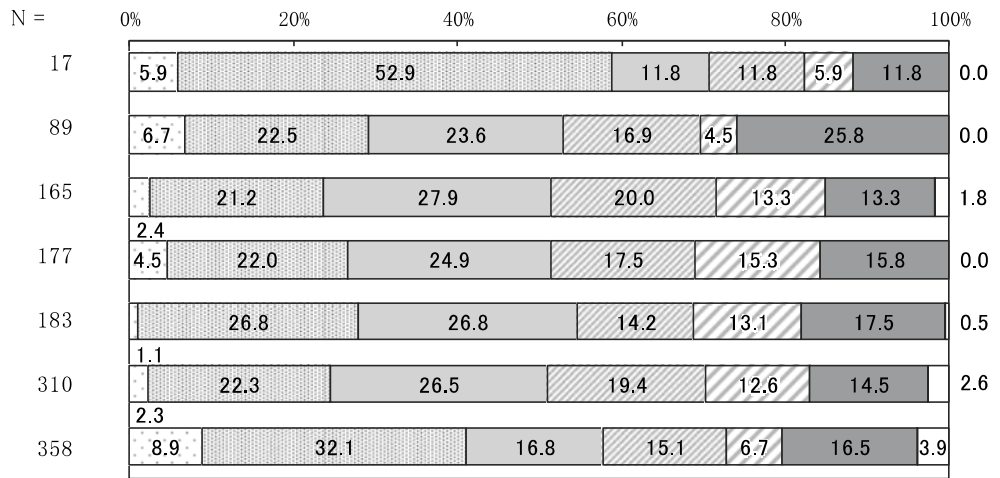
* できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計

【性別】

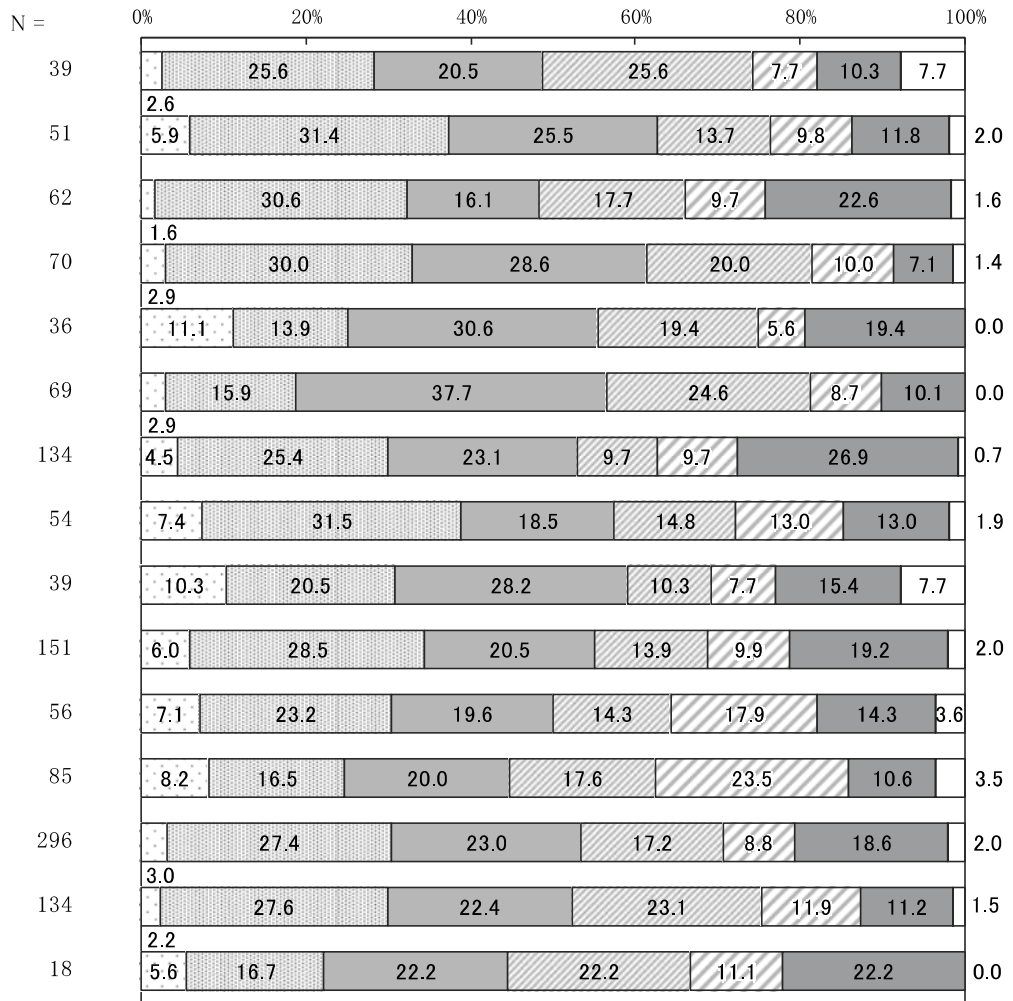


【年代別】

- できている
- どちらともいえない
- ▨ できていない
- 無回答
- ▨ どちらかといえばできている
- ▨ どちらかといえばできていない
- わからない



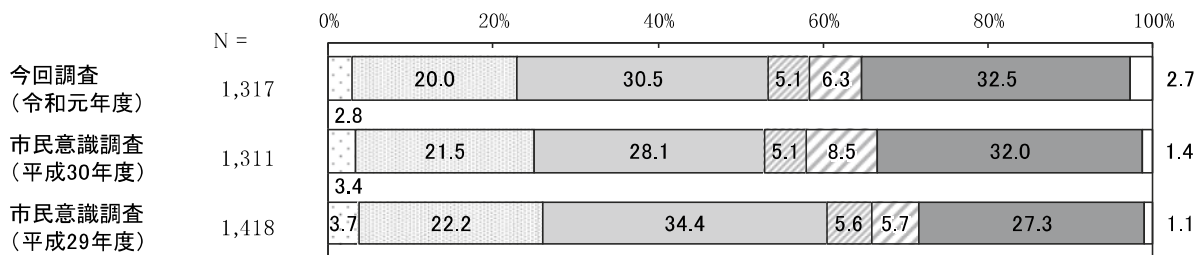
【居住地区別】



問 39 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

人権が尊重されるまちになっていると思う人は2割、3割が「わからない」

- ・ 東近江市は人権が尊重されるまちになっていると思う人（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合は22.8%で、そう思わない人（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合（11.4%）より高くなっています。
- ・ 一方、人権が尊重されるまちになっているか「わからない」と回答した人は、32.5%と最も多くなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。
- ・ 年代別では10歳代で4割近く、70歳以上で3割、居住地区別では永源寺地区で4割、平田地区、御園地区で3割が、人権が尊重されるまちになっている（前述）と回答しています。



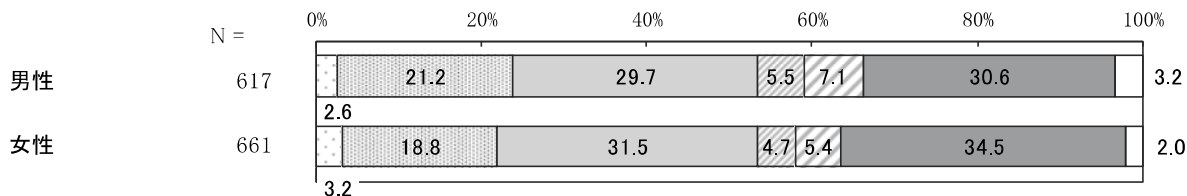
単位：%

	そう思う	そう思わない	差
①今回調査(令和元年度)	22.8	11.4	11.4
②市民意識調査(平成30年度)	24.9	13.6	11.3
③市民意識調査(平成29年度)	25.9	11.3	14.6
①-③	-3.1	0.1	-3.2

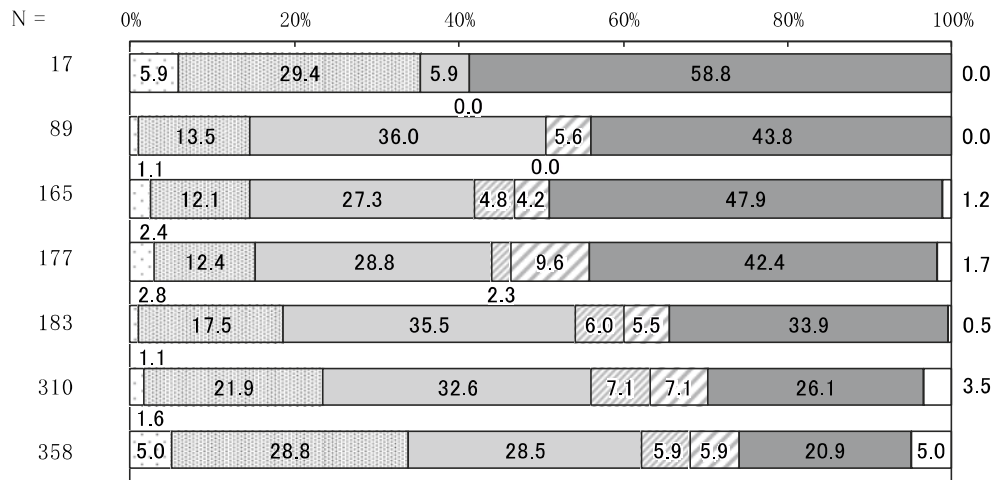
* そう思う:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

* そう思わない:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

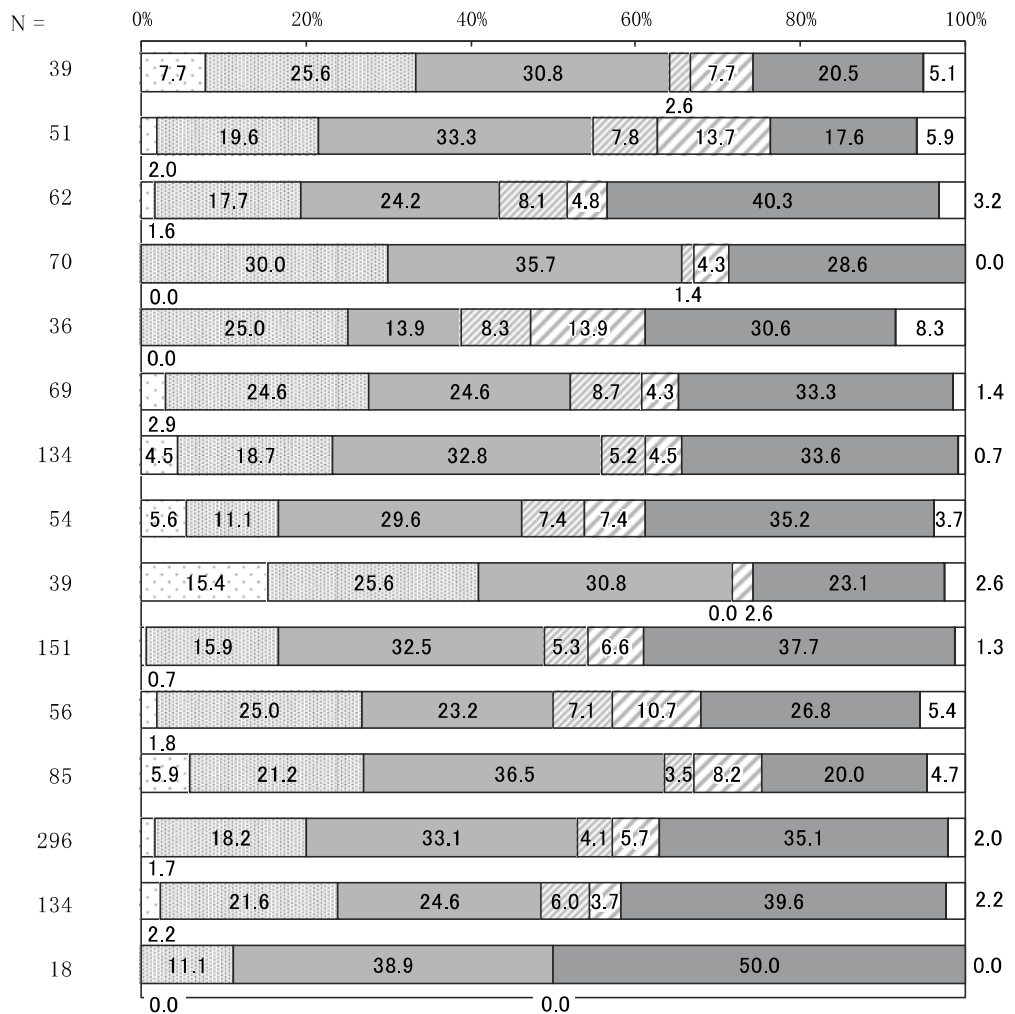
【性別】



【年代別】



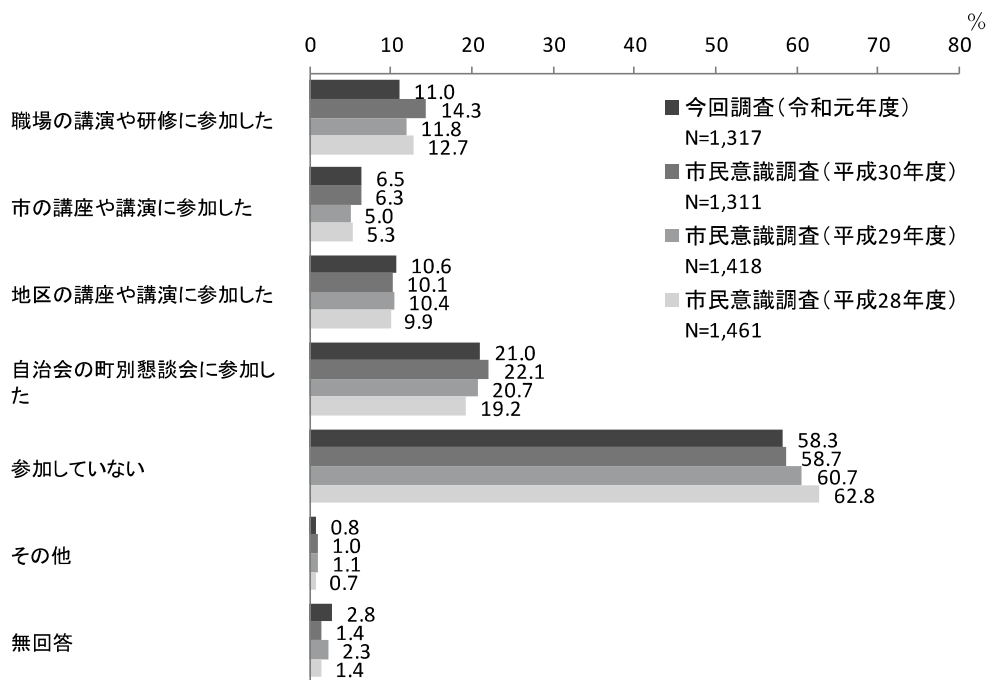
【居住地区別】



問 40 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

講座や講演、研修等に参加していない人が6割近く

- ・ この1年間に人権に関する講座や講演、研修等に参加したかどうかについては、「参加していない」が58.3%、無回答が2.8%で、参加した人の割合は38.9%となります。参加した講座等の内容は、「自治会の町別懇談会」が21.0%と最も多く、次いで「職場の講演や研修」が11.0%、「地区の講座や講演」が10.6%、「市の講座や講演」が6.5%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、「参加していない」の割合は徐々に減少しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、すべて「参加していない」が最も多くなっています。
- ・ 性別では、女性より男性で人権に関する講座等に参加した人の割合が高く、自治会の町別懇談会などへの参加が多くみられます。
- ・ 年代別では、年齢が上がるほど人権に関する講座等に参加した人の割合が高く、自治会の町別懇談会、地区の講座や講演などへの参加割合が高くなる傾向がみられます。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	職場の講演や研修に参加した	市の講座や講演に参加した	地区の講座や講演に参加した	自治会の町別懇談会に参加した	参加していない	その他	無回答
男性	617	10.9	5.5	12.3	26.1	53.6	1.0	3.6
女性	661	11.3	7.1	8.8	16.8	63.1	0.6	1.8

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	職場の講演や研修に参加した	市の講座や講演に参加した	地区の講座や講演に参加した	自治会の町別懇談会に参加した	参加していない	その他	無回答
10歳代	17	11.8	0.0	0.0	0.0	88.2	0.0	0.0
20歳代	89	19.1	3.4	2.2	1.1	77.5	0.0	0.0
30歳代	165	12.7	3.0	1.8	4.2	78.8	0.6	1.2
40歳代	177	15.8	3.4	5.6	12.4	65.5	1.1	1.7
50歳代	183	17.5	8.2	7.1	15.8	61.2	1.6	0.5
60歳代	310	10.6	8.4	15.8	31.6	47.7	0.6	3.5
70歳以上	358	3.1	7.8	17.0	33.0	46.6	0.8	5.3

【居住地区別】

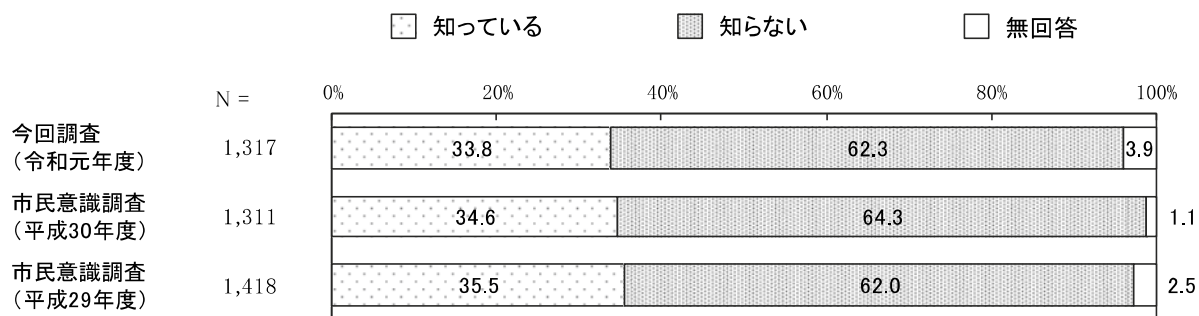
単位:%

区分	有効回答数(件)	職場の講演や研修に参加した	市の講座や講演に参加した	地区の講座や講演に参加した	自治会の町別懇談会に参加した	参加していない	その他	無回答
平田地区	39	7.7	5.1	10.3	25.6	56.4	2.6	5.1
市辺地区	51	15.7	7.8	13.7	31.4	45.1	0.0	7.8
玉緒地区	62	9.7	1.6	12.9	19.4	62.9	1.6	4.8
御園地区	70	12.9	12.9	11.4	17.1	54.3	2.9	1.4
建部地区	36	8.3	2.8	8.3	38.9	50.0	0.0	5.6
中野地区	69	4.3	5.8	8.7	18.8	65.2	0.0	1.4
八日市地区	134	11.2	10.4	9.0	15.7	64.2	0.0	0.7
南部地区	54	14.8	9.3	5.6	11.1	64.8	1.9	3.7
永源寺地区	39	10.3	0.0	7.7	25.6	61.5	2.6	2.6
五個荘地区	151	8.6	6.0	11.9	20.5	65.6	0.7	0.7
愛東地区	56	14.3	5.4	21.4	21.4	50.0	0.0	5.4
湖東地区	85	7.1	9.4	9.4	31.8	50.6	0.0	3.5
能登川地区	296	11.5	5.4	11.1	22.0	55.7	1.0	2.4
蒲生地区	134	14.9	4.5	9.7	19.4	56.0	0.7	2.2
わからない	18	5.6	5.6	5.6	5.6	83.3	0.0	0.0

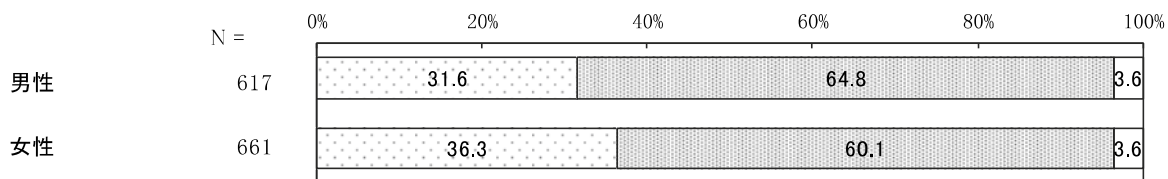
問 41 あなたは、オレンジリボンが児童虐待防止のシンボルマークであると知っていますか。
《○1つ》

認知度は3割、6割が「知らない」

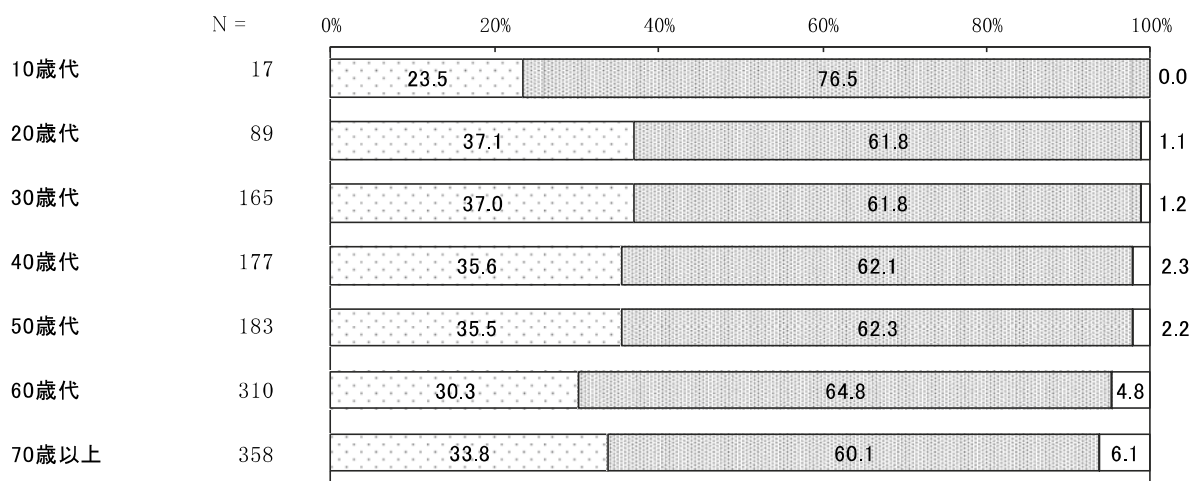
- ・ オレンジリボン(児童虐待防止のシンボルマーク)の認知度については、「知っている」が33.8%、「知らない」が62.3%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では20～50歳代で、居住地区別では市辺地区、八日市地区、中野地区で、認知度が高くなっています。



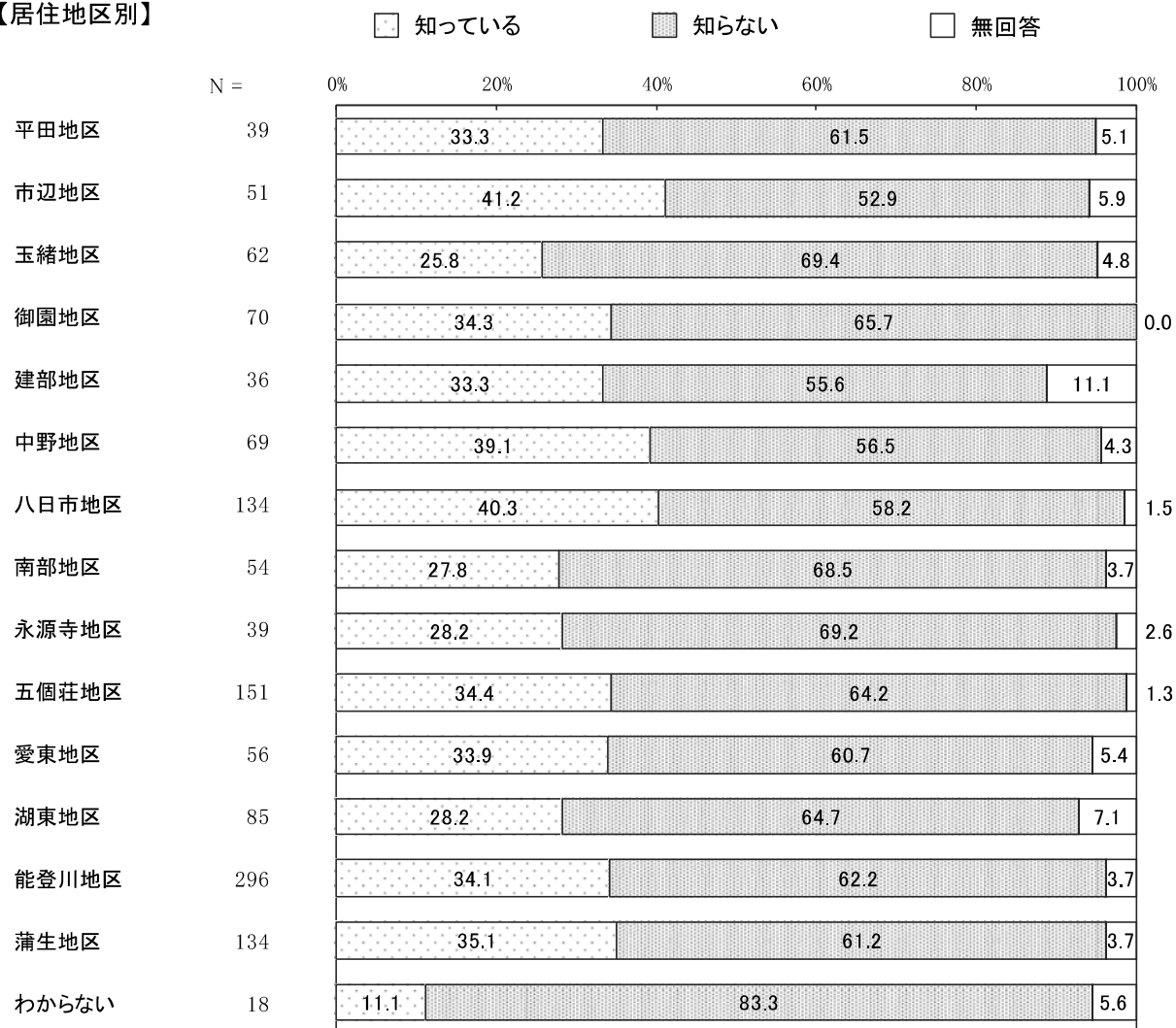
【性別】



【年代別】



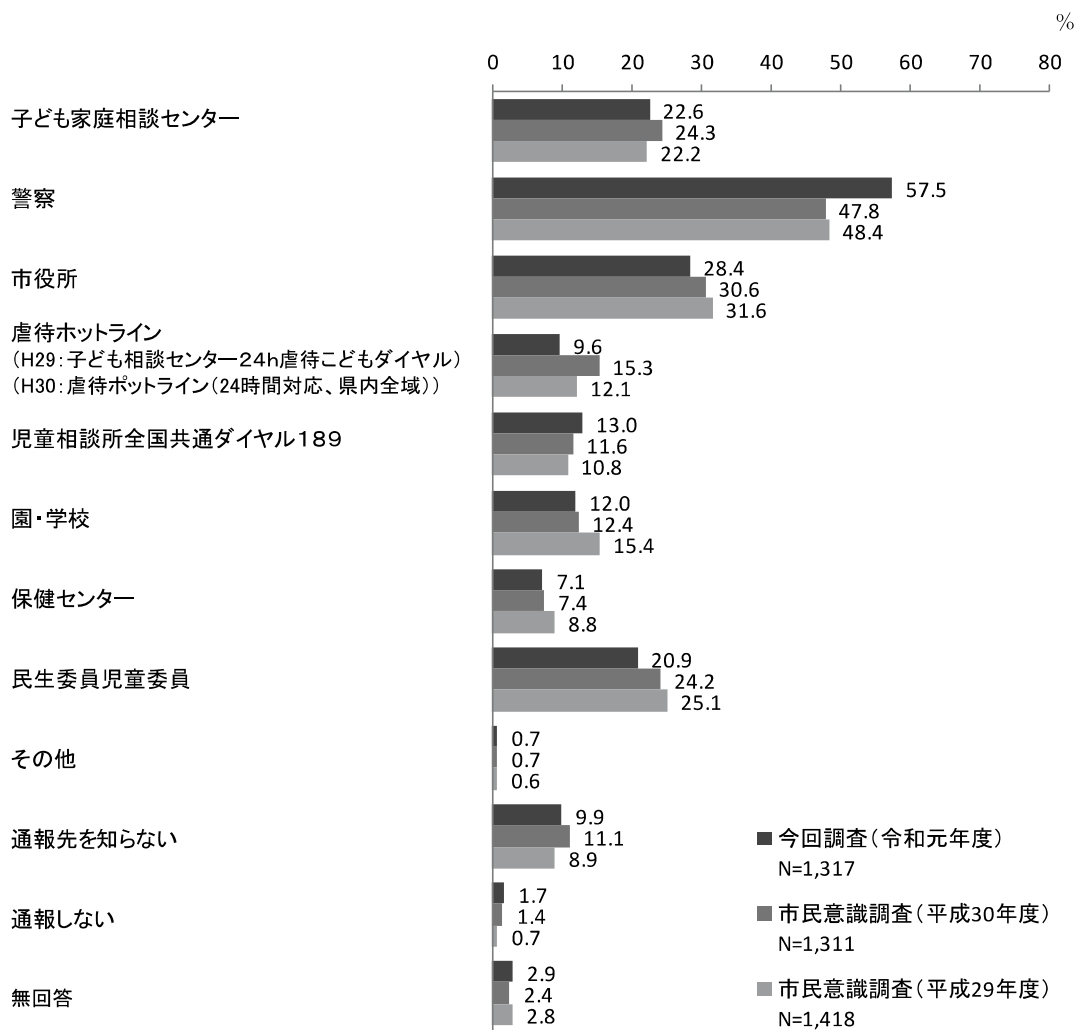
【居住地区別】



問 42 あなたは、児童虐待が疑われるときに、どこに通報しますか。《あてはまるものすべてに○》

通報先は、警察、市役所、子ども家庭相談センター、民生委員児童委員等

- ・ 児童虐待が疑われるときの通報先については、「警察」が57.5%と最も多く、次いで「市役所」が28.4%、「子ども家庭相談センター」が22.6%、「民生委員児童委員」が20.9%と続きます。一方、「通報先を知らない」は9.9%と1割弱、「通報しない」は1.7%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、今回「警察」の割合が大きく増加しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、すべて「警察」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、「警察」は10～20歳代で、「市役所」は50歳以上で、「児童相談所全国共通ダイヤル189」と「保健センター」は20～30歳代で、「民生委員児童委員」は70歳以上でほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、「警察」は玉緒地区、南部地区で7割前後みられ、永源寺地区、愛東地区は「民生委員児童委員」もほかの地区より多くあげられています。一方、建部地区では「通報先を知らない」が2割とほかの地区より多くみられます。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	子ども家庭相談センター	警察	市役所	虐待ホットライン	児童相談所全国共通ダイヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
男性	617	22.7	60.9	28.8	7.8	11.7	12.0	5.2	21.7	0.8	9.2	1.5	3.6
女性	661	23.0	53.7	28.4	11.2	14.4	12.3	9.4	20.1	0.6	11.0	1.7	1.7

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	子ども家庭相談センター	警察	市役所	虐待ホットライン	児童相談所全国共通ダイヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
10歳代	17	17.6	70.6	17.6	0.0	11.8	11.8	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	5.9
20歳代	89	23.6	70.8	14.6	14.6	24.7	15.7	12.4	2.2	0.0	10.1	1.1	0.0
30歳代	165	24.2	54.5	20.6	12.1	21.2	12.7	13.9	3.6	0.6	13.3	2.4	1.2
40歳代	177	20.9	60.5	23.2	13.0	9.0	15.8	6.8	7.3	0.6	11.9	2.8	1.7
50歳代	183	20.2	62.8	30.1	11.5	11.5	8.7	5.5	14.8	0.5	9.8	1.6	0.5
60歳代	310	23.9	54.5	34.5	7.7	13.2	9.7	5.8	28.1	1.3	10.3	1.6	3.2
70歳以上	358	23.5	53.1	33.0	6.4	9.5	12.8	5.6	38.3	0.6	7.0	0.6	5.3

【居住地区別】

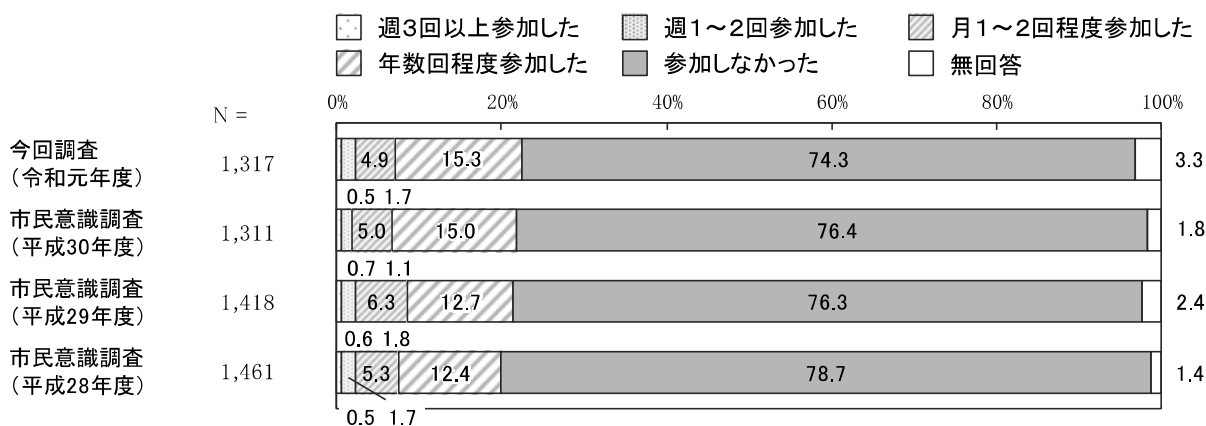
単位:%

区分	有効回答数(件)	子ども家庭相談センター	警察	市役所	虐待ホットライン	児童相談所全国共通ダイヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
平田地区	39	23.1	59.0	28.2	7.7	7.7	17.9	10.3	17.9	0.0	10.3	2.6	5.1
市辺地区	51	23.5	51.0	21.6	13.7	9.8	15.7	9.8	23.5	0.0	5.9	2.0	5.9
玉緒地区	62	9.7	71.0	30.6	3.2	12.9	6.5	1.6	17.7	0.0	11.3	0.0	3.2
御園地区	70	24.3	58.6	25.7	7.1	11.4	17.1	11.4	10.0	0.0	17.1	0.0	0.0
建部地区	36	22.2	47.2	33.3	11.1	11.1	5.6	2.8	22.2	0.0	22.2	2.8	2.8
中野地区	69	23.2	55.1	29.0	8.7	11.6	17.4	11.6	21.7	1.4	11.6	5.8	1.4
八日市地区	134	27.6	62.7	31.3	14.2	15.7	9.0	5.2	12.7	0.0	6.7	1.5	0.7
南部地区	54	18.5	66.7	24.1	7.4	9.3	9.3	7.4	18.5	0.0	11.1	0.0	1.9
永源寺地区	39	17.9	61.5	20.5	7.7	7.7	20.5	7.7	38.5	0.0	7.7	0.0	0.0
五個荘地区	151	25.2	61.6	28.5	11.9	13.2	10.6	7.3	23.8	0.7	7.3	0.0	2.0
愛東地区	56	17.9	57.1	30.4	5.4	10.7	10.7	3.6	30.4	3.6	10.7	0.0	5.4
湖東地区	85	21.2	49.4	28.2	5.9	10.6	15.3	7.1	22.4	0.0	8.2	2.4	4.7
能登川地区	296	23.3	54.4	29.4	10.8	15.9	11.1	7.4	26.0	1.0	9.1	2.4	3.0
蒲生地区	134	23.9	53.0	30.6	8.2	13.4	11.2	5.2	16.4	0.7	13.4	1.5	3.0
わからない	18	16.7	66.7	22.2	11.1	16.7	11.1	16.7	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0

問 43 あなたは、この1年間にコミュニティセンター等で趣味的なもの（音楽・美術等）や教養的なもの（文学・歴史等）の活動に参加しましたか。《○1つ》

2割が「参加した」、8割近くが「参加しなかった」

- ・ この1年間に音楽・美術等や文学・歴史等の活動に参加したかについては、「参加しなかった」が74.3%と最も多くなっています。次いで「年数回程度参加した」が15.3%、「月1～2回程度参加した」が4.9%と続き、音楽・美術等や文学・歴史等の活動に参加した人は22.4%と、2割みられます。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、参加しなかった人の割合は減少し、参加した人の割合は少しずつ増加しています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では10～20歳代で、居住地区別では八日市地区、五個荘地区、永源寺地区、愛東地区、中野地区、蒲生地区、湖東地区で、「参加しなかった」人が多くみられます。

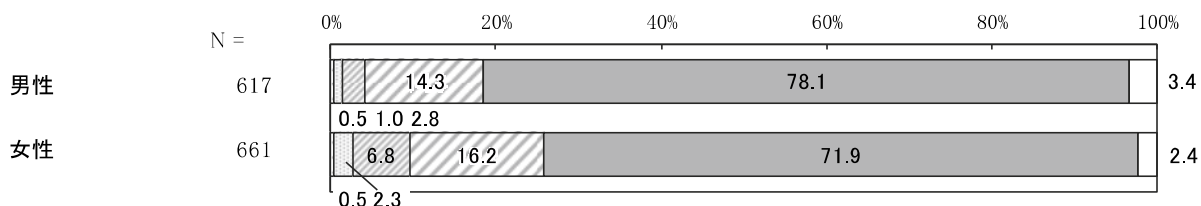


単位：%

	参加	参加しなかった	差
①今回調査(令和元年度)	22.4	74.3	-51.9
②市民意識調査(平成30年度)	21.8	76.4	-54.6
③市民意識調査(平成29年度)	21.4	76.3	-54.9
④市民意識調査(平成28年度)	19.9	78.7	-58.8
①-④	2.5	-4.4	6.9

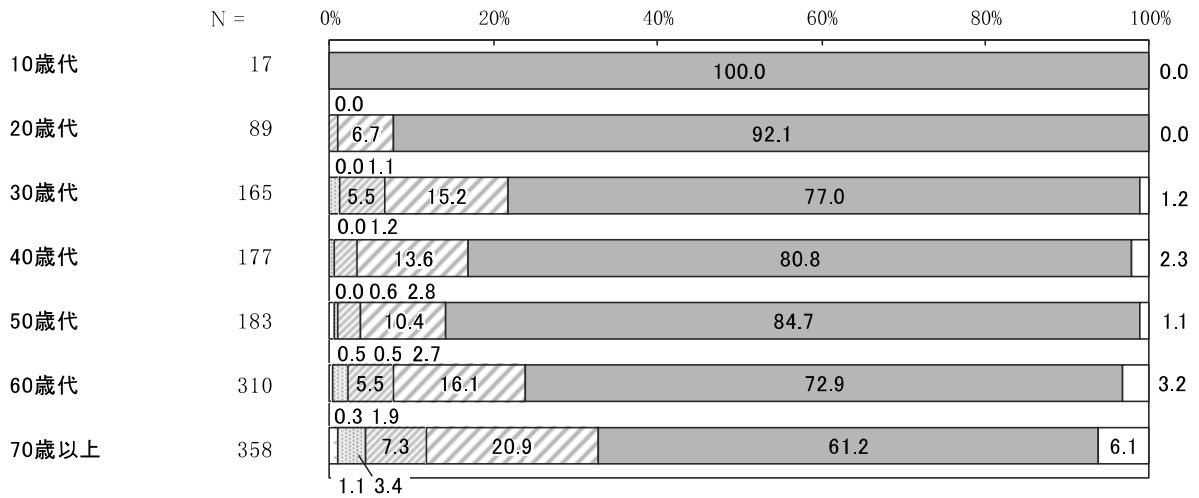
* 参加:「週3回以上参加した」「週1～2回参加した」「月1～2回程度参加した」「年数回程度参加した」の合計

【性別】

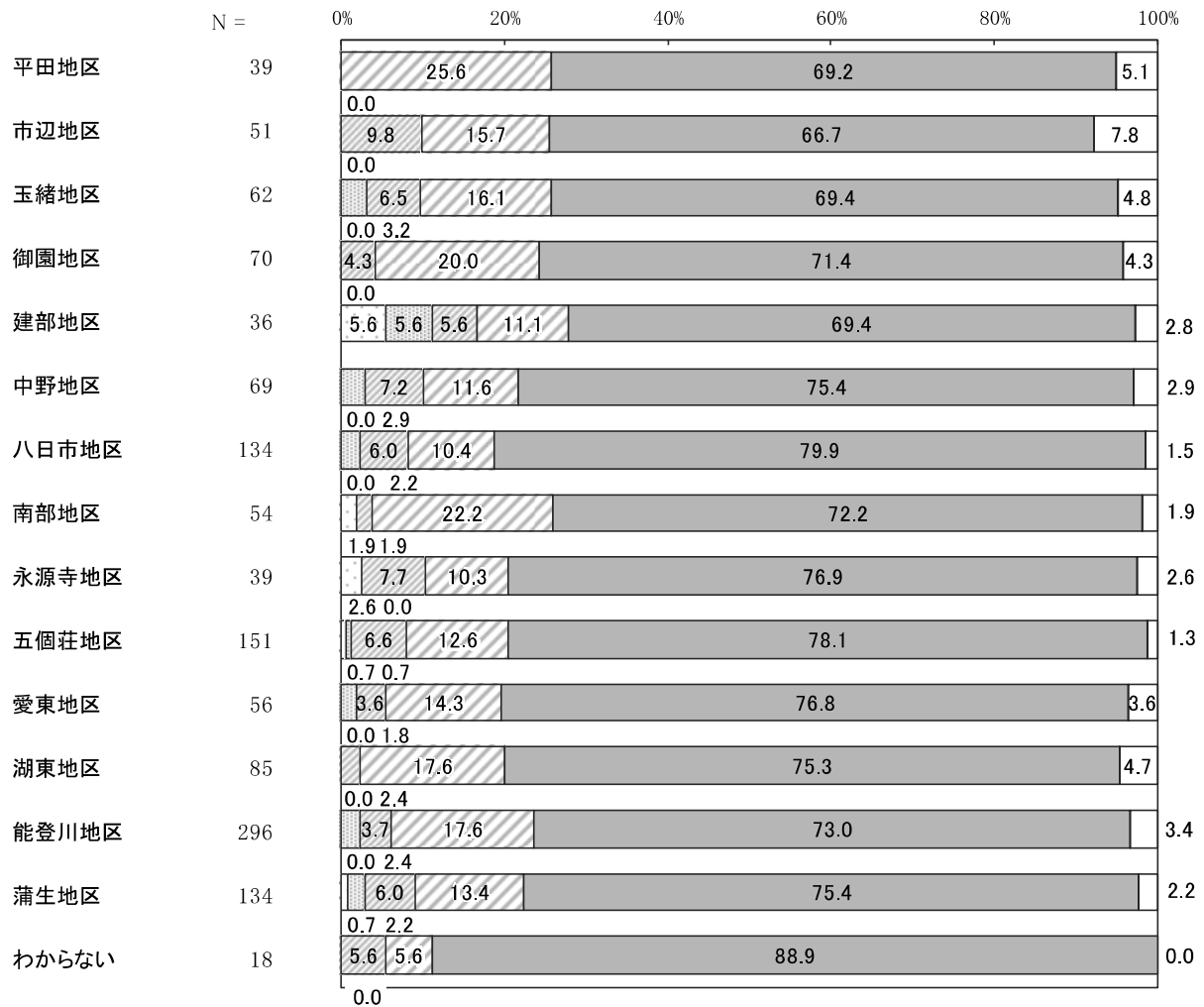


【年代別】

週3回以上参加した
 週1～2回参加した
 月1～2回程度参加した
 年数回程度参加した
 参加しなかった
 無回答



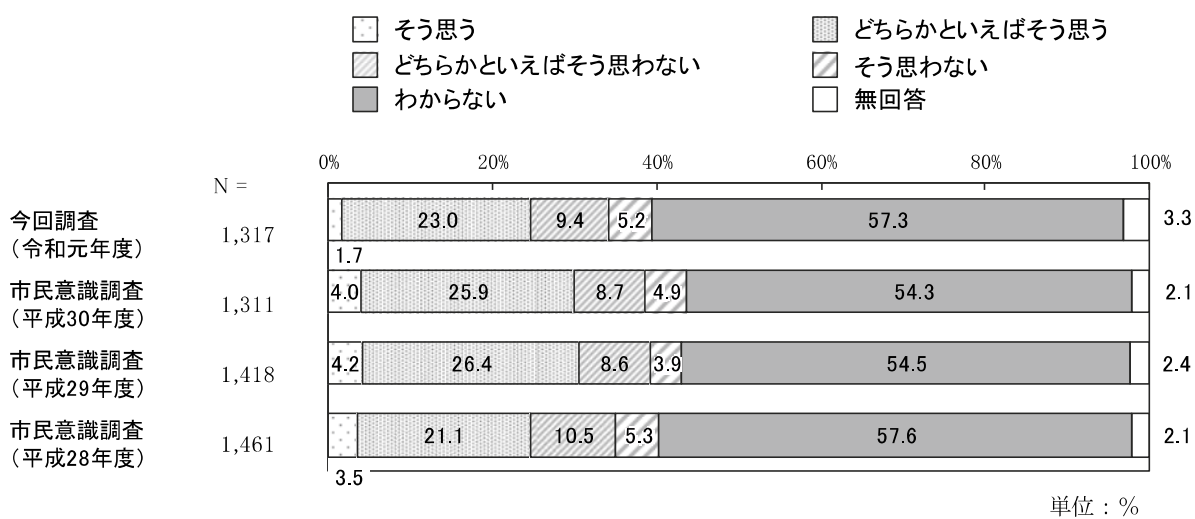
【居住地区別】



問 44 あなたは、東近江市において青少年健全育成の取組ができていると思いますか。《○1つ》

2割が「取組がなされている」、6割が「わからない」

- ・ 青少年健全育成の取組がなされていると思うかについては、「わからない」が57.3%と最も多くなっています。「そう思う」が1.7%、「どちらかといえばそう思う」が23.0%で、これらを合わせると24.7%となり、取組がなされていると回答した人は2割みられます。一方、そう思わない人（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は14.6%となっています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では40歳代と70歳以上で、居住地区別では平田地区、蒲生地区で、青少年の健全育成の取組がなされていると思う人（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が多くみられます。

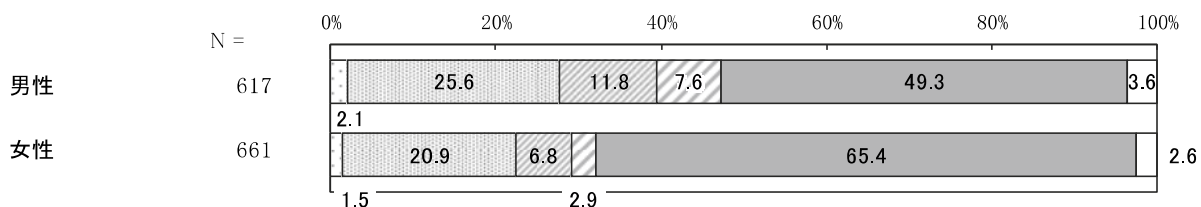


	そう思う	そう思わない	差
①今回調査(令和元年度)	24.7	14.6	10.1
②市民意識調査(平成30年度)	29.9	13.6	16.3
③市民意識調査(平成29年度)	30.6	12.5	18.1
④市民意識調査(平成28年度)	24.6	15.8	8.8
①-④	0.1	-1.2	1.3

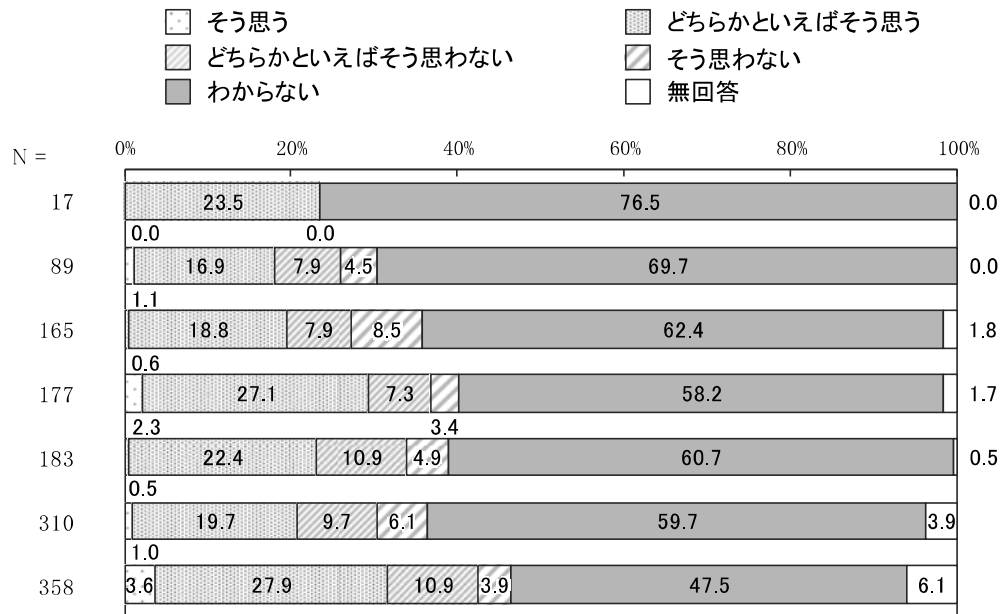
* そう思う:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

* そう思わない:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

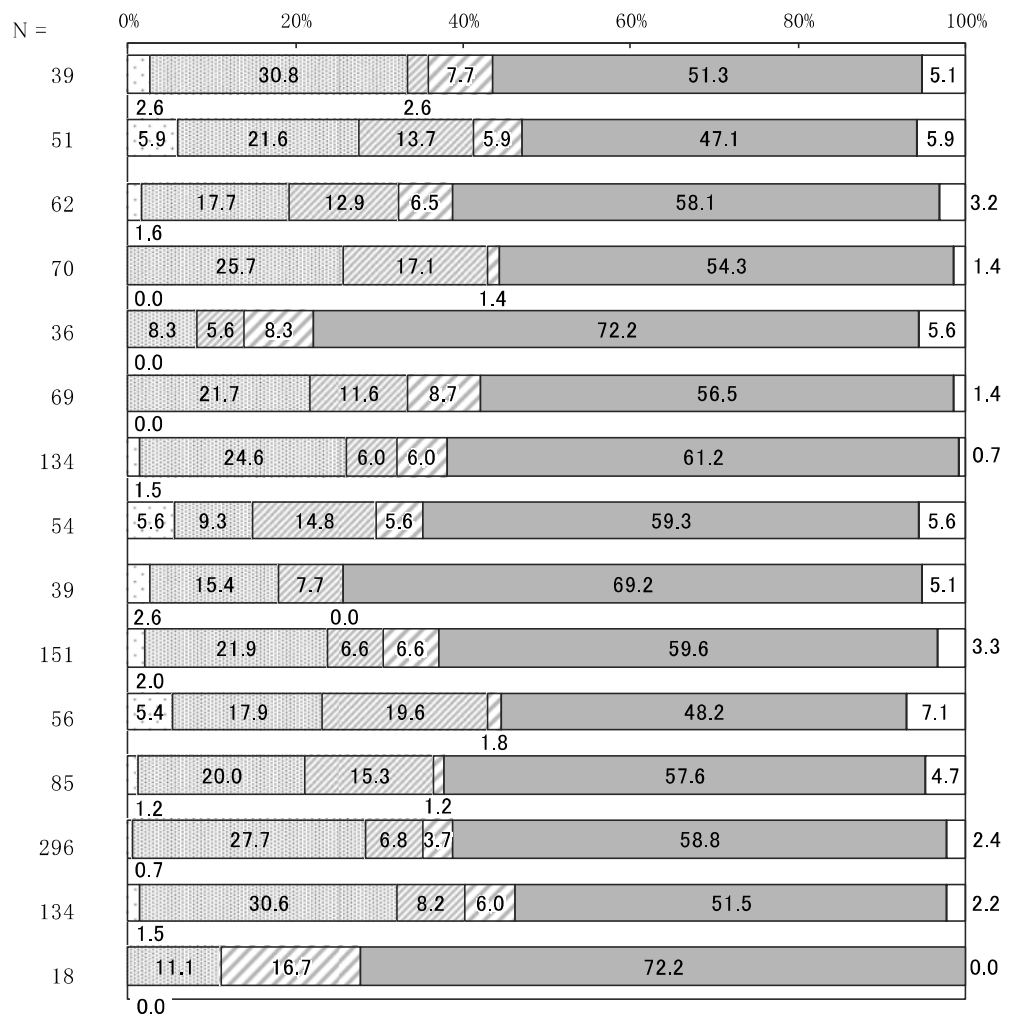
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

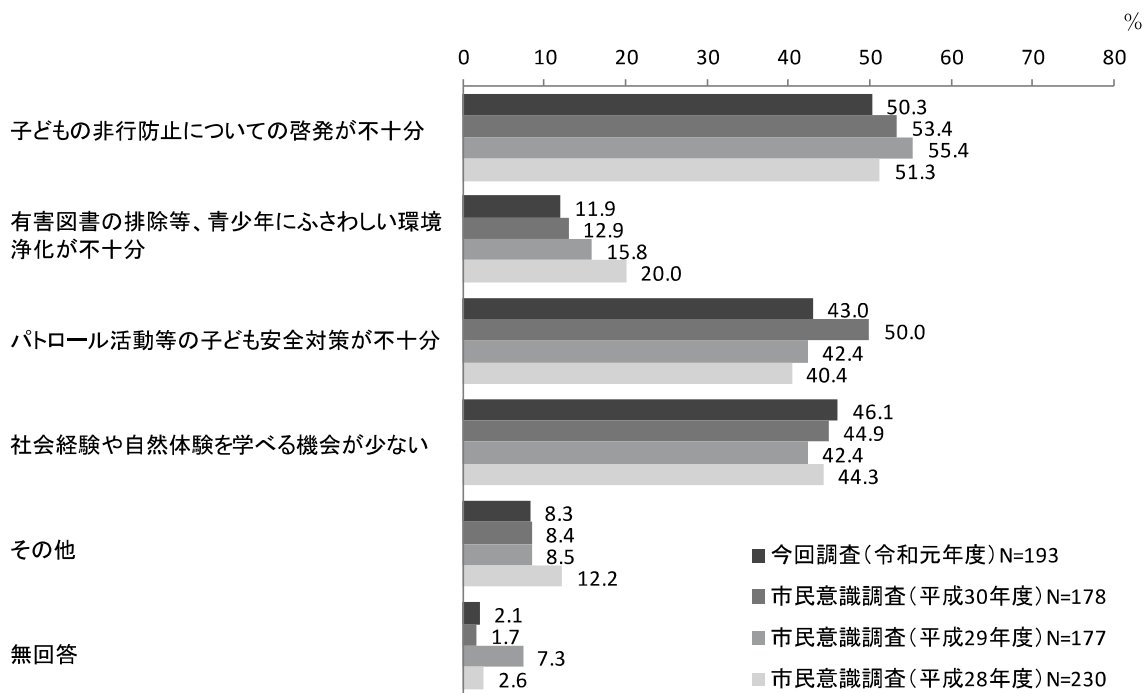


問 44-1 問 44 で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」とお答えの方にお
たずねします。

その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

青少年健全育成の取組がなされていないと思う理由は「子どもの非行防止についての啓発が不十分」

- ・ 青少年健全育成の取組がなされていないと思う理由としては、「子どもの非行防止についての啓発が不十分」が 50.3%と最も多く、次いで「社会経験や自然体験を学べる機会が少ない」が 46.1%、「パトロール活動等の子ども安全対策が不十分」が 43.0%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、「社会経験や自然体験を学べる機会が少ない」の割合が増加する一方で、「子どもの非行防止についての啓発が不十分」や「有害図書の排除等、青少年にふさわしい環境浄化が不十分」の割合が減少しています。
- ・ 性別では、男性は「子どもの非行防止についての啓発が不十分」が、女性は「社会経験や自然体験を学べる機会が少ない」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、60 歳代を除いて「子どもの非行防止についての啓発が不十分」が、60 歳代は「社会経験や自然体験を学べる機会が少ない」が、40 歳代と 70 歳以上は、その両方が最も多くなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	子どもの非行防止についての啓発が不十分	少年にふさわしい環境浄化が不十分	有害図書等の排除等、青少年にふさわしい環境	子ども安全対策が不十分	パトロール活動等の子ども安全対策が不十分	学べる機会が少ない	社会経験や自然体験を学べる機会が少ない	その他	無回答
男性	120	54.2	13.3	38.3	44.2	9.2	1.7			
女性	64	40.6	7.8	48.4	53.1	6.3	3.1			

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	子どもの非行防止についての啓発が不十分	少年にふさわしい環境浄化が不十分	有害図書等の排除等、青少年にふさわしい環境	子ども安全対策が不十分	パトロール活動等の子ども安全対策が不十分	学べる機会が少ない	社会経験や自然体験を学べる機会が少ない	その他	無回答
10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	11	63.6	18.2	36.4	36.4	0.0	0.0			
30歳代	27	59.3	11.1	33.3	40.7	14.8	0.0			
40歳代	19	52.6	26.3	42.1	52.6	5.3	0.0			
50歳代	29	62.1	6.9	44.8	34.5	10.3	6.9			
60歳代	49	32.7	10.2	44.9	49.0	8.2	2.0			
70歳以上	53	54.7	9.4	47.2	54.7	5.7	0.0			

【居住地区別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	子どもの非行防止についての啓発が不十分	少年にふさわしい環境浄化が不十分	有害図書等の排除等、青少年にふさわしい環境	子ども安全対策が不十分	パトロール活動等の子ども安全対策が不十分	学べる機会が少ない	社会経験や自然体験を学べる機会が少ない	その他	無回答
平田地区	4	75.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0			
市辺地区	10	70.0	10.0	50.0	30.0	10.0	0.0			
玉緒地区	12	50.0	8.3	66.7	8.3	8.3	0.0			
御園地区	13	53.8	15.4	30.8	38.5	0.0	7.7			
建部地区	5	20.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0			
中野地区	14	64.3	7.1	50.0	28.6	7.1	0.0			
八日市地区	16	68.8	12.5	50.0	50.0	12.5	0.0			
南部地区	11	54.5	9.1	27.3	63.6	9.1	0.0			
永源寺地区	3	33.3	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0			
五個荘地区	20	35.0	20.0	45.0	70.0	15.0	0.0			
愛東地区	12	25.0	16.7	25.0	58.3	0.0	8.3			
湖東地区	14	57.1	0.0	42.9	42.9	7.1	7.1			
能登川地区	31	45.2	9.7	51.6	45.2	3.2	0.0			
蒲生地区	19	52.6	15.8	31.6	57.9	15.8	5.3			
わからない	3	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0			

(6) 都市整備について

問 45 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

総合評価は、雨水排水、主要幹線道路、河川、地域の生活道路、公園の順

- ・ 都市基盤の整備に対する満足度については、満足（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）の割合と、不満（「どちらかといえば不満」と「不満」の合計）の割合を比べると、⑤公園の整備を除いていずれも満足の割合が高くなっています。
- ・ 満足（前述）とする人が多い順に並べると、①主要幹線道路の整備、②地域の生活道路の整備、④雨水排水の整備、⑤公園の整備、③河川の整備となっています。一方、不満（前述）とする人が多い項目は②地域の生活道路の整備、①主要幹線道路の整備と⑤公園の整備となっています。
- ・ 満足と不満の両方からみた総合的な評価（加重平均）の高い順は、④雨水排水の整備、①主要幹線道路の整備、③河川の整備、②地域の生活道路の整備、⑤公園の整備となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動はあるものの、すべての項目で評価が下がっています。

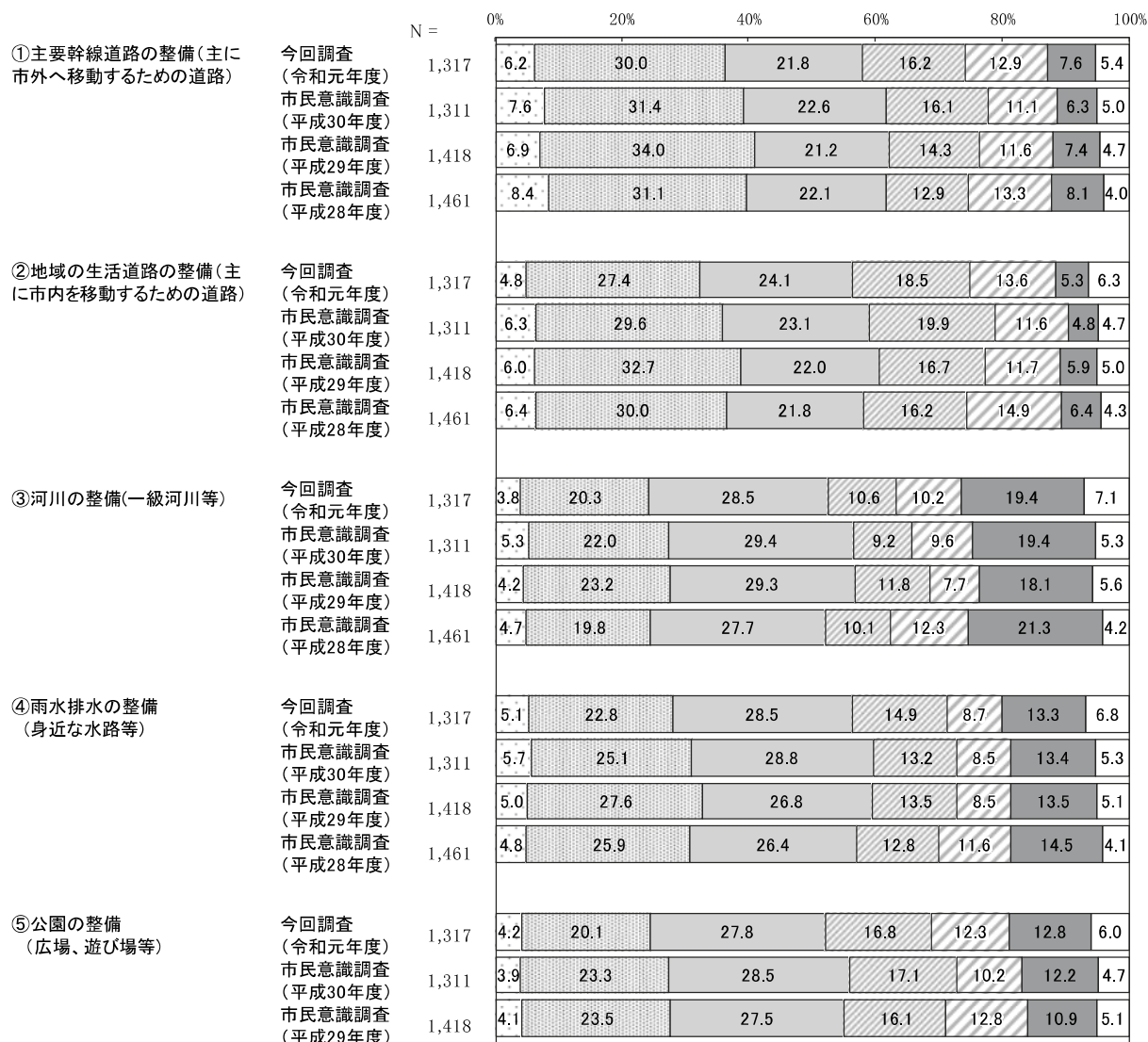
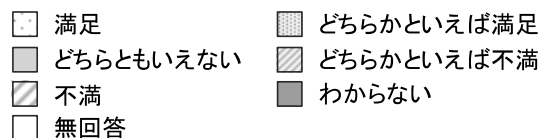
	満足		不満		加重平均
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	36.2%	(-2.8)	29.1%	(+1.9)	0.003
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	32.2%	(-3.7)	32.1%	(+0.6)	-0.087
③河川の整備(一級河川等)	24.1%	(-3.2)	20.8%	(+2.0)	-0.031
④雨水排水の整備(身近な水路等)	27.9%	(-2.9)	23.6%	(+1.9)	0.008
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	24.3%	(-2.9)	29.1%	(+1.8)	-0.129

* 満足:「満足」と「どちらかといえば満足」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

* 加重平均:「満足」は+2点、「どちらかといえば満足」は+1点、「どちらかといえば不満」は-1点、「不満」は-2点、「どちらともいえない」と「わからない」は0点として加算し、その平均値を出したもの。値が大きいほど満足度が高く、値が小さいほど満足度が低いといえる。

* 満足と不満の()内の数値は平成30年度調査との差を示している。



①主要幹線道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度(加重平均による総合評価、以下同様)が男性より高くなっています(男性はマイナス評価)。
- ・ 年代別では、40歳代までで年齢が若いほど満足度が高く、60歳代までで年齢が上がるほど満足度が低くなっています(50歳以上はマイナス評価)。
- ・ 居住地区別では、蒲生地区、玉緒地区、湖東地区で満足度が高く、特に南部地区、愛東地区、永源寺地区などで満足度が低く(マイナス評価)なっています。

②地域の生活道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています(男性はマイナス評価)。
- ・ 年代別では、30歳代までで年齢が若いほど満足度が高く、40歳以上で満足度が低く(マイナス評価)なっています。
- ・ 居住地区別では、玉緒地区、御園地区で満足度が高く、平田地区、中野地区、市辺地区、愛東地

区、建部地区、能登川地区などで満足度が低く（マイナス評価）なっています。

③河川の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、30歳代までで年齢が若いほど満足度が高く、40歳以上で満足度が低く（マイナス評価）なっています。
- ・ 居住地区別では、南部地区、市辺地区、建部地区で満足度が高く、玉緒地区、平田地区などで満足度が低く（マイナス評価）なっています。

④雨水排水の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、40歳代までで年齢が若いほど満足度が高く、50～60歳代で満足度が低く（マイナス評価）なっています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区、市辺地区で満足度が高く、中野地区、御園地区などで満足度が低く（マイナス評価）なっています。

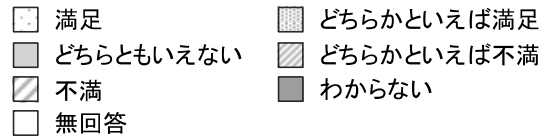
⑤公園の整備

- ・ 性別では、男女ともにマイナス評価ですが、男性の満足度が女性より低くなっています。
- ・ 年代別では、20歳代までは満足度が高くなっていますが、そのほかの年代では満足度が低く（マイナス評価）なっています。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、市辺地区、五個荘地区で満足度が高く、中野地区、玉緒地区、南部地区などで満足度が低く（マイナス評価）なっています。

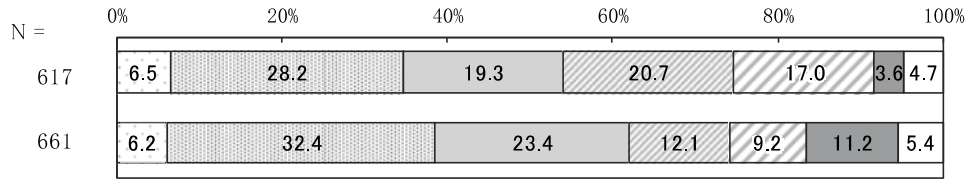
■性別・年代別・居住地区別の比較(加重平均)

	①主要幹線道路	②地域の生活道路	③河川	④雨水排水	⑤公園
全体	0.003	-0.087	-0.031	0.008	-0.129
男性	-0.136	-0.170	-0.139	-0.037	-0.169
女性	0.142	0.002	0.079	0.068	-0.079
10歳代	0.412	0.529	0.706	0.647	0.294
20歳代	0.404	0.270	0.393	0.360	0.213
30歳代	0.206	0.158	0.236	0.139	-0.067
40歳代	0.011	-0.186	-0.023	0.034	-0.192
50歳代	-0.077	-0.290	-0.137	-0.137	-0.257
60歳代	-0.171	-0.171	-0.177	-0.161	-0.242
70歳以上	-0.014	-0.087	-0.123	0.036	-0.073
平田地区	-0.077	-0.436	-0.154	0.103	-0.026
市辺地区	-0.039	-0.255	0.176	0.216	0.137
玉緒地区	0.113	0.161	-0.161	-0.016	-0.355
御園地区	0.057	0.100	-0.100	-0.200	0.043
建部地区	0.028	-0.222	0.167	0.000	-0.139
中野地区	-0.029	-0.333	-0.058	-0.275	-0.478
八日市地区	0.052	0.030	0.082	-0.030	-0.254
南部地区	-0.204	-0.148	0.222	-0.093	-0.352
永源寺地区	-0.103	0.077	-0.051	0.308	-0.077
五個荘地区	0.046	0.066	-0.046	0.040	0.132
愛東地区	-0.179	-0.232	-0.107	0.125	-0.268
湖東地区	0.094	-0.012	-0.094	0.165	0.141
能登川地区	-0.084	-0.206	-0.105	-0.037	-0.118
蒲生地区	0.134	-0.119	-0.007	0.015	-0.269

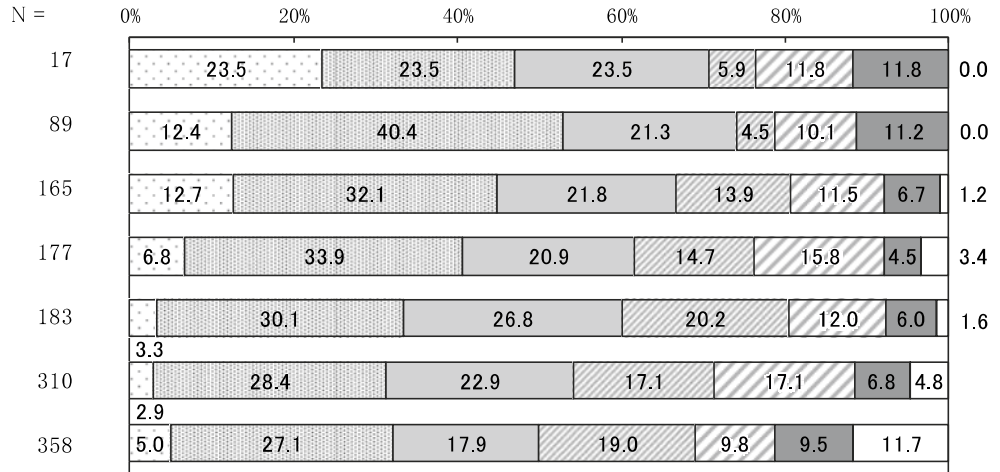
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)



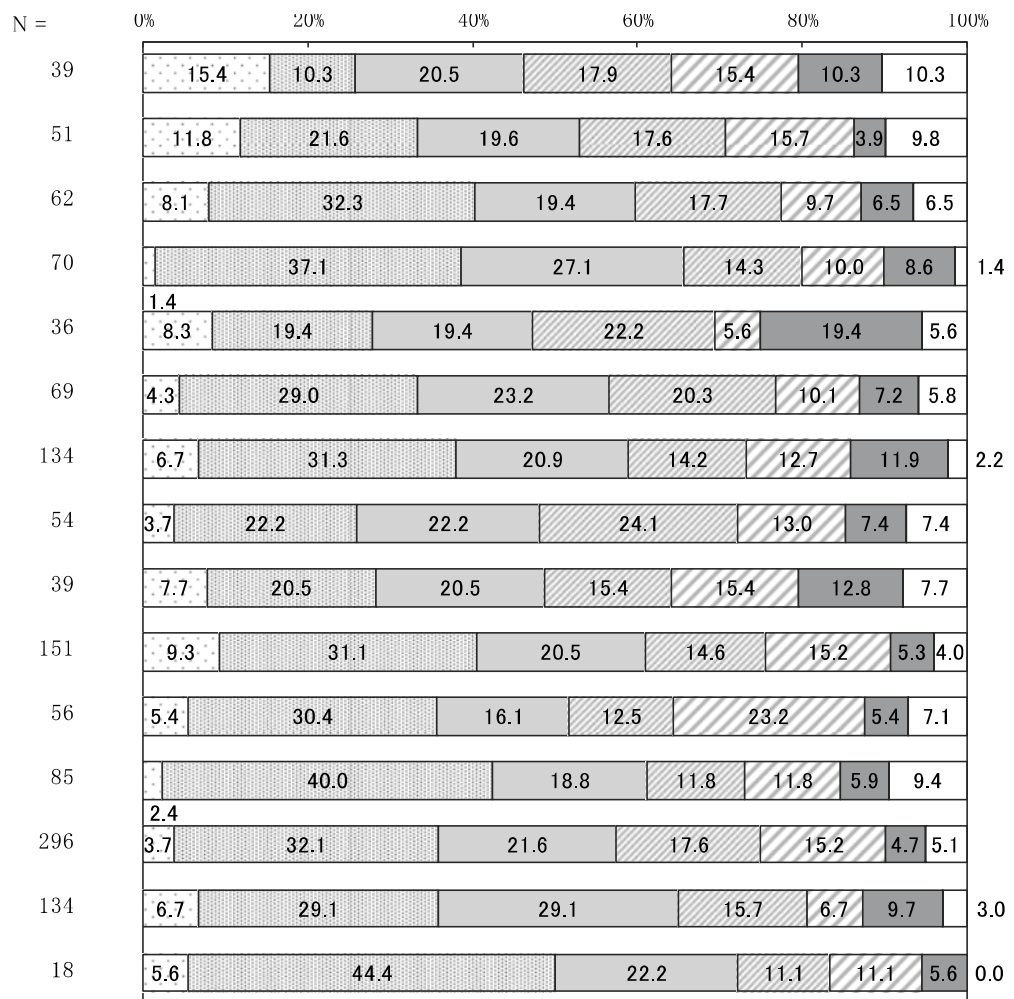
【性別】



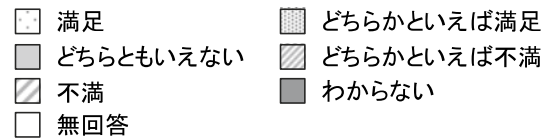
【年代別】



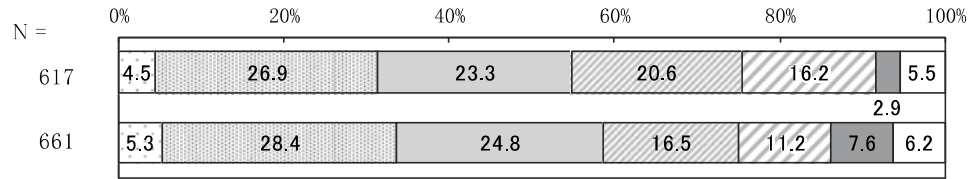
【居住地区別】



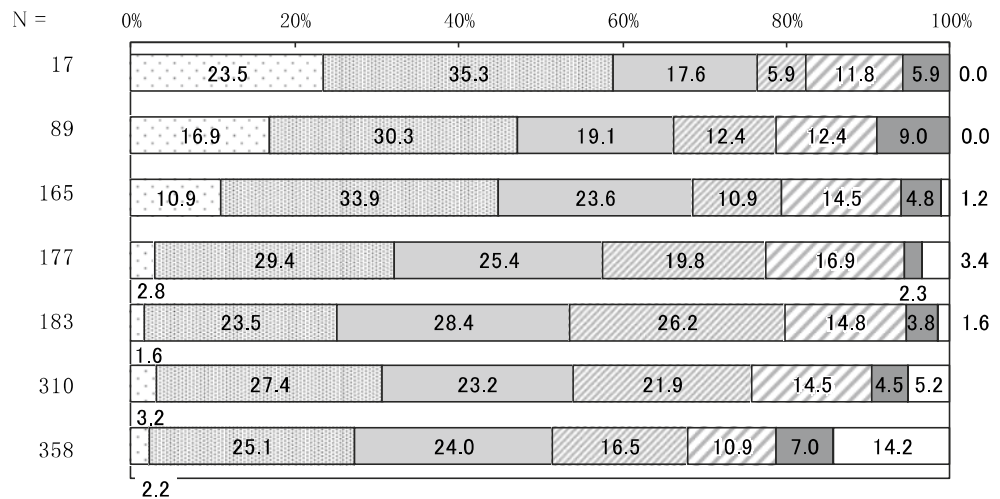
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)



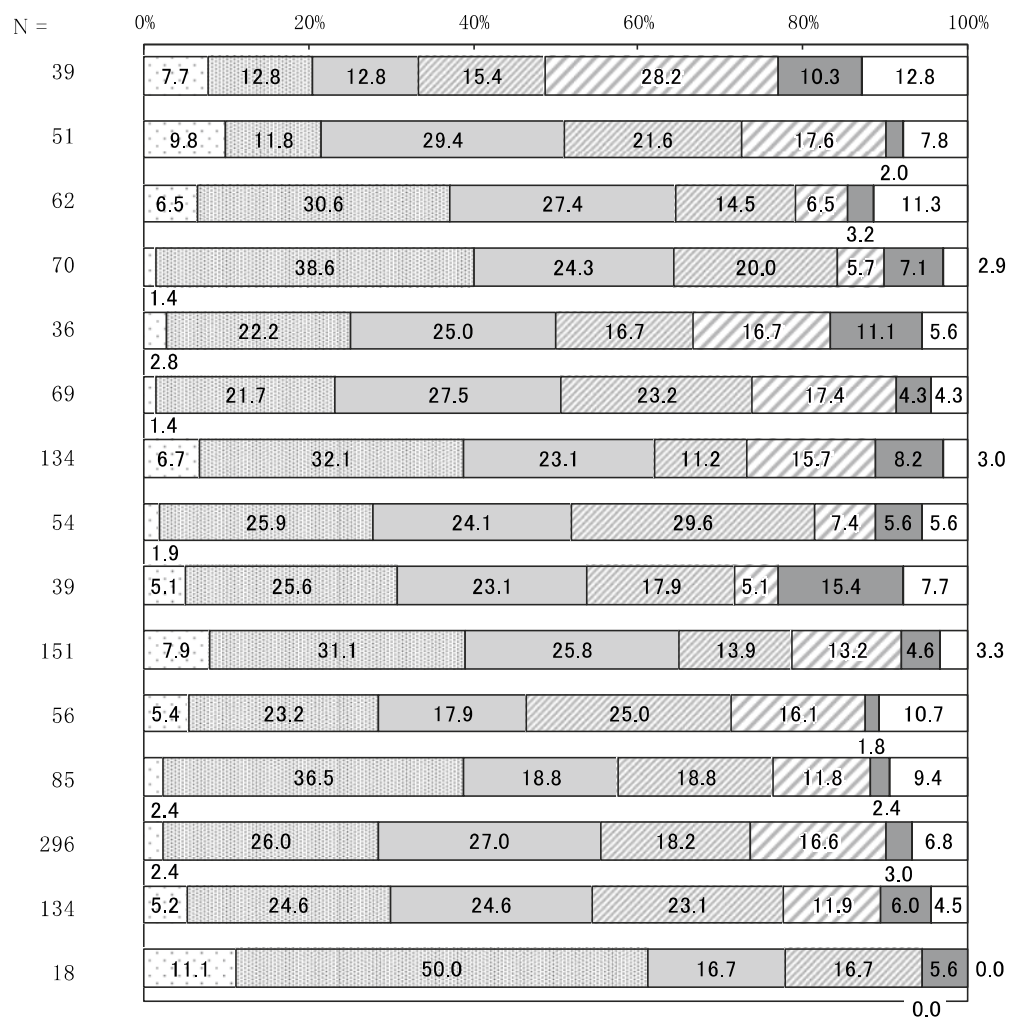
【性別】



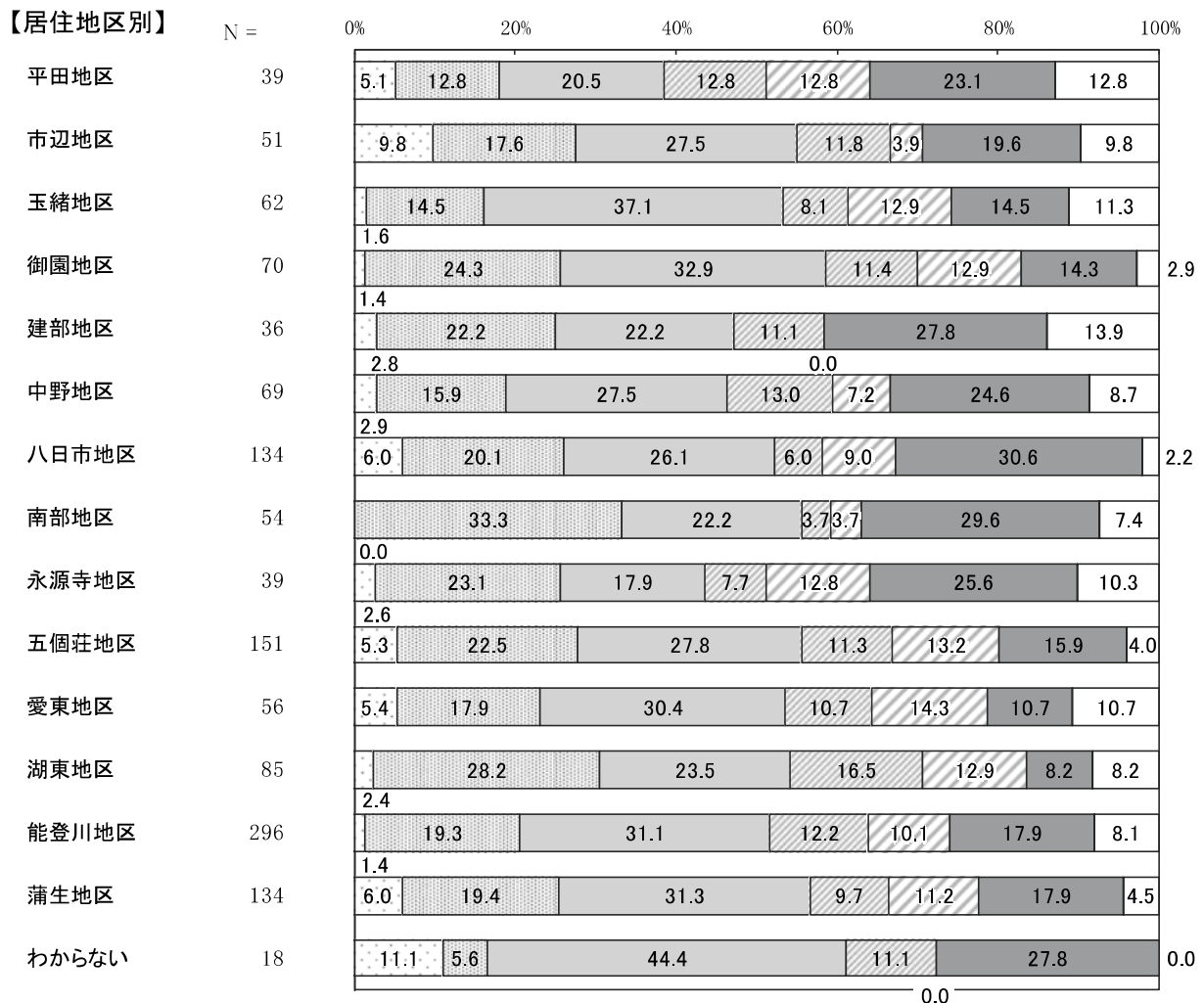
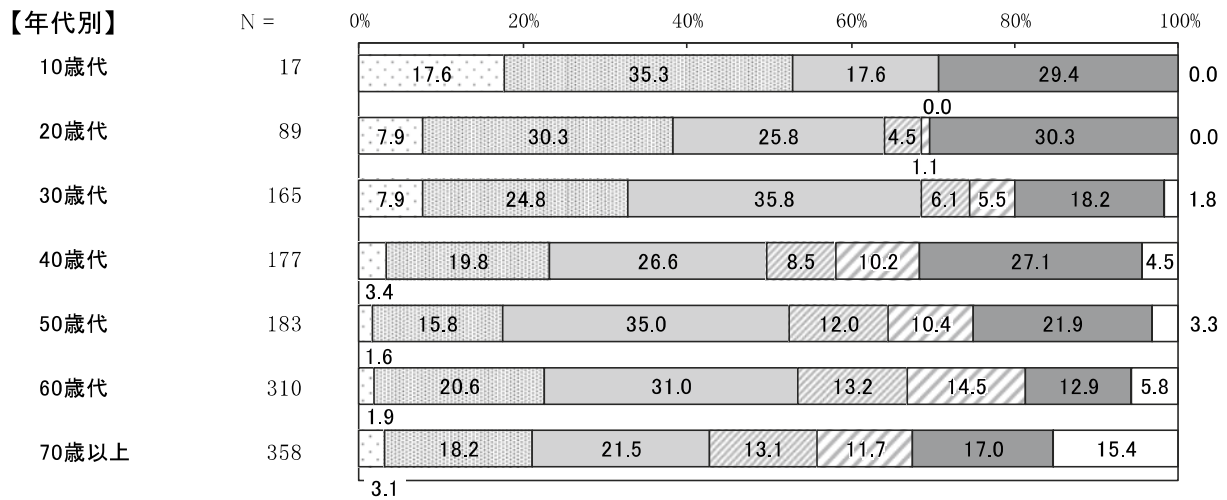
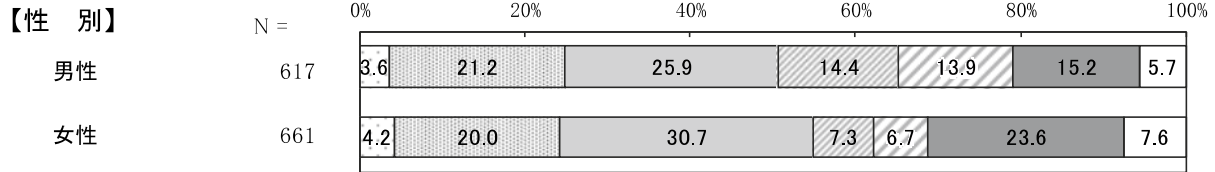
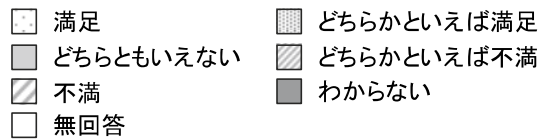
【年代別】



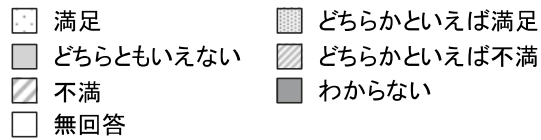
【居住地区別】



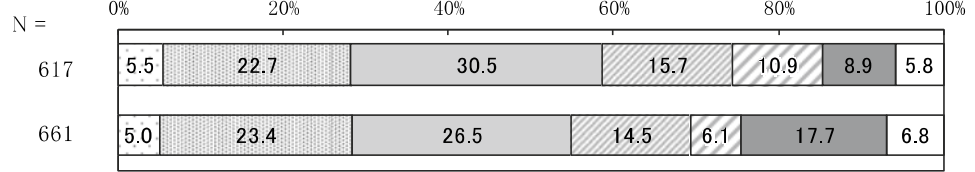
③河川の整備(一級河川等)



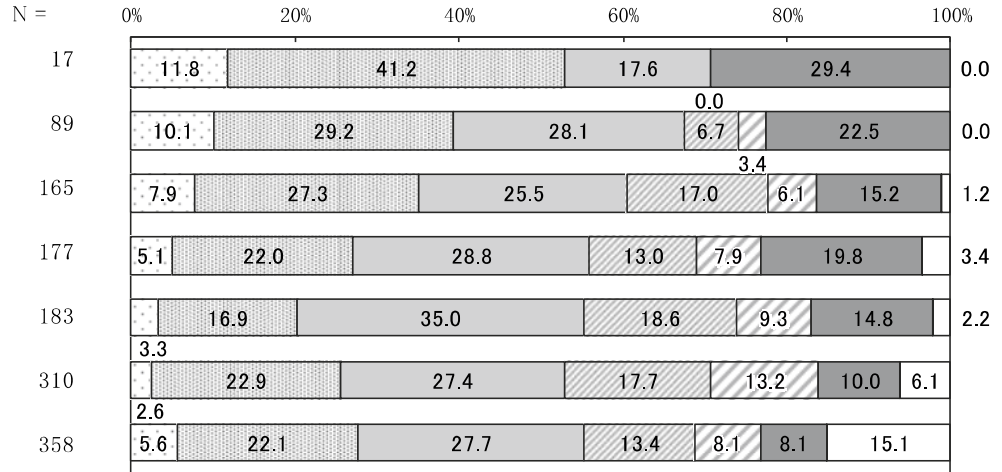
④雨水排水の整備(身近な水路等)



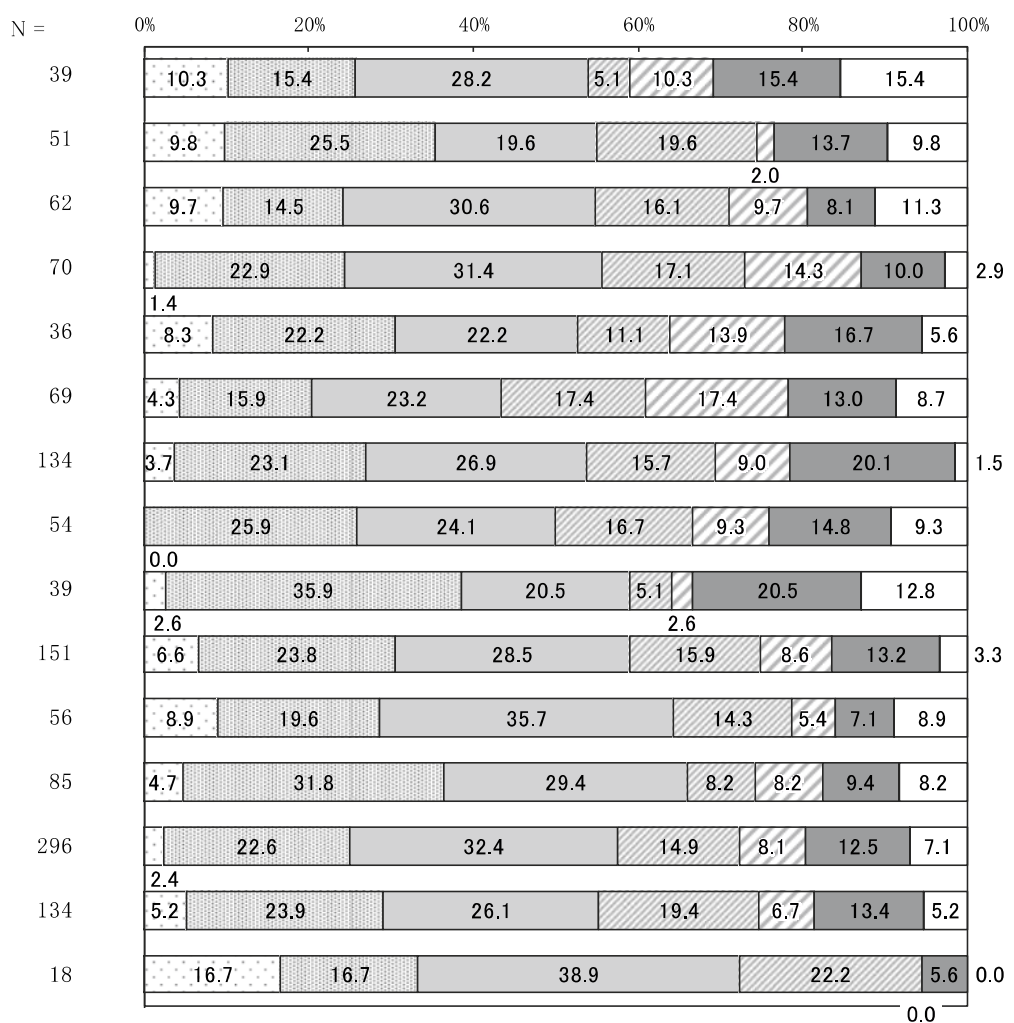
【性別】



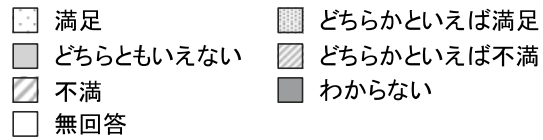
【年代別】



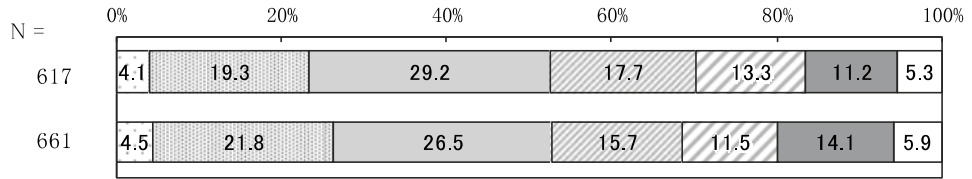
【居住地区別】



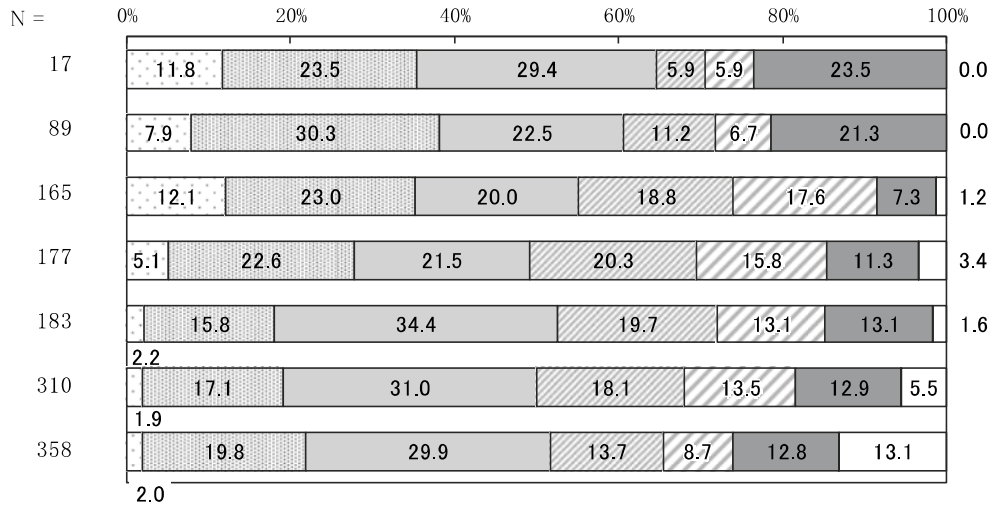
⑤公園の整備(広場、遊び場等)



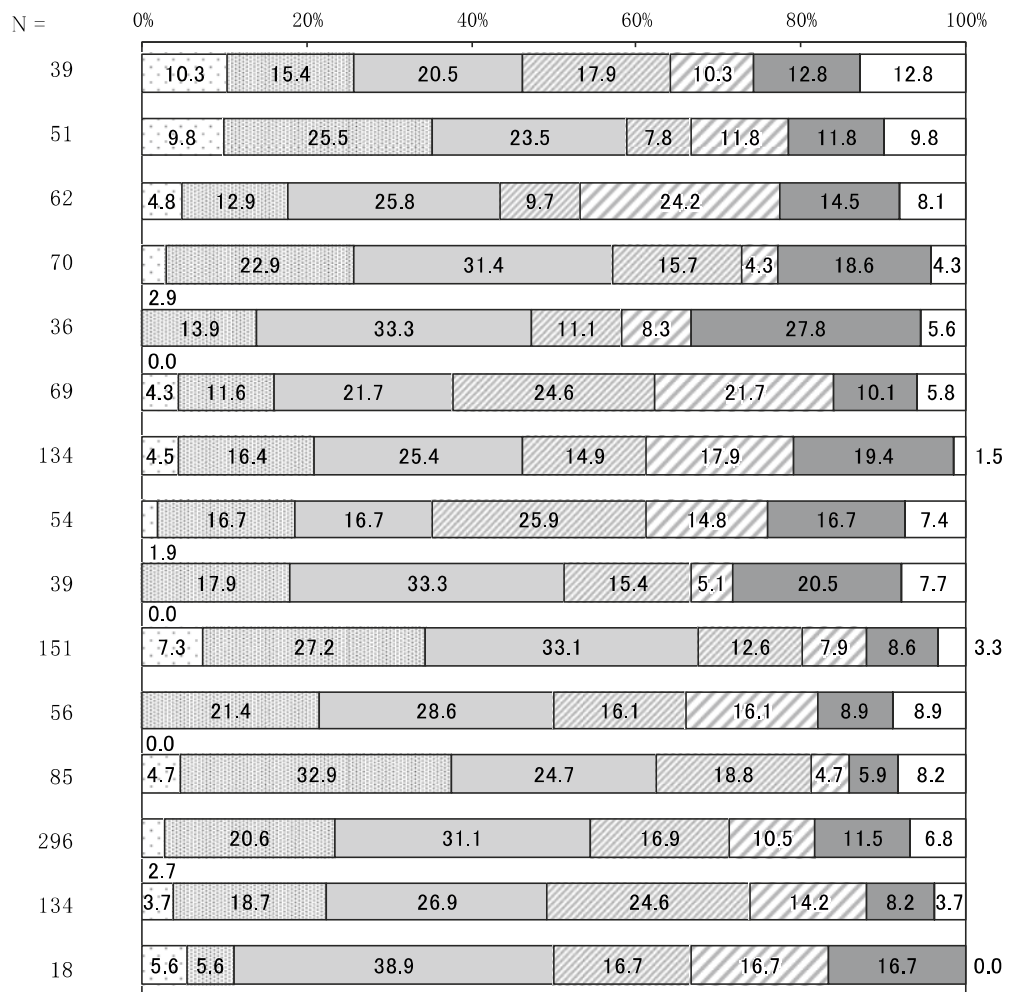
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



(7) 購買状況等について

問 46 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入しますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

食品は8割、日用雑貨品は7割が市内で購入、衣料品は半数近くが市外で購入

- 食品、日用雑貨品、衣料品の購入先は、主に「東近江市内」で購入している人が①食品は8割（81.5%）、②日用雑貨品は7割（73.3%）となっています。一方、③衣料品については、半数近く（45.7%）が市外（カタログ通販やネットショッピングを除く）で購入しており、その内訳としては「その他県内市町」が16.7%、「近江八幡市」が14.2%、「県外」が6.9%、「彦根市」が6.2%などとなっています。
- 過去の調査と比較すると、変動があるものの、特に③衣料品の購入先で「市内」の割合が減少しています。

単位：%

		全 体	市内	近江八幡市	彦根市	甲賀市	その他 県内市町	県外	カタログ通販	ネット ショッピング	その他	無回答
①食品	今回調査 (令和元年度)	1,317	81.5	3.2	2.7	2.2	3.6	0.2	0.5	0.4	1.4	4.3
	市民意識調査 (平成30年度)	1,311	79.8	3.2	2.4	2.6	4.1	0.3	0.5	0.5	0.9	5.6
	市民意識調査 (平成29年度)	1,418	84.1	2.5	2.3	2.0	3.7	0.3	0.4	0.1	0.6	4.1
	市民意識調査 (平成28年度)	1,461	82.3	2.9	1.7	2.3	2.9	0.1	1.2	0.2	0.7	5.7
②日用雑貨品	今回調査 (令和元年度)	1,317	73.3	6.2	2.9	1.7	6.1	0.4	0.4	3.0	1.1	5.1
	市民意識調査 (平成30年度)	1,311	70.9	5.9	4.0	2.9	5.3	1.1	0.4	2.2	0.8	6.5
	市民意識調査 (平成29年度)	1,418	76.1	6.1	3.7	2.1	4.7	0.6	0.4	1.1	0.6	4.6
	市民意識調査 (平成28年度)	1,461	74.5	6.0	2.9	2.0	4.7	0.8	0.9	1.6	0.4	6.4
③衣料品	今回調査 (令和元年度)	1,317	36.6	14.2	6.2	1.7	16.7	6.9	2.6	6.1	1.9	7.1
	市民意識調査 (平成30年度)	1,311	39.8	14.6	4.9	2.1	14.1	6.0	2.7	4.9	1.1	9.7
	市民意識調査 (平成29年度)	1,418	42.7	15.7	6.0	1.6	14.6	6.7	2.0	4.2	1.0	5.5
	市民意識調査 (平成28年度)	1,461	41.1	15.1	4.9	1.6	14.6	7.4	2.9	3.6	1.2	7.6

①食品

- 年代別では、市内で購入している人の割合が20歳代で9割近く、50歳以上で8割となっています。
- 居住地区別では、すべての地区で「市内」が最も多く、建部地区、南部地区、中野地区、御園地区、八日市地区で9割となっています。そのほか、平田地区で「近江八幡市」が、能登川地区で「彦根市」が、蒲生地区で「甲賀市」と「その他県内市町」が、ほかの地区より多くみられます。

②日用雑貨品

- 年代別では、すべての年代で「市内」が最も多く、50歳代と70歳以上は8割近くとなっています。そのほか、20歳代で「近江八幡市」が、30歳代で「彦根市」と「ネットショッピング」が、10～20歳代で「その他県内市町」がほかの年代より多くみられます。
- 居住地区別では、すべての地区で「市内」が最も多く、建部地区、南部地区、御園地区、中野地

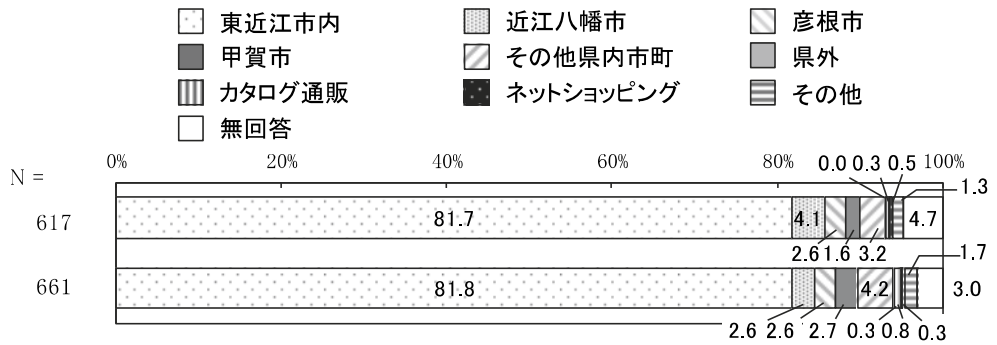
区、永源寺地区で9割前後となっています。そのほか、平田地区で「近江八幡市」が、蒲生地区で「近江八幡市」、「甲賀市」、「その他県内市町」が、ほかの地区より多くみられます。

③衣料品

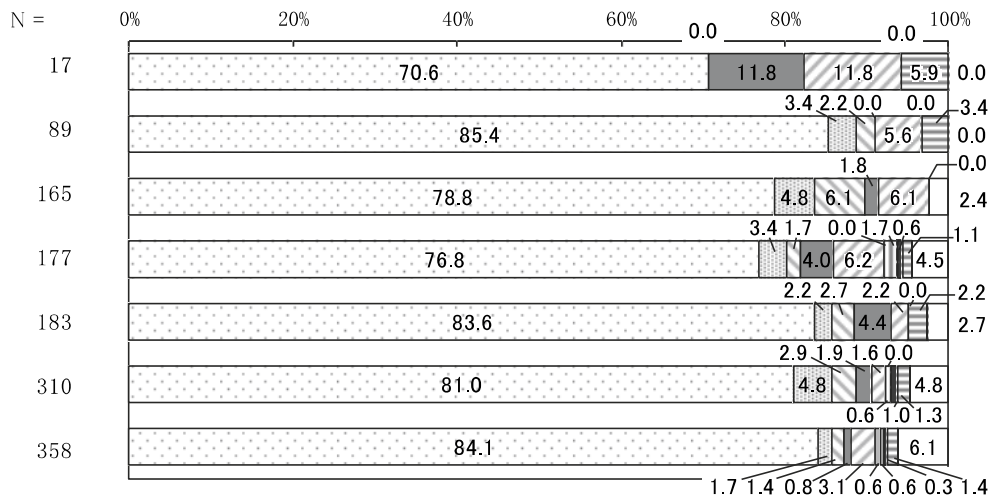
- ・ 性別では、男女ともに「市内」が最も多くなっていますが、女性より男性で多くなっています。
- ・ 年代別では、10～20歳代は「県外」が、30歳代は「近江八幡市」と「その他県内市町」が、40歳以上は「市内」が最も多くなっています。年齢が上がるほど市内の割合が高くなる傾向があり、70歳以上は6割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で「市内」が最も多くなっていますが、蒲生地区は「その他県内市町」も同様に最も多くなっています。そのほか、平田地区で「近江八幡市」が、能登川地区、湖東地区、愛東地区で「彦根市」が、蒲生地区で「甲賀市」が、御園地区、中野地区で「その他県内市町」が、南部地区、永源寺地区、八日市地区、建部地区で「県外」がほかの地区より多くみられます。

①食品

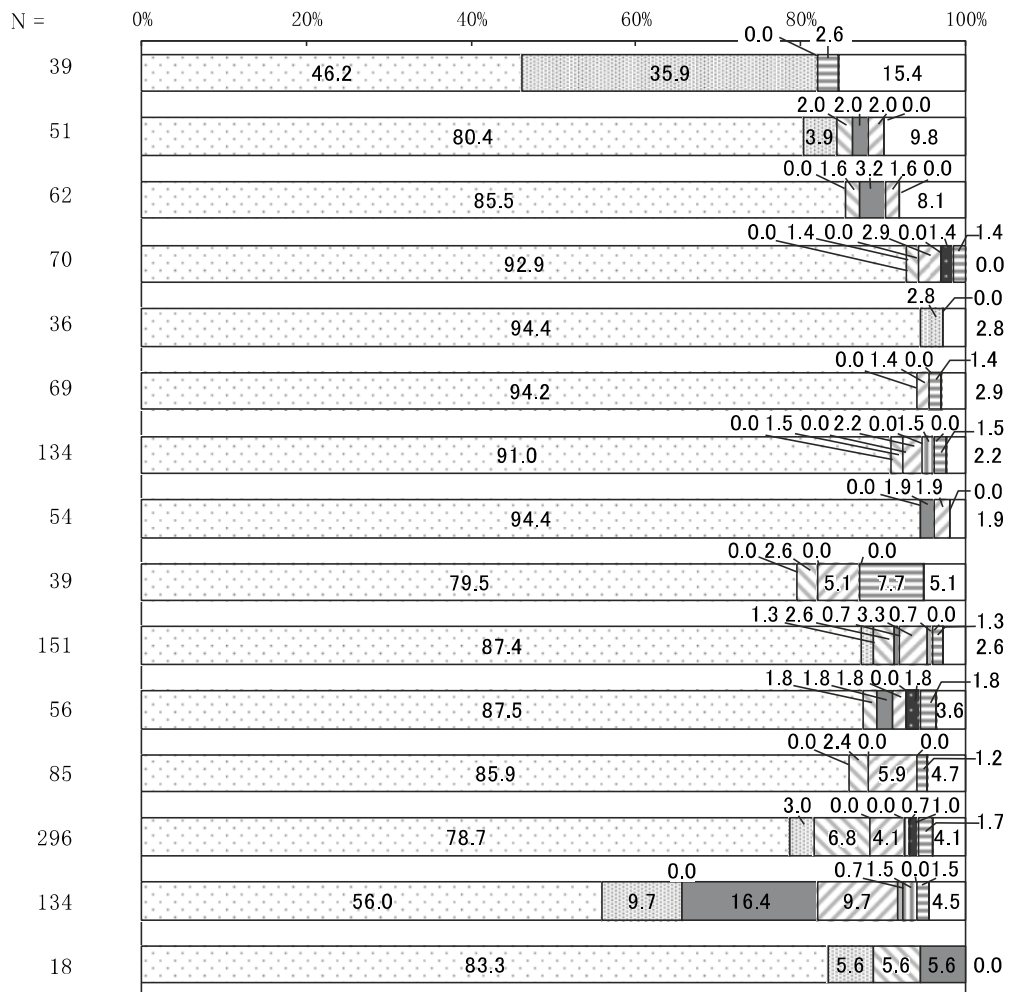
【性別】



【年代別】

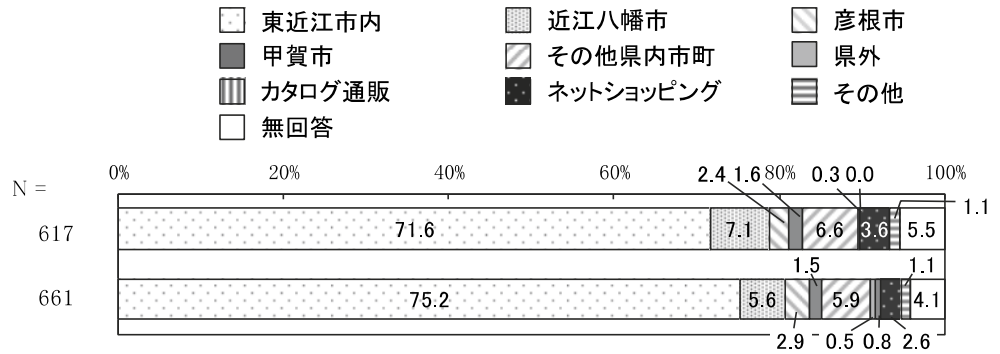


【居住地区別】

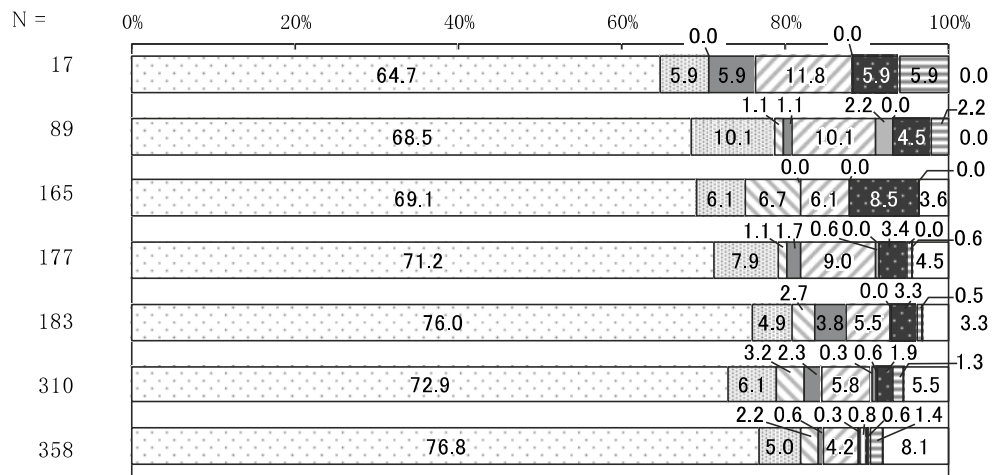


②日用雑貨品

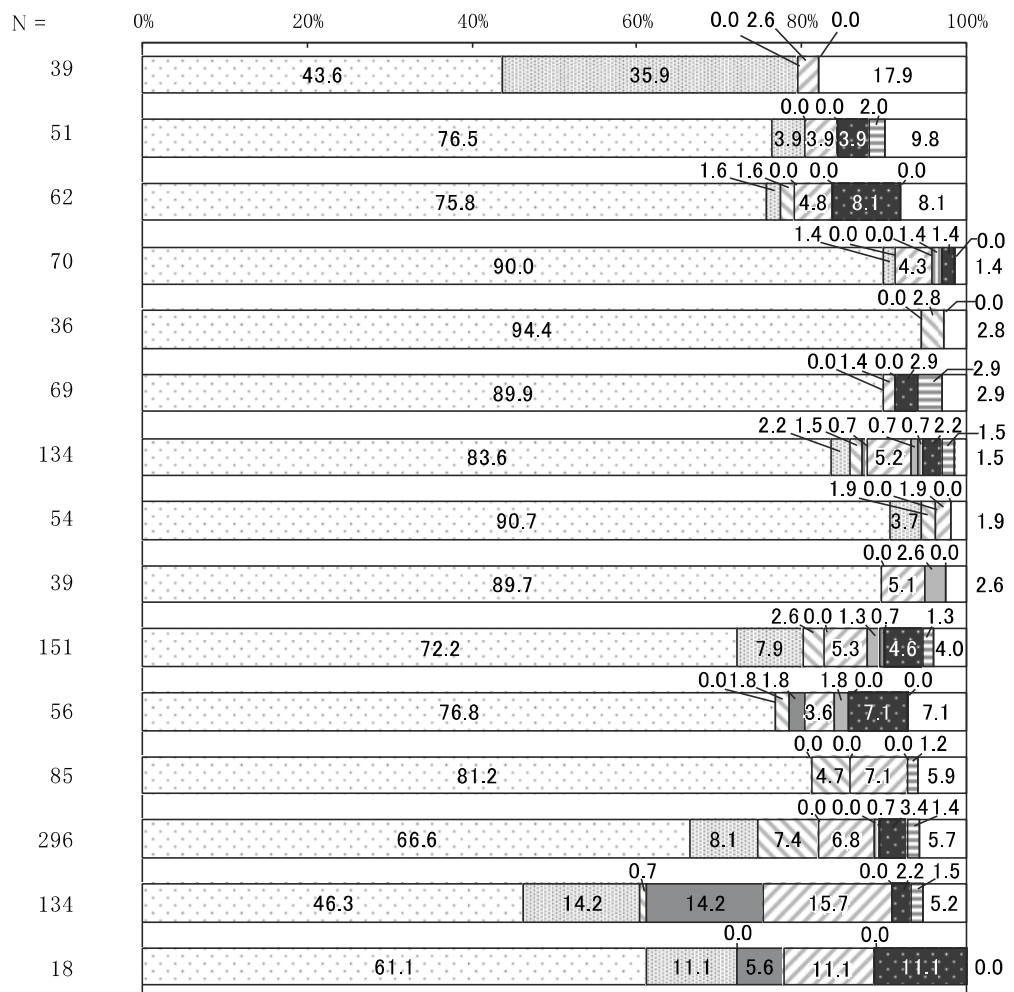
【性別】



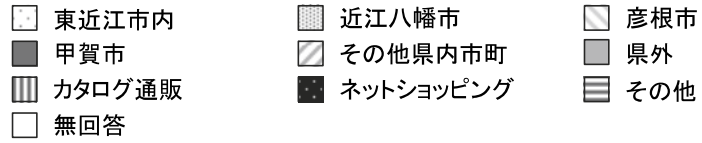
【年代別】



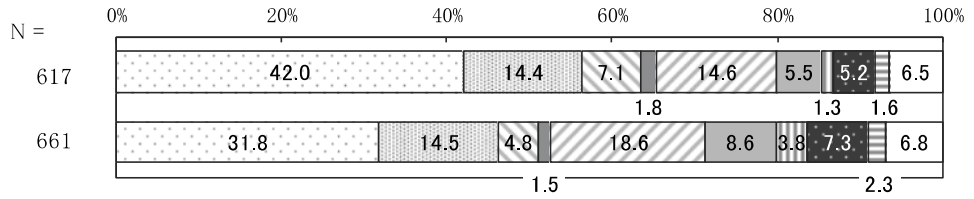
【居住地区別】



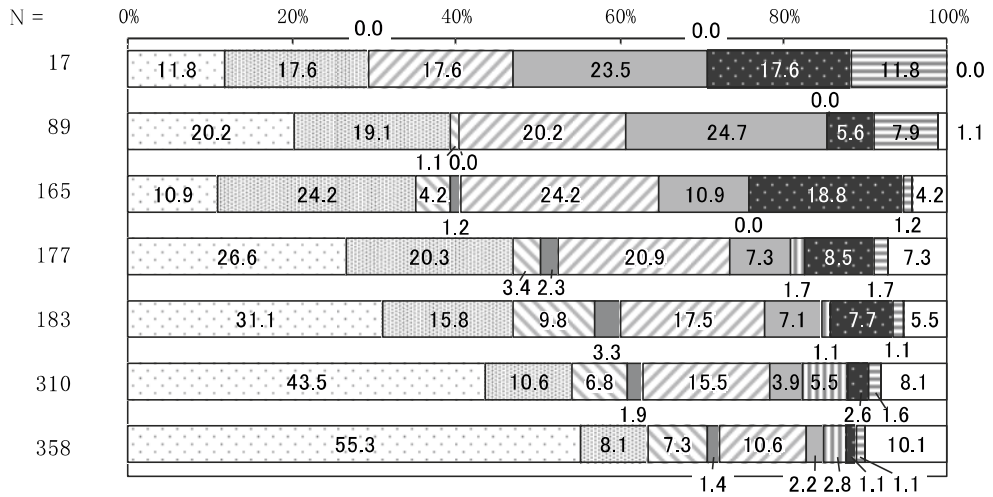
③衣料品



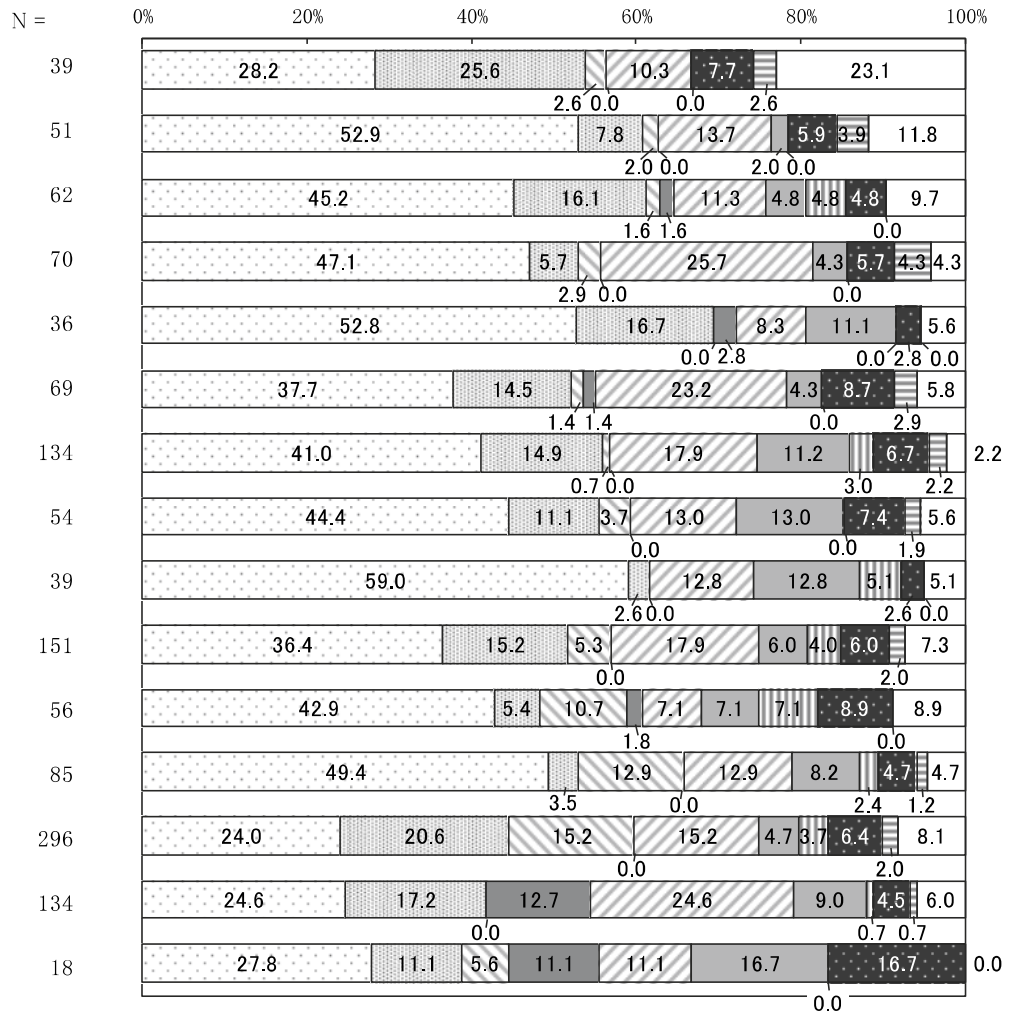
【性別】



【年代別】



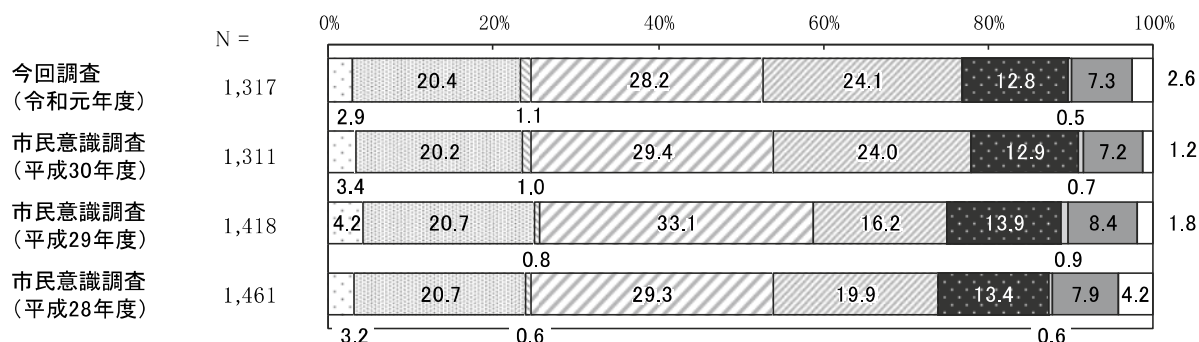
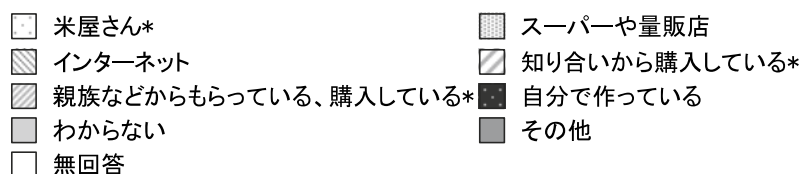
【居住地区別】



問 47 あなたの家庭では、お米を主にどこから購入等していますか。《○1つ》

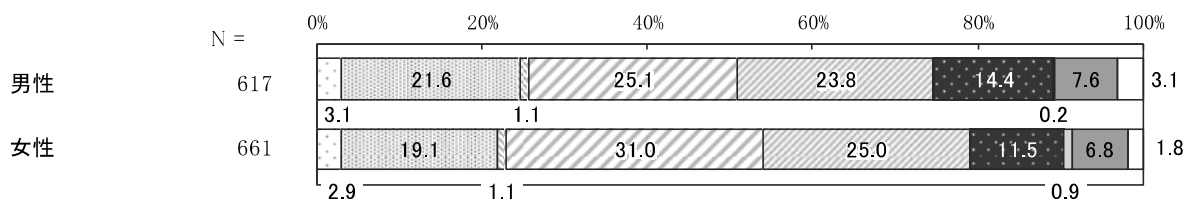
米の購入先は、知り合い、親戚、スーパーや量販店の順

- ・ 米の購入先については、「知り合いから購入している」が28.2%で最も多く、次いで「親戚などからもらっている、購入している」が24.1%、「スーパーや量販店」が20.4%と続きます。「自分で作っている」は12.8%と1割程度です。
- ・ 性別では、男女ともに「知り合いから購入している」が最も多くあげられていますが、男性より女性で多くなっています。
- ・ 年代別では、10～40歳代で「親戚などからもらっている、購入している」が、50歳代で「スーパーや量販店」が、60歳以上で「知り合いから購入している」が最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、八日市地区で「スーパーや量販店」が、中野地区、御園地区で「親戚などからもらっている、購入している」が、愛東地区、平田地区、湖東地区で「自分で作っている」が、そのほかの地区で「知り合いから購入している」が最も多くあげられています。

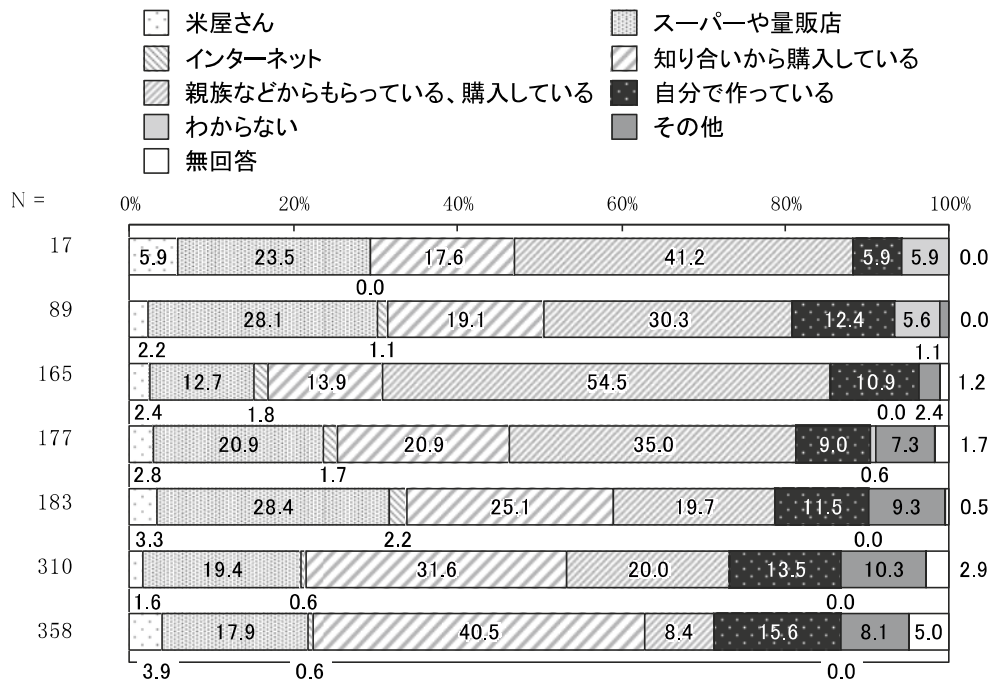


*平成28年度は「街のお米屋さん」、平成29年度は「お米屋さん」
 *平成29年度までは「知り合いなどから購入している」
 *平成29年度までは「親戚などから貰っている」

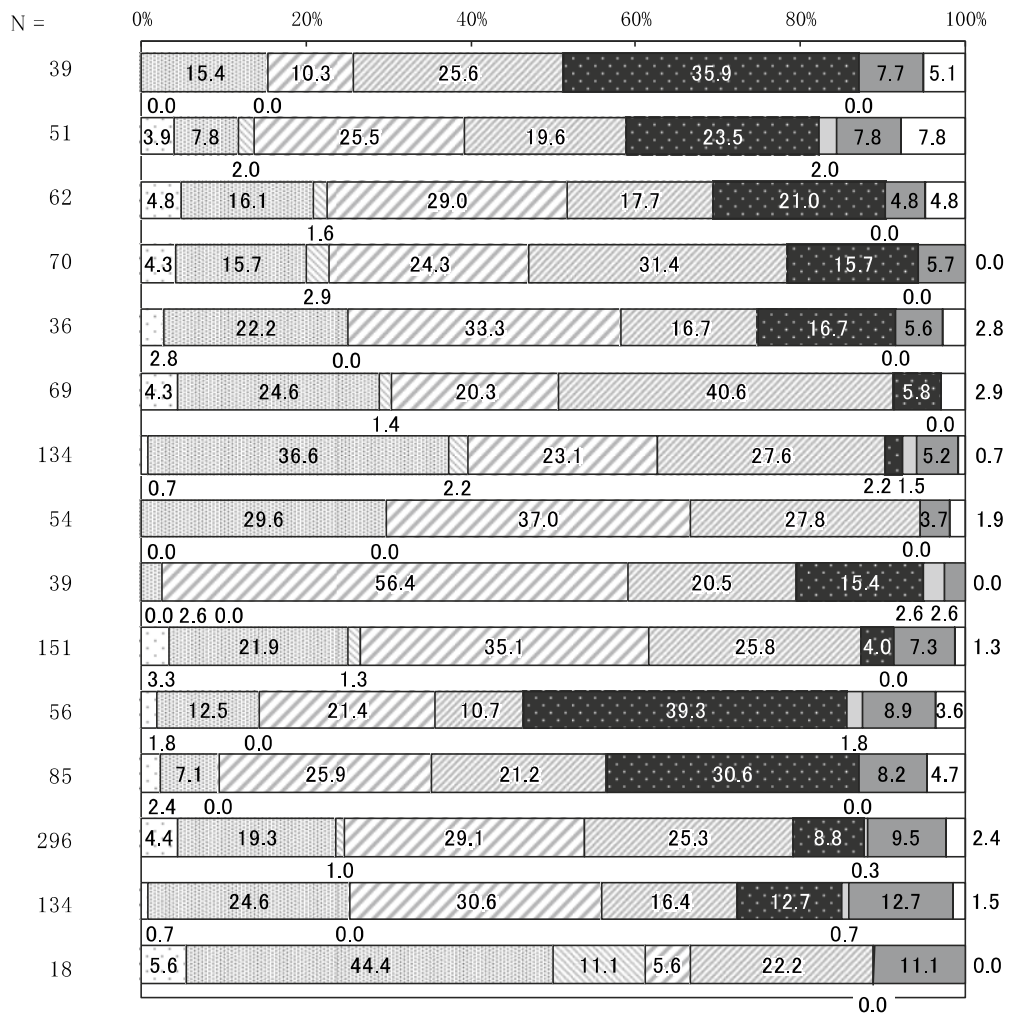
【性別】



【年代別】



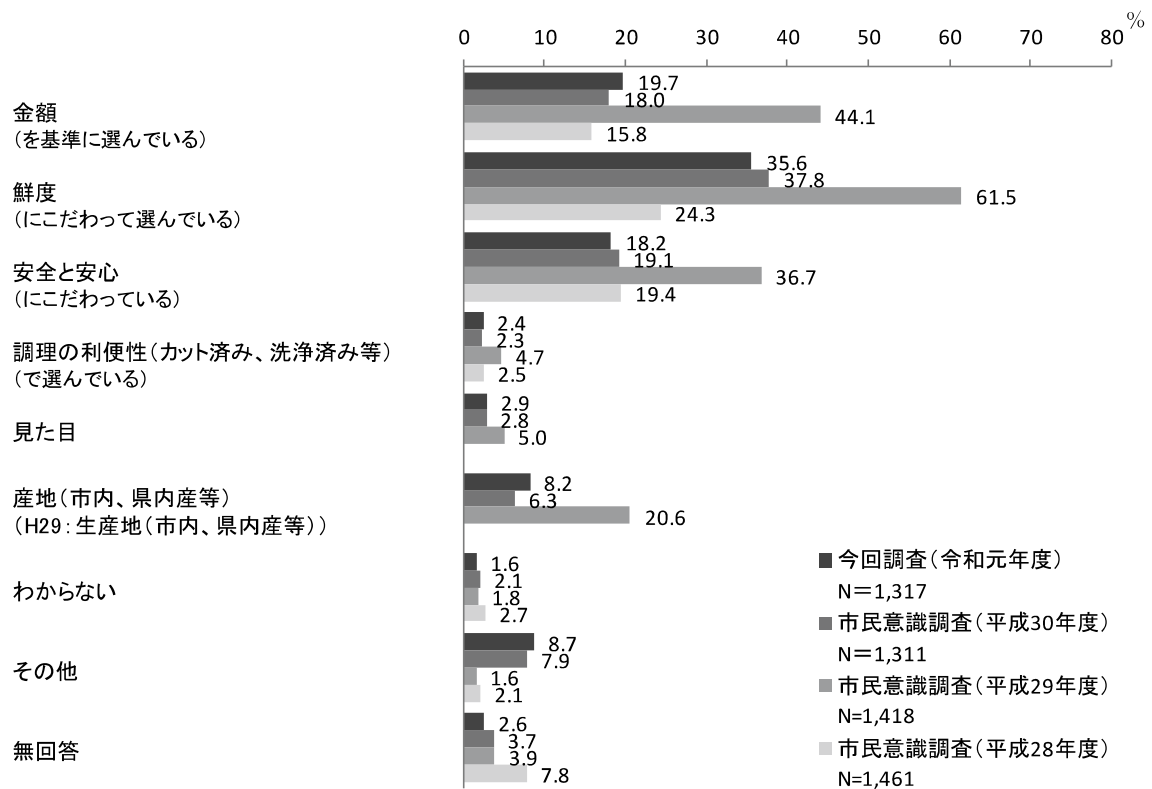
【居住地区別】



問 48 あなたの家庭では野菜等を購入するとき、主に何を基準に選んでいますか。(自作している方も不足する野菜を購入する場合)《○1つ》

野菜等を購入する際の基準は「鮮度」、「金額」、「安全と安心」

- ・ 野菜等を購入する際の基準としては、「鮮度」が35.6%と最も多く、次いで「金額」が19.7%、「安全と安心」が18.2%と続きます。調理の利便性や見た目より、これらが重視されていることが分かります。
- ・ 過去の調査と比較すると、選択肢や選択数が増えているため単純比較はできませんが、平成28年度から上位3項目は変わらないものの、「金額」の割合が増加しています。
- ・ 性別では、男女ともに「鮮度」が最も多くあげられています。男性より女性で多くなっています。
- ・ 年代別では、30歳代までは「金額」が、40歳以上は「鮮度」が最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で「鮮度」が最も多くなっています。



*平成29年度のみ2つ選択

* ()が平成28年度調査の選択肢。選択肢が類似のものだけ比較している。

【性別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	金額	鮮度	安全と安心	調理の利便性(カット 済み、洗淨済み等)	見た目	産地(市内、県内 産)	わからない	その他	無回答
男性	617	19.6	31.4	19.9	3.4	3.7	6.6	2.9	9.1	3.2
女性	661	20.1	38.9	17.2	1.5	2.3	10.0	0.5	8.0	1.5

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	金額	鮮度	安全と安心	調理の利便性(カット 済み、洗淨済み等)	見た目	産地(市内、県内 産)	わからない	その他	無回答
10歳代	17	47.1	23.5	11.8	5.9	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0
20歳代	89	28.1	27.0	15.7	6.7	5.6	4.5	2.2	7.9	2.2
30歳代	165	31.5	20.0	15.2	2.4	5.5	13.3	1.2	9.7	1.2
40歳代	177	26.0	35.0	14.7	1.1	0.6	9.6	1.7	9.6	1.7
50歳代	183	20.8	39.3	18.6	3.3	1.1	5.5	3.3	7.7	0.5
60歳代	310	16.5	39.0	19.7	1.3	3.9	7.7	1.0	8.1	2.9
70歳以上	358	10.6	39.9	21.2	2.2	2.2	8.4	1.4	9.5	4.5

【居住地区別】

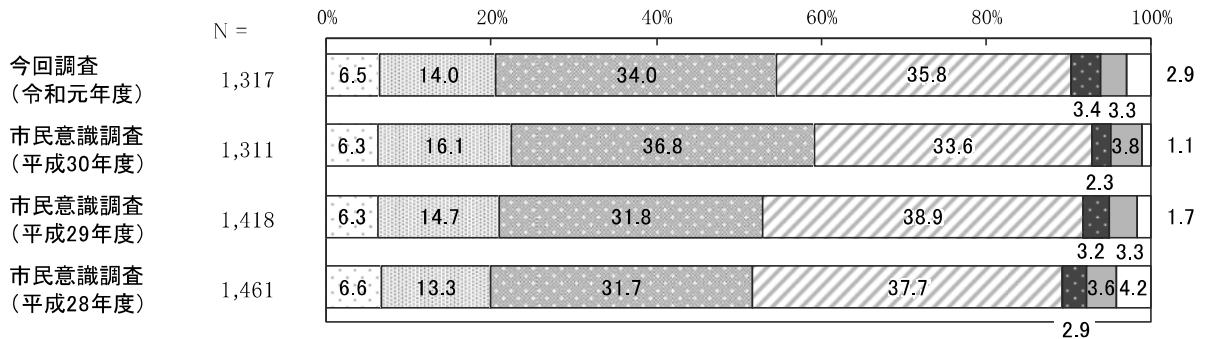
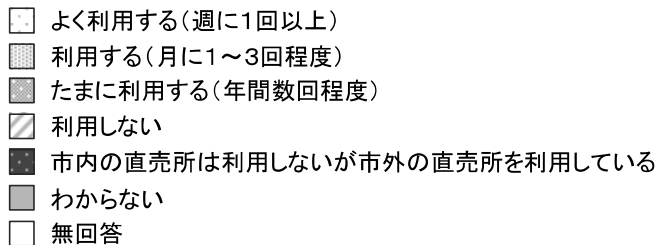
単位:%

区分	有効回答数 (件)	金額	鮮度	安全と安心	調理の利便性(カット 済み、洗淨済み等)	見た目	産地(市内、県内 産)	わからない	その他	無回答
平田地区	39	10.3	41.0	17.9	2.6	7.7	2.6	0.0	12.8	5.1
市辺地区	51	23.5	35.3	13.7	2.0	2.0	9.8	2.0	5.9	5.9
玉緒地区	62	21.0	38.7	21.0	1.6	0.0	3.2	3.2	8.1	3.2
御園地区	70	25.7	40.0	15.7	0.0	0.0	10.0	1.4	7.1	0.0
建部地区	36	16.7	38.9	16.7	5.6	2.8	5.6	2.8	8.3	2.8
中野地区	69	24.6	29.0	20.3	1.4	1.4	8.7	1.4	10.1	2.9
八日市地区	134	23.1	35.1	14.2	3.0	3.0	5.2	5.2	10.4	0.7
南部地区	54	18.5	35.2	18.5	3.7	5.6	11.1	0.0	5.6	1.9
永源寺地区	39	10.3	46.2	23.1	5.1	0.0	5.1	0.0	10.3	0.0
五個荘地区	151	24.5	33.8	17.9	4.0	2.6	6.0	0.7	8.6	2.0
愛東地区	56	14.3	33.9	26.8	3.6	1.8	12.5	0.0	3.6	3.6
湖東地区	85	17.6	27.1	24.7	0.0	3.5	10.6	0.0	14.1	2.4
能登川地区	296	15.5	36.5	19.6	2.4	4.4	9.1	1.0	8.4	3.0
蒲生地区	134	21.6	37.3	14.2	0.0	3.0	11.2	3.0	8.2	1.5
わからない	18	38.9	16.7	16.7	5.6	0.0	5.6	0.0	11.1	5.6

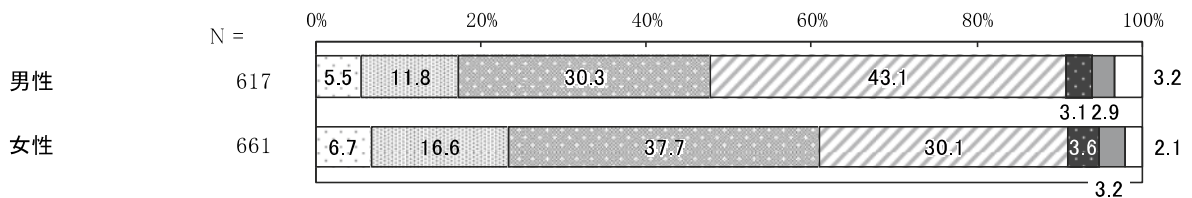
問 49 あなたの家庭では、市内の農産物直売所（青空市、無人販売所含む）を利用しますか。《○1つ》

半数が市内の直売所を利用、年数回程度の利用が最も多い

- ・ 市内の農産物直売所の利用状況については、「利用しない」が35.8%と最も多く、次いで「たまに利用する（年間数回程度）」が34.0%、「利用する（月に1～3回程度）」が14.0%、「よく利用する（週に1回以上）」が6.5%と続きます。利用している人の合計は54.5%と半数みられ、市外も含めると農産物直売所の利用率は57.9%になります。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、市内の農産物直売所を利用している人の割合は増加しています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では60歳以上で利用している人が多くみられます。一方、10～20歳代は、「利用しない」が利用している人より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、利用する人が湖東地区で7割、市辺地区、御園地区で6割となっています。一方、平田地区では「利用しない」が利用している人よりも多くみられます。

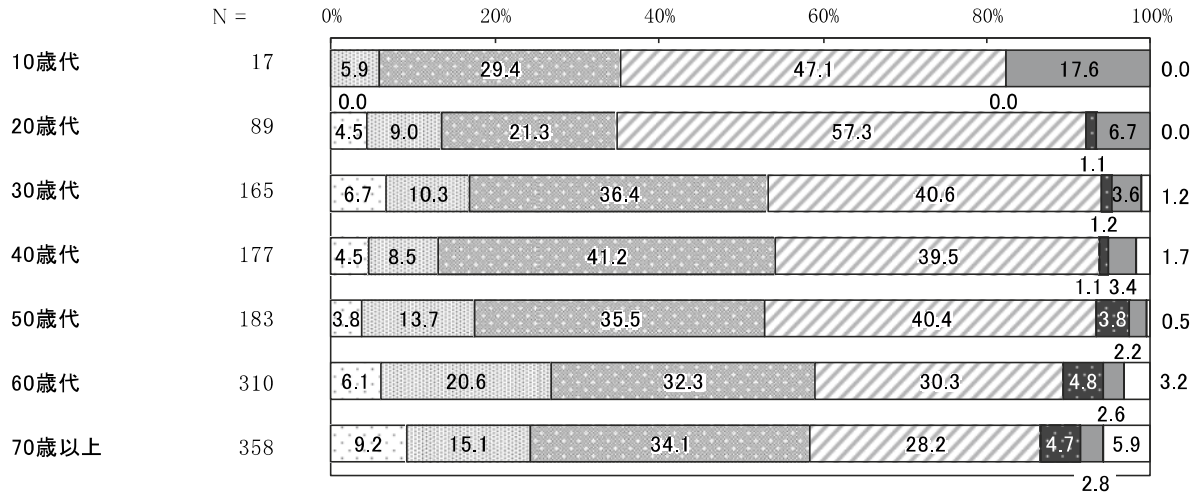


【性別】

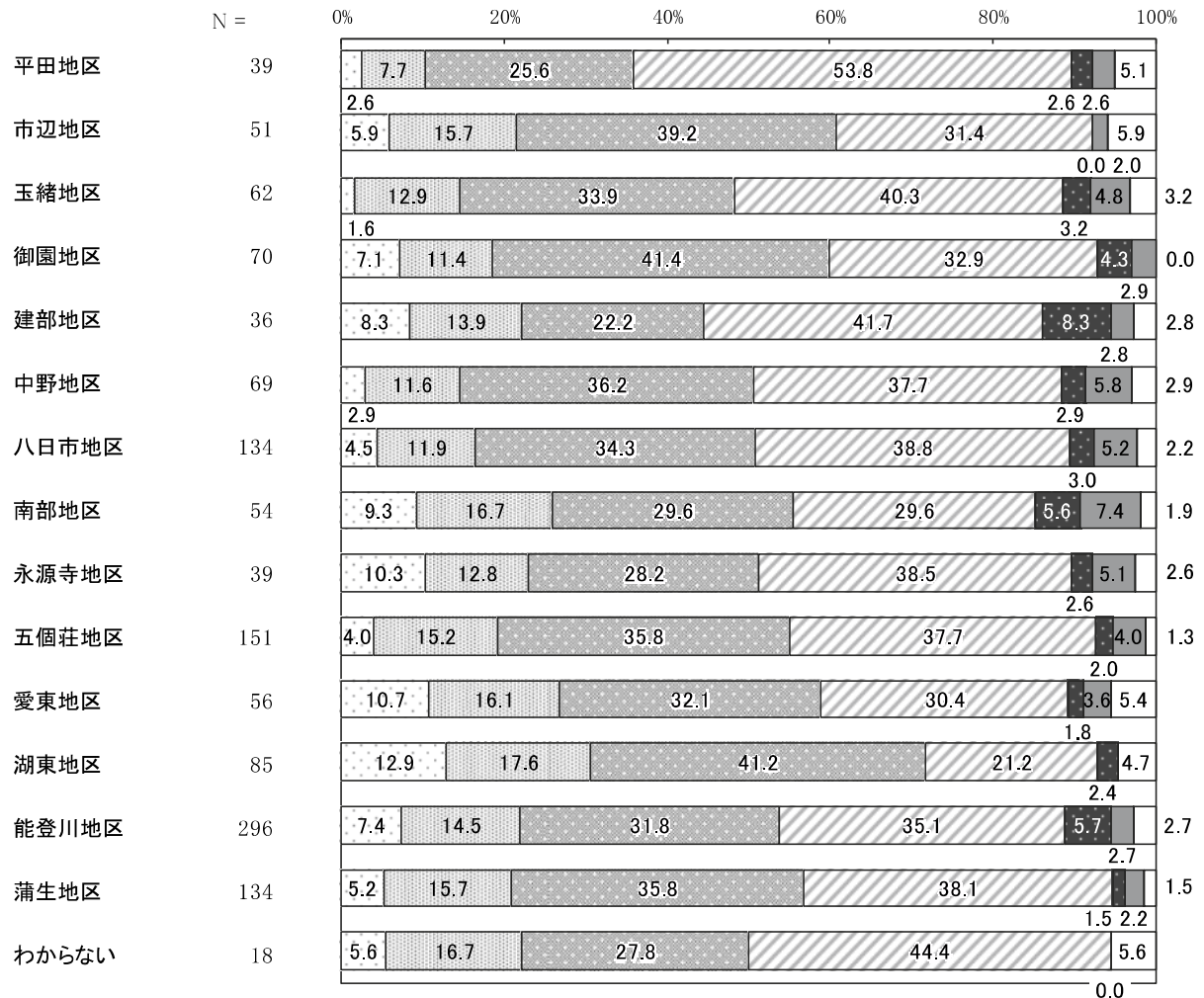


- よく利用する(週に1回以上)
- 利用する(月に1~3回程度)
- たまに利用する(年間数回程度)
- 利用しない
- 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している
- わからない
- 無回答

【年代別】



【居住地区別】

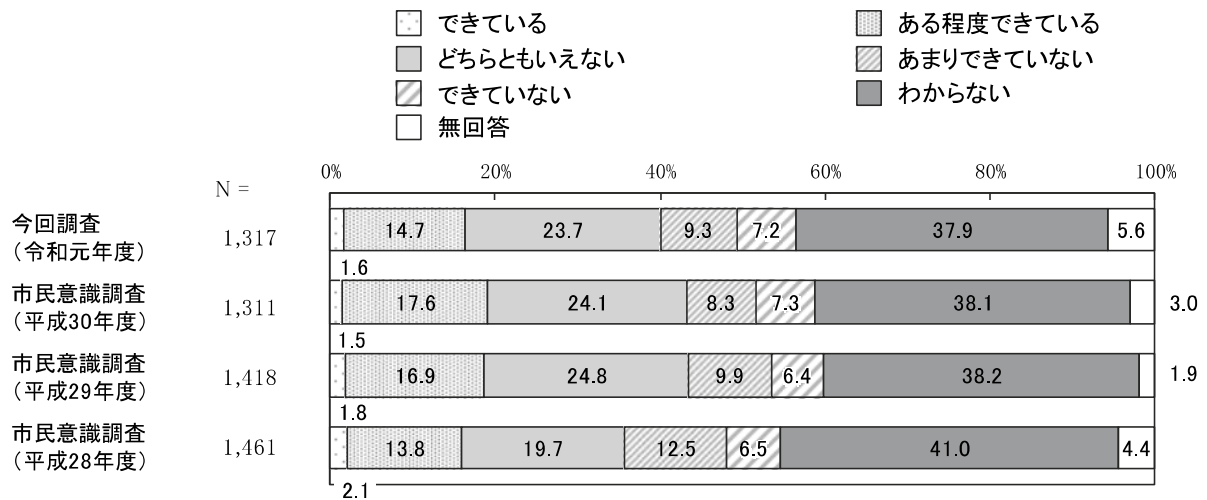


(8) 協働のまちづくりについて

問 50 あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていますか。《○1つ》

4割近くが「わからない」

- ・ 協働のまちづくりができていますかについては、「わからない」が37.9%と最も多くなっています。次いで、「どちらともいえない」が23.7%、「ある程度できている」が14.7%と続きます。できている（「できている」と「ある程度できている」の合計）の割合は16.3%で、できていない（「あまりできていない」と「できていない」の合計）の割合（16.5%）とほぼ同じとなっています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、すべて「わからない」が最も多くなっています。
- ・ 性別では、女性より男性で、できていない（前述）と思う人の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では、30歳代と50～60歳代で、できていない（前述）と思う人ができている（前述）と思う人より多くなっています。一方、70歳以上はできている（前述）と思う人が2割、10歳代は「わからない」人が6割みられます。
- ・ 居住地区別では、御園地区と平田地区でできている（前述）と思う人が3割近くみられますが、御園地区、中野地区、五個荘地区、八日市地区、建部地区、能登川地区を除いた地区は、できていない（前述）と思う人ができている（前述）と思う人より多くなっています（建部地区と能登川地区は両者が同数）。



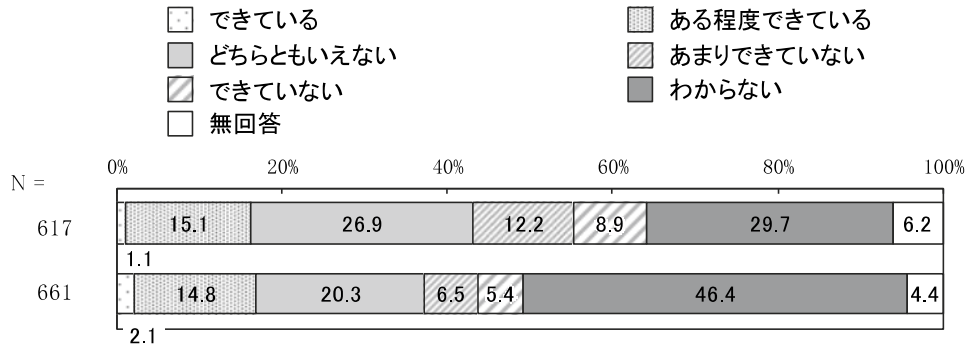
単位：%

	できている	できていない	差
①今回調査(令和元年度)	16.3	16.5	-0.2
②市民意識調査(平成30年度)	19.1	15.6	3.5
③市民意識調査(平成29年度)	18.7	16.3	2.4
④市民意識調査(平成28年度)	15.9	19.0	-3.1
①-④	0.4	-2.5	2.9

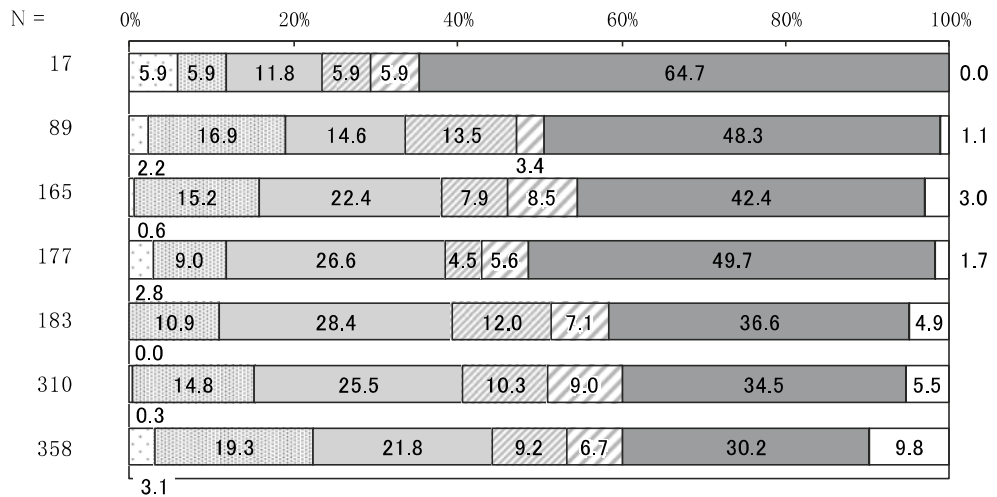
* できている:「できている」と「ある程度できている」の合計

* できていない:「あまりできていない」と「できていない」の合計

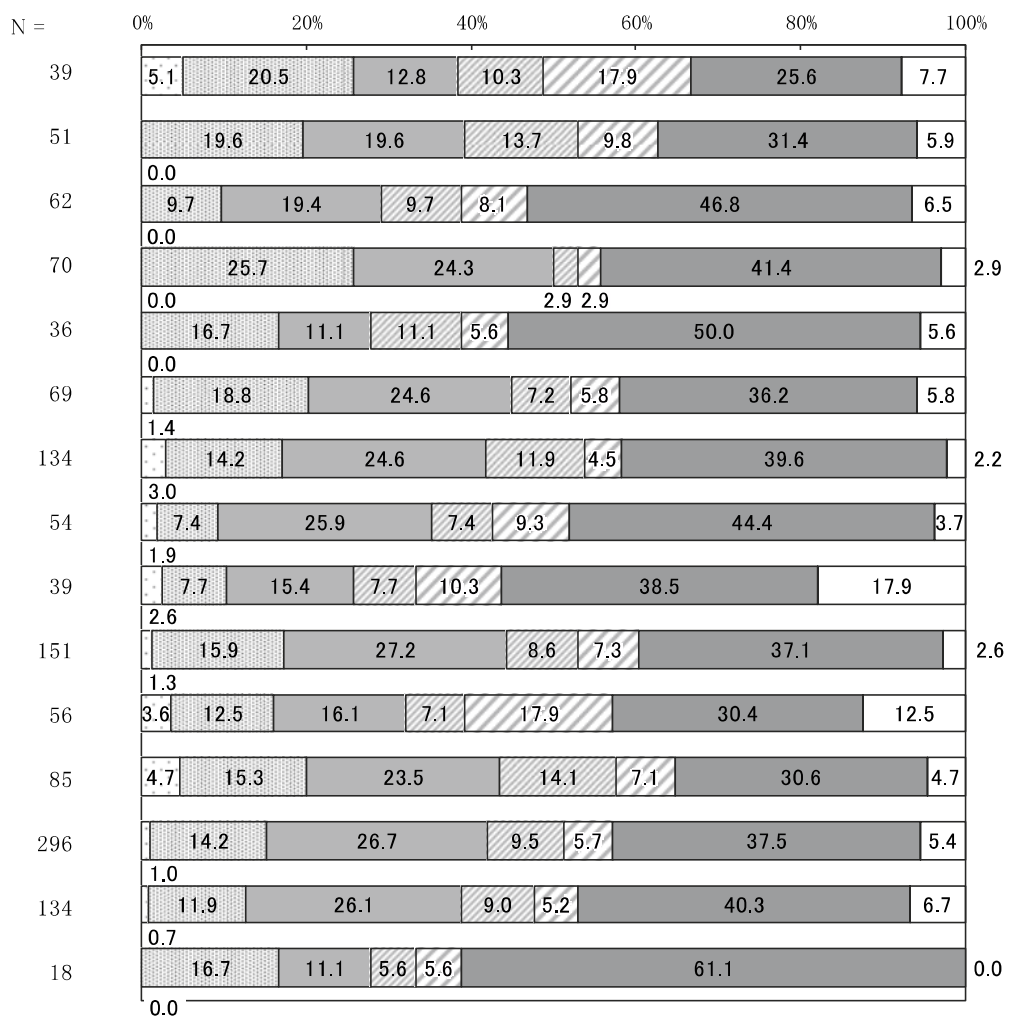
【性別】



【年代別】



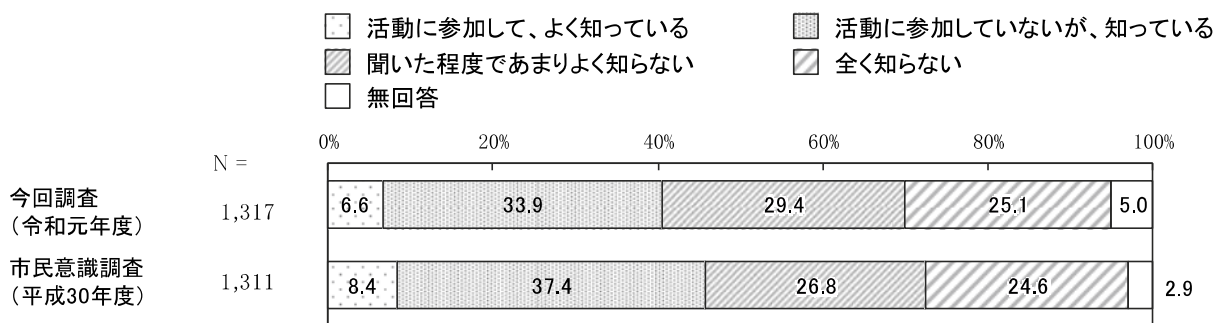
【居住地区別】



問 51 あなたは、市内 14 地区にまちづくり協議会が設置され、各地区で様々なまちづくり活動が行われていることを知っていますか。《○1つ》

活動に参加している人は 1 割未満だが、認知度は 4 割

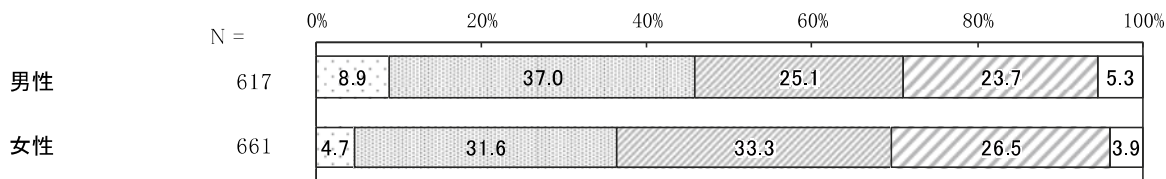
- ・ まちづくり協議会の活動については、「活動に参加していないが、知っている」が 33.9%と最も多く、次いで「聞いた程度であまりよく知らない」が 29.4%、「全く知らない」が 25.1%と続きます。「活動に参加して、よく知っている」人は 6.6%と 1 割未満ですが、認知度（「活動に参加していないが、知っている」との合計）は 40.5%と 4 割となっています。
- ・ 性別では、男性は「活動に参加していないが、知っている」が、女性は「聞いた程度であまりよく知らない」が最も多くなっています。また、女性より男性で、活動への参加率が高く、認知度も高くなっています。
- ・ 年代別では、30 歳代までは「全く知らない」が、40 歳代は「聞いた程度であまりよく知らない」が、50 歳以上は「活動に参加していないが、知っている」が最も多くなっています。認知度は、10 歳代は 1 割で、年齢が上がるほど高くなり、70 歳以上は半数となっています。
- ・ 居住地区別では、八日市地区で「全く知らない」が、南部地区、能登川地区、玉緒地区で「聞いた程度であまりよく知らない」が、そのほかの地区では「活動に参加していないが、知っている」が最も多くなっています。認知度は、永源寺地区で 6 割近く、市辺地区で半数と高くなっています。



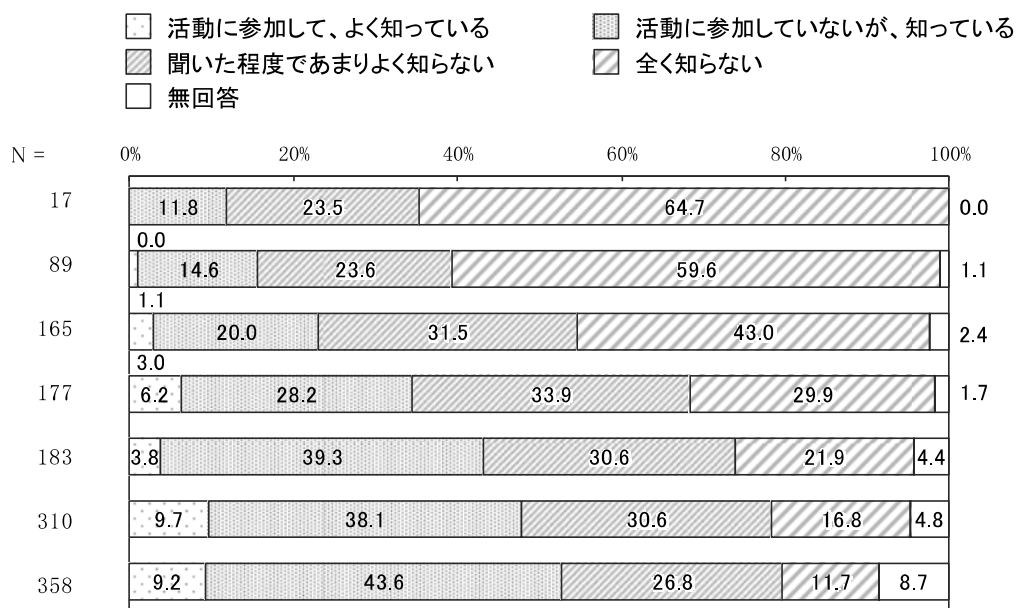
	知っている	知らない	差
①今回調査(令和元年度)	40.5	54.5	-14.0
②市民意識調査(平成30年度)	45.8	51.4	-5.6
①-②	-5.3	3.1	-8.4

* 知っている:「活動に参加して、よく知っている」と「活動に参加していないが、知っている」の合計
 * 知らない:「聞いた程度であまりよく知らない」と「全く知らない」の合計

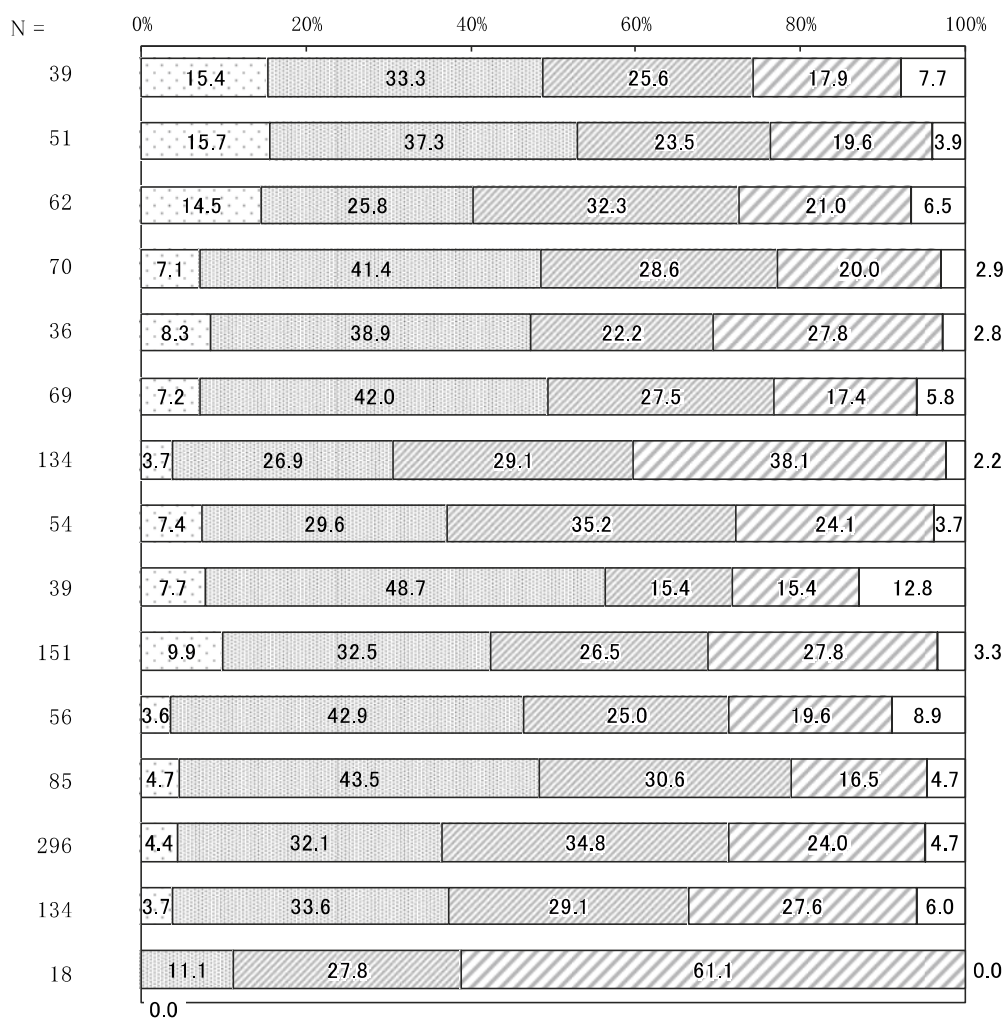
【性別】



【年代別】



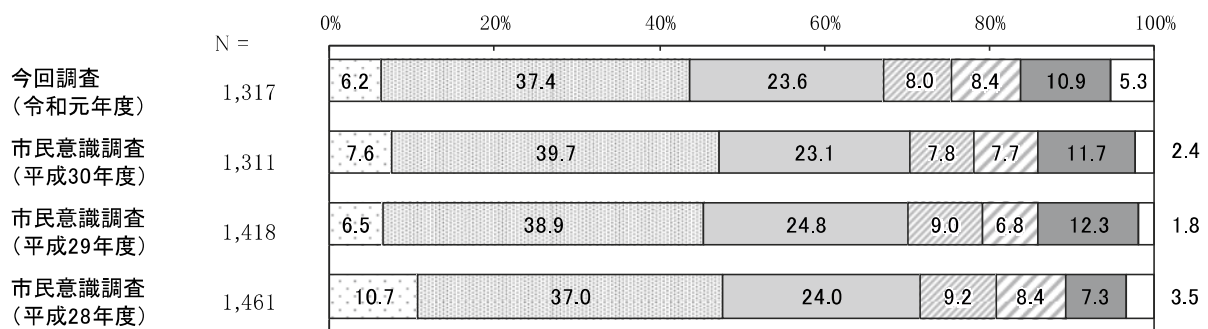
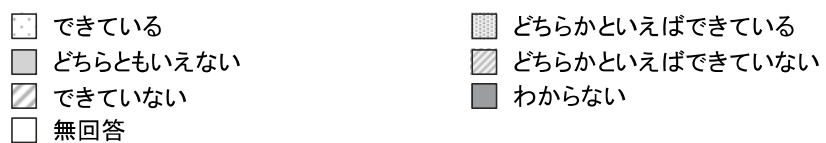
【居住地区別】



問 52 あなたの身近な地域で住民同士の助け合いができていますか。《○1つ》

4割が住民同士の助け合いはできている

- ・ 地域での住民同士の助け合いができていると思うかについては、「どちらかといえばできている」が37.4%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が23.6%、「わからない」が10.9%と続きます。できている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）の割合が43.6%で、できていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）の割合（16.4%）より高くなっています。
- ・ 年代別では30歳以上で年齢が上がるほど、居住地区別では平田地区、永源寺地区、愛東地区、市辺地区で、住民同士の助け合いができている（前述）と思う人が多くみられます。一方、年代別では20～50歳代、居住地区別では特に南部地区で、できていない（前述）と思う人が多くみられます。



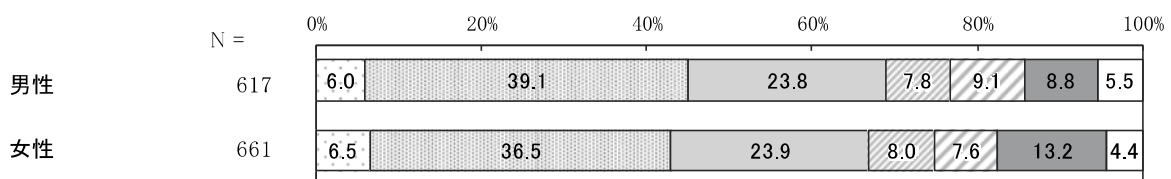
単位：%

	できている	できていない	差
①今回調査(令和元年度)	43.6	16.4	27.2
②市民意識調査(平成30年度)	47.3	15.5	31.8
③市民意識調査(平成29年度)	45.4	15.8	29.6
④市民意識調査(平成28年度)	47.7	17.6	30.1
①-④	-4.1	-1.2	-2.9

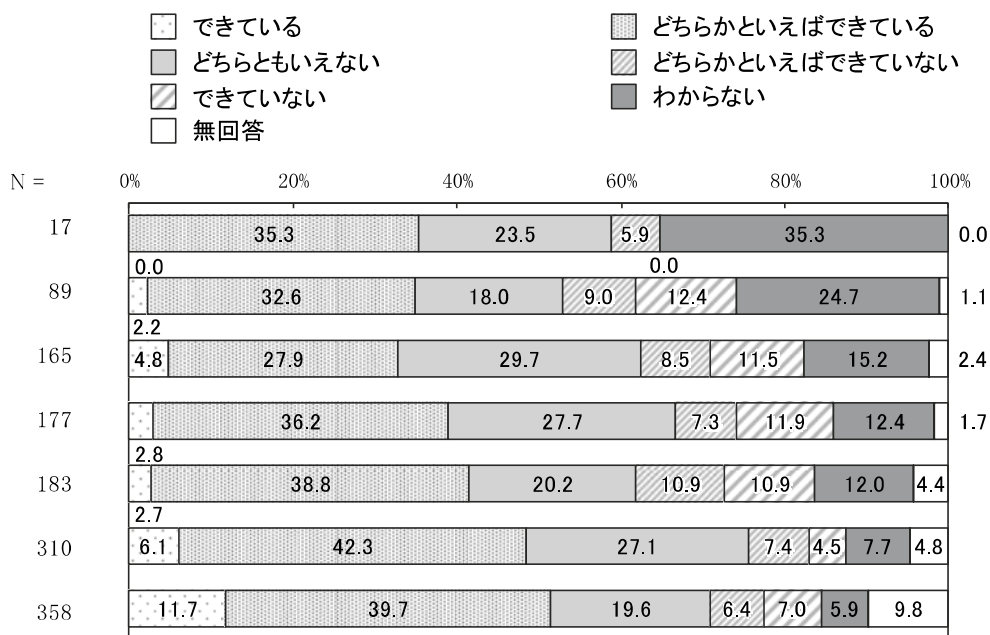
* できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

* できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計

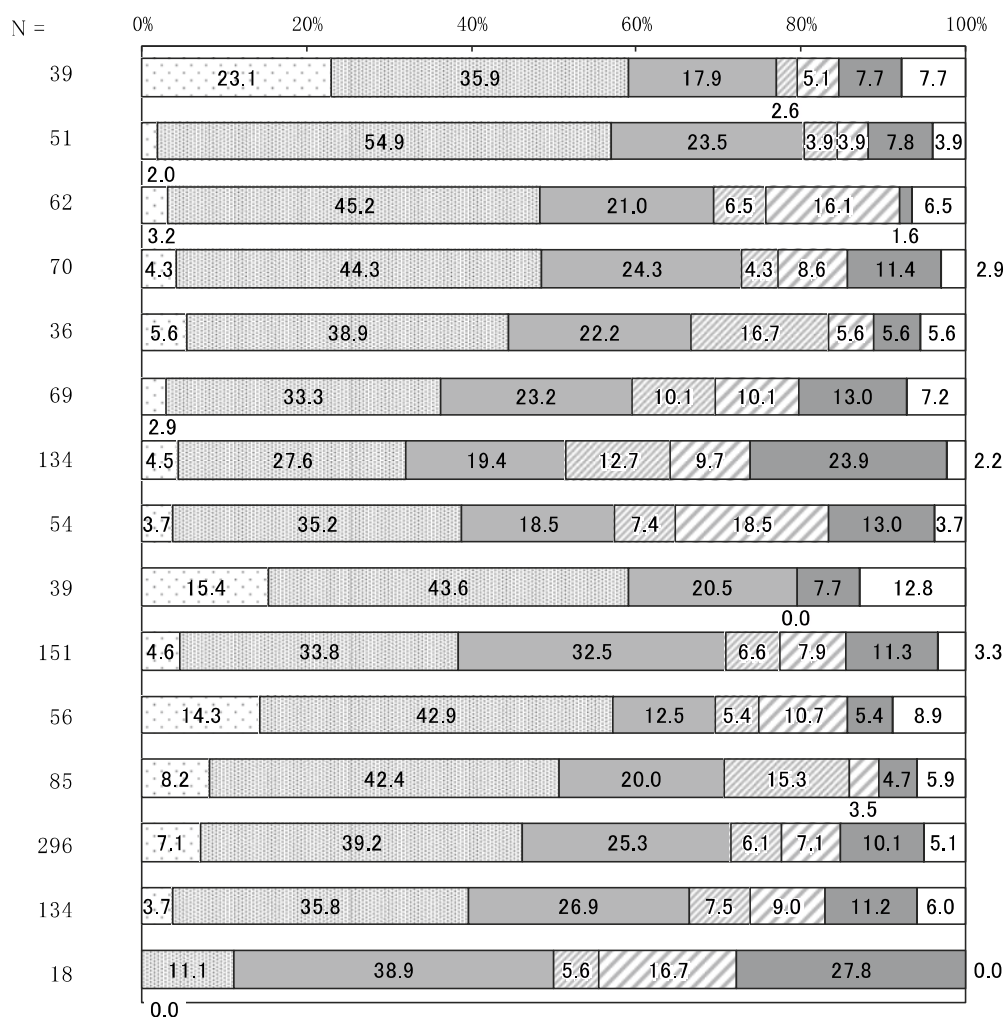
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

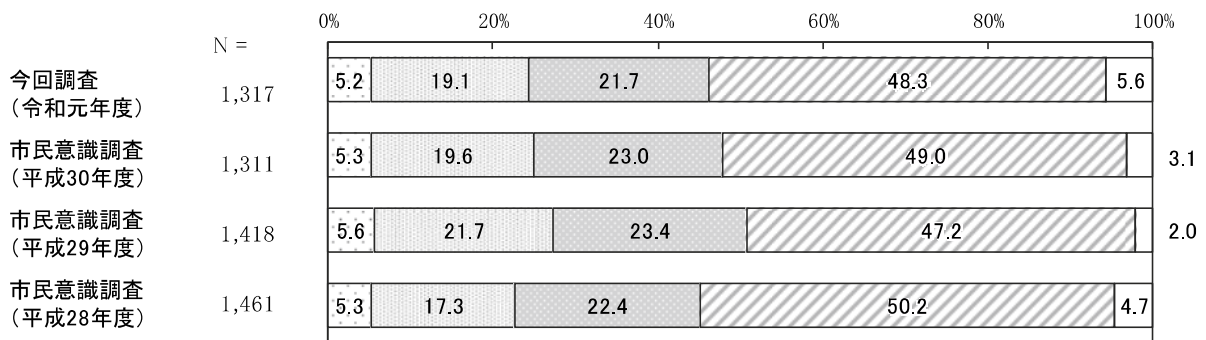


問 53 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

半数近くが活動に参加している

- ・ 地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加頻度については、参加している人が46.0%と半数近くで、その内訳は、「ときどき参加している」が21.7%、「できる限り参加している」が19.1%、「積極的に参加している」が5.2%となっています。一方、「参加していない」は48.3%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、平成29年度以降、参加している人の割合は減少傾向を示していますが、わずかですが平成28年度よりは高くなっています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別の湖東地区を除いて、すべて「参加していない」が最も多くなっています。湖東地区は「ときどき参加している」が最も多くなっています。
- ・ 性別では女性より男性が、年代別では70歳以上を除き年齢が上がるほど、参加している人が多くみられます。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、御園地区、市辺地区で参加している人が6割前後、八日市地区で参加していない人が7割近くみられます。

積極的に参加している
 できる限り参加している
 ときどき参加している
 参加していない
 無回答

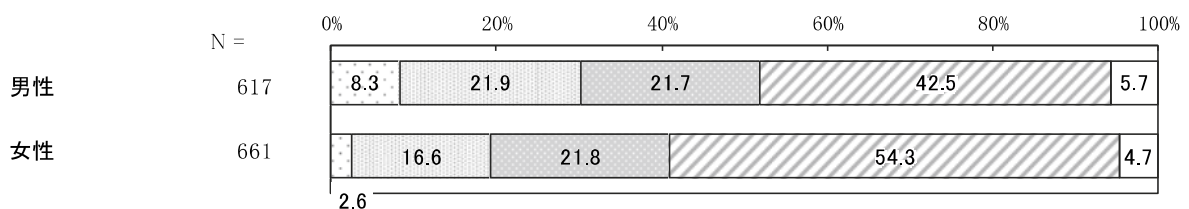


単位：%

	参加している	参加していない	差
①今回調査(令和元年度)	46.0	48.3	-2.3
②市民意識調査(平成30年度)	47.9	49.0	-1.1
③市民意識調査(平成29年度)	50.7	47.2	3.5
④市民意識調査(平成28年度)	45.0	50.2	-5.2
①-④	1.0	-1.9	2.9

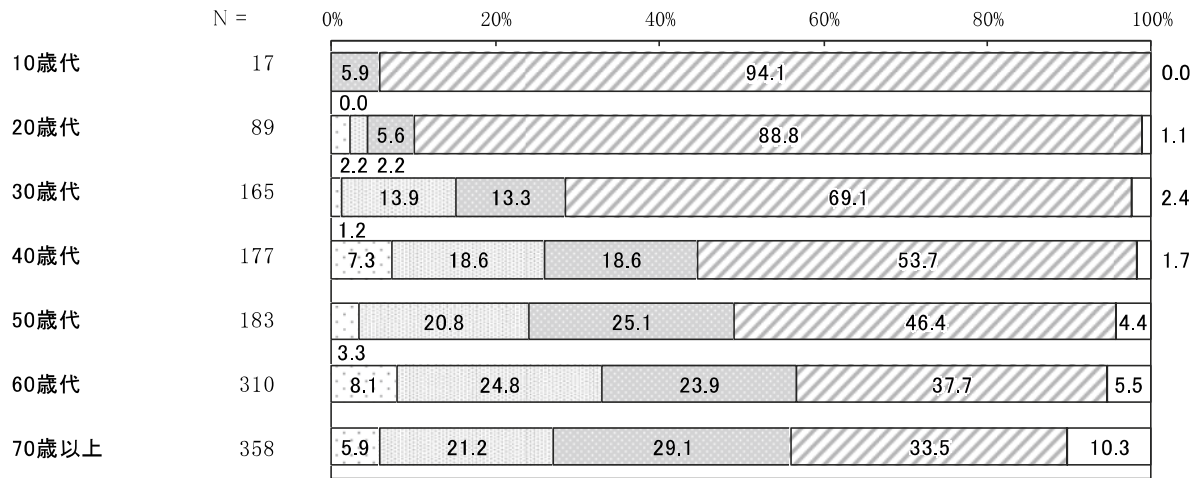
* 参加している:「積極的に参加している」と「できる限り参加している」と「ときどき参加している」の合計

【性別】

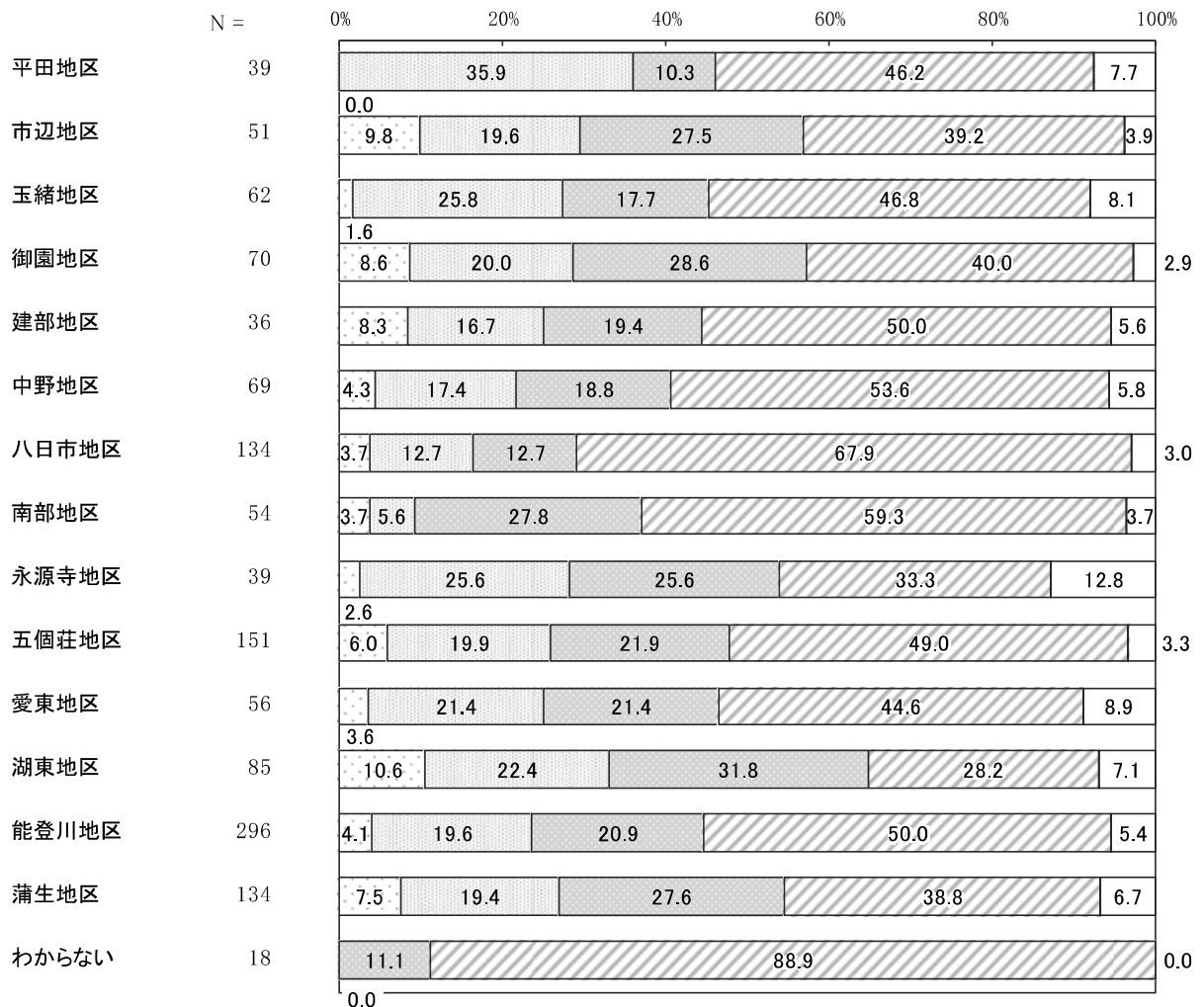


積極的に参加している
 できる限り参加している
 ときどき参加している
 参加していない
 無回答

【年代別】



【居住地区別】

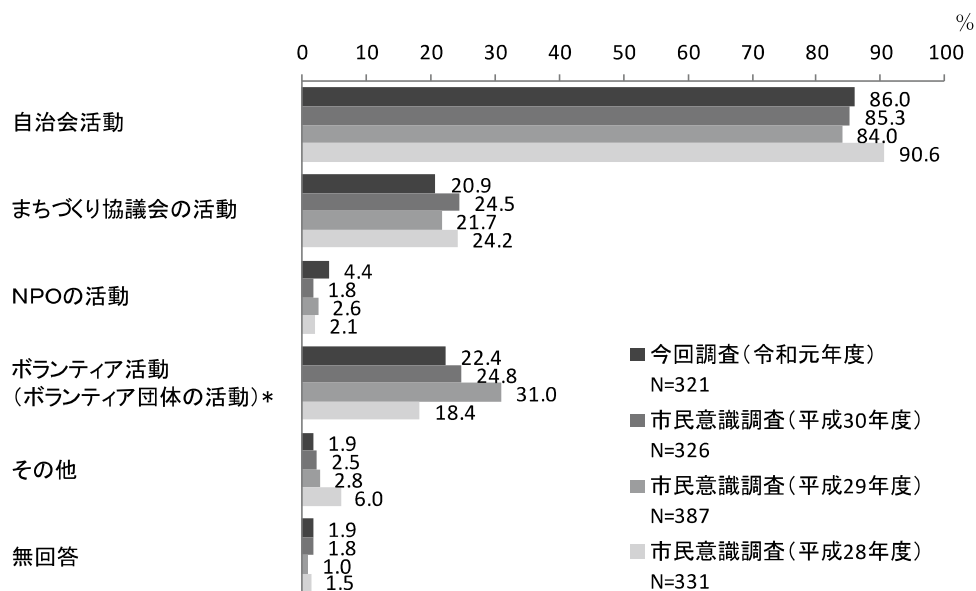


問 53-1 問 53 で「1. 積極的に参加している」「2. できる限り参加している」とお答えの方におたずねします。

この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

9割近くが「自治会活動」に参加、ボランティアやまちづくり協議会の活動への参加も2割

- ・ この1年間にどのような活動に参加したかについては、「自治会活動」が86.0%と最も多く、次いで「ボランティア活動」が22.4%、「まちづくり協議会の活動」が20.9%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、平成29年度以降、「ボランティア活動」の割合が年々減少し、少しずつですが「自治会活動」の割合が年々増加しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別の南部地区を除いて、すべて「自治会活動」が最も多くあげられています。
- ・ 性別では、男性は「自治会活動」や「まちづくり協議会の活動」が女性より多く、女性は「ボランティア活動」が男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、60歳以上で「まちづくり協議会の活動」と「ボランティア活動」がほかの年代より多くみられます。(20歳代は有効回答数が少ないので比較できません。)



* ()内は平成28年度の選択肢

【性別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
男性	186	90.9	25.8	5.4	22.0	2.7	1.6
女性	127	83.5	14.2	2.4	23.6	0.8	1.6

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
10歳代	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	4	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0
30歳代	25	88.0	8.0	0.0	20.0	0.0	0.0
40歳代	46	89.1	23.9	6.5	13.0	2.2	0.0
50歳代	44	88.6	15.9	4.5	6.8	0.0	0.0
60歳代	102	90.2	24.5	2.0	25.5	2.0	1.0
70歳以上	97	80.4	21.6	6.2	32.0	3.1	3.1

【居住地区別】

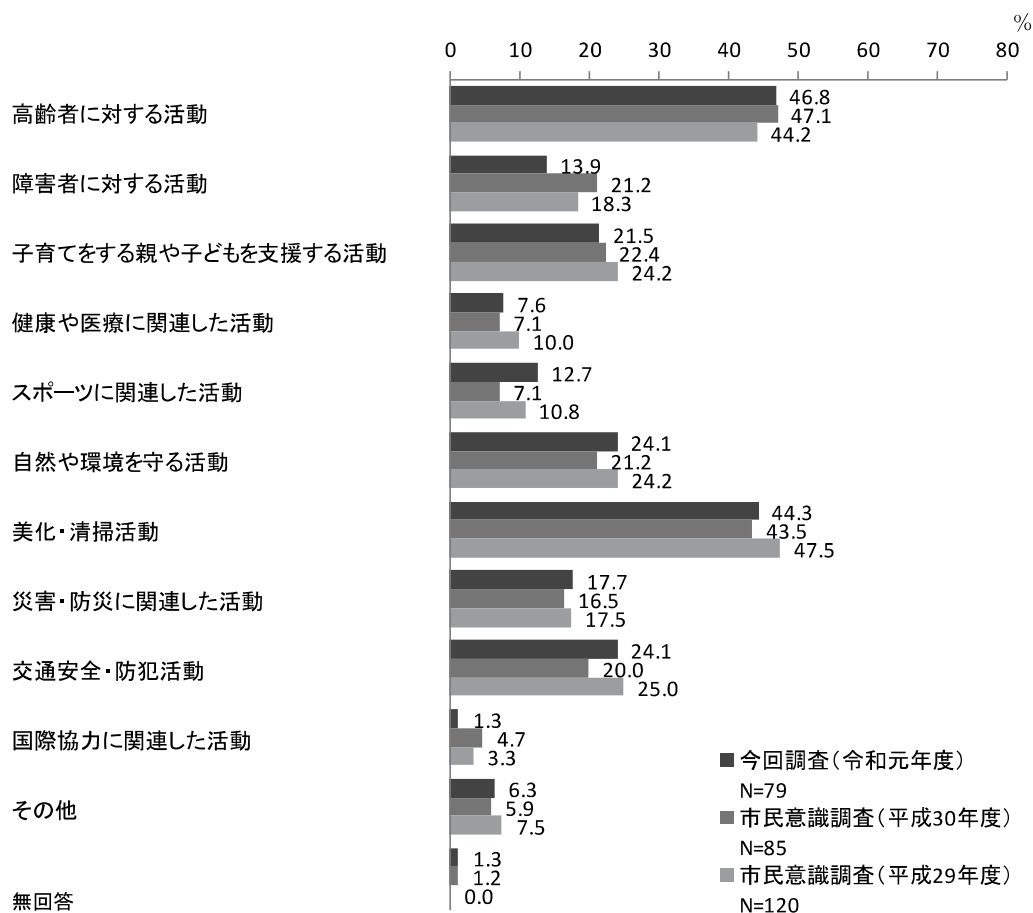
単位:%

区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
平田地区	14	92.9	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0
市辺地区	15	73.3	53.3	6.7	20.0	0.0	0.0
玉緒地区	17	100.0	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0
御園地区	20	95.0	20.0	5.0	20.0	5.0	0.0
建部地区	9	100.0	11.1	22.2	11.1	0.0	11.1
中野地区	15	66.7	26.7	6.7	46.7	0.0	0.0
八日市地区	22	81.8	13.6	4.5	22.7	0.0	4.5
南部地区	5	40.0	40.0	0.0	100.0	0.0	0.0
永源寺地区	11	81.8	27.3	0.0	18.2	0.0	0.0
五個荘地区	39	97.4	35.9	5.1	12.8	0.0	0.0
愛東地区	14	85.7	14.3	0.0	35.7	0.0	0.0
湖東地区	28	85.7	17.9	0.0	25.0	3.6	0.0
能登川地区	70	91.4	12.9	5.7	24.3	2.9	2.9
蒲生地区	36	88.9	11.1	2.8	13.9	5.6	5.6
わからない	-	-	-	-	-	-	-

問 53-2 問 53-1 で「3. NPO活動」「4. ボランティア活動」とお答えの方におたずねします。
この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

「高齢者に対する活動」が半数近く、「美化・清掃活動」も4割

- ・ どのような活動に参加したかについては、「高齢者に対する活動」が46.8%と最も多く、次いで「美化・清掃活動」が44.3%と4割の人があげています。そのほか、「自然や環境を守る活動」と「交通安全・防犯活動」が24.1%、「子育てをする親や子どもを支援する活動」が21.5%と2割の人があげています。
- ・ 条件が同じである平成30年度の調査と比較すると、特に「障害者に対する活動」の割合が減少し、「交通安全・防犯活動」と「スポーツに関連した活動」の割合が増加しています。
- ・ 性別では、男性は「美化・清掃活動」が、女性は「高齢者に対する活動」が最も多くあげられています。そのほか、男性は女性より「自然や環境を守る活動」、「交通安全・防犯活動」、「災害・防災に関連した活動」、「障害者に対する活動」が、女性は男性より「健康や医療に関係した活動」、「子育てをする親や子どもを支援する活動」が多くみられます。



*平成29年度は、「ボランティア活動」に参加している人のみが回答

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関係した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
男性	46	39.1	17.4	19.6	2.2	10.9	34.8	54.3	23.9	32.6	2.2	8.7	2.2
女性	32	59.4	9.4	25.0	15.6	15.6	9.4	28.1	9.4	12.5	0.0	3.1	0.0

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関係した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	5	0.0	20.0	0.0	40.0	40.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0
40歳代	8	0.0	12.5	37.5	0.0	12.5	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5
50歳代	5	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	26	57.7	11.5	15.4	3.8	3.8	23.1	50.0	15.4	26.9	0.0	7.7	0.0
70歳以上	34	61.8	17.6	26.5	8.8	17.6	32.4	41.2	20.6	29.4	2.9	2.9	0.0

【居住地区別】

単位:%

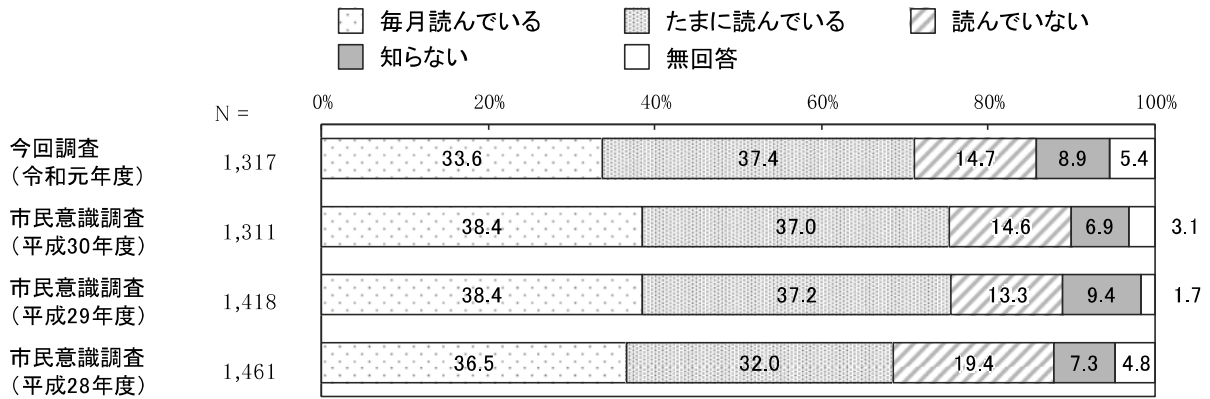
区分	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関係した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
平田地区	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
市辺地区	4	25.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
玉緒地区	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
御園地区	4	75.0	50.0	75.0	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0
建部地区	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3
中野地区	7	42.9	14.3	28.6	0.0	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
八日市地区	6	83.3	0.0	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
南部地区	5	60.0	40.0	20.0	40.0	40.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0
永源寺地区	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
五箇荘地区	6	50.0	0.0	33.3	16.7	33.3	16.7	50.0	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0
愛東地区	5	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
湖東地区	7	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	42.9	71.4	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0
能登川地区	19	47.4	10.5	15.8	5.3	10.5	15.8	36.8	15.8	21.1	0.0	10.5	0.0
蒲生地区	5	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	40.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(9) 広報等の情報について

問 54 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

7割が広報紙を読んでおり、3割は「毎月読んでいる」

- ・ 「広報ひがしおうみ」については、「たまに読んでいる」が37.4%と最も多く、次の「毎月読んでいる」の33.6%と合わせると71.0%となり、7割の人が読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が14.7%、「知らない」が8.9%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、広報紙を「毎月読んでいる」人の割合が減少しました。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では年齢が上がるほど、広報紙を「毎月読んでいる」人の割合が高く、60歳以上は最も多い回答となっています。一方、10歳代は「読んでいない」と「知らない」の両方が最も多くなっています。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、能登川地区、建部地区、平田地区、市辺地区で広報紙を読んでいる人（前述）が8割前後みられる一方、八日市地区、南部地区で読んでいない又は知らない人が多くみられます。

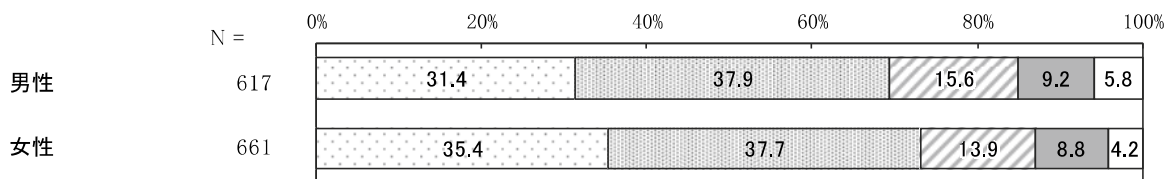


単位：％

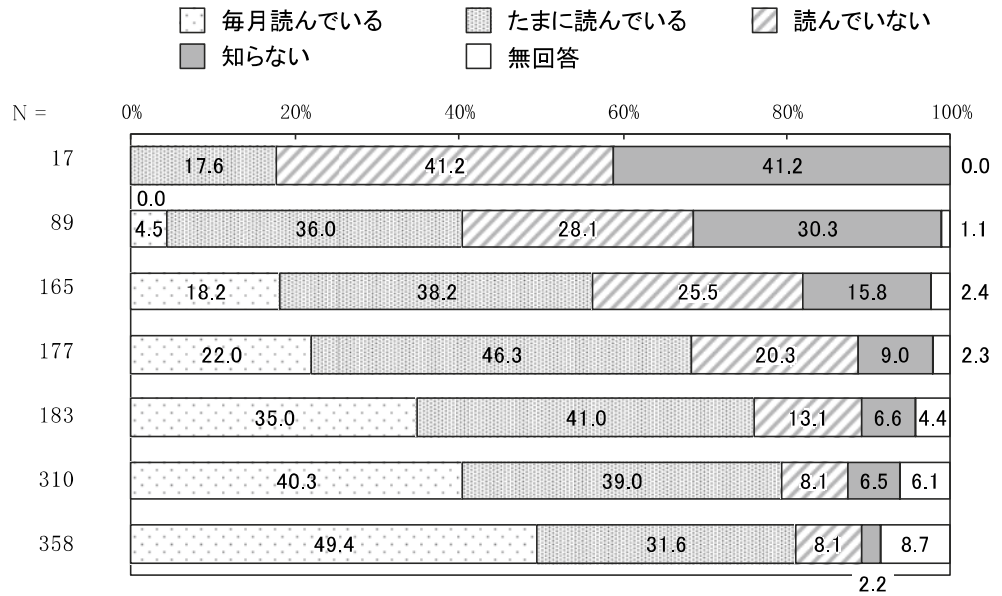
	読んでいる	読んでいない・知らない	差
①今回調査(令和元年度)	71.0	23.6	47.4
②市民意識調査(平成30年度)	75.4	21.5	53.9
③市民意識調査(平成29年度)	75.6	22.7	52.9
④市民意識調査(平成28年度)	68.5	26.7	41.8
①－④	2.5	-3.1	5.6

* 読んでいる:「毎月読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計

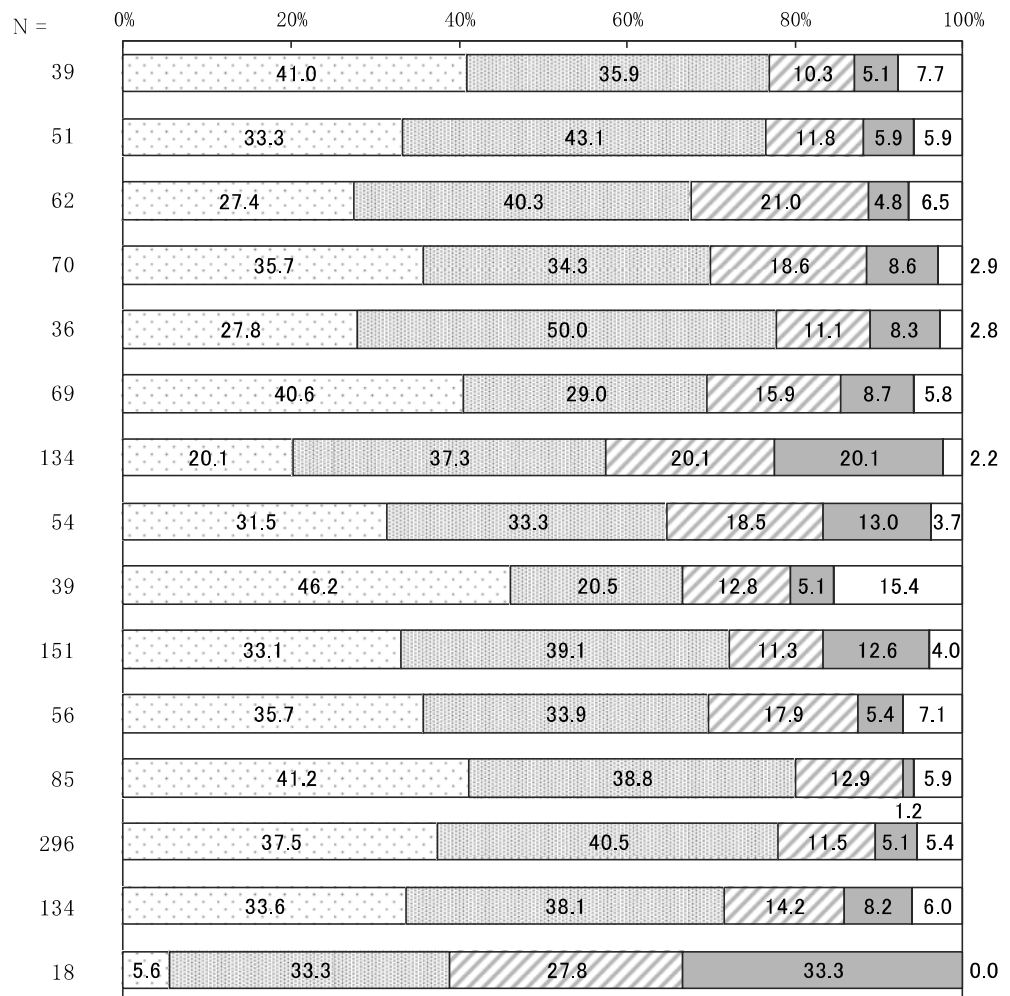
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

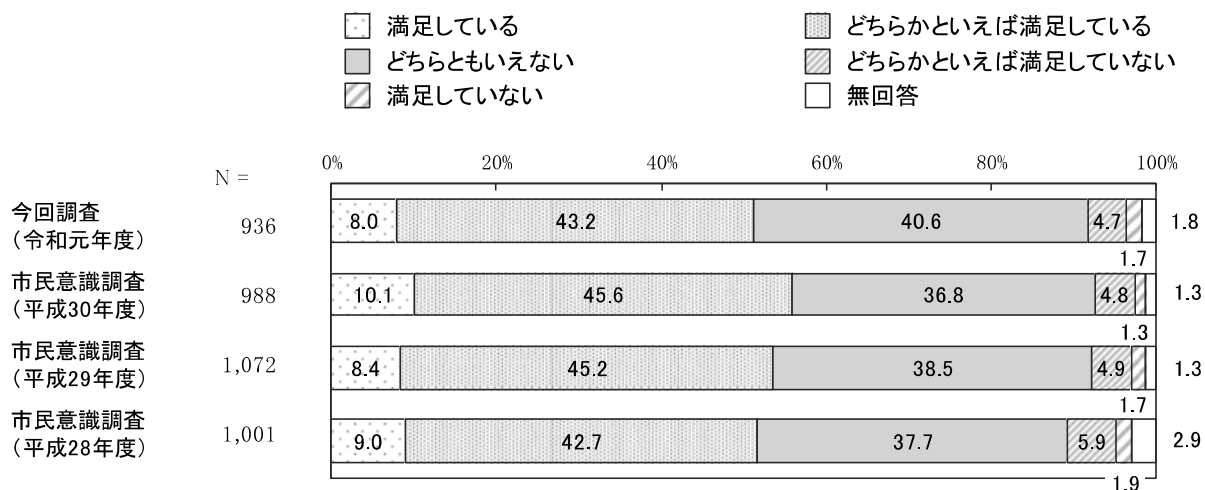


問 54-1 問 54 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方におたずねします。

あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

半数が満足、4割近くが「どちらともいえない」

- ・ 「広報ひがしおうみ」の満足度について広報紙を読んでいる人に聞いたところ、「どちらかといえば満足している」が43.2%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が40.6%と続きます。満足している（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）が51.2%に対し、満足していない（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合は6.4%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、今回調査では「どちらともいえない」の割合が増加し、満足している（前述）の割合が減少しています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では20～30歳代と70歳以上で、居住地区別では永源寺地区と南部地区で、満足している人（前述）の割合が高くなっています。



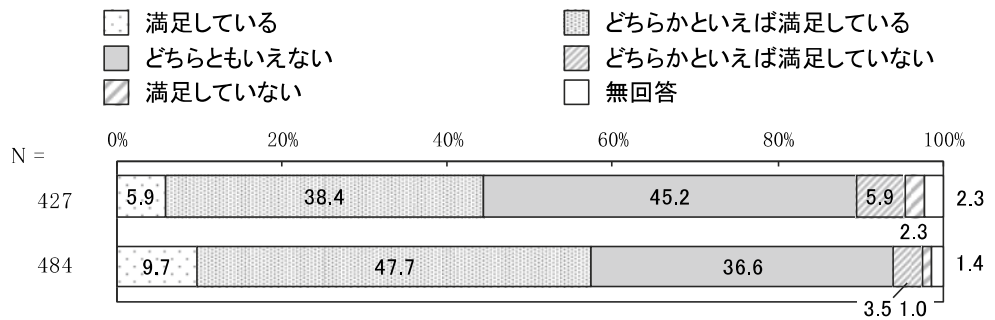
単位: %

	満足	不満	差
①今回調査(令和元年度)	51.2	6.4	44.8
②市民意識調査(平成30年度)	55.7	6.1	49.6
③市民意識調査(平成29年度)	53.6	6.6	47.0
④市民意識調査(平成28年度)	51.7	7.8	43.9
①-④	-0.5	-1.4	0.9

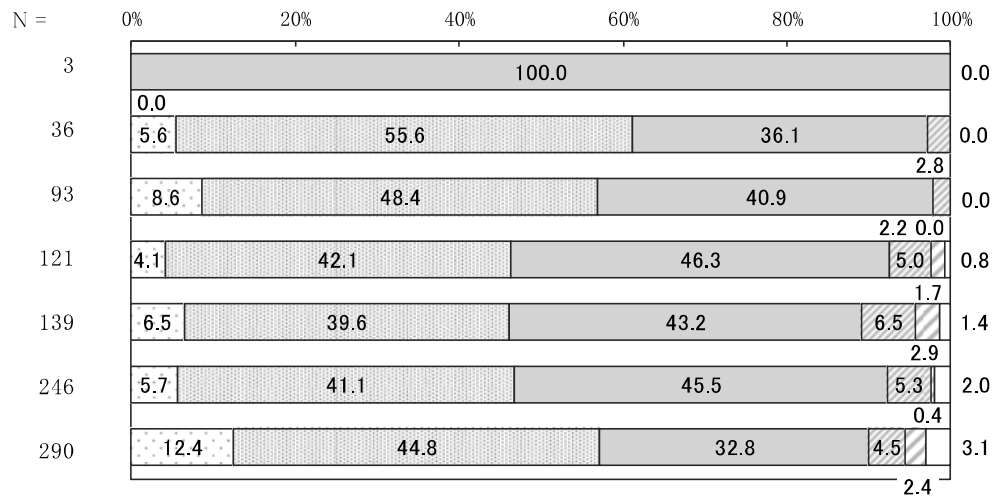
* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

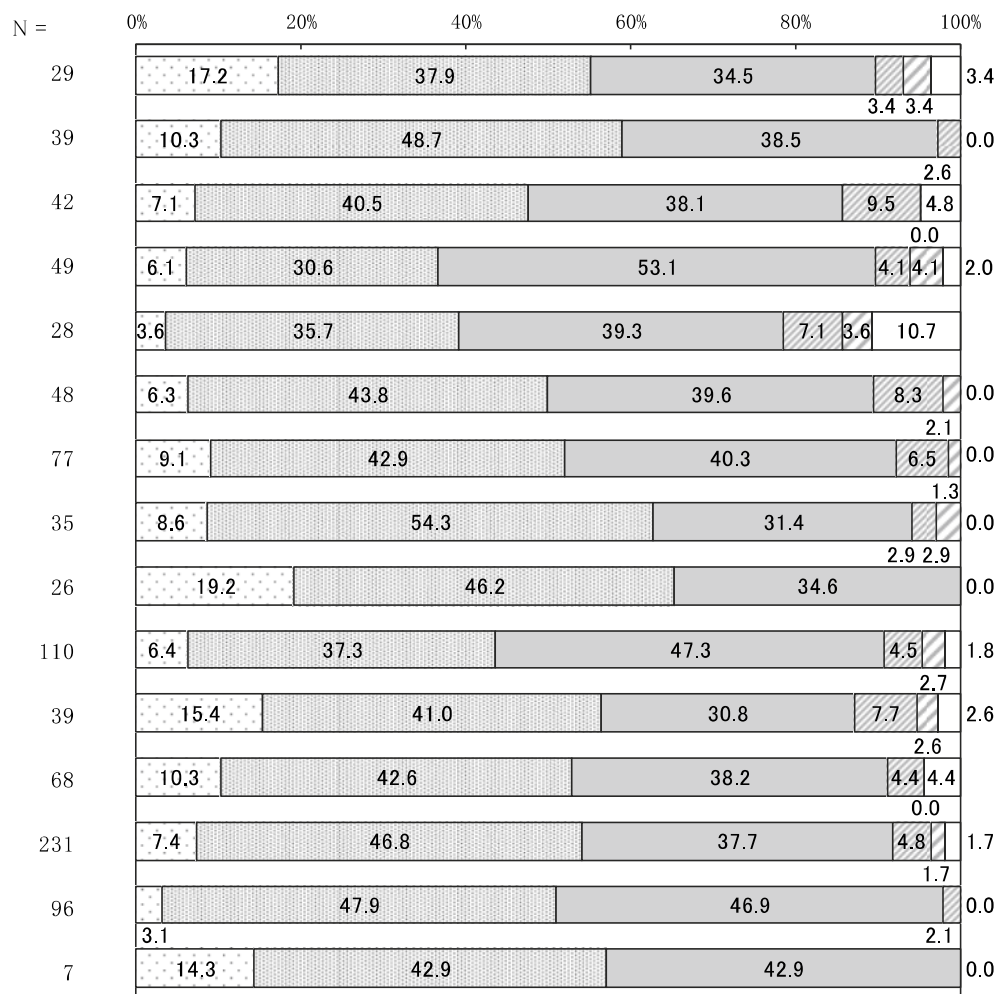
【性別】



【年代別】



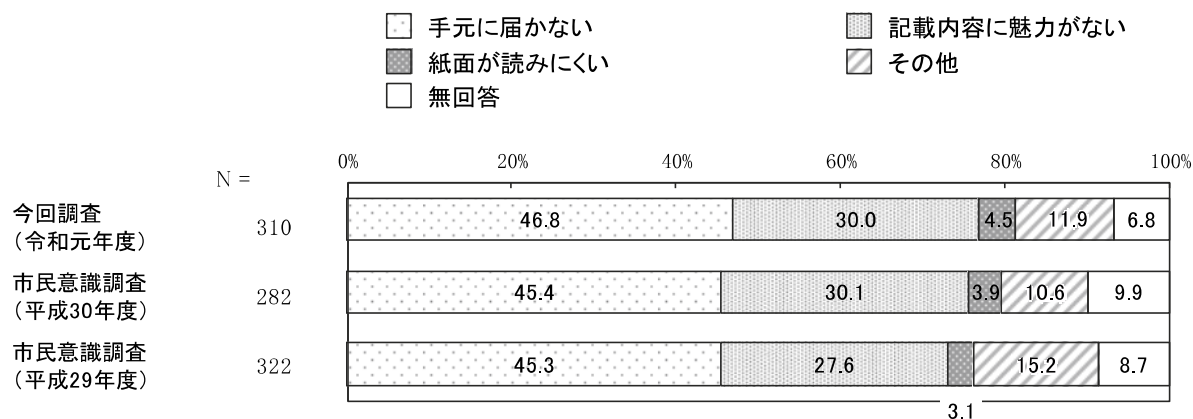
【居住地区別】



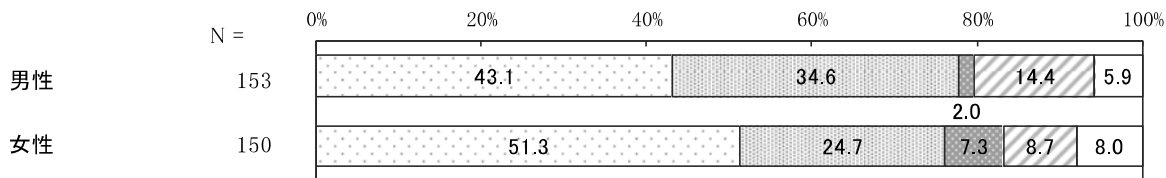
問 54-2 問 54 で「3. 読んでいない」「4. 知らない」とお答えの方におたずねします。
その理由は何ですか。《○1つ》

広報紙を読まない理由は「手元に届かない」が半数近く

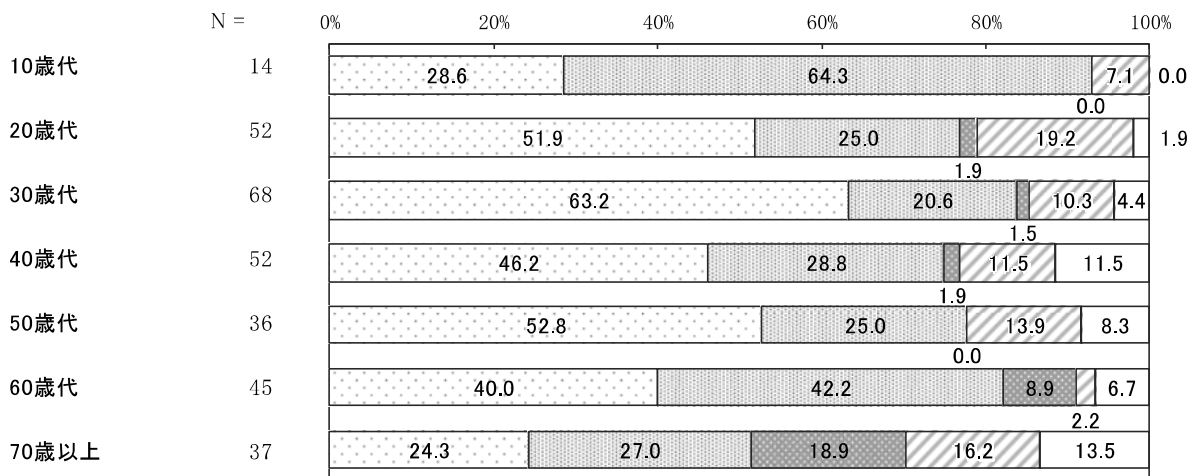
- ・ 「広報ひがしおしみ」を読んでいない人の理由としては、「手元に届かない」が 46.8%と最も多く、次いで「記載内容に魅力がない」が 30.0%と続きます。
- ・ 年代別では、20～50 歳代は「手元に届かない」が、そのほかの年代は「記載内容に魅力がない」が最も多くあげられています。



【性別】

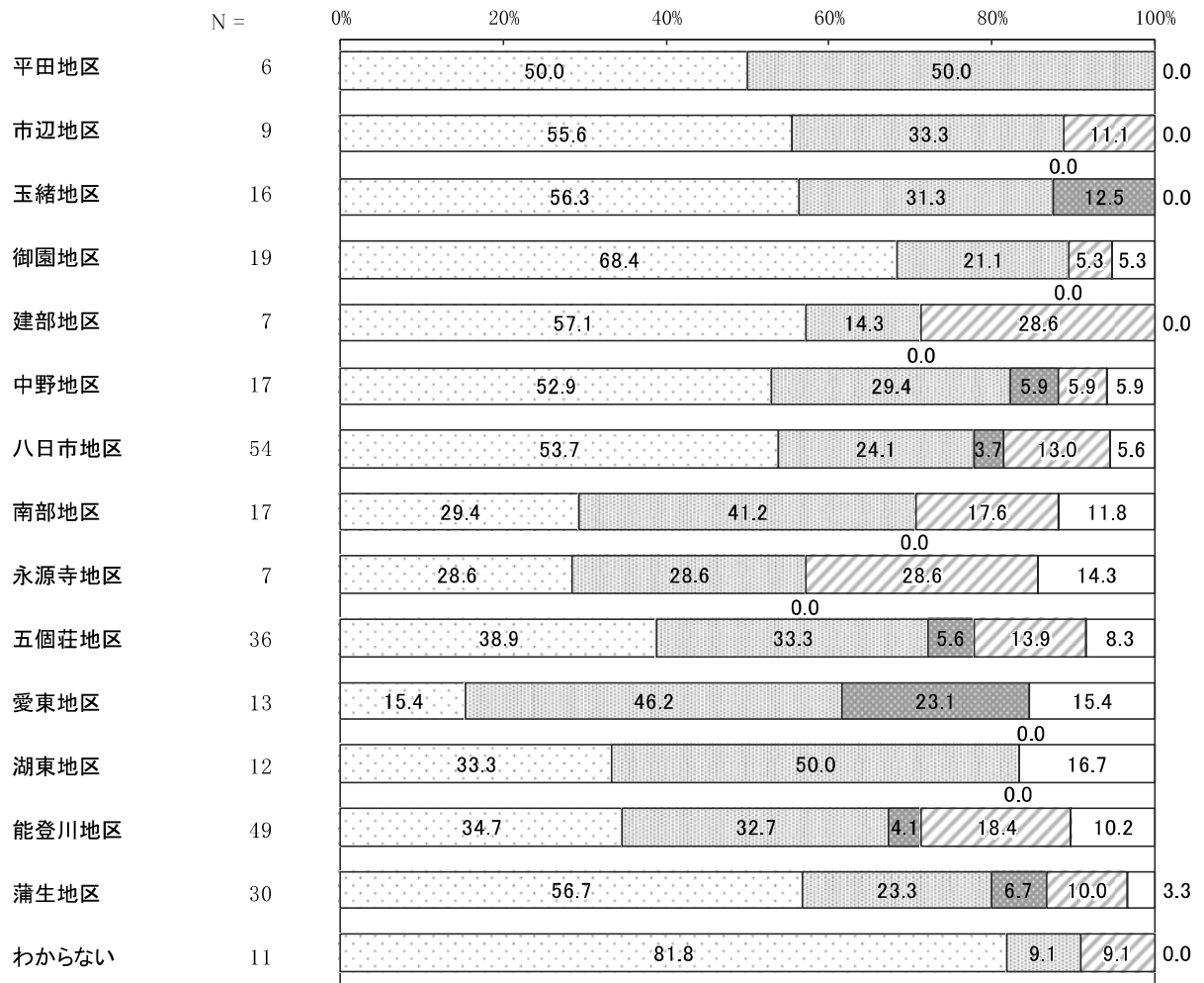


【年代別】



【居住地区別】

- ☐ 手元に届かない
- ☐ 紙面が読みにくい
- ☐ 無回答
- ☐ 記載内容に魅力がない
- ☐ その他



問 55 「広報ひがしおうみ」は毎月新聞折込みによる配布のほかに、次の方法で配信等を行っています。

あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《それぞれの項目に○1つ》

「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度は「公共施設等に設置」が最も高い

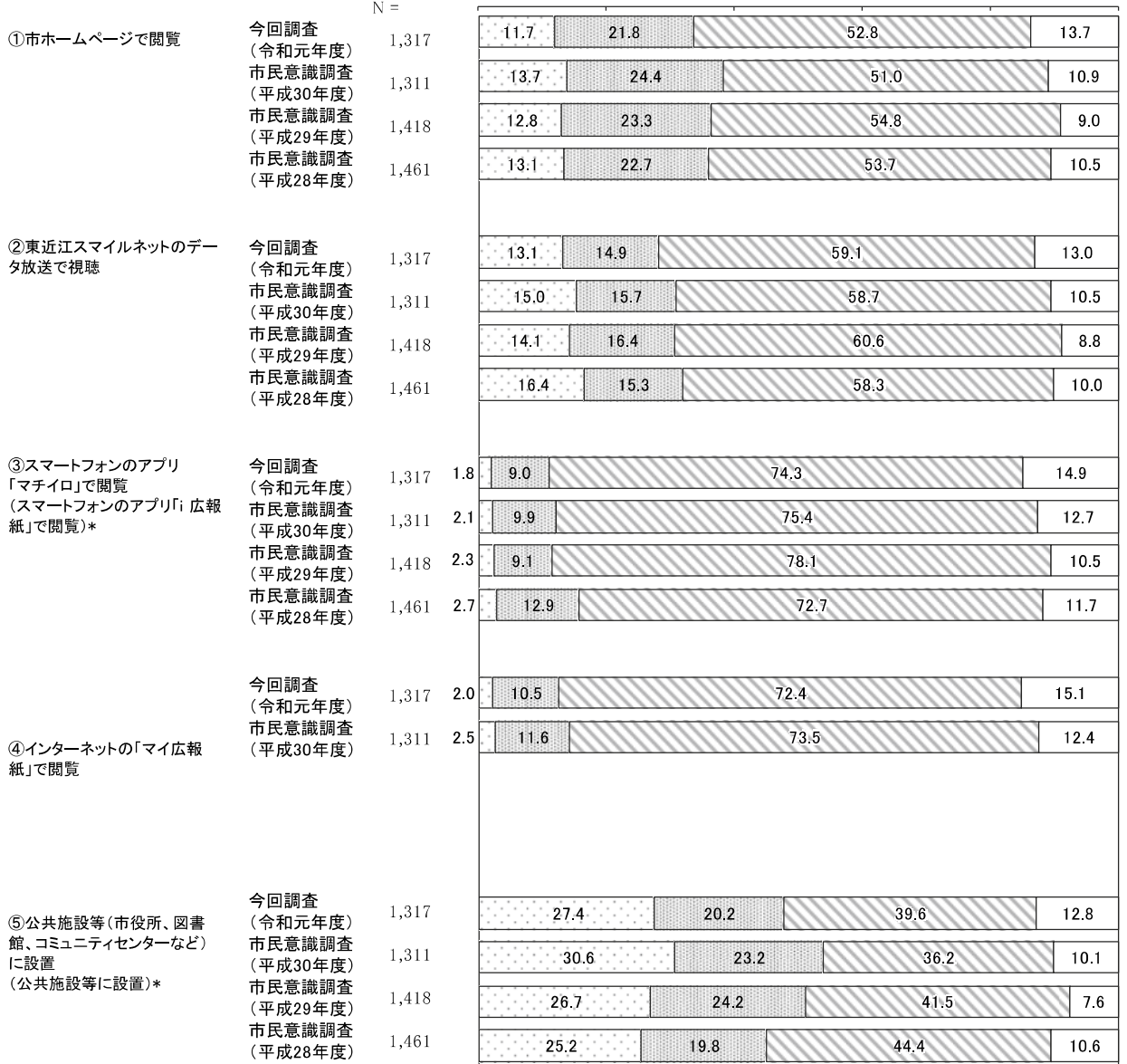
- ・ 「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度（「見たことがある」と「知っているが見たことはない」を合わせた割合）については、「⑤公共施設等に設置」が47.6%と最も多く、次いで「①市ホームページで閲覧」が33.5%、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」が28.0%、「④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧」が12.5%、「③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧」が10.8%となっています。実際に「見たことがある」人が多かったのは、「⑤公共施設等に設置」が27.4%、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」が13.1%、「①市ホームページで閲覧」が11.7%、「④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧」が2.0%、「③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧」が1.8%の順となり、市ホームページでの配信が知られているのに実際に見る人が少ないことが分かります。
- ・ 過去の調査と比較すると、認知度は、変動があるものの「⑤公共施設等（市役所、図書館、コミュニティセンターなど）に設置」が上がっている一方、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」、「③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧」（平成28年度は「i 広報紙）」、「④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧」が低下しています。また、②～③の配信方法は「知らない」の割合が増加しています。

見たことがある
 知っているが見たことはない

知らない

無回答

0% 20% 40% 60% 80% 100%



*()内は平成28年度調査の項目

単位：％

		認知度	知らない	差
①市ホームページで閲覧	今回調査(令和元年度)	33.5	52.8	-19.3
	市民意識調査(平成30年度)	38.1	51.0	-12.9
	市民意識調査(平成29年度)	36.1	54.8	-18.7
	市民意識調査(平成28年度)	35.8	53.7	-17.9
	差	-2.3	-0.9	-1.4
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴	今回調査(令和元年度)	28.0	59.1	-31.1
	市民意識調査(平成30年度)	30.7	58.7	-28.0
	市民意識調査(平成29年度)	30.5	60.6	-30.1
	市民意識調査(平成28年度)	31.7	58.3	-26.6
	差	-3.7	0.8	-4.5
③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧 (平成28年度は「i広報紙」)	今回調査(令和元年度)	10.8	74.3	-63.5
	市民意識調査(平成30年度)	12.0	75.4	-63.4
	市民意識調査(平成29年度)	11.4	78.1	-66.7
	市民意識調査(平成28年度)	15.6	72.7	-57.1
	差	-4.8	1.6	-6.4
④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧	今回調査(令和元年度)	12.5	72.4	-59.9
	市民意識調査(平成30年度)	14.1	73.5	-59.4
	差	-1.6	-1.1	-0.5
⑤公共施設等に設置	今回調査(令和元年度)	47.6	39.6	8.0
	市民意識調査(平成30年度)	53.8	36.2	17.6
	市民意識調査(平成29年度)	50.9	41.5	9.4
	市民意識調査(平成28年度)	45.0	44.4	0.6
	差	2.6	-4.8	7.4

*認知度：「見たことがある」「知っているが見たことはない」の合計

① 市ホームページで閲覧

- ・ 年代別では、70歳以上を除き、年齢が上がるほど認知度が高くなっていき、年齢が低いほど知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、市辺地区、中野地区、南部地区の順に認知度が高く、建部地区を除いて知らない人が知っている人より多く、特に八日市地区で知らない人が多くなっています。

② 東近江スマイルネットのデータ放送で視聴

- ・ 年代別では、年齢が上がるほど認知度は高くなっていき、70歳以上を除いて知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で知らない人が知っている人より多くなっていますが、認知度は湖東地区、五個荘地区で高く、八日市地区で低くなっています。

③ スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧

- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっていますが、60歳以上でほかの年代より認知度が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で知らない人が知っている人より多くなっていますが、中野地区でほかの地区より認知度が高くなっています。一方、建部地区と御園地区の認知度は5%台と低くなっています。

④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧

- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっていますが、年齢が上がるほど認知度が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で知らない人が知っている人より多くなっていますが、中野地区、湖東地区、平田地区、永源寺地区でほかの地区より認知度が高くなっています。一方、御園地区の認知度は7%台と最も低くなっています。

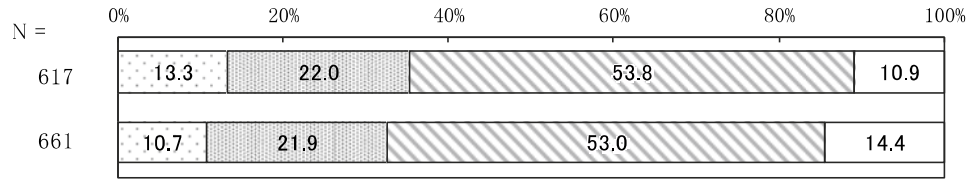
⑤公共施設等に設置

- ・ 性別では、女性の認知度が男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、40歳代で認知度が6割近くと最も高く、10～20歳代では知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、御園地区、能登川地区で認知度が6割近くと高く、愛東地区、八日市地区、永源寺地区、平田地区では知らない人が知っている人より多くなっています。

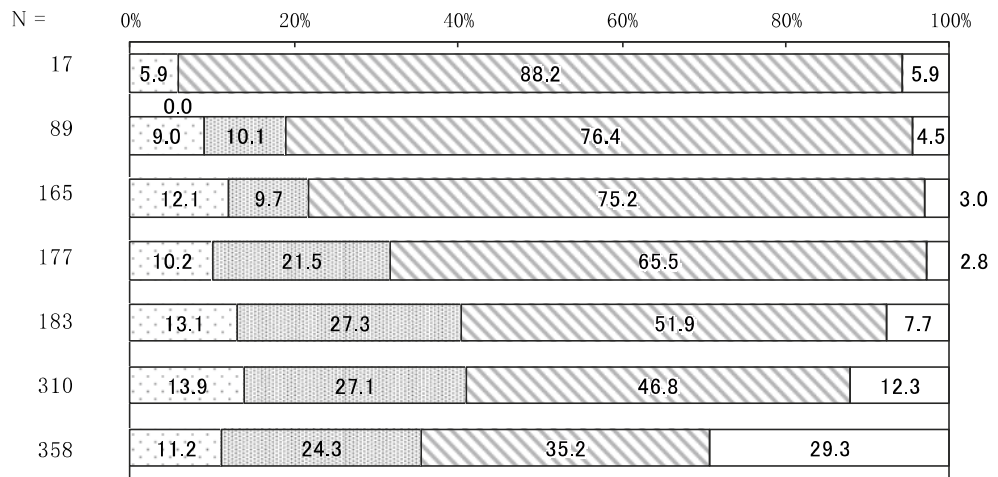
①市ホームページで閲覧

見たことがある
 知っているが見たことはない
 知らない
 無回答

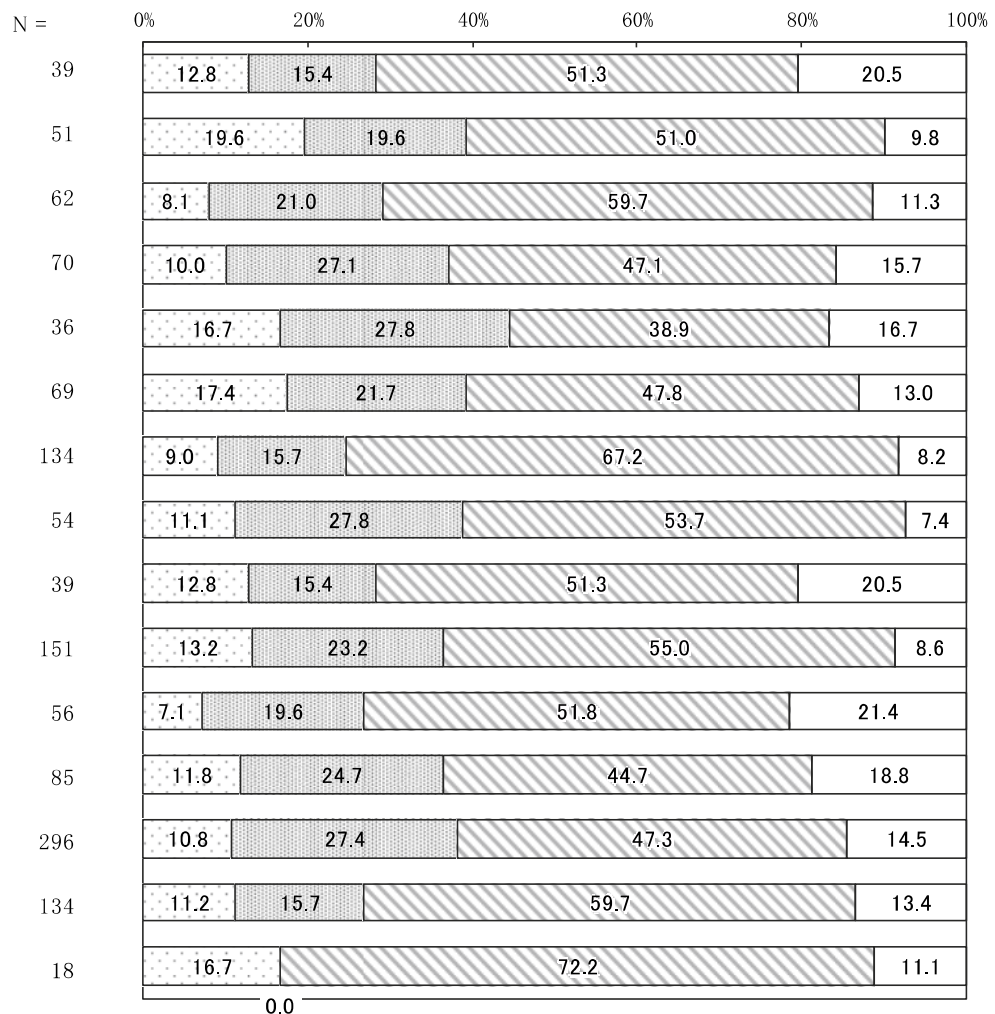
【性別】



【年代別】



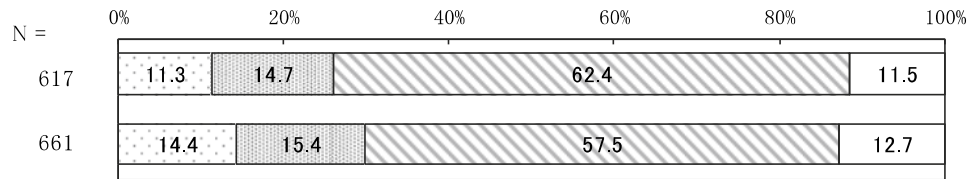
【居住地区別】



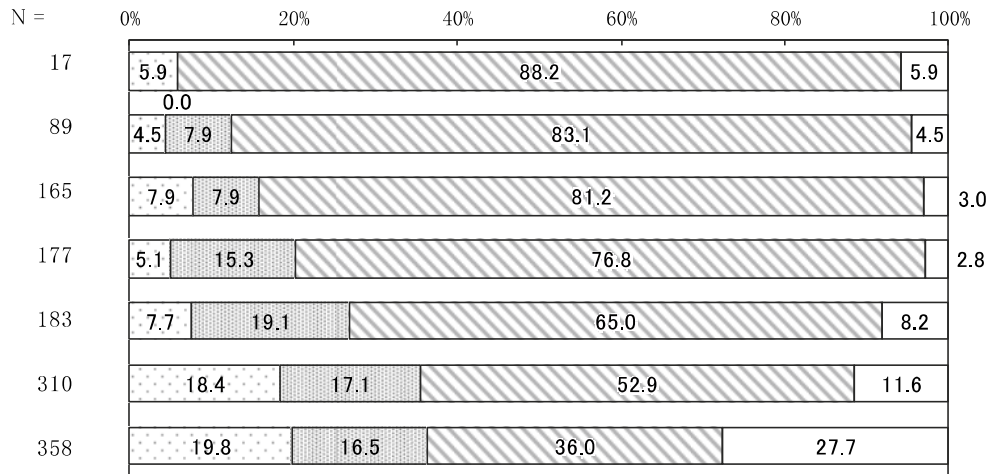
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴

見たことがある
 知っているが見たことはない
 知らない
 無回答

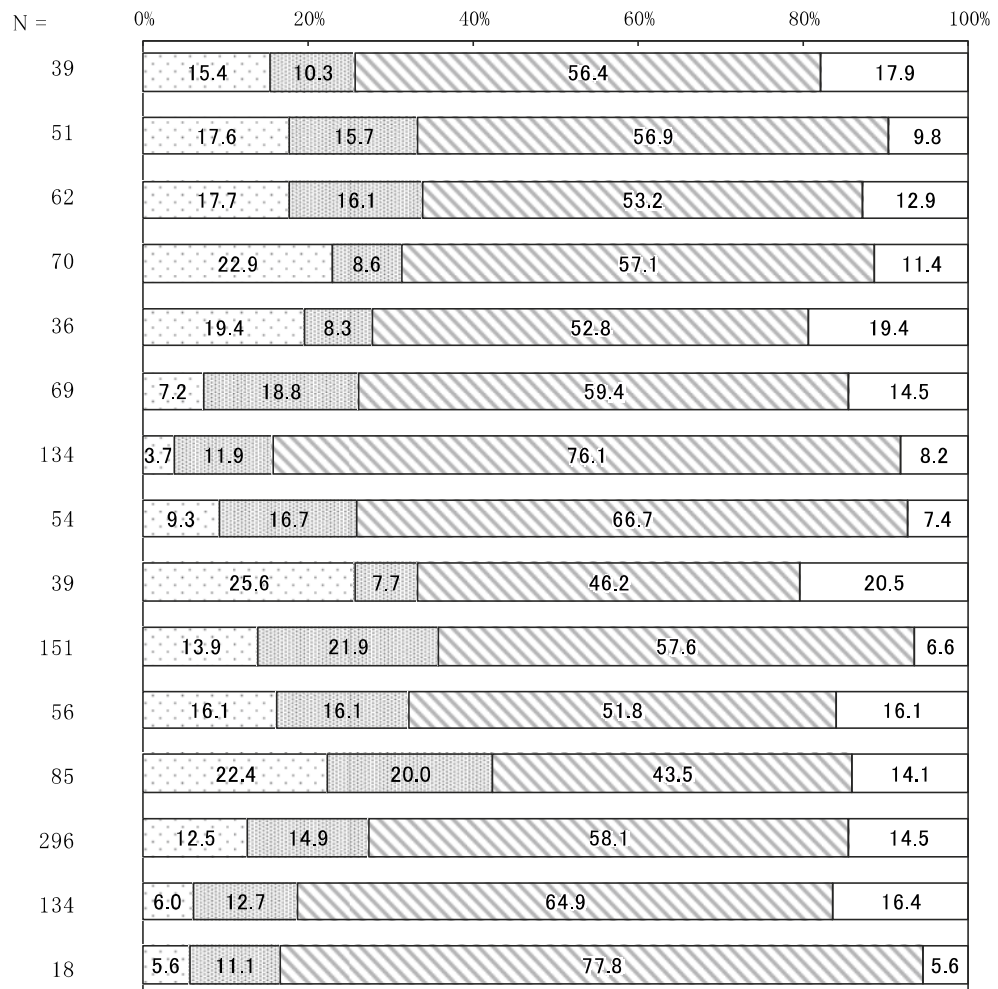
【性別】



【年代別】



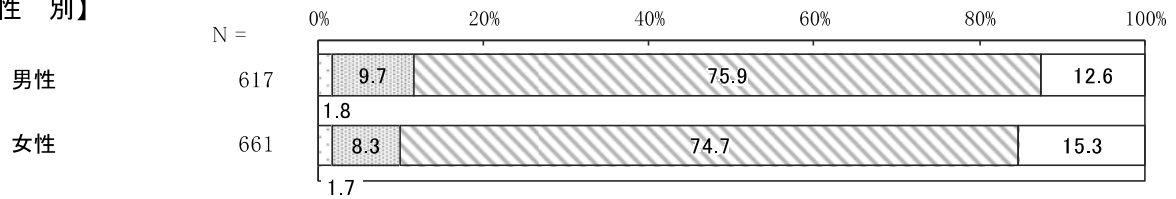
【居住地区別】



③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧

見たことがある
 知っているが見たことはない
 知らない
 無回答

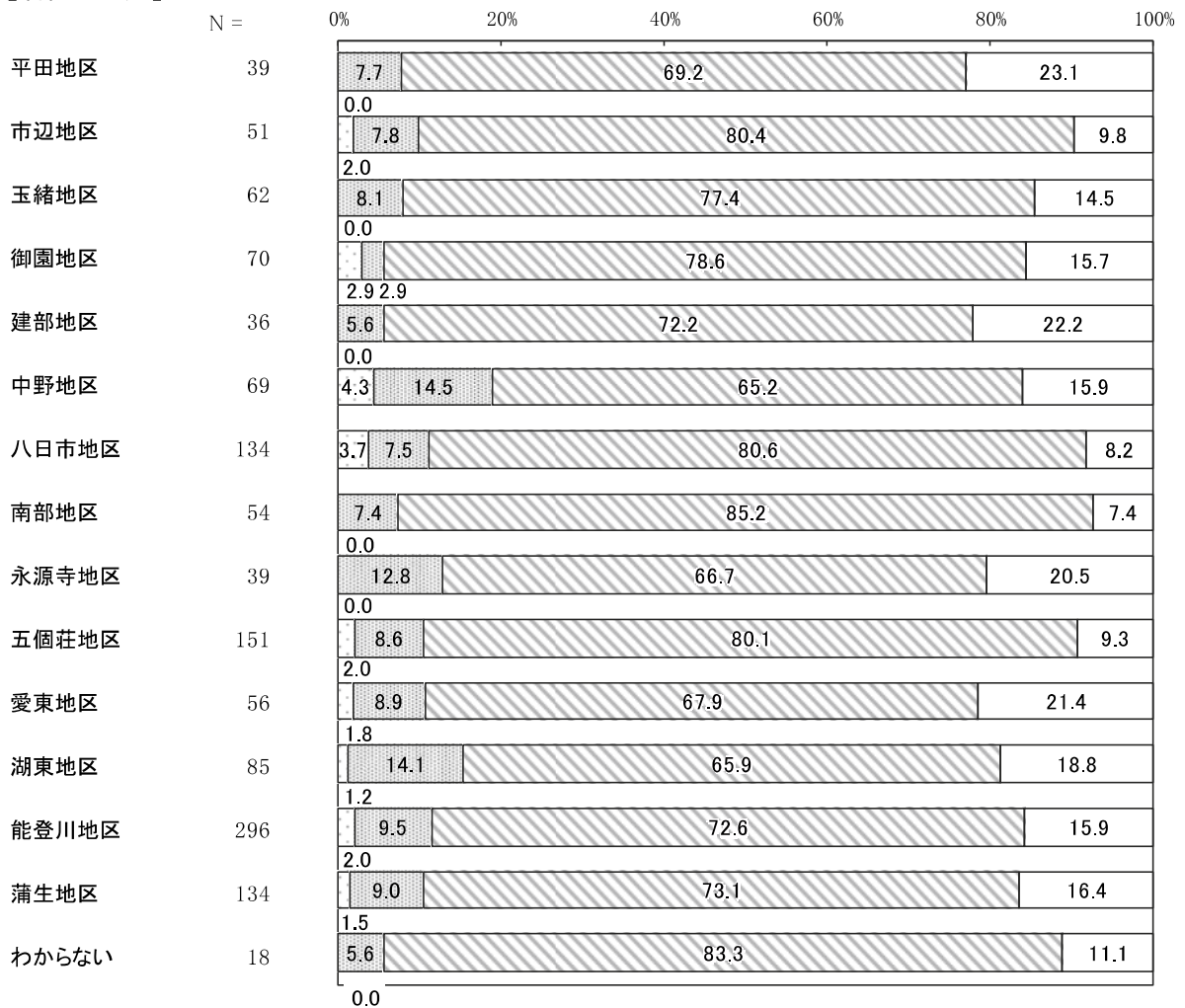
【性別】



【年代別】



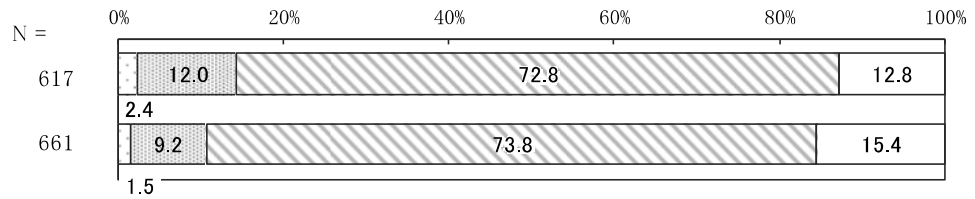
【居住地区別】



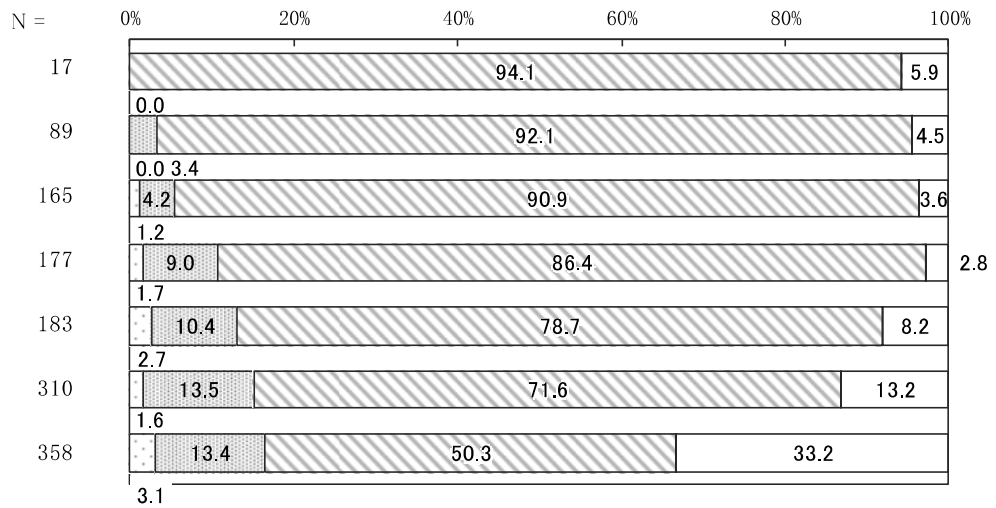
④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧

見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答

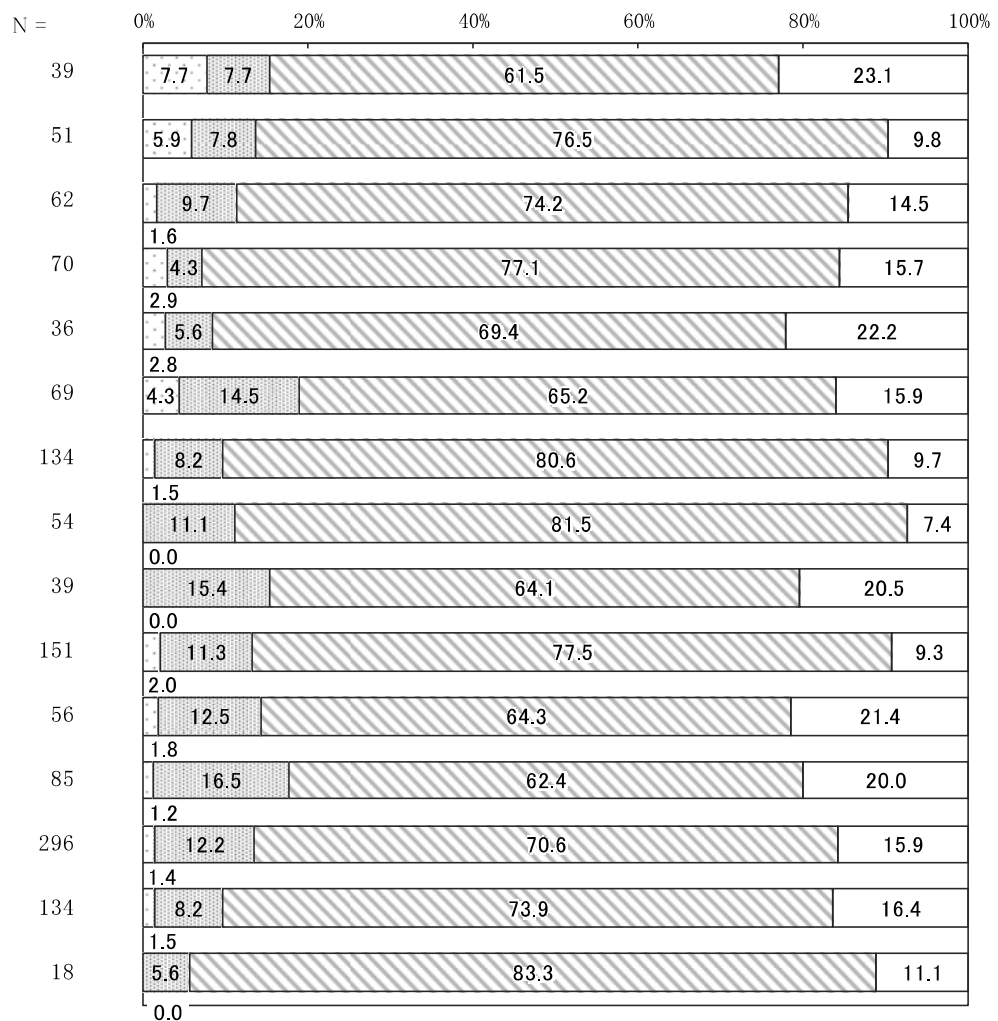
【性別】



【年代別】



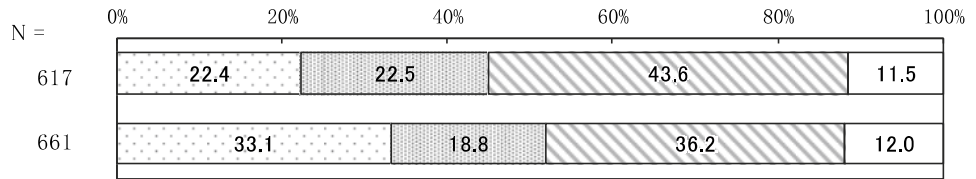
【居住地区別】



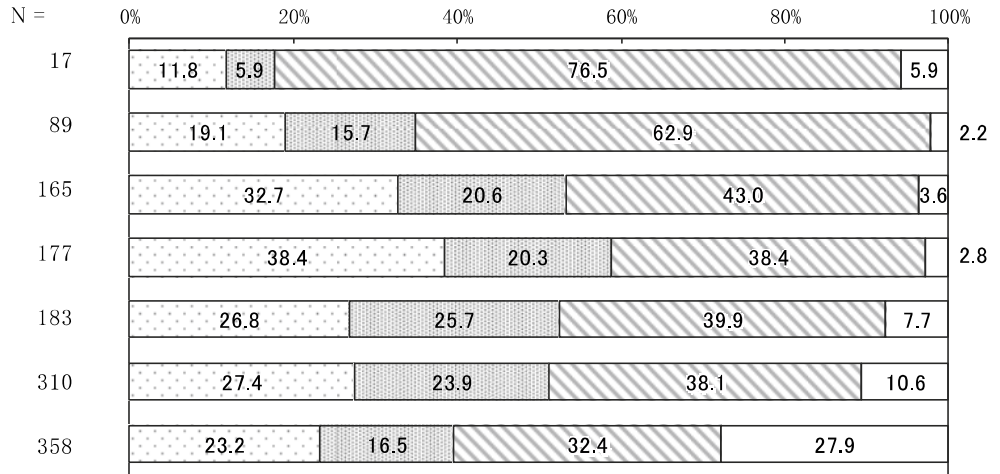
⑤公共施設等に設置

見たことがある
 知っているが見たことはない
 知らない
 無回答

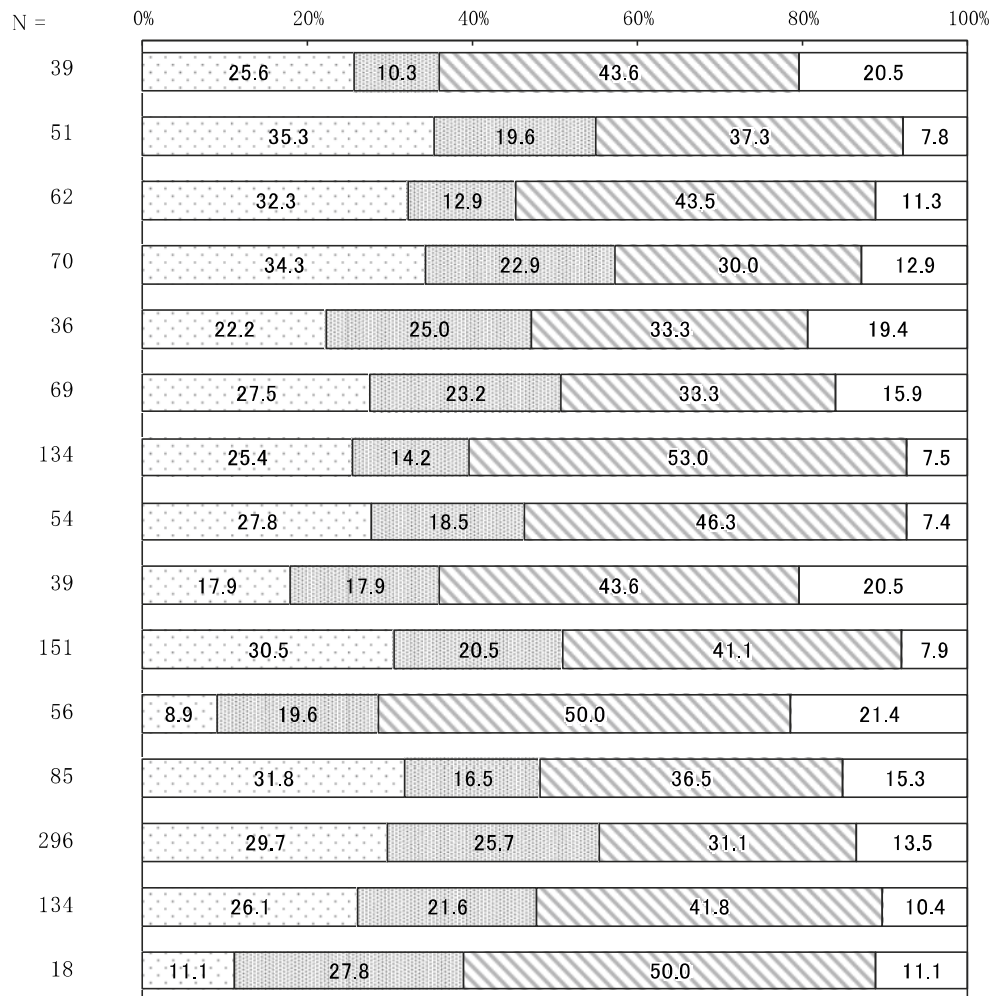
【性別】



【年代別】



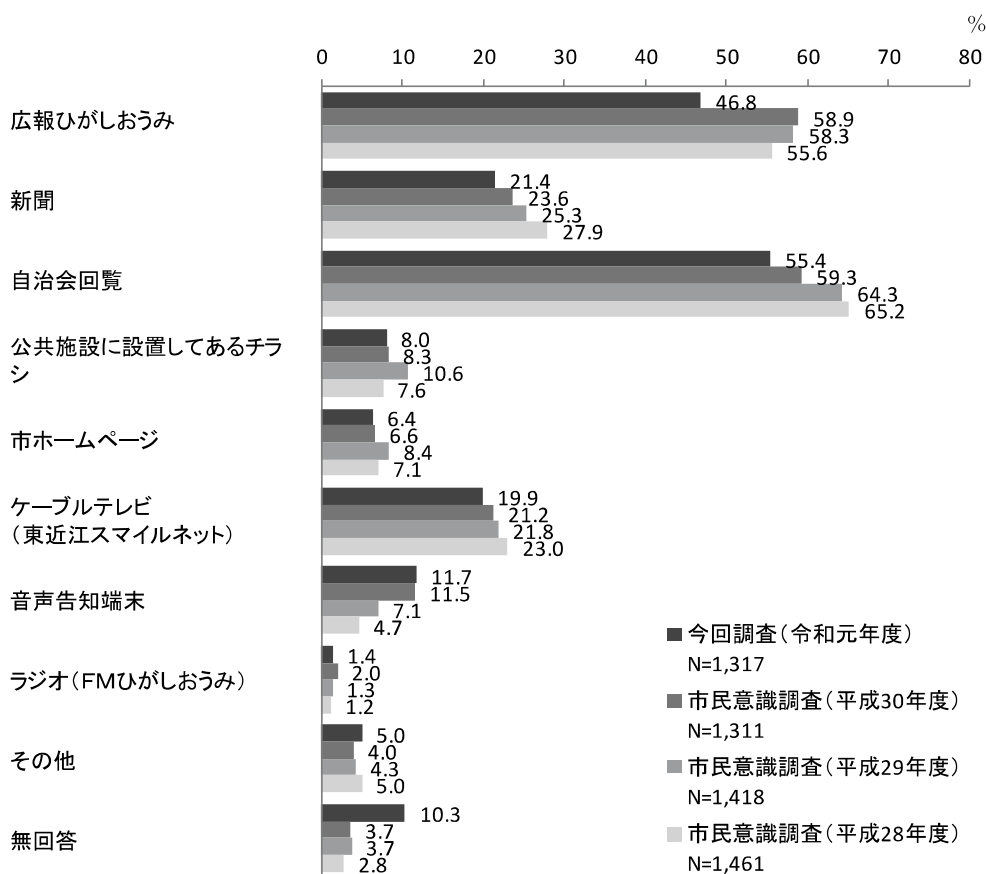
【居住地区別】



問 56 あなたは、市の情報（お知らせ）は主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

6 割近くが「自治会回覧」や「広報ひがしおうみ」で市の情報を取得

- ・ 市の情報（お知らせ）の主な取得方法については、「自治会回覧」が 55.4%と最も多く、次いで「広報ひがしおうみ」が 46.8%、「新聞」が 21.4%、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」が 19.9%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、紙媒体としては「自治会回覧」と「新聞」の割合が年々減少しており、これまで増加していた「広報ひがしおうみ」の割合も今回は減少しています。そのほかの媒体としては「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」の割合が年々減少し、「音声告知端末」の割合が年々増加しています。
- ・ 年代別では、10 歳代は「新聞」が、そのほかの年代は「自治会回覧」が最も多くあげられています。そのほか「広報ひがしおうみ」は年齢が上がるほど、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」は 60 歳以上でほかの年代より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、御園地区、八日市地区は「広報ひがしおうみ」が、そのほかの地区では「自治会回覧」が最も多くあげられています。すべての地区でこの 2 つのいずれかが上位 3 位までにあげられており、そのほか、湖東地区、永源寺地区、御園地区、平田地区、能登川地区、五個荘地区で「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」、愛東地区で「音声告知端末」、ほかの地区で「新聞」があげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	江スマイルテレビ(東近)	ケーブルテレビ(東近)	音声告知端末	ラジオ(FMひがしおうみ)	その他	無回答
男性	617	44.7	21.9	55.8	7.5	8.4	18.8	12.5	1.9	4.2	10.0	
女性	661	49.3	20.9	55.8	8.9	4.8	20.9	11.0	0.9	5.7	10.0	

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	江スマイルテレビ(東近)	ケーブルテレビ(東近)	音声告知端末	ラジオ(FMひがしおうみ)	その他	無回答
10歳代	17	5.9	41.2	29.4	5.9	0.0	11.8	11.8	11.8	5.9	5.9	
20歳代	89	24.7	14.6	28.1	11.2	11.2	14.6	5.6	4.5	20.2	7.9	
30歳代	165	29.7	16.4	38.2	17.6	16.4	13.3	7.3	3.0	13.9	8.5	
40歳代	177	44.1	23.2	49.7	8.5	10.2	11.3	14.1	2.3	3.4	6.2	
50歳代	183	50.3	20.8	56.8	7.1	8.2	13.7	14.2	0.5	4.9	12.0	
60歳代	310	52.3	21.9	64.5	7.1	3.2	25.8	12.6	0.3	1.9	10.3	
70歳以上	358	57.3	23.2	66.8	4.5	1.1	27.1	12.3	0.6	0.6	12.6	

【居住地区別】

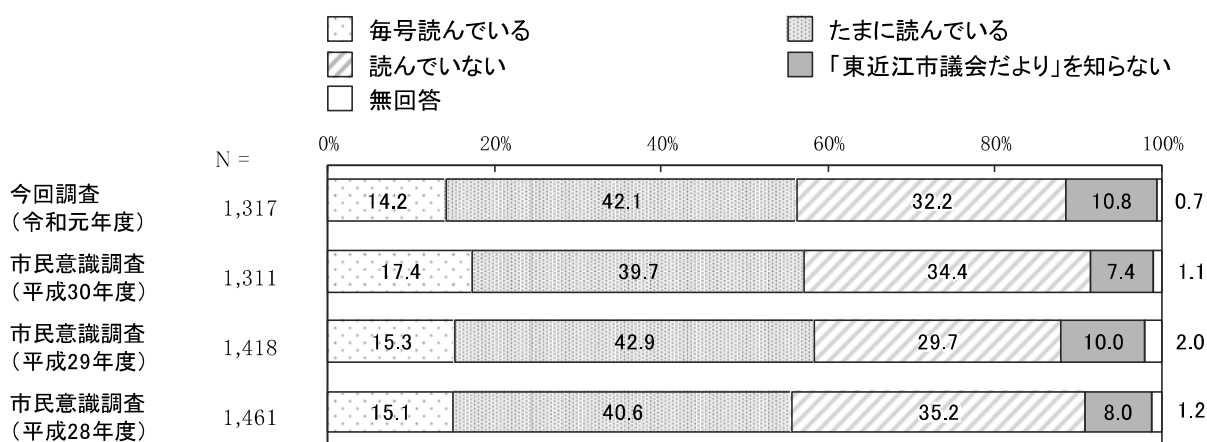
単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	江スマイルテレビ(東近)	ケーブルテレビ(東近)	音声告知端末	ラジオ(FMひがしおうみ)	その他	無回答
平田地区	39	41.0	20.5	48.7	5.1	2.6	28.2	10.3	0.0	2.6	20.5	
市辺地区	51	56.9	33.3	41.2	3.9	5.9	17.6	2.0	0.0	9.8	15.7	
玉緒地区	62	40.3	25.8	58.1	4.8	6.5	16.1	16.1	0.0	3.2	9.7	
御園地区	70	50.0	30.0	45.7	11.4	4.3	30.0	10.0	1.4	4.3	4.3	
建部地区	36	33.3	36.1	75.0	2.8	5.6	8.3	8.3	0.0	2.8	13.9	
中野地区	69	58.0	27.5	65.2	5.8	8.7	14.5	4.3	0.0	4.3	5.8	
八日市地区	134	37.3	20.1	35.8	13.4	9.0	11.2	10.4	5.2	14.2	8.2	
南部地区	54	38.9	33.3	55.6	0.0	9.3	14.8	7.4	0.0	5.6	9.3	
永源寺地区	39	35.9	15.4	53.8	0.0	2.6	38.5	12.8	0.0	2.6	23.1	
五個荘地区	151	46.4	17.9	66.9	6.6	7.3	18.5	15.9	1.3	2.0	7.3	
愛東地区	56	41.1	10.7	48.2	3.6	5.4	32.1	33.9	1.8	3.6	14.3	
湖東地区	85	49.4	16.5	69.4	5.9	4.7	38.8	7.1	0.0	2.4	9.4	
能登川地区	296	54.7	17.9	59.8	9.5	6.1	20.6	11.8	1.4	4.1	9.8	
蒲生地区	134	49.3	20.9	52.2	15.7	3.7	11.9	11.9	1.5	5.2	11.2	
わからない	18	16.7	11.1	38.9	5.6	27.8	5.6	0.0	5.6	11.1	11.1	

問 57 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

6割近くが「東近江市議会だより」を読んでいる

- ・ 「東近江市議会だより」については、「毎号読んでいる」が14.2%、「たまに読んでいる」が42.1%で、これらを合わせると56.3%となり、6割近くの人が読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が32.2%、「知らない」が10.8%となっています。
- ・ 年代別では、年齢が上がるほど、「東近江市議会だより」を読んでいる人（「毎号読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計）が多くみられます。また、10～40歳代では、読んでいない又は知らない人が、読んでいる（前述）より多くみられます。

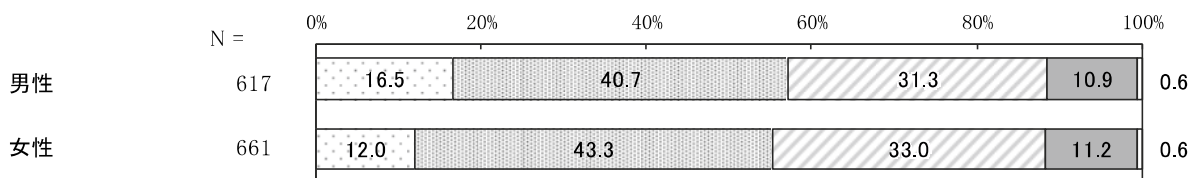


単位：％

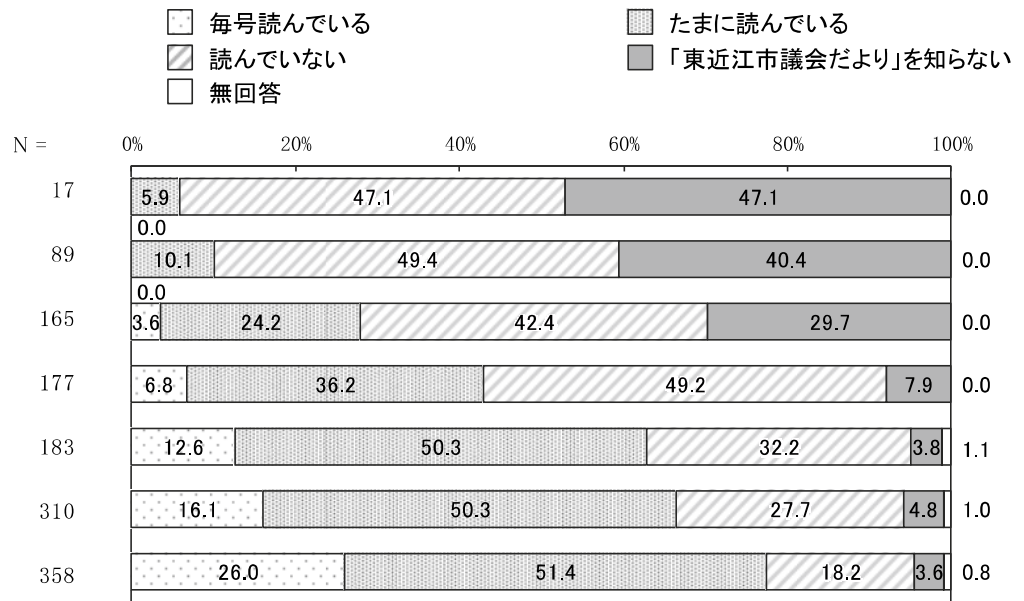
	読んでいる	読んでいない・知らない	差
①今回調査(令和元年度)	56.3	43.0	13.3
②市民意識調査(平成30年度)	57.1	41.8	15.3
③市民意識調査(平成29年度)	58.2	39.7	18.5
④市民意識調査(平成28年度)	55.7	43.2	12.5
①－④	0.6	-0.2	0.8

* 読んでいる:「毎号読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計

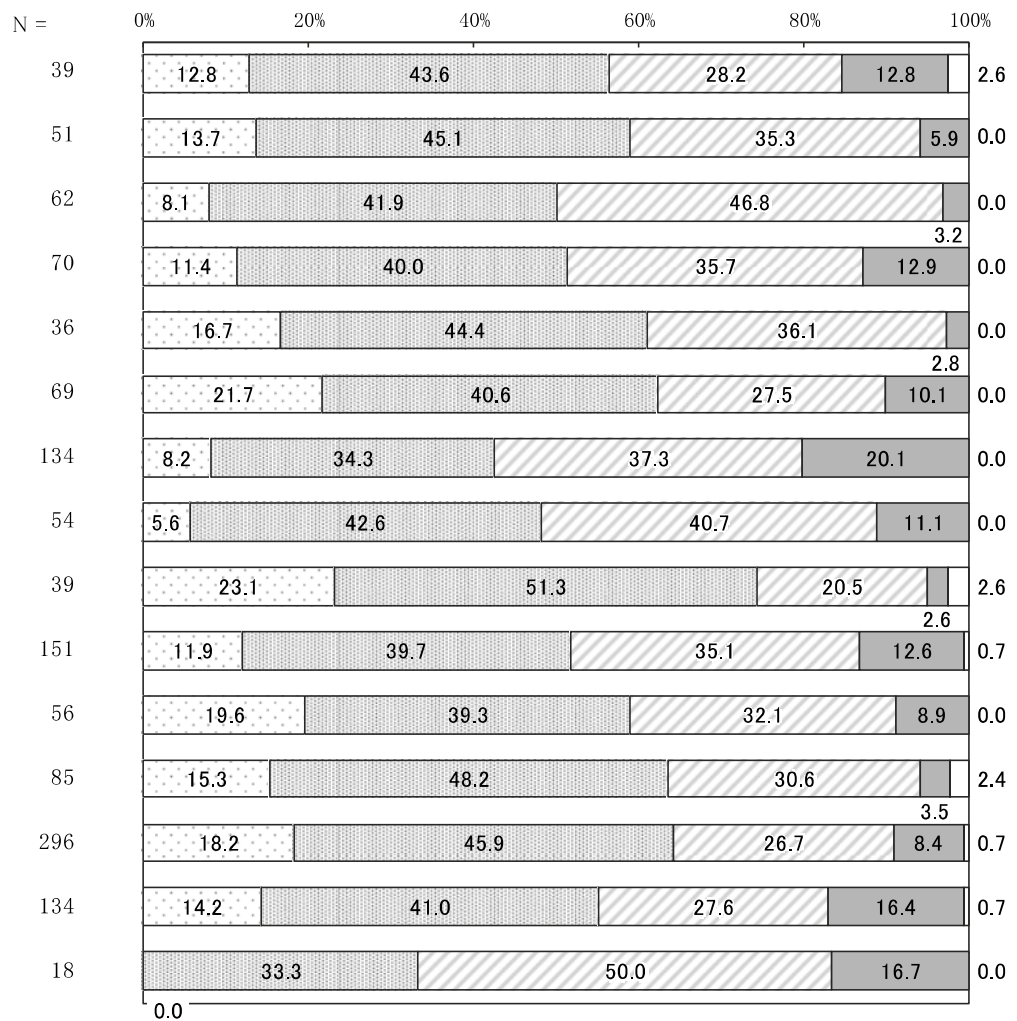
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

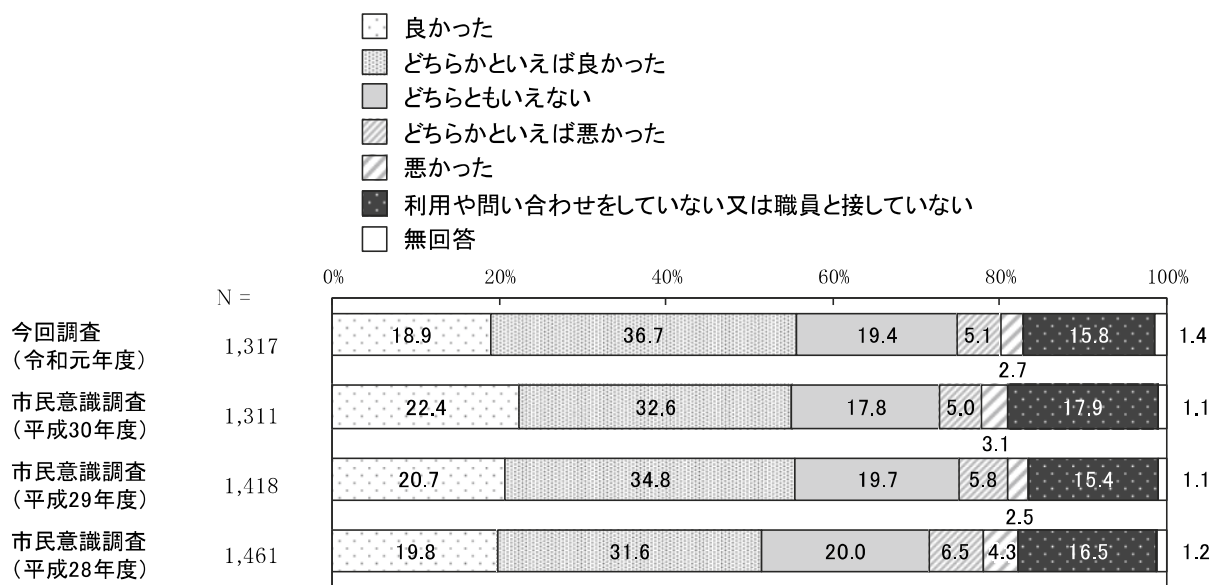


(10) 市役所のサービスに関して

問 58 この1年間に、市役所（支所・出張所を含む）の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応はどのように感じましたか。《○1つ》

6割近くが市役所職員の対応は良かった

- ・ 市役所職員の対応の印象については、「良かった」が18.9%、「どちらかといえば良かった」が36.7%で、これらを合わせると55.6%となり、6割近くが良かったと回答しています。一方、悪かった（「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計）の割合は7.8%と、1割未満となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、良かった（「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計）の割合が増加し、悪かった（前述）の割合が減少しており、評価は年々上がっています。
- ・ 年代別では、10歳代は「利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない」が、そのほかの年代は「どちらかといえば良かった」が最も多くなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区で「良かった」が、そのほかの地区で「どちらかといえば良かった」が最も多くなっています。また、御園地区、市辺地区、能登川地区、建部地区で良かった（前述）の割合が6割前後で、玉緒地区で悪かった（前述）の割合がほかの地区より高くなっています。



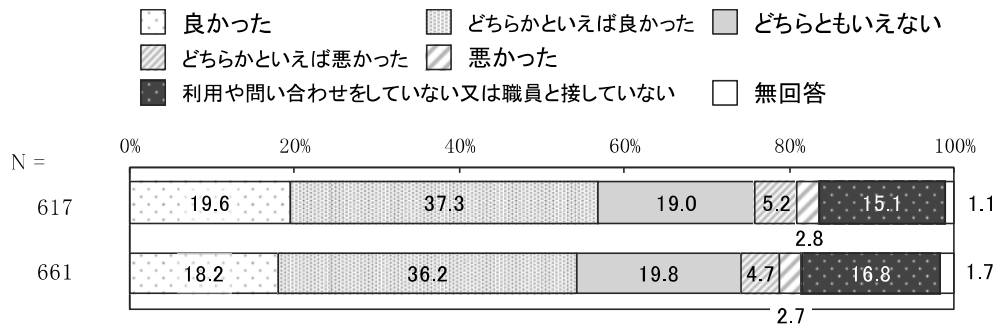
単位：%

	良かった	悪かった	差
①今回調査(令和元年度)	55.6	7.8	47.8
②市民意識調査(平成30年度)	55.0	8.1	46.9
③市民意識調査(平成29年度)	55.5	8.3	47.2
④市民意識調査(平成28年度)	51.4	10.8	40.6
①-④	4.2	-3.0	7.2

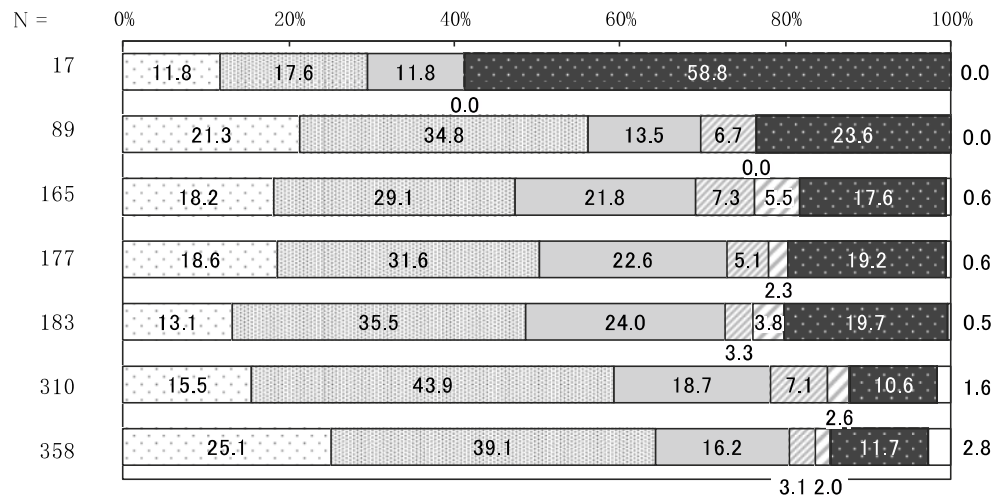
* 良かった:「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計

* 悪かった:「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計

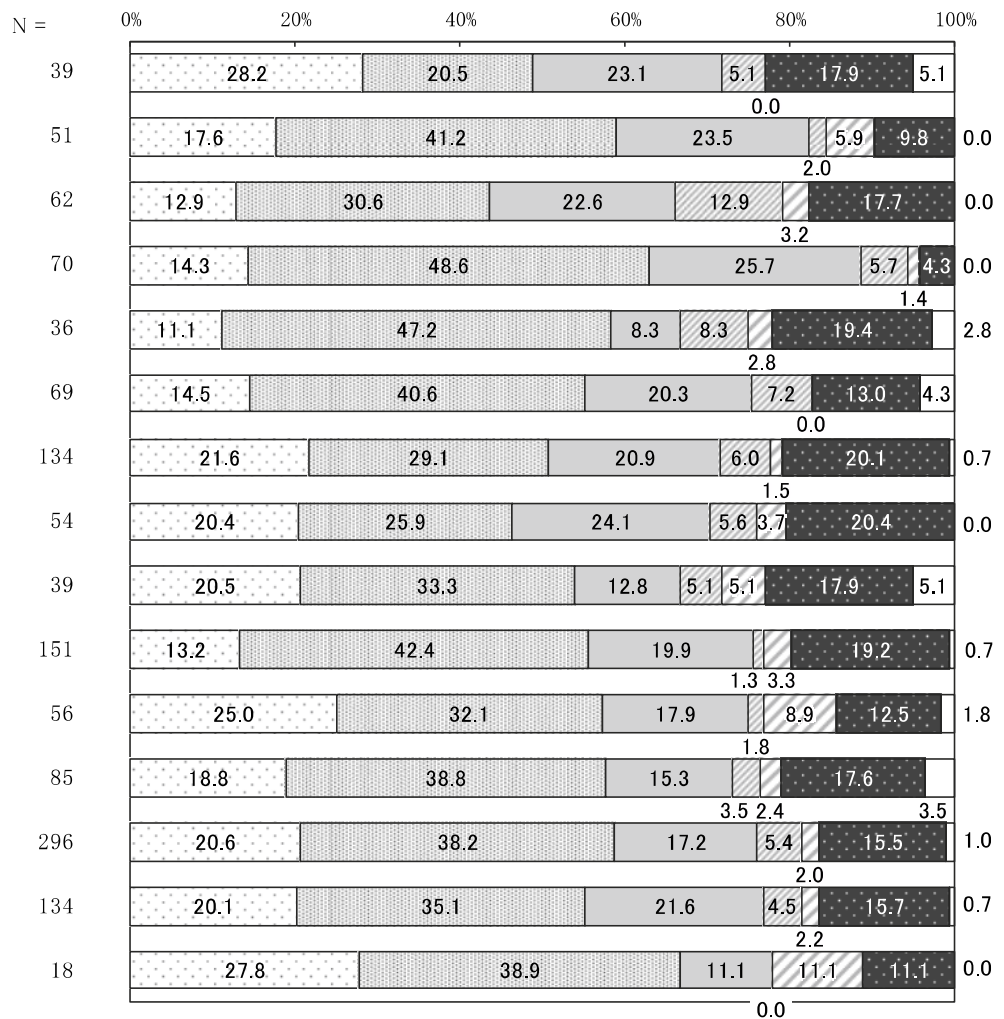
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



(11) まちづくりに対する意見等について

問 59 東近江市のまちづくりについて、御意見や御提案等がありましたら御記入ください。

- ・ 有効回収数 1,317 件のうち、自由記述への記入件数は 440 件 (33.4%) でした。これらの意見を概ね本意識調査票の調査項目ごとに分類した件数は、次のとおりです。
- ・ なお、同じ人が複数の項目の意見を書かれているものも多いため、調査項目ごとに分類した件数の合計件数は 440 件以上となっています。

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
住みごこちや愛着等について	24 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人には住みにくい暮らしにくい時代となり、車がないと買物、行政へ行くのも動けない。(湖東地区 70 代女性) ・ 近江鉄道を無くさないでほしい。車のない方の足となるものなので。(市辺地区 50 代女性) ・ せめて竜王のフレンドマートくらいのお店を誘致していただきたいです。(蒲生地区 30 代女性)
健康や福祉について	25 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康推進のため、市・県が運営する安いスポーツジム、お年寄りの憩いの場をつくるべき（五個荘地区 60 代男性） ・ 老人になって車に乗れなくなっても住み続けられるまちづくりが必要だと思います。(蒲生地区 50 代女性) ・ 福祉に頼る老人が住みよい町づくりをお願いします。(愛東地区 70 代女性)
環境や暮らしについて	138 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょこっとタクシーは予約をしないとダメだし、停留所も少ない。(八日市地区 60 代女性) ・ 街灯のない場所が結構あるように感じる。特に小・中学生が通るような道は見直して設置してほしい。(五個荘地区 40 代女性) ・ 能登川地区やわらぎの郷公園の山側にイノシシが侵入してきている。(能登川地区 70 代男性) ・ 空家がぐずれて、草や木がおおって台風の時はすごく心配。(能登川地区 30 代女性)
子育てや教育について	51 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校への通学路の安全を確立して下さい。子ども達が安心して遊べる公園（身近な場所・各地区内）を整備・増設して下さい。(南部地区 60 代女性) ・ 宅配オムツはとても助かっています。子どもや子育てに関する手助けがあるととても助かります。(蒲生地区 40 代女性) ・ 医療費の負担は大きいです。中学生になるまでは援助を拡大してほしいです。(能登川地区 30 代男性)

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
都市整備について	62 件	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかくインフラ整備をしてほしい。車（自家用）でしか移動できず、高齢者は病院にも行けない。（湖東地区 50 代女性） ・八日市駅周辺では駐車場があまりなく、近江鉄道を使いたくても使えない方がいると思いますので、駐車場（パーキングでも）を考えてくれたら嬉しいです。（蒲生地区 30 代男性） ・公園や周辺の歩道など、夏場は草が生い茂って、すれ違えないほどだったのもう少し頻繁に整備をお願いしたいです。（五個荘地区 30 代女性） ・歩道を老人が通行しやすいように整備してほしい。（建部地区 70 代男性）
商業やにぎわいの創出について	34 件	<ul style="list-style-type: none"> ・東近江市独自のプレミアム券などを作成し、循環型の催しや企画を毎年してみてもどうか。JAZZ フェスや、ももクロ、二五八など、参加型のイベントの数を増やしてほしい。（八日市地区 40 代男性） ・複合アミューズメント施設、映画館等、余暇を充実させられる場所があればよいと思います。（能登川地区 20 代女性） ・大型ショッピングモールを誘致して欲しい。レジャー施設を充実させて欲しい。（能登川地区 30 代女性）
協働のまちづくりについて	18 件	<ul style="list-style-type: none"> ・市内や各自治会のイベント参加も、同じメンバーで、参加者が、増えていない気がする。一人暮らしで家にひきこもっている人を行事に参加してもらい、企画広報を期待しています。（五個荘地区 60 代女性） ・町のふれ合い行事が足りない。（中野地区 70 代女性） ・新住宅が次々と造成されているが小さな宅地ばかりなので、これから住民の皆さんがコミュニケーションを取る必要がある公民館などが設置されていない所が多い。災害が多くなっている昨今、避難する場所もない。必ず必要である。今後住宅地申請の際、設ける必要があります。（中野地区 70 代女性）
広報等の情報について	13 件	<ul style="list-style-type: none"> ・市の情報についても、回覧だと実家にいるとなかなかみられない。（親だけがみているため）若者向けにツイッターやインスタ等のアカウントがあり、市民のためになる情報が入れば便利だと思う。（能登川地区 20 代女性） ・東近江市の取組をあまり知らない。もっと市民に広報するとともに、市民からも意見を募集し、より良い東近江市になる事を願う。特に、少子化対策を強化しないと、老人ばかりの東近江市になる。（玉緒地区 60 代男性） ・市内にだけでなく、市外にも取組をアピールしていった方が良い。ラジオ局を活用した方が良い。観光地のアピールできる所が少なく弱い。（愛東地区 30 代男性）
市役所のサービスについて	33 件	<ul style="list-style-type: none"> ・支所での行政サービスをもっと充実してほしい。（五個荘地区 50 代男性） ・月 1 回でも土曜日等でも窓口業務を実施することや、郵送での手続きを行うことができるようにしてほしい。少なくとも、各支所、できれば自治会毎に非常用電源（発電機など、ソーラー以外）を設置してほしい。（能登川地区 30 代男性）

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
まちづくり全般について	74 件	<ul style="list-style-type: none"> ・能登川町に住んでいますが、合併して本当に良くなったのかなと思います。八日市市が中心になっているので、やはり八日市を優先して何もかもがされているように感じます。東近江市は範囲が広く面積も広く、届かない地域も色々あるとは思いますが、八日市だけじゃなく他の地域の事も常に考慮していただける様に切に希望します。（能登川地区 50 代女性） ・私自身観光に関する仕事に従事しておりますが、観光に対しては特に弱いと感じます。京都・大阪が近くにあるのに、人が呼べていない状況。これからは日本人だけでなく、外国人をターゲットとした観光政策が特に重点になってくると思います。（能登川地区 30 代男性）
アンケートについて	12 件	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代ではアンケートにネットを活用すれば集計の手間が減ると思います。（不明）
その他	27 件	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし（10 件） ・その他（17 件）

3 総括

1. 回答者属性

- ・男女比はほぼ同じですが、やや女性が多くなっています。
- ・60歳以上が半数を超えています。
- ・居住地区は、2割が能登川地区、1割が五個荘地区、八日市地区、蒲生地区。旧八日市市8地区が4割近く。

2. 住みごこちや愛着等について

- ・8割近くが住みごこちが良く、また7割近くが東近江市に対して愛着があると回答しています。
- ・東近江市を自慢できるかについては、4割近くが自慢できるとする一方、4割が「どちらともいえない」としています。
- ・「鈴鹿10座」の認知度は2割近くで、8割が「知らない」と回答しています。
- ・東近江市を訪れた友人・知人の案内先は、半数近くが「市内・市外どちらも案内する」と回答しており、友人・知人を案内する観光地には、半数が「美しい自然環境が楽しめる観光地」をあげています。
- ・近江鉄道八日市駅周辺（市役所周辺を含む。）への来訪頻度は、3割近くが週に1回以上で、八日市駅周辺の中心市街地の活性化は、進んでいると感じている人も進んでいないと感じている人もともに3割近くとなっています。また、中心市街地活性化に向けては、駐車場の整備、空き店舗の解消が必要とされています。

3. 健康や福祉について

- ・かかりつけ医は、6割が市内の病院又は診療所にいると回答しています。
- ・病院や救急時の医療体制は半数近くが満足している一方、3割が満足していません。
- ・健康づくりの取組は4割が取り組んでおり（取り組みたいを合わせると9割近く）、その内容としては、運動、食事、睡眠、定期健診の受診、規則正しい生活などが多くあげられています。
- ・朝食を毎日食べている人は8割で、6割近くがよく眠れています。が、「あまりよく眠れない・眠りが浅い」人も4割近くみられます。また、運動は、半数がほとんどしていませんが、3割の人が週1回以上の運動をしています。
- ・7割近くが不安、悩み、ストレスを感じており、その原因は半数近くが「仕事のこと」ですが、7割近くが解消できていると回答しています。また、不安や悩み、ストレス等の相談相手は「家族」だという人が6割となっています。
- ・東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思うかについては、理解が進んでいないと思う人は減少していますが、「わからない」が3割と最も多く、今後特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備における配慮などが多くあげられています。

4. 環境や暮らしについて

- ・自然環境の保全の取組への満足度は、2割が満足、「どちらともいえない」又は「わからない」が6割ですが、半数近くの人が日々の営みの中では自然環境との関わりを感じています。
- ・環境にやさしい取組は8割が実践しており、再生可能エネルギー・省エネ設備については設置（予

定含む。)が2割で、設置したいも含めると7割近くになります。また、ごみと資源の分別はほとんどの人が実践しています。

- ・生活の中で優先することは、希望でも現状でも「仕事」と「家庭生活」の両立」又は「家庭生活」を優先」したいとする人が多くなっていますが、3番目は、希望では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを並立」ですが、現状では「仕事」が優先になっています。
- ・「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、6割が共感しないと回答しています。
- ・市役所内に消費生活センターがあることの認知度は半数ありますが、市役所内の市民生活相談課で法律相談や登記相談等が受けられることは、半数の人に知られていません。
- ・公共交通の満足度は低く、6割近くが満足していません。
- ・近江鉄道は8割が重要と感じているものの、9割近くが利用していないと回答しています。また、半数が改善を望んでおり、運賃の値下げ、駐車場等の整備、本数の増加、JR琵琶湖線との接続改善などを求める声が多くなっています。
- ・災害への備えについては、3割が特に何もしていません。

5. 教育関連の取組について

- ・半数近くが子育てをするのに良い環境で、3割が通学路の安全確保ができていると回答しています。
- ・人権が尊重されるまちになっていると思う人は2割ですが、3割が「わからない」と回答しています。また、何らかの人権に関する講座や講演、研修等に参加していない人は6割近くとなっています。
- ・オレンジリボン（児童虐待防止のシンボルマーク）の認知度は3割。児童虐待が疑われるときの通報先は、警察、市役所、子ども家庭相談センター、民生委員児童委員が多くあげられています。
- ・趣味や教養活動については、2割が「参加した」と回答しています。
- ・青少年健全育成の取組は、2割が「取組がなされている」と評価していますが、6割が「わからない」としています。

6. 都市整備について

- ・都市基盤整備に対する満足度の総合評価(加重平均)は、雨水排水、主要幹線道路、河川、地域の生活道路、公園の順となっています。
- ・過去の調査と比べ、変動はあるものの、すべての項目で評価が下がっています。

7. 購買状況等について

- ・食品は8割近く、日用雑貨品は7割が市内で購入していますが、衣料品は半数近くが市外で購入しています。
- ・米の購入先は、知り合い、親戚など、スーパーや量販店の順となっています。
- ・野菜を購入する際の基準は、鮮度、金額、安全と安心が多くあげられています。
- ・農産物直売所は、半数が市内の直売所を利用しており、年数回程度の利用が最も多くなっています。

8. 協働のまちづくりについて

- ・協働のまちづくりができているかについては、4割近くが「わからない」としています。
- ・まちづくり協議会の活動に参加している人は1割未満ですが、認知度は4割あります。

- ・4割が、住民同士の助け合いはできていると回答しています。
- ・地域活動又はNPOやボランティア等の活動は、半数近くが参加していると回答しています。その内容としては、9割近くが自治会活動で、ボランティア活動やまちづくり協議会の活動も2割となっています。

9. 広報等の情報について

- ・「広報ひがしおうみ」は7割が読んでおり、うち3割が毎月読んでいます。また、半数がその内容に満足しています。
- ・「広報ひがしおうみ」の配信方法は、「公共施設等に設置」が最もよく知られており、スマートフォンのアプリやインターネットの「マイ広報紙」での閲覧はほとんど知られていません。
- ・市の情報の取得方法は、6割近くが「自治会回覧」や「広報ひがしおうみ」をあげています。
- ・「東近江市議会だより」は6割近くが読んでいます。

10. 市役所のサービスについて

- ・市役所職員の対応については、6割近くが良かったと回答しています。

4 調査票

令和元年度 東近江市 市民意識調査

◆アンケート調査への御協力をお願い◆

皆さまには、日頃から東近江市政に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、東近江市では「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指し、平成28年度に策定いたしました「第2次東近江市総合計画」に基づき、まちづくりを進めております。

住みよいまちづくりを実現するため、皆さまの意識や生活スタイルなどの幅広い項目について御意見をお聞かせいただきたく、市内にお住まいの18歳以上の市民の皆さまから約3,000名を無作為に抽出し、アンケート調査を毎年実施させていただいております。

皆さまには何かと御多用のこととは存じますが、本調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、今回お答えいただきました内容につきましては統計的に処理し、東近江市個人情報保護条例に基づき適切に取り扱います。

令和元年9月

東近江市長 小椋 正清

アンケートの御記入・返信について

- ・調査の回答は、封筒あて名の御本人が記入してください。なお、御本人による回答(記入)が難しい場合は、御家族の方が御本人の意思を反映して、御記入くださいますようお願いいたします。
- ・お答えは、質問にしたがって、あてはまる番号に○をつけてください。
- ・選択肢の中で「その他」に回答された場合は、()内に具体的な内容を記入してください。
- ・記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、令和元年9月30日(月)までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

アンケートに関する問い合わせ

東近江市 企画部 企画課

〒527-8527 東近江市八日市緑町10番5号

IP電話:050-5801-5610 電話:0748-24-5610

FAX:0748-24-1457

Eメール:kikaku@city.higashiomi.lg.jp

※宛先は、令和元年8月1日現在の住民基本台帳から抽出しました。



令和元年度 東近江市 市民意識調査 調査票

1 あなた自身のことについておたずねします。

問1 性別《○1つ》	1. 男性	2. 女性		
問2 年齢《○1つ》	1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
	5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳以上	
問3 居住地区 《○1つ》	1. 平田地区	2. 市辺地区	3. 玉緒地区	
	4. 御園地区	5. 建部地区	6. 中野地区	
	7. 八日市地区	8. 南部地区	9. 永源寺地区	
	10. 五個荘地区	11. 愛東地区	12. 湖東地区	
	13. 能登川地区	14. 蒲生地区	15. わからない(町・丁目名))

2 住みごちや愛着等についておたずねします。

問4 あなたは、東近江市の住みごちをどう思いますか。《○1つ》

1. 良い	2. どちらかといえば良い	3. どちらかといえば悪い
4. 悪い	5. わからない	

問5 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

1. とても愛着がある	2. やや愛着がある	3. どちらともいえない
4. あまり愛着がない	5. 愛着がない	

問6 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

1. とても自慢できる	2. やや自慢できる	3. どちらともいえない
4. あまり自慢できない	5. 自慢できない	

問7 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山峰から「鈴鹿10座」を認定し、鈴鹿山脈の素晴らしさと存在意義を広く周知するとともに、東近江市の知名度アップにもつなげていきたいと考えています。

あなたは、「鈴鹿10座」を知っていますか。《○1つ》

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問8 あなたは、東近江市に訪れた友人・知人を観光案内する場合に、どちらを案内しますか。《○1つ》

1. 市内を案内する	2. 市外を案内する
3. 市内・市外どちらも案内する	

問 9 あなたは、友人・知人を観光案内する場合に、どのような観光地を案内しますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1. 美しい自然環境が楽しめる観光地 | 2. 町なみ景観が楽しめる観光地 |
| 3. 歴史・文化が楽しめる観光地 | 4. 食事や買い物が楽しめる観光地 |
| 5. 日帰り観光がしやすい観光地 | 6. 宿泊観光がしやすい観光地 |
| 7. ものづくり産業を生かした観光地 | 8. 農林業や伝統工芸などの体験ができる観光地 |
| 9. スポーツが楽しめる場や子どもの遊び場が充実した観光地 | 10. 祭りやイベントが楽しめる観光地 |
| 11. その他() | |

問 10 あなたは、この1年間で近江鉄道八日市駅周辺(市役所周辺を含む。)にどの程度訪れましたか。《○1つ》

- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2～3回程度 | 3. 週に1回程度 |
| 4. 月に数回程度 | 5. 年に数回程度 | 6. 訪れていない |

問 11 あなたは、八日市駅周辺のホテル誘致、イベント開催、道路美装化、新規出店者支援などで、中心市街地活性化が進んでいると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| 1. 進んでいる | 2. 少し進んでいる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり進んでいない | 5. 進んでいない | 6. わからない |

問 12 あなたは、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するには、どのようなお店や施設、イベントなどの開催が必要だと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1. 空店舗に新しい店が入る | 2. おしゃれな雑貨店が増える |
| 3. 駅前や歩道等の空間をオープンカフェなどに活用する | 4. 魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする |
| 5. マルシェなどのイベントを定期的で開催する | 6. イベントホールやテナントが入るビルをつくる |
| 7. 自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる | 8. 観光客が地元の名産品を買えるようにする |
| 9. 延命公園や清水川などの自然を生かして癒しの空間にする | 10. その他() |

3 健康や福祉についておたずねします。

問 13 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん(かかりつけ医)はいますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------|
| 1. 市内の病院にいる | 2. 市内の診療所(開業医)にいる | 3. 市外の病院にいる |
| 4. 市外の診療所(開業医)にいる | 5. いない | |

問 14 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

- | | | |
|------------|-------------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらかといえば満足していない |
| 4. 満足していない | 5. わからない | |

問 15 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------------|-----------------|-----------|
| 1. 取り組んでいる | 2. 取り組みたいと思っている | →問 15-1 へ |
| 3. 取り組むつもりはない →問 15-2 へ | | |

問 15-1 問 15 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方におたずねします。
具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。

《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 運動をする | 2. 趣味(運動以外)の時間をつくる |
| 3. 休養を十分にとる | 4. 食事の量や質に注意する |
| 5. 睡眠を十分にとる | 6. 定期的に健康診査やがん検診を受ける |
| 7. 規則正しい生活をする | 8. たばこを控える又はやめる |
| 9. アルコールを控える又はやめる | 10. その他() |

問 15-2 問 15 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方におたずねします。

その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. どのように取り組んだらよいかわからない | 2. 自分の健康づくりに興味、関心がない |
| 3. 取り組んでも効果が期待できない | 4. その他() |

問 16 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 毎日食べる | 2. 週4～5日食べる |
| 3. 週2～3日食べる | 4. ほとんど食べない |

問 17 あなたはよく眠れますか。《○1つ》

- | | |
|----------|--------------------|
| 1. よく眠れる | 2. あまりよく眠れない・眠りが浅い |
| 3. 眠れない | 4. その他() |

問 18 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか。《○1つ》

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 週3回以上 | 2. 週1～2回 |
| 3. 月1～2回程度 | 4. ほとんどしていない |

問 19 あなたはこの1か月間に、不安、悩み、ストレスを感じましたか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1. 大いにある | 2. 多少ある | →問 19-1 へ |
| 3. あまりない | 4. まったくない | 5. わからない |

問 19-1 問 19 で「1. 大いにある」「2. 多少ある」とお答えの方におたずねします。

あなたの不安、悩み、ストレスの原因は何ですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | | |
|-----------|--------------|---------------|
| 1. 経済的なこと | 2. 仕事のこと | 3. 人間関係 |
| 4. 家族関係 | 5. 子育てに関すること | 6. 親の介護に関すること |
| 7. 自分の健康 | 8. 家族の健康 | 9. その他() |

問 20 あなたの不安や悩み、ストレスは解消できていますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. うまくできている | 2. ある程度できている |
| 3. あまりできていない | 4. まったくできていない |

問 21 あなたは不安や悩み、ストレス等について相談したいとき、誰に相談しますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | | |
|-----------------|---------------|-----------|
| 1. 家族 | 2. 親族 | 3. 友人・知人 |
| 4. 相談窓口(行政機関など) | 5. 相談できる人がいない | 6. その他() |

問 22 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|--------------|--------------|
| 1. かなり進んできた | 2. ある程度進んできた | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり進んできたとは思わない | 5. 進んでいない | 6. わからない |

問 23 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. スポーツや文化活動で地域交流を深める | 2. 「ふれあいの集い」などのイベントを充実する |
| 3. 市民対象の福祉講座や講演会を開催する | 4. 福祉施設を地域に開放し交流を図る |
| 5. グループホームを地域の中につくる | 6. 子どもたちへの人権・福祉教育を充実する |
| 7. 障害者団体や関係グループの活動をPRする | 8. ボランティアの育成を図る |
| 9. 障害者も使いやすい施設をつくる | 10. 障害者がまちに出かけやすい整備を進める |
| 11. わからない | 12. その他() |

4 環境や暮らしについておたずねします。

問 24 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

- | | | |
|--------------------|-------------------|--------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば満足していない | 5. 満足していない | 6. わからない |

問 25 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然環境との関わりを感じていますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. 感じている | 2. どちらかといえば感じている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば感じていない | 5. 感じていない | 6. わからない |

問 26 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

①あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか。(使用していない電気の消灯、マイバックの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等)《○1つ》

- | | | |
|---------------|----------------|-------------|
| 1. 常に取り組んでいる | 2. ときどき取り組んでいる | 3. 取り組んでいない |
| 4. 取り組もうと思わない | 5. わからない | |

②あなたは、自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置していますか。(太陽光発電や雨水貯留施設、太陽熱温水器、エネファーム、蓄電システムの設置等)《○1つ》

※エネファーム…家庭においてガス等を使って発電し、発電時の排熱を給湯等に利用するシステム

- | | | |
|---------------|--------------|----------------|
| 1. 既に設置している | 2. 設置する予定である | 3. 設置したいが予定はない |
| 4. 設置したいと思わない | 5. わからない | |

問 27 あなたは、ごみと資源の分別をしていますか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------------|------------------|
| 1. している | 2. どちらかといえばしている | 3. どちらかといえばしていない |
| 4. していない | 5. 分別方法がわからない | |

問 28 あなたは、生活の中で、仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。あなたの希望と現状に最も近いものをそれぞれについてお答えください。《①～②それぞれの項目に○1つ》

	「仕事」	「家庭生活」	「地域・個人の生活」	「仕事」と「家庭生活」の両立	「仕事」と「地域・個人の生活」の両立	「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを並立	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを並立	わからない
①希望	1	2	3	4	5	6	7	8
②現状	1	2	3	4	5	6	7	8

問 29 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------------|------------------|
| 1. 共感する | 2. どちらかといえば共感する | 3. どちらかといえば共感しない |
| 4. 共感しない | 5. わからない | |

問 30 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれた時や、多重債務に陥った時の相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 31 あなたは、市役所内の市民生活相談課で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 32 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない | 6. わからない |

問 33 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、東近江市の活性化を進めていくうえで重要な公共交通機関であると考えています。

あなたは、近江鉄道についてどう感じていますか。《○1つ》

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 重要であると感じる | 2. 重要でないと感じる |
| 3. 重要であるが利便性等の改善が必要と感じる | 4. その他() |

問 34 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

- | | | | |
|--------------|--------------|----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週1～2日 | 3. 月1～2日 | →問 34-1 へ |
| 4. ほとんど利用しない | 5. 利用したことはない | | |

問 34-1 問 34 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1～2日」「3. 月1～2日」とお答えの方におたずねします。近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

- | | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 1. 通勤・通学 | 2. 仕事 | 3. 買物 | 4. 通院 |
| 5. 遊び・趣味等 | 6. 観光 | 7. その他() | |

問 35 あなたは、近江鉄道を利用する場合、どのようなことを希望されますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 本数を増やしてほしい | 2. JR琵琶湖線との接続改善 |
| 3. 新幹線(米原駅)との接続改善 | 4. バスとの接続改善 |
| 5. 駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい | 6. 運賃の値下げ |
| 7. その他() | |

問 36 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 水や食料等を3日以上備蓄 | 2. 非常持ち出し袋の準備 |
| 3. 家具の転倒防止 | 4. 地域の防災訓練に参加 |
| 5. 一時集合場所や避難所を家族で確認 | 6. 安否連絡方法を家族で確認 |
| 7. その他() | 8. 特に何もしていない |

5 教育関連の取組についておたずねします。

問 37 あなたは、東近江市は子育てをするのに良い環境であると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 38 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 39 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 40 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 職場の講演や研修に参加した | 2. 市の講座や講演に参加した |
| 3. 地区の講座や講演に参加した | 4. 自治会の町別懇談会に参加した |
| 5. 参加していない | 6. その他() |

問 41 あなたは、オレンジリボンが児童虐待防止のシンボルマークであるを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 42 あなたは、児童虐待が疑われるときに、どこに通報しますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 子ども家庭相談センター | 2. 警察 |
| 3. 市役所 | 4. 虐待ホットライン |
| 5. 児童相談所全国共通ダイヤル189 | 6. 園・学校 |
| 7. 保健センター | 8. 民生委員児童委員 |
| 9. その他() | 10. 通報先を知らない |
| 11. 通報しない | |

問 43 あなたは、この1年間にコミュニティセンター等で趣味的なもの(音楽・美術等)や教養的なもの(文学・歴史等)の活動に参加しましたか。《○1つ》

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 週3回以上参加した | 2. 週1～2回参加した | 3. 月1～2回程度参加した |
| 4. 年数回程度参加した | 5. 参加しなかった | |

問 44 あなたは、東近江市において青少年健全育成の取組ができていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-----------------|-----------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない | →問 44-1 へ |
| 5. わからない | | |

問 44-1 問 44 で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」とお答えの方におたずねします。その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

- | |
|-------------------------------|
| 1. 子どもの非行防止についての啓発が不十分 |
| 2. 有害図書の排除等、青少年にふさわしい環境浄化が不十分 |
| 3. パトロール活動等の子ども安全対策が不十分 |
| 4. 社会経験や自然体験を学べる機会が少ない |
| 5. その他() |

6 都市整備についておたずねします。

問 45 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満	わからない
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
③河川の整備(一級河川等)	1	2	3	4	5	6
④雨水排水の整備(身近な水路等)	1	2	3	4	5	6
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	1	2	3	4	5	6

7 購買状況等についておたずねします。

問 46 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入しますか。

《①～③それぞれの項目に○1つ》

	東近江市内	近江八幡市	彦根市	甲賀市	県内市町 その他	県外	通販 カタログ	ショッピング ネット	その他
①食品	1	2	3	4	5	6	7	8	9
②日用雑貨品	1	2	3	4	5	6	7	8	9
③衣料品	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問 47 あなたの家庭では、お米を主にどこから購入等していますか。《○1つ》

1. 米屋さん	2. スーパーや量販店	3. インターネット
4. 知り合いから購入している	5. 親族などからもらっている、購入している	6. 自分で作っている
7. わからない	8. その他()	

問 48 あなたの家庭では野菜等を購入するとき、主に何を基準に選んでいますか。(自作している方も不足する野菜を購入する場合)《○1つ》

1. 金額	2. 鮮度	3. 安全と安心
4. 調理の利便性(カット済み、洗浄済み等)	5. 見た目	6. 産地(市内、県内産等)
7. わからない	8. その他()	

問 49 あなたの家庭では、市内の農産物直売所(青空市、無人販売所を含む)を利用しますか。《○1つ》

1. よく利用する(週に1回以上)	2. 利用する(月に1～3回程度)
3. たまに利用する(年間数回程度)	4. 利用しない
5. 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している	6. わからない

8 協働のまちづくりについておたずねします。

問 50 あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. できている | 2. ある程度できている | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 51 あなたは、市内14地区にまちづくり協議会が設置され、各地区で様々なまちづくり活動が行われていることを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 活動に参加して、よく知っている | 2. 活動に参加していないが、知っている |
| 3. 聞いた程度でありあまりよく知らない | 4. 全く知らない |

問 52 あなたの身近な地域で住民同士の助け合いができていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 53 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

- | | | |
|---------------|----------------|-----------|
| 1. 積極的に参加している | 2. できる限り参加している | →問 53-1 へ |
| 3. ときどき参加している | 4. 参加していない | |

問 53-1 問 53 で「1. 積極的に参加している」「2. できる限り参加している」とお答えの方におたずねします。
この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | | |
|-----------|----------------|-----------|
| 1. 自治会活動 | 2. まちづくり協議会の活動 | |
| 3. NPOの活動 | 4. ボランティア活動 | →問 53-2 へ |
| 5. その他() | | |

問 53-2 問 53-1 で「3. NPO 活動」「4. ボランティア活動」とお答えの方におたずねします。
この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 高齢者に対する活動 | 2. 障害者に対する活動 |
| 3. 子育てをする親や子どもを支援する活動 | 4. 健康や医療に関連した活動 |
| 5. スポーツに関連した活動 | 6. 自然や環境を守る活動 |
| 7. 美化・清掃活動 | 8. 災害・防災に関連した活動 |
| 9. 交通安全・防犯活動 | 10. 国際協力に関連した活動 |
| 11. その他() | |

9 広報等の情報についておたずねします。

問 54 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

1. 毎月読んでいる	2. たまに読んでいる	→問 54-1 へ
3. 読んでいない	4. 知らない	→問 54-2 へ

問 54-1 問 54 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方におたずねします。
あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

1. 満足している	2. どちらかといえば満足している
3. どちらともいえない	4. どちらかといえば満足していない
5. 満足していない	

問 54-2 問 54 で「3. 読んでいない」「4. 知らない」とお答えの方におたずねします。
その理由は何ですか。《○1つ》

1. 手元に届かない	2. 記載内容に魅力がない
3. 紙面が読みにくい	4. その他()

問 55 「広報ひがしおうみ」は毎月新聞折込みによる配布の他に、次の方法で配信等を行っています。
あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《それぞれの項目に○1つ》

	見たことがある	見たことはないが知っている	知らない
①市ホームページで閲覧	1	2	3
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴	1	2	3
③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧	1	2	3
④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧	1	2	3
⑤公共施設等(市役所、図書館、コミュニティセンター-など)に設置	1	2	3

問 56 あなたは、市の情報(お知らせ)は主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

1. 広報ひがしおうみ	2. 新聞
3. 自治会回覧	4. 公共施設に設置してあるチラシ
5. 市ホームページ	6. ケーブルテレビ(東近江スマイルネット)
7. 音声告知端末	8. ラジオ(FMひがしおうみ)
9. その他()	

問 57 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 毎号読んでいる | 2. たまに読んでいる |
| 3. 読んでいない | 4. 「東近江市議会だより」を知らない |

10 市役所のサービスに関しておたずねします。

問 58 この1年間に、市役所(支所・出張所を含む)の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応はどのように感じましたか。《○1つ》

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 1. 良かった | 2. どちらかといえば良かった |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば悪かった |
| 5. 悪かった | 6. 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない |

11 まちづくりに対する御意見等についておたずねします。

問 59 東近江市のまちづくりについて、御意見や御提案等がありましたら御記入ください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

調査に御協力いただき、ありがとうございました。
調査票を返信用封筒に入れ、9月30日(月)までにポストに御投函ください。

令和元年度 市民意識調査結果報告書

発行年月 令和2年1月

発行 東近江市 企画部 企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

IP電話:050-5801-5610 電話:0748-24-5610